

平成15年7月実施

学習状況調査報告書

小学校4年 国語 算数 理科

小学校5年 国語 算数 理科

小学校6年 国語 社会 算数 理科

中学校1年 国語 社会 数学 理科

中学校2年 国語 社会 数学 理科 英語

中学校3年 国語 社会 数学 理科 英語

平成15年12月

秋田県教育委員会

ま え が き

県教育委員会では、平成15年7月、小学校4年生から中学校3年生を対象に学習状況調査を実施しました。

これは、本県児童生徒の学力の向上を図るため、全県の各小・中学校における児童生徒の学習状況を基に、学習指導上の留意点を明らかにしようとしたものです。そのために、今回の調査では、学習指導要領の趣旨に基づく新傾向の問題作成と設定通過率の導入及び学習への意欲等に関する質問紙調査の実施等により、児童生徒の学習状況をより多面的・客観的に把握することができるよう改善を図りました。

小学校については、国語、社会、算数、理科の4教科、中学校については、国語、社会、数学、理科、英語の5教科を実施し、集計分析を行ってきましたが、このたび結果がまとまり、ここに報告する運びとなりました。

各小・中学校においては、積極的に本報告書並びに学習状況調査問題を活用し、目標に準拠した評価の研究や個に応じた指導等の指導方法の工夫改善を一層進めるとともに、児童生徒一人一人の学力向上に大いに役立てることを期待します。

終わりに、この調査研究に御協力いただきました県内すべての市町村等教育委員会、各小・中学校、問題作成委員の方々に深く感謝の意を表します。

平成15年12月

秋田県教育庁義務教育課
課長 三浦 憲一

目 次

まえがき		iv
1	調査の概要	1
(1)	調査の趣旨	1
(2)	調査対象学年、教科、調査結果の抽出人数等	1
(3)	調査の範囲	1
2	設定通過率を用いた分析について	1
(1)	設定通過率を設けた趣旨	1
(2)	作業仮説の一環としての設定通過率	2
(3)	各学校における設定通過率の活用	2
3	調査結果の概要	3
(1)	ペーパーテストによる結果	3
	教科、学年別の平均通過率と設定通過率の平均との比較	3
	各教科ごとの平均通過率と設定通過率及び過去問との比較	4
	教科、学年別の平均通過率と設定通過率及び過去問との比較	5
	各教科の観点または領域別による平均通過率と設定通過率との比較	6
	各教科ごとの小問別通過率と設定通過率及び過去問との比較	7
	ア 国語	7
	イ 社会	8
	ウ 算数、数学	9
	エ 理科	10
	オ 英語	11
(2)	学習への意欲等に関する質問紙調査結果	12
	学習全般	12
	教科の好き嫌いについて	18
	ア 国語	18
	イ 社会	19
	ウ 算数、数学	20
	エ 理科	21
	オ 音楽	22
	カ 図画工作、美術	23
	キ 家庭、技術・家庭	24
	ク 体育、保健体育	25
	ケ 英語	26
4	各教科の評価規準、小問別通過率、小問別反応率、 通過率類型、通過率度数分布、調査結果及び考察	
(1)	国語	
	小学校4年	27
	小学校5年	33
	小学校6年	39
	中学校1年	45
	中学校2年	51
	中学校3年	57
(2)	社会	
	小学校6年	63
	中学校1年	69
	中学校2年	75
	中学校3年	81
(3)	算数、数学	
	小学校4年	87
	小学校5年	93
	小学校6年	99
	中学校1年	105
	中学校2年	111
	中学校3年	117

(4) 理科		
小学校4年	123
小学校5年	129
小学校6年	135
中学校1年	141
中学校2年	147
中学校3年	153
(5) 英語		
中学校2年	159
中学校3年	165
5 調査問題及び解答類型		
(1) 国語		
小学校4年	(以下掲載省略)
小学校5年	
小学校6年	
中学校1年	
中学校2年	
中学校3年	
(2) 社会		
小学校6年	
中学校1年	
中学校2年	
中学校3年	
(3) 算数、数学		
小学校4年	
小学校5年	
小学校6年	
中学校1年	
中学校2年	
中学校3年	
(4) 理科		
小学校4年	
小学校5年	
小学校6年	
中学校1年	
中学校2年	
中学校3年	
(5) 英語		
中学校2年	
中学校3年	
6 学習への意欲等に関する質問紙		
(1) 小学校4～6年生用	
(2) 中学校1～3年生用	
7 報告書等を活用した分析方法例	

1 調査の概要

(1) 調査の趣旨

学習指導要領の内容等の定着度を把握し、本県が進める少人数学習の成果や課題をとらえ、本県児童生徒の学力向上施策の推進に資するとともに、各小・中学校において、自校の実態や課題をよりの確にとらえ、目標に準拠した評価の研究や授業改善に生かすなど、指導方法の工夫改善のための資料を提供する。

(2) 調査対象学年、教科、調査結果の抽出人数等

ペーパーテスト調査

学習への意欲等に関する質問紙調査

学年	実施教科	実施人数	抽出人数 () 抽出率
小学校第4学年	国語、算数、理科	約 10,300人	約 9,800人 (95.1%)
小学校第5学年		約 10,700人	約 10,200人 (94.4%)
小学校第6学年	国語、社会、算数・数学	約 10,800人	約 10,300人 (94.5%)
中学校第1学年	理科	約 10,900人	約 8,400人 (77.1%)
中学校第2学年	国語、社会、数学、理科	約 11,000人	約 8,800人 (76.5%)
中学校第3学年	英語	約 11,000人	約 9,100人 (76.5%)

悉皆調査によるが、分析は抽出による

実施人数及び抽出人数は、百未満の人数を切り捨てしている

(3) 出題の範囲

調査対象学年の児童生徒が、前学年で履修した教科の内容とする。なお、関連して、それ以前の学年で履修した内容が含まれる場合もある。

(4) 調査実施日

- ・原則として、平成15年7月1日(火)～7月18日(金)の期間中に実施する。
- ・複数日に亘っての実施も可とする。

2 設定通過率等を用いた分析について

(1) 設定通過率を設けた趣旨

学習状況調査は、県教育委員会として学習指導要領の目標や内容が県全体でどの程度実現されているかを把握し、今後の各学校に対する指導や施策に役立てるとともに、各学校の授業改善に資するために実施する。授業改善は実践的な課題であると同時に研究的な課題でもある。「課題は達成すべきものであり、問題は解決されるべきもの」というとらえ方がある。指導と評価の一体化という課題達成のために、ねらいと評価問題を整合させることは、具体的に解決しなければならない問題の最たるものである。ペーパーテストによる学習状況調査がいくらかでもこの問題の解決に役立つよう、県教育委員会としても初めての試みではあるが、今回「設定通過率」という考え方を提案している。

(2) 作業仮説の一環としての設定通過率

調査結果の考察は得てして感覚的になりがちである。考察のための基準と手順が明確でないためであるが、このようなときには考察を誘導していく何らかの作業仮説を事前に設定することが有効である。今回の学習状況調査では、試行的に次のように行った。

はじめに、個々の問題について、あらかじめ「概ね妥当な実現状況だ」と判断するための基準を定める。これを「設定通過率」と呼ぶことにする。この設定通過率を定めるためには、問題解決の様相をいくつかのカテゴリーに分けるなどして難易度を吟味し、設定通過率を決定していくなど、別の作業仮説が必要となる。これは、教科ごとに慎重に検討されなければならない。

次に、考察の手順であるが、例えば、設定通過率よりも、10ポイント以上、または、10ポイント以下、実際の通過率と差があったら、「問題を吟味、設定通過率を吟味、指導状況を吟味」という手順で考察する、という具合に定めておく。

なお、10ポイント以上またはそれ以下、差がある問題が数多くあるときには、そもそも設定通過率を定めたときの基本的な作業仮説自体を再検討しなければならないことは言うまでもない。

今回の学習状況調査の個々の問題の正答率を見ると、設定通過率と大幅にずれた問題が多少なりともあり、大幅にずれた問題については、この手順に従って、本報告書の中でも考察を加えた。

(3) 各学校における設定通過率の活用

設定通過率は、県教育委員会として学習状況調査結果を分析・考察するために作業仮説の一環として定めたものであるが、各学校においてもこのことを理解しておくとともに、設定通過率を自校の分析・考察に活用することは有意義なことと考え、先の速報の段階で各学校に示したところである。具体的には、各学校に配布した集計結果の中の折れ線グラフまたは棒グラフにおいて、設定通過率 $\pm 10\%$ を縦棒で示している。

自校の状況を分析・考察するときに、県平均と比較することはよく行われるが、それだけだと、相対的な位置でしか結果を考察していないことになる。各学校が、本調査を活用して自校の学習指導要領の目標や内容についての実現状況を考察するためには、各学校なりに問題を分析し考察して、県と同様に作業仮説としての判断基準を定めることが必要である。その際、県が示した個々の問題の設定通過率と調査結果としての通過率は大いに参考になるものと思われる。

なお、各学校においては絶対評価についての研究が盛んに行われていることと思われるが、ペーパーテストによる評価を行う際には、以上のことを参考にいただきたい。

このような考え方にに基づき、設定通過率の設定値を中心に $\pm 10\%$ 幅を設定し、各調査問題の通過率がこの幅に収まっていれば、「設定通過率と同程度」、その幅を超えておれば、「設定通過率を上回る」、この幅に達しなければ、「設定通過率を下回る」としている。

また、調査問題には、過去に実施した国や県の調査問題を一部出題している。結果を考察するときには、これらの過去の問題との比較も参考にしている。

3 調査結果の概要

(1) ペーパーテストによる結果

問題ごとの設定通過率との比較から、中学校2年生の数学、中学校3年生の理科を除き、設定通過率を上回るか同程度の問題数の合計が、全小問数の半数以上を占めている。また、過去に実施した国や県の問題との比較等から総合的に判断した結果、本県児童生徒の学習の実現状況はおおむね満足できる状況にあるといえる。

観点別に小問の平均通過率とそれぞれの設定通過率と比較したとき、小学校では、設定通過率を上回るか同程度の問題数の割合は、どの教科の観点も7割を越えている。特に、小学校理科では、「科学的な思考」、「技能・表現」、「知識・理解」の観点が、設定通過率を上回る問題数の割合が40%を越えている。

中学校で、設定通過率を上回るか同程度の問題数の割合が7割を越えるものは、国語の全観点、社会の「思考・判断」、理科の「科学的な思考」「技能・表現」、英語の「聞くこと」「読むこと」である。中学校では、社会、数学、理科の「知識・理解」面において、設定通過率を下回る問題数の割合が40%程度または40%以上となっており課題としてあげられる他、社会の「技能・表現」、数学の「見方・考え方」、「表現・処理」、英語の「書くこと」の観点についても、設定通過率を下回る問題数の割合が大きかった。

また、個々の問題を詳しく分析していくと、当該学年で身に付けるべき内容についての通過率が、全県的に落ちている部分があることや学校間において非常に大きな格差のある問題があることなど、課題となる部分があることが分かった。

教科、学年別の平均通過率と設定通過率の平均との比較

< 小学校 >

教科名	学年	平均通過率	設定通過率の平均	増減
国語	小4	79.5%	74.0%	5.5%
	小5	68.9%	67.0%	1.9%
	小6	81.4%	75.8%	5.6%
社会	小6	73.5%	72.3%	1.2%
算数	小4	80.0%	78.5%	1.5%
	小5	79.3%	77.5%	1.8%
	小6	67.8%	67.5%	0.3%
理科	小4	82.1%	78.0%	4.1%
	小5	77.7%	67.0%	10.7%
	小6	82.9%	73.5%	9.4%

< 中学校 >

教科名	学年	平均通過率	設定通過率の平均	増減
国語	中1	81.5%	71.5%	10.0%
	中2	69.4%	65.5%	3.9%
	中3	74.3%	72.0%	2.3%
社会	中1	64.3%	64.3%	0.0%
	中2	50.9%	59.3%	-8.4%
	中3	58.5%	59.5%	-1.0%
数学	中1	59.3%	65.5%	-6.2%
	中2	51.1%	61.0%	-9.9%
	中3	55.1%	62.5%	-7.4%
理科	中1	75.6%	73.5%	2.1%
	中2	57.5%	63.5%	-6.0%
	中3	55.2%	66.0%	-10.8%
英語	中2	62.4%	70.0%	-7.6%
	中3	67.7%	65.8%	1.9%

各教科ごとの平均通過率と設定通過率及び過去問との比較

< 小学校 >

教科名	設定通過率を上回る か、同程度の問題数	過去に実施した県の 問題、類似問題との 比較で上回った問題 数	過去に実施した国の 問題、類似問題との 比較で上回った問題 数
国語	40問中 35問	12問中 8問	9問中 8問
社会	20問中 18問	5問中 5問	7問中 6問
算数	60問中 53問	23問中 23問	8問中 8問
理科	40問中 38問	14問中 12問	5問中 4問
合計	160問中 144問 (90.0%)	54問中 48問 (88.8%)	29問中 26問 (89.7%)

< 中学校 >

教科名	設定通過率を上回る か、同程度の問題数	過去に実施した県の 問題、類似問題との 比較で上回った問題 数	過去に実施した国の 問題、類似問題との 比較で上回った問題 数
国語	60問中 54問	16問中 14問	20問中 17問
社会	60問中 42問	15問中 14問	25問中 21問
数学	60問中 33問	17問中 12問	15問中 13問
理科	60問中 44問	17問中 12問	15問中 10問
英語	40問中 27問	10問中 9問	12問中 11問
合計	280問中 200問 (71.4%)	75問中 61問 (81.3%)	87問中 72問 (82.8%)

教科、学年別の平均通過率と設定通過率及び過去問との比較

< 小学校 >

教科名	学年	設定通過率を上回るか、同程度の問題数	過去に実施した県の問題、類似問題との比較で上回った問題数	過去に実施した国の問題、類似問題との比較で上回った問題数
国語	小4	10問中 8問	2問中 2問	
	小5	10問中 8問	3問中 2問	
	小6	20問中 19問	7問中 4問	9問中 8問
社会	小6	20問中 18問	5問中 5問	7問中 6問
算数	小4	20問中 18問	8問中 8問	
	小5	20問中 18問	8問中 8問	
	小6	20問中 17問	7問中 7問	8問中 8問
理科	小4	10問中 8問	5問中 4問	
	小5	10問中 10問	4問中 4問	
	小6	20問中 20問	5問中 4問	5問中 4問

< 中学校 >

教科名	学年	設定通過率を上回るか、同程度の問題数	過去に実施した県の問題、類似問題との比較で上回った問題数	過去に実施した国の問題、類似問題との比較で上回った問題数
国語	中1	20問中 17問	4問中 4問	8問中 6問
	中2	20問中 18問	6問中 6問	6問中 5問
	中3	20問中 19問	6問中 4問	6問中 6問
社会	中1	20問中 14問	5問中 5問	10問中 7問
	中2	20問中 12問	5問中 5問	6問中 5問
	中3	20問中 16問	5問中 4問	9問中 9問
数学	中1	20問中 12問	4問中 2問	5問中 5問
	中2	20問中 9問	7問中 6問	5問中 5問
	中3	20問中 12問	6問中 4問	5問中 3問
理科	中1	20問中 20問	6問中 4問	4問中 1問
	中2	20問中 15問	6問中 3問	6問中 4問
	中3	20問中 9問	5問中 5問	5問中 5問
英語	中2	20問中 11問	5問中 4問	6問中 6問
	中3	20問中 16問	5問中 5問	6問中 5問

国の問題は、平成13年1月、2月に実施した教育課程実施状況調査問題による

各教科の観点または領域別による平均通過率と設定通過率との比較

< 小学校 >

教科名	観点または領域	問題数	設定通過率を上回った問題数	設定通過率と同程度の問題数	設定通過率を下回った問題数
国語	書くこと	3	1 (33.3%)	2 (66.6%)	0 (0%)
	読むこと	14	2 (14.3%)	10 (71.4%)	2 (14.3%)
	言語事項	23	4 (17.4%)	16 (69.6%)	3 (13.0%)
社会	思考・判断	2	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0%)
	技能・表現	9	2 (22.2%)	7 (77.7%)	0 (0%)
	知識・理解	9	0 (0%)	7 (77.7%)	2 (22.2%)
算数	考え方	12	2 (16.7%)	9 (75.0%)	1 (8.3%)
	表現・処理	30	8 (26.7%)	18 (60.0%)	4 (13.3%)
	知識・理解	18	5 (27.8%)	11 (61.1%)	2 (11.1%)
理科	科学的な思考	10	6 (60.0%)	3 (30.0%)	1 (10.0%)
	技能・表現	15	6 (40.0%)	8 (53.3%)	1 (6.7%)
	知識・理解	15	6 (40.0%)	8 (53.3%)	1 (6.7%)

< 中学校 >

教科名	観点または領域	問題数	設定通過率を上回った問題数	設定通過率と同程度の問題数	設定通過率を下回った問題数
国語	書くこと	3	0 (0%)	3 (100%)	0 (0%)
	読むこと	18	1 (5.6%)	13 (72.2%)	4 (22.2%)
	言語事項	39	18 (46.2%)	19 (48.7%)	2 (5.1%)
社会	思考・判断	16	2 (12.5%)	13 (81.3%)	1 (6.3%)
	技能・表現	14	3 (21.4%)	6 (42.9%)	5 (35.7%)
	知識・理解	30	4 (13.3%)	14 (46.7%)	12 (40.0%)
数学	見方・考え方	20	1 (5.0%)	8 (40.0%)	11 (55.0%)
	表現・処理	22	4 (18.2%)	11 (50.0%)	7 (31.8%)
	知識・理解	18	1 (5.6%)	9 (50.0%)	8 (44.4%)
理科	科学的な思考	21	2 (9.5%)	15 (71.4%)	4 (19.0%)
	技能・表現	16	2 (12.5%)	10 (62.5%)	4 (6.3%)
	知識・理解	22	3 (13.6%)	11 (50.0%)	8 (36.4%)
英語	聞くこと	14	11 (78.6%)	0 (0%)	3 (21.4%)
	読むこと	12	2 (16.7%)	8 (57.1%)	2 (16.7%)
	書くこと	14	0 (0%)	6 (42.9%)	8 (57.1%)

各教科ごとの小問別通過率と設定通過率及び国や県の過去問との比較

ア 国語

小学校4年			
通し番号	通過率	県	本年度設定
1)	95.6%	91.3%	80.0%
2)	74.2%		65.0%
3)	76.2%		70.0%
4)	52.0%		65.0%
5)	86.3%	81.4%	80.0%
6)	89.6%		80.0%
7)	94.8%		80.0%
8)	89.0%		80.0%
9)	56.3%		70.0%
10)	81.2%		70.0%

小学校5年			
通し番号	通過率	県	本年度設定
1)	50.9%	71.2%	70.0%
2)	98.1%		85.0%
3)	73.9%	53.6%	65.0%
4)	58.4%		55.0%
5)	86.8%	81.4%	80.0%
6)	43.8%		55.0%
7)	72.0%		65.0%
8)	64.0%		65.0%
9)	69.7%		65.0%
10)	71.0%		65.0%

小学校6年					
通し番号	通過率	県	国	国設定通過率	本年度設定
1)	98.8%		97.6%	90.0%	90.0%
2)	97.2%	96.8%	93.4%	90.0%	90.0%
3)	68.6%				80.0%
4)	78.6%	73.4%	66.6%	70.0%	75.0%
5)	78.6%	81.4%			85.0%
6)	93.6%		88.7%	90.0%	85.0%
7)	98.5%	96.6%	92.6%	95.0%	85.0%
8)	93.3%	88.6%	86.8%	90.0%	85.0%
9)	97.7%		98.3%	90.0%	90.0%
10)	98.4%	98.5%	97.8%	90.0%	90.0%
11)	97.6%	98.5%	96.7%	90.0%	90.0%
12)	61.3%				60.0%
13)	77.1%				60.0%
14)	63.9%				60.0%
15)	83.1%				75.0%
16)	94.4%				85.0%
17)	50.1%				55.0%
18)	77.2%				60.0%
19)	53.5%				55.0%
20)	67.0%				60.0%

平均通過率	79.5%		74.0%
同一問題県	90.9%	86.4%	

平均通過率	68.9%		67.0%
同一問題県	70.5%	68.7%	

平均通過率	81.4%			75.8%
同一問題県	91.7%	90.5%		
同一問題国	94.9%		90.9%	88.3%

中学校1年					
通し番号	通過率	県	国	国設定通過率	本年度設定
1)	99.6%				80.0%
2)	97.8%				75.0%
3)	76.2%	69.6%			65.0%
4)	92.2%	86.7%	80.8%	80.0%	85.0%
5)	79.7%		62.4%	65.0%	60.0%
6)	94.0%	93.4%	89.3%	80.0%	90.0%
7)	97.9%		95.7%	95.0%	75.0%
8)	37.7%				50.0%
9)	91.1%		94.5%	90.0%	70.0%
10)	83.6%		88.7%	85.0%	60.0%
11)	98.7%		97.3%	80.0%	70.0%
12)	97.7%		95.7%	80.0%	75.0%
13)	91.1%				70.0%
14)	84.9%	83.3%			80.0%
15)	70.3%				75.0%
16)	94.9%				75.0%
17)	59.4%				70.0%
18)	71.1%				75.0%
19)	40.6%				60.0%
20)	72.0%				70.0%

中学校2年					
通し番号	通過率	県	国	国設定通過率	本年度設定
1)	66.3%	48.7%	46.0%	50.0%	60.0%
2)	98.8%	98.6%	96.3%	85.0%	85.0%
3)	80.1%				60.0%
4)	84.0%				85.0%
5)	68.8%	62.1%			60.0%
6)	71.3%	61.4%			60.0%
7)	68.9%				60.0%
8)	64.0%				60.0%
9)	87.3%	83.9%			75.0%
10)	49.3%				50.0%
11)	33.1%				50.0%
12)	91.9%		89.2%	70.0%	75.0%
13)	66.4%	49.1%	21.2%	30.0%	60.0%
14)	96.0%				80.0%
15)	64.4%				70.0%
16)	69.7%				75.0%
17)	66.9%		84.9%	85.0%	75.0%
18)	51.7%		40.1%	50.0%	55.0%
19)	52.3%				55.0%
20)	57.7%				60.0%

中学校3年					
通し番号	通過率	県	国	国設定通過率	本年度設定
1)	95.9%		74.1%	70.0%	90.0%
2)	77.9%				75.0%
3)	77.1%	67.1%	53.3%	60.0%	75.0%
4)	76.5%	68.0%	58.1%	60.0%	70.0%
5)	98.1%	98.8%	95.8%	80.0%	90.0%
6)	86.4%				75.0%
7)	67.8%	68.9%			65.0%
8)	56.4%	46.7%			50.0%
9)	81.3%	78.0%			75.0%
10)	91.2%		67.4%	70.0%	85.0%
11)	88.3%		48.2%	60.0%	85.0%
12)	66.4%				65.0%
13)	68.0%				70.0%
14)	81.9%				80.0%
15)	61.6%				65.0%
16)	81.5%				70.0%
17)	93.0%				90.0%
18)	33.2%				50.0%
19)	41.4%				50.0%
20)	62.9%				65.0%

平均通過率	81.5%			71.5%
同一問題県	86.8%	83.3%		
同一問題国	91.9%		88.1%	81.9%

平均通過率	69.4%			65.5%
同一問題県	76.5%	67.3%		
同一問題国	73.6%		63.0%	61.7%

平均通過率	74.3%			72.0%
同一問題県	76.2%	71.3%		
同一問題国	87.8%		66.2%	66.7%

イ 社会

小学校6年					
通し番号	通過率	県	国	国設定通過率	本年度設定
1)	87.4%	80.0%	78.4%	70.0%	85.0%
2)	82.7%				75.0%
3)	89.3%				80.0%
4)	81.5%				60.0%
5)	76.2%				70.0%
6)	83.8%	82.6%			80.0%
7)	65.8%		65.0%	70.0%	70.0%
8)	88.1%	84.1%	79.9%	75.0%	80.0%
9)	72.7%	58.3%	50.1%	75.0%	60.0%
10)	61.5%				70.0%
11)	92.6%				80.0%
12)	60.8%				65.0%
13)	87.4%				80.0%
14)	61.8%		72.9%	75.0%	70.0%
15)	59.3%				65.0%
16)	76.9%		74.6%	70.0%	75.0%
17)	52.9%				60.0%
18)	55.5%				75.0%
19)	82.5%	66.3%	68.8%	75.0%	75.0%
20)	52.0%				70.0%

平均通過率	73.5%			72.3%
同一問題県	82.9%	74.3%		
同一問題国	76.5%		70.0%	72.9%

中学校1年					
通し番号	通過率	県	国	国設定通過率	本年度設定
1)	64.3%				65.0%
2)	73.7%				60.0%
3)	60.8%				75.0%
4)	64.3%				65.0%
5)	64.4%				55.0%
6)	77.5%	74.3%			75.0%
7)	74.1%				65.0%
8)	64.1%				65.0%
9)	50.8%				70.0%
10)	39.6%				50.0%
11)	46.2%	37.3%	54.5%	60.0%	60.0%
12)	30.9%	29.4%	39.7%	50.0%	55.0%
13)	90.9%		81.1%	70.0%	75.0%
14)	65.7%		59.4%	60.0%	65.0%
15)	46.9%		39.9%	50.0%	65.0%
16)	62.5%	49.3%	61.5%	60.0%	60.0%
17)	58.2%	51.3%	57.5%	60.0%	60.0%
18)	82.9%		85.2%	75.0%	70.0%
19)	94.2%		89.4%	80.0%	80.0%
20)	73.8%		57.9%	60.0%	50.0%

中学校2年					
通し番号	通過率	県	国	国設定通過率	本年度設定
1)	58.7%				65.0%
2)	49.7%				50.0%
3)	16.8%	16.2%			60.0%
4)	49.6%	36.0%			50.0%
5)	44.8%				60.0%
6)	47.2%				60.0%
7)	78.5%				80.0%
8)	40.7%				50.0%
9)	40.9%				60.0%
10)	40.8%				50.0%
11)	41.4%		46.5%	55.0%	55.0%
12)	72.2%		57.1%	50.0%	55.0%
13)	72.8%		70.5%	60.0%	70.0%
14)	54.6%	53.1%	42.0%	50.0%	55.0%
15)	57.9%	52.2%	51.7%	50.0%	60.0%
16)	88.1%	88.1%	85.0%	80.0%	80.0%
17)	72.3%				65.0%
18)	36.1%				55.0%
19)	16.3%				50.0%
20)	39.3%				55.0%

中学校3年					
通し番号	通過率	県	国	国設定通過率	本年度設定
1)	68.6%				60.0%
2)	75.9%				60.0%
3)	57.9%				55.0%
4)	33.3%				50.0%
5)	48.4%				45.0%
6)	82.7%	77.9%	73.4%	65.0%	70.0%
7)	58.9%	48.6%	51.0%	55.0%	55.0%
8)	59.9%	62.1%	55.3%	60.0%	60.0%
9)	51.6%				65.0%
10)	84.8%				65.0%
11)	33.1%				50.0%
12)	44.6%				60.0%
13)	80.6%				80.0%
14)	50.2%				60.0%
15)	61.6%		59.2%	50.0%	70.0%
16)	73.5%		65.1%	65.0%	65.0%
17)	55.9%		51.0%	50.0%	55.0%
18)	57.7%		55.2%	50.0%	55.0%
19)	45.3%	39.7%	33.3%	40.0%	55.0%
20)	45.9%	43.7%	32.6%	55.0%	55.0%

平均通過率	64.3%			64.3%
同一問題県	55.1%	48.3%		
同一問題国	65.2%		62.6%	62.5%

平均通過率	50.9%			59.3%
同一問題県	53.4%	49.1%		
同一問題国	64.5%		58.8%	57.5%

平均通過率	58.5%			59.5%
同一問題県	58.5%	54.4%		
同一問題国	60.2%		52.9%	54.4%

ウ 算数、数学

小学校4年			
通し番号	通過率	H14県	本年度設定
1)	82.9%	72.4%	70.0%
2)	82.8%		80.0%
3)	56.1%	52.1%	70.0%
4)	88.6%	87.4%	90.0%
5)	92.0%	89.9%	90.0%
6)	91.7%		90.0%
7)	81.1%	73.8%	70.0%
8)	71.8%	64.3%	70.0%
9)	62.7%		90.0%
10)	77.3%		70.0%
11)	80.4%		90.0%
12)	90.0%		90.0%
13)	87.7%	81.4%	80.0%
14)	81.1%	73.5%	70.0%
15)	84.1%		80.0%
16)	93.1%		80.0%
17)	69.9%		70.0%
18)	66.9%		70.0%
19)	67.5%		70.0%
20)	93.4%		80.0%

平均通過率	80.0%		78.5%
同一問題県	80.2%	74.4%	

小学校5年			
通し番号	通過率	県	本年度設定
1)	93.1%	92.8%	90.0%
2)	93.0%	91.7%	90.0%
3)	85.3%	82.4%	80.0%
4)	83.2%		80.0%
5)	91.7%		90.0%
6)	94.3%	69.1%	80.0%
7)	84.9%	75.0%	70.0%
8)	83.4%		80.0%
9)	94.5%		80.0%
10)	80.3%		90.0%
11)	36.9%		60.0%
12)	49.8%		70.0%
13)	62.8%		70.0%
14)	94.6%	63.1%	90.0%
15)	85.9%	80.9%	80.0%
16)	75.6%		60.0%
17)	93.3%		90.0%
18)	62.6%	53.7%	50.0%
19)	71.2%		80.0%
20)	70.4%		70.0%

平均通過率	79.3%		77.5%
同一問題県	86.7%	76.1%	

小学校6年					
通し番号	通過率	県	国	国設定通過率	本年度設定
1)	84.5%				80.0%
2)	89.5%	86.4%	78.7%	80.0%	70.0%
3)	85.5%	85.4%	76.6%	70.0%	70.0%
4)	96.5%	93.5%			80.0%
5)	94.4%	78.9%			80.0%
6)	74.8%	68.6%	56.9%	65.0%	70.0%
7)	33.0%				60.0%
8)	20.4%				60.0%
9)	65.0%				70.0%
10)	67.1%				70.0%
11)	52.7%		34.9%	70.0%	70.0%
12)	74.0%	56.6%	52.4%	60.0%	60.0%
13)	63.0%	32.4%			60.0%
14)	63.6%				60.0%
15)	64.4%		55.1%	70.0%	60.0%
16)	72.9%		54.2%	70.0%	70.0%
17)	71.3%				70.0%
18)	51.1%				60.0%
19)	57.0%				60.0%
20)	76.2%		69.9%	60.0%	70.0%

平均通過率	67.8%			67.5%
同一問題県	82.5%	71.7%		
同一問題国	73.7%		59.8%	68.1%

中学校1年					
通し番号	通過率	県	国	国設定通過率	本年度設定
1)	91.3%		80.8%	80.0%	80.0%
2)	82.9%	87.6%	82.4%	80.0%	80.0%
3)	72.2%				70.0%
4)	69.8%	68.0%	67.5%	65.0%	60.0%
5)	44.5%				60.0%
6)	30.9%				60.0%
7)	35.2%				60.0%
8)	77.6%				80.0%
9)	76.1%	79.4%			70.0%
10)	41.3%	37.7%			60.0%
11)	11.1%				50.0%
12)	90.6%				80.0%
13)	70.7%				60.0%
14)	61.1%		38.7%	65.0%	60.0%
15)	52.4%				60.0%
16)	69.7%				70.0%
17)	44.3%				60.0%
18)	76.7%				60.0%
19)	40.6%				70.0%
20)	47.7%		46.9%	65.0%	60.0%

平均通過率	59.3%			65.5%
同一問題県	67.5%	68.2%		
同一問題国	70.5%		63.3%	71.0%

中学校2年					
通し番号	通過率	県	国	国設定通過率	本年度設定
1)	45.5%				60.0%
2)	84.5%	81.4%			70.0%
3)	35.6%				50.0%
4)	77.4%		45.2%	65.0%	70.0%
5)	35.6%				60.0%
6)	33.9%				50.0%
7)	79.1%				80.0%
8)	62.3%		54.4%	60.0%	60.0%
9)	72.0%	67.6%			70.0%
10)	16.5%	26.1%			50.0%
11)	89.2%	85.5%	71.2%	75.0%	80.0%
12)	43.9%	41.1%	35.3%	60.0%	60.0%
13)	62.7%				60.0%
14)	34.3%				50.0%
15)	65.7%				70.0%
16)	47.5%		44.5%	60.0%	60.0%
17)	32.9%				60.0%
18)	41.4%	31.4%			60.0%
19)	15.6%				50.0%
20)	46.0%	42.6%			50.0%

平均通過率	51.1%			61.0%
同一問題県	56.2%	53.7%		
同一問題国	56.2%		50.1%	64.0%

中学校3年					
通し番号	通過率	県	国	国設定通過率	本年度設定
1)	86.3%	87.4%	77.5%	75.0%	80.0%
2)	50.3%	38.0%			60.0%
3)	77.1%	75.0%	75.1%	80.0%	80.0%
4)	68.1%				70.0%
5)	47.1%				60.0%
6)	81.5%	75.4%			80.0%
7)	68.3%	59.7%			60.0%
8)	41.6%	51.9%			50.0%
9)	49.9%				60.0%
10)	88.9%				70.0%
11)	56.8%				60.0%
12)	39.3%				50.0%
13)	62.8%				70.0%
14)	27.5%				50.0%
15)	31.6%				60.0%
16)	50.5%				60.0%
17)	50.5%		47.3%	50.0%	60.0%
18)	34.8%				60.0%
19)	46.1%		62.3%	55.0%	60.0%
20)	43.5%		47.3%	50.0%	50.0%

平均通過率	55.1%			62.5%
同一問題県	67.5%	64.6%		
同一問題国	60.7%		61.9%	62.0%

工 理科

小学校4年				
通し番号	通過率	県	国	本年度設定
1)	98.2%	95.3%		90.0%
2)	96.6%			70.0%
3)	83.2%	78.9%		80.0%
4)	93.5%			70.0%
5)	94.4%	90.8%		90.0%
6)	43.1%			70.0%
7)	77.9%	86.1%		80.0%
8)	51.8%			70.0%
9)	86.1%			70.0%
10)	95.8%	94.7%		90.0%

小学校5年				
通し番号	通過率	県	国	本年度設定
1)	50.6%	37.0%		50.0%
2)	81.8%			80.0%
3)	85.0%	62.5%		60.0%
4)	90.5%			80.0%
5)	93.4%			70.0%
6)	79.6%	50.0%		50.0%
7)	61.2%			70.0%
8)	89.5%	79.3%		80.0%
9)	56.5%			50.0%
10)	89.3%			80.0%

小学校6年						
通し番号	通過率	県	国	国設定通過率	本年度設定	
1)	98.6%					60.0%
2)	94.4%					70.0%
3)	83.8%					60.0%
4)	79.0%					70.0%
5)	80.1%		69.2%	70.0%		70.0%
6)	67.3%		69.5%	70.0%		70.0%
7)	75.0%		64.4%	70.0%		60.0%
8)	92.4%	88.6%				80.0%
9)	90.1%	89.7%				80.0%
10)	72.3%					70.0%
11)	95.8%					90.0%
12)	86.8%					90.0%
13)	56.9%					50.0%
14)	88.3%		72.6%	80.0%		70.0%
15)	89.0%		72.6%	80.0%		90.0%
16)	74.5%					70.0%
17)	77.4%					70.0%
18)	94.1%	94.4%				90.0%
19)	85.5%	78.0%				80.0%
20)	77.7%	75.8%				80.0%

平均通過率	82.1%			78.0%
同一問題県	89.9%	89.2%		

平均通過率	77.7%			67.0%
同一問題県	76.2%	57.2%		

平均通過率	82.9%				73.5%
同一問題県	87.9%	85.3%			
同一問題国	80.0%		69.7%	74.0%	

中学校1年						
通し番号	通過率	県	国	国設定通過率	本年度設定	
1)	78.6%				80.0%	
2)	90.6%	91.6%			90.0%	
3)	80.5%	79.9%			80.0%	
4)	88.9%				80.0%	
5)	75.5%	77.1%			70.0%	
6)	70.2%	69.7%			70.0%	
7)	86.0%	83.1%			80.0%	
8)	41.0%				50.0%	
9)	40.0%				50.0%	
10)	80.9%				70.0%	
11)	88.2%				80.0%	
12)	70.7%		66.6%	60.0%	70.0%	
13)	60.8%		62.6%	60.0%	60.0%	
14)	85.4%		87.0%	70.0%	80.0%	
15)	67.5%	66.1%			70.0%	
16)	75.4%				80.0%	
17)	95.7%				90.0%	
18)	50.2%		58.7%	60.0%	60.0%	
19)	94.0%				80.0%	
20)	91.6%				80.0%	

中学校2年						
通し番号	通過率	県	国	国設定通過率	本年度設定	
1)	53.3%	31.0%			50.0%	
2)	80.0%	83.3%	59.1%		80.0%	
3)	47.2%				80.0%	
4)	84.2%				80.0%	
5)	50.8%				50.0%	
6)	56.9%	46.1%			50.0%	
7)	51.1%	51.2%			50.0%	
8)	39.7%				70.0%	
9)	76.5%		67.4%	65.0%	70.0%	
10)	55.4%				50.0%	
11)	64.9%		26.2%	50.0%	50.0%	
12)	51.4%		51.5%	70.0%	80.0%	
13)	36.8%				70.0%	
14)	60.1%				70.0%	
15)	41.5%				50.0%	
16)	66.7%	82.4%	60.0%	60.0%	70.0%	
17)	60.2%	53.7%	62.0%	70.0%	50.0%	
18)	53.4%				70.0%	
19)	74.4%				80.0%	
20)	45.6%				50.0%	

中学校3年						
通し番号	通過率	県	国	国設定通過率	本年度設定	
1)	61.1%				80.0%	
2)	45.8%				70.0%	
3)	42.0%				60.0%	
4)	92.9%	89.3%			80.0%	
5)	54.5%	55.2%			60.0%	
6)	56.9%	53.2%			60.0%	
7)	48.4%				70.0%	
8)	28.3%				50.0%	
9)	38.6%				60.0%	
10)	34.3%				70.0%	
11)	41.3%				80.0%	
12)	85.0%	83.6%			80.0%	
13)	72.5%	64.3%			80.0%	
14)	42.1%		37.7%	70.0%	60.0%	
15)	76.8%		61.2%	60.0%	60.0%	
16)	59.7%				70.0%	
17)	66.0%				60.0%	
18)	35.5%		29.5%	55.0%	50.0%	
19)	42.4%		32.6%	50.0%	50.0%	
20)	78.9%		60.9%	60.0%	70.0%	

平均通過率	75.6%			73.5%
同一問題県	78.4%	77.9%		
同一問題国	66.8%		68.7%	62.5%

平均通過率	57.5%			63.5%
同一問題県	61.4%	58.0%		
同一問題国	66.6%		54.4%	63.0%

平均通過率	55.2%			66.0%
同一問題県	72.3%	69.1%		
同一問題国	55.1%		44.4%	59.0%

才 英語

中学校2年					
通し番号	通過率	県	国	国設定通過率	本年度設定
1)	85.9%		66.0%	75.0%	75.0%
2)	88.7%				75.0%
3)	95.0%		88.0%	80.0%	70.0%
4)	88.5%		82.1%	80.0%	75.0%
5)	97.6%				70.0%
6)	46.4%				65.0%
7)	42.3%				65.0%
8)	79.0%		73.6%	65.0%	70.0%
9)	82.0%	69.2%			80.0%
10)	77.9%	72.6%			70.0%
11)	25.3%	41.3%			70.0%
12)	88.2%		62.4%	70.0%	80.0%
13)	49.1%				70.0%
14)	63.5%	35.9%	53.3%	55.0%	75.0%
15)	15.4%				60.0%
16)	14.6%				55.0%
17)	53.5%	41.9%			60.0%
18)	36.0%				70.0%
19)	43.4%				70.0%
20)	75.0%				75.0%

中学校3年					
通し番号	通過率	県	国	国設定通過率	本年度設定
1)	88.5%				75.0%
2)	98.7%				75.0%
3)	97.3%		90.7%	70.0%	80.0%
4)	95.8%				80.0%
5)	89.8%				70.0%
6)	80.1%				65.0%
7)	40.7%				60.0%
8)	68.4%	61.2%	56.1%	60.0%	60.0%
9)	72.3%				60.0%
10)	83.2%	80.4%	72.2%	60.0%	80.0%
11)	74.6%	69.1%	59.6%	60.0%	75.0%
12)	68.6%				70.0%
13)	86.8%				70.0%
14)	39.1%		50.7%	50.0%	50.0%
15)	27.1%	21.3%			55.0%
16)	35.8%				45.0%
17)	33.6%				40.0%
18)	73.5%				70.0%
19)	40.4%	33.1%	34.9%	55.0%	70.0%
20)	57.2%				65.0%

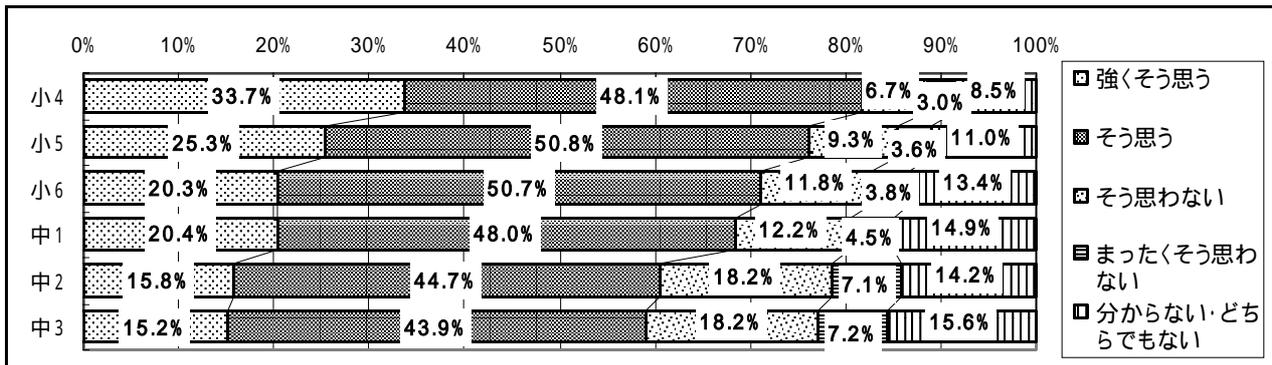
平均通過率	62.4%				70.0%
同一問題県	60.5%	52.2%			
同一問題国	83.3%		70.9%	70.8%	

平均通過率	67.7%				65.8%
同一問題県	58.7%	53.0%			
同一問題国	67.2%		60.7%	59.2%	

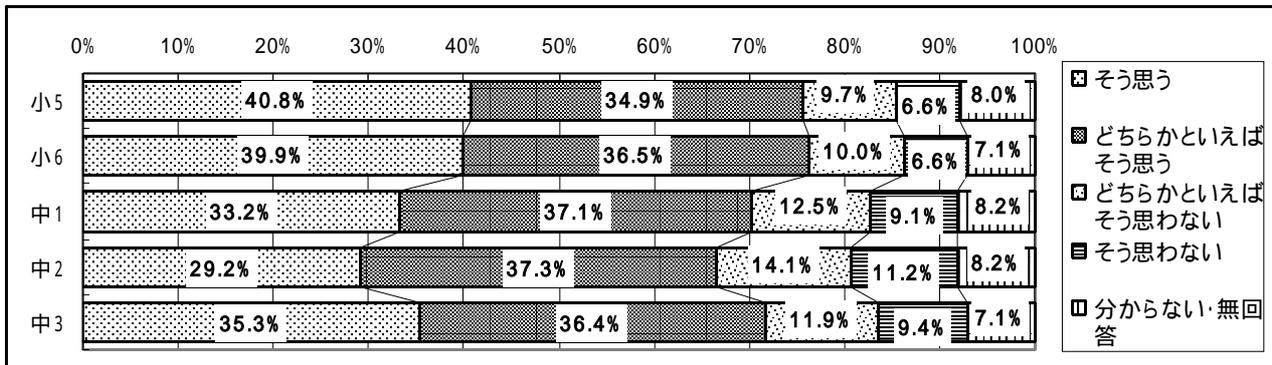
(2) 学習への意欲等に関する質問紙調査結果

学習全般

1 - 1 学校が好きだ

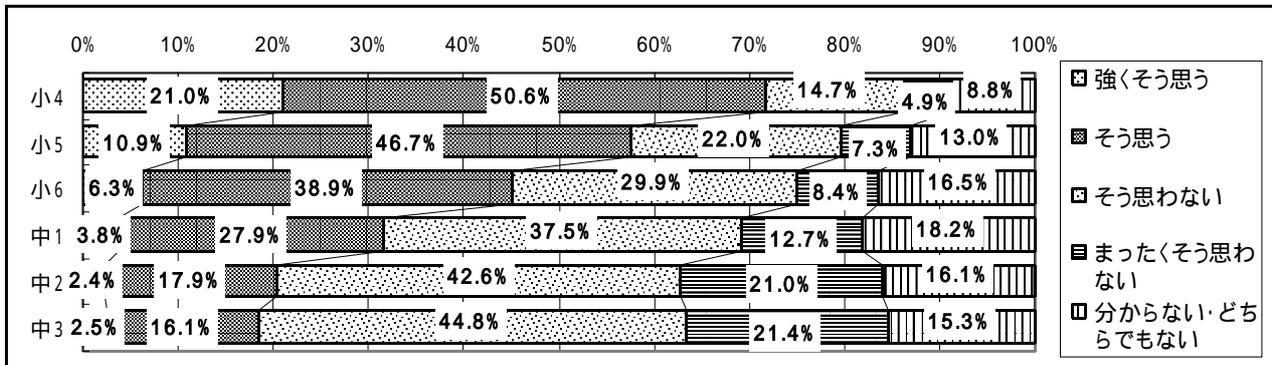


< 平成13年度国の調査結果：平成14年1月、2月調査 >

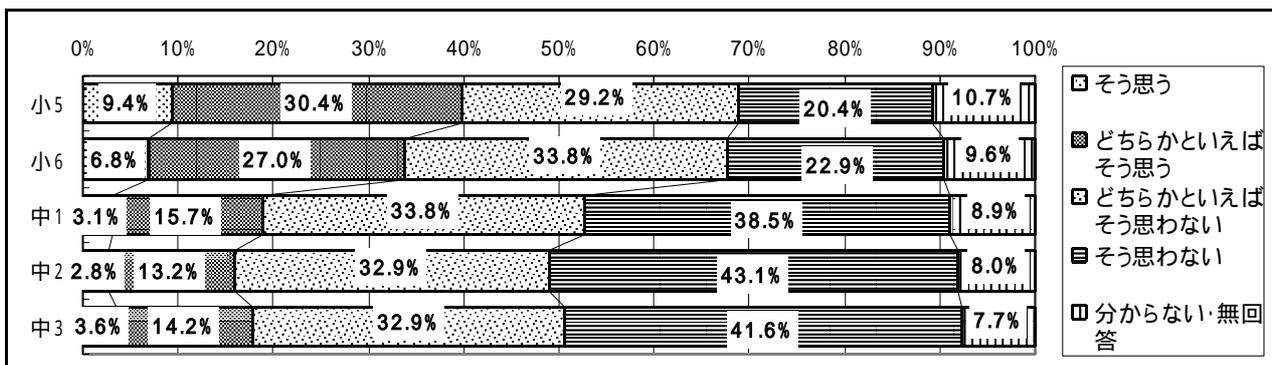


・学校が好きだと肯定的に考えている児童生徒の割合が、国と比較して中2で高いが、他の学年は、ほぼ同程度であるか低い結果となっている。国の結果では、中3で高くなっているが、調査の実施時期と関係があるものと考えられる。

1 - 2 勉強が好きだ

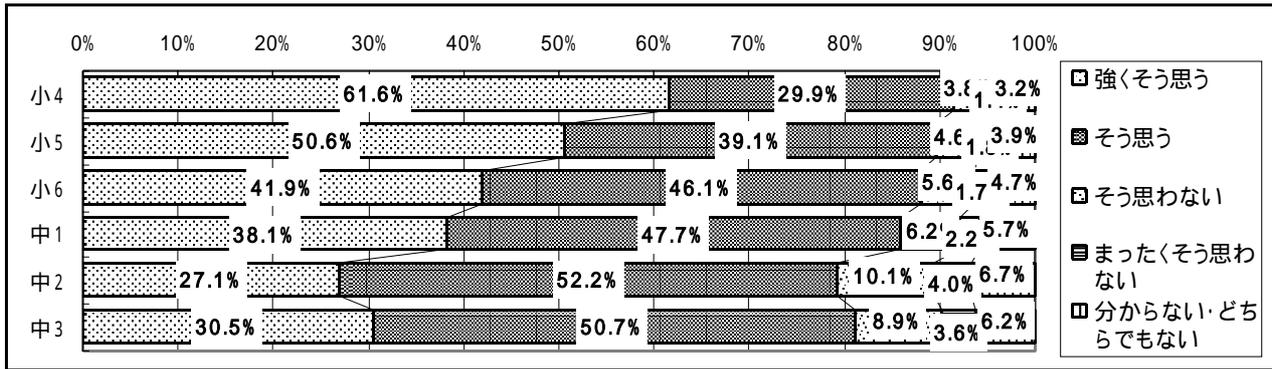


< 平成13年度国の調査結果：平成14年1月、2月調査 >

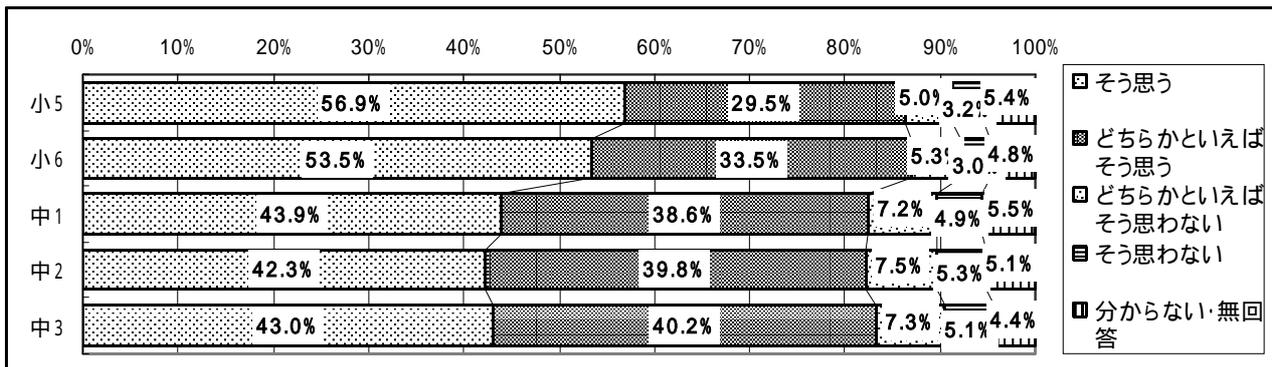


・国と比較して、勉強が好きだと答える児童生徒の割合が、中3が同程度であるが、他の学年は高い。

1 - 3 勉強は大切だ

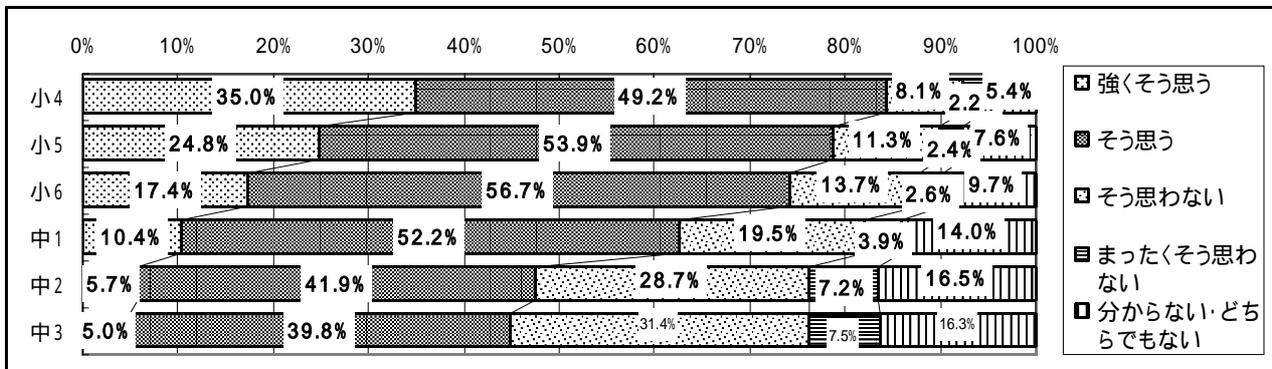


< 平成13年度国の調査結果：平成14年1月、2月調査 >

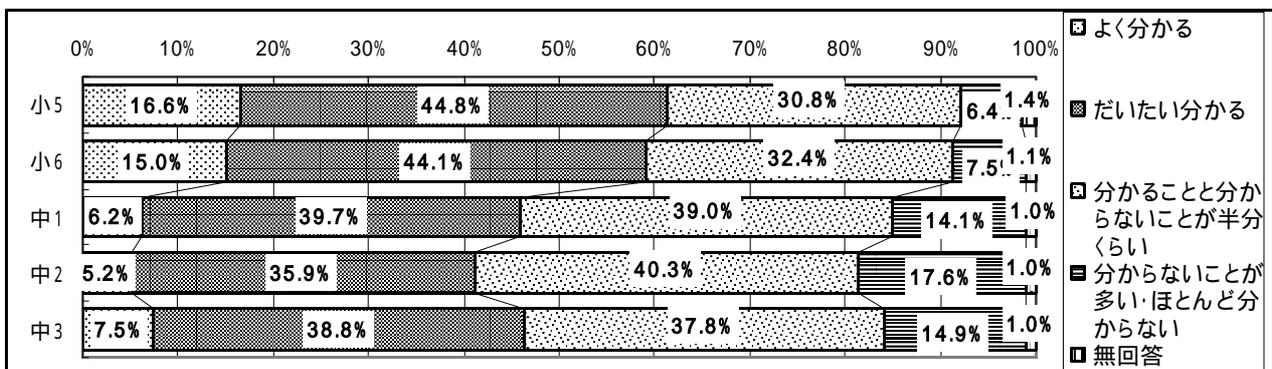


・勉強が大切だと肯定的にとらえている児童生徒の割合が全国に比べて、中2でやや低いものの、他の学年では、同程度がやや高い傾向にある。

1 - 4 学校の勉強がよく分かる

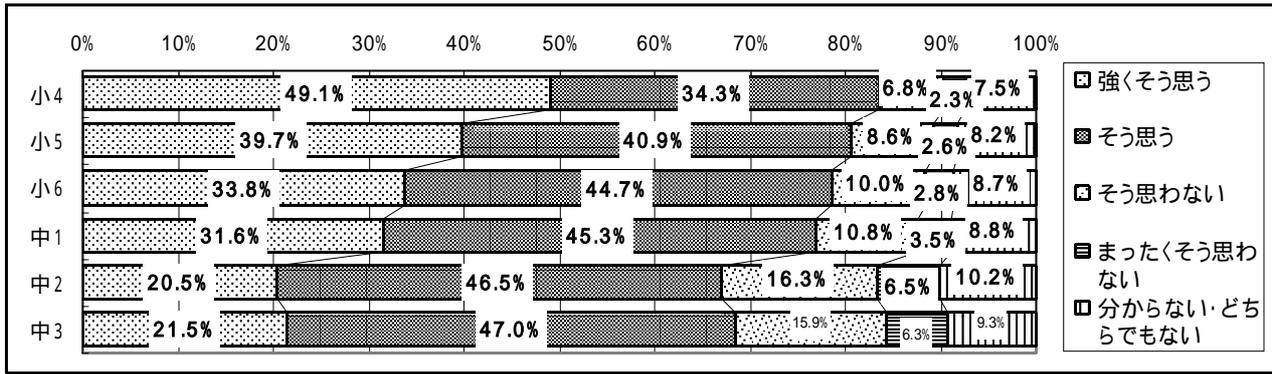


< 平成13年度国の調査結果：平成14年1月、2月調査 >

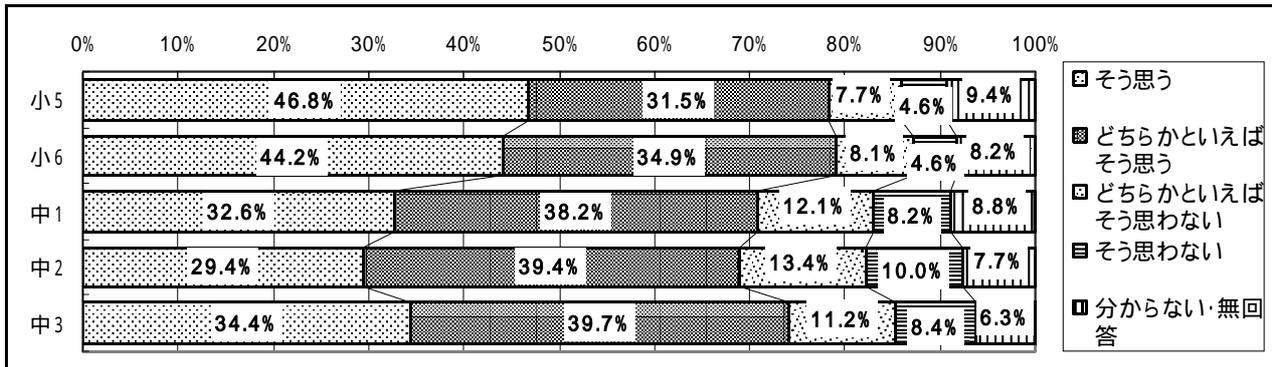


・学校の勉強がよく分かると思っている子どもの割合が、国の「よく分かる」「だいたい分かる」と答えた子どもの割合と比較し、中3を除いて高い。

1 - 5 勉強は受験に関係なくても大切だ

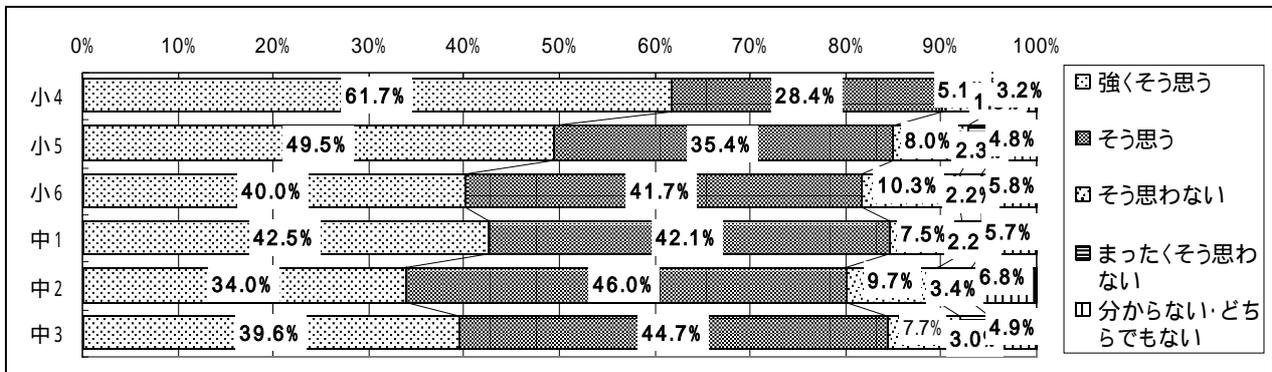


< 平成13年度国の調査結果：平成14年1月、2月調査 >

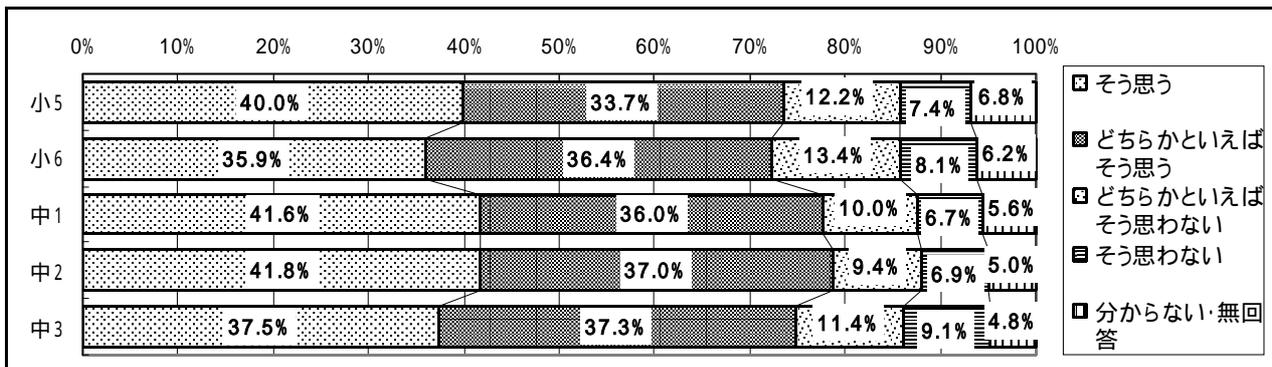


- ・ 国と比較して、小5、中1で高いが、他は低い。
- ・ 県も国も、中2よりも受験勉強をしている中3で高くなっているのが特徴である。

1 - 6 よい成績をとれるよう勉強したい。

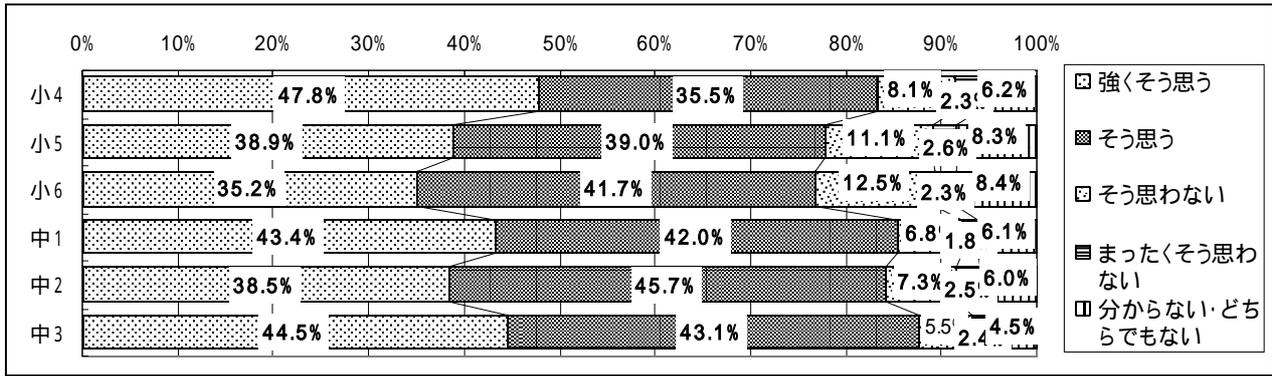


< 平成13年度国の調査結果：平成14年1月、2月調査 >

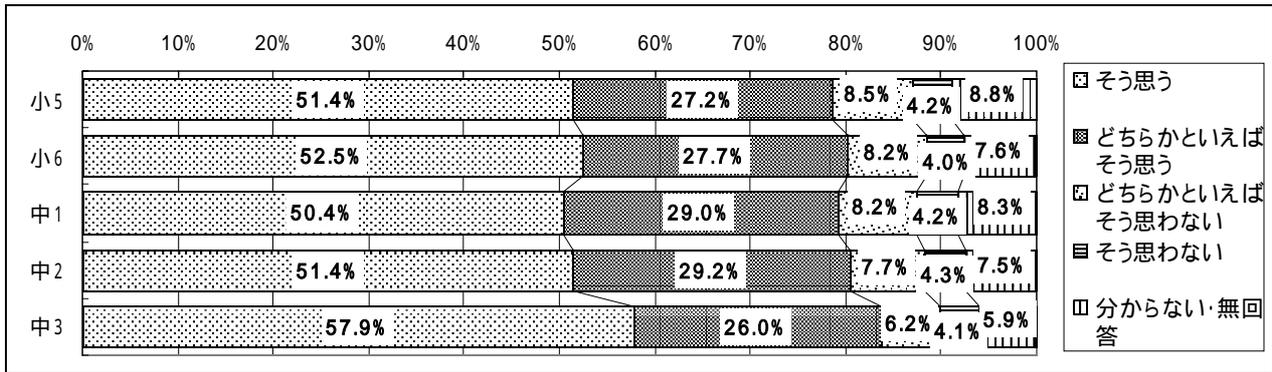


- ・ よい成績をとれるよう勉強したいと思っている児童生徒の割合が、どの学年においても国と比べて高い。特に、小5、小6、中3で顕著である。

1 - 7 受験に役立つよう、勉強したい

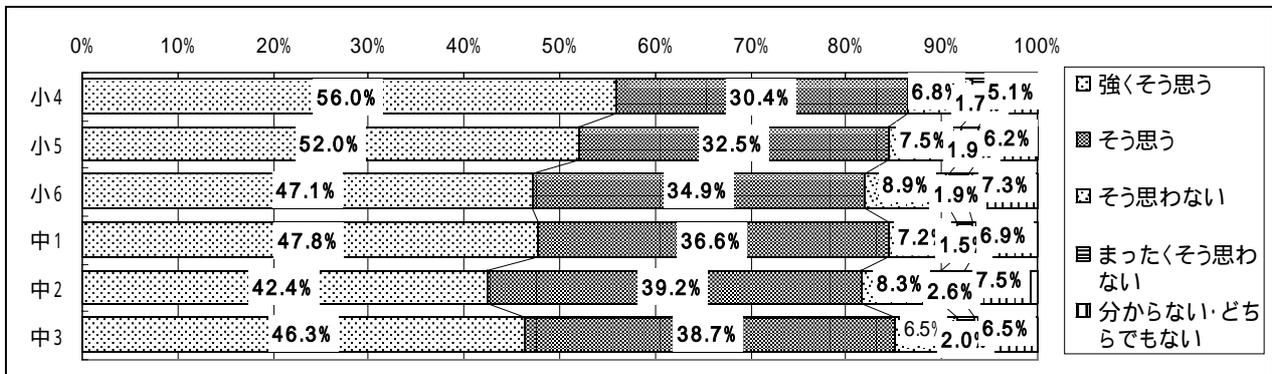


< 平成13年度国の調査結果：平成14年1月、2月調査 >

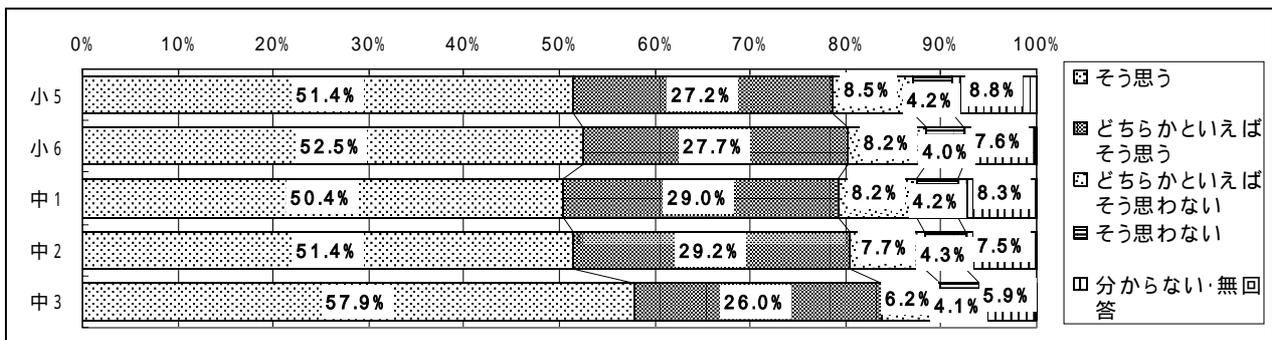


- ・国の割合は、学年が進むにつれてその割合が向上するが、本県の場合、小学校では、学年が進むにつれて下がり、中1で一度上がった後、中2で下がるところに特徴がある。

1 - 8 自分の好きな仕事につけるよう、勉強したい

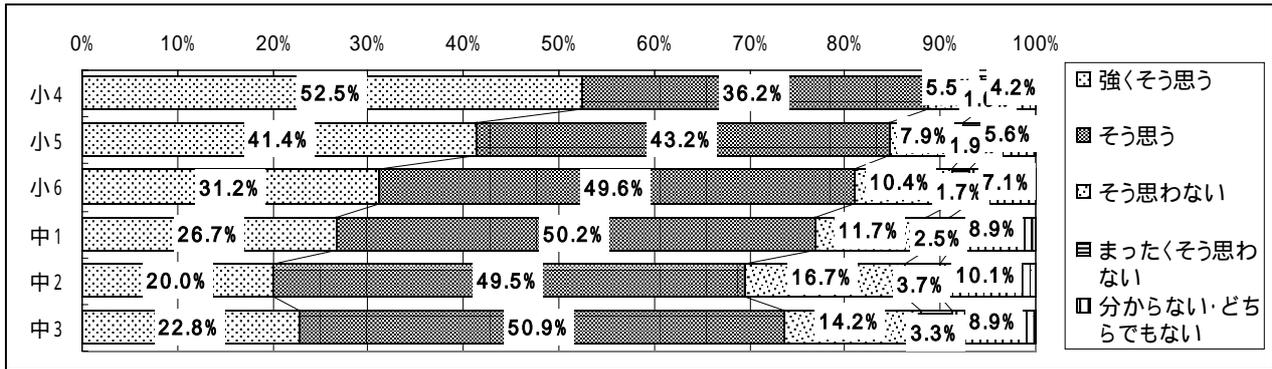


< 平成13年度国の調査結果：平成14年1月、2月調査 >

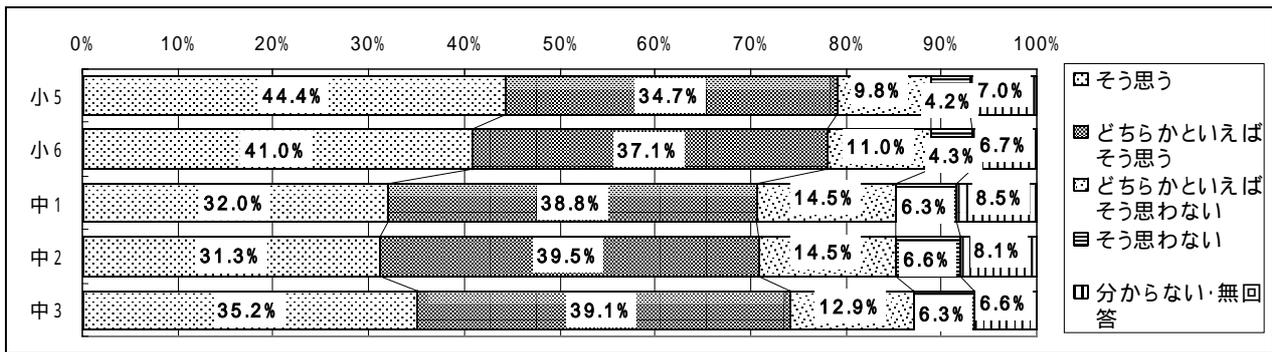


- ・自分の好きな仕事に就けるよう勉強したいと思っている児童生徒の割合は、どの学年においても国より高い。

1 - 9 分からないことでも自分の力で答えを見付けられるよう、勉強したい

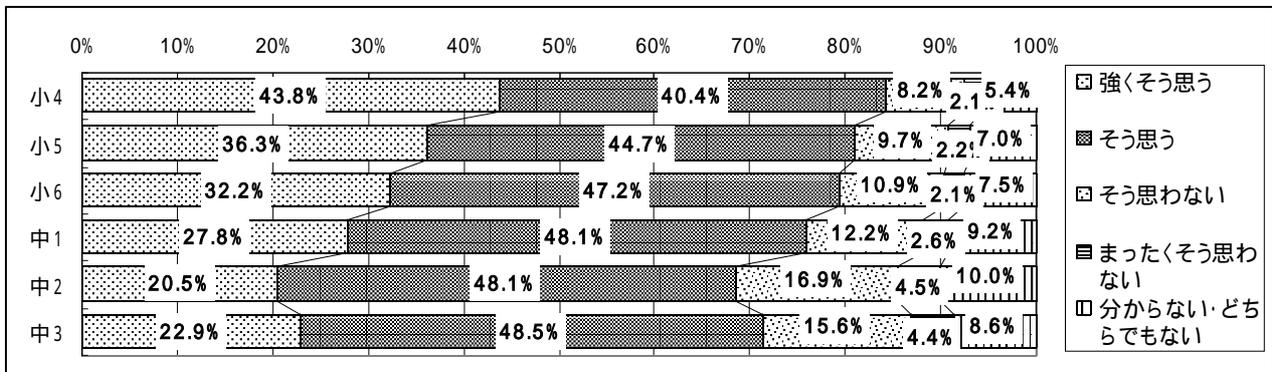


< 平成13年度国の調査結果：平成14年1月、2月調査 >

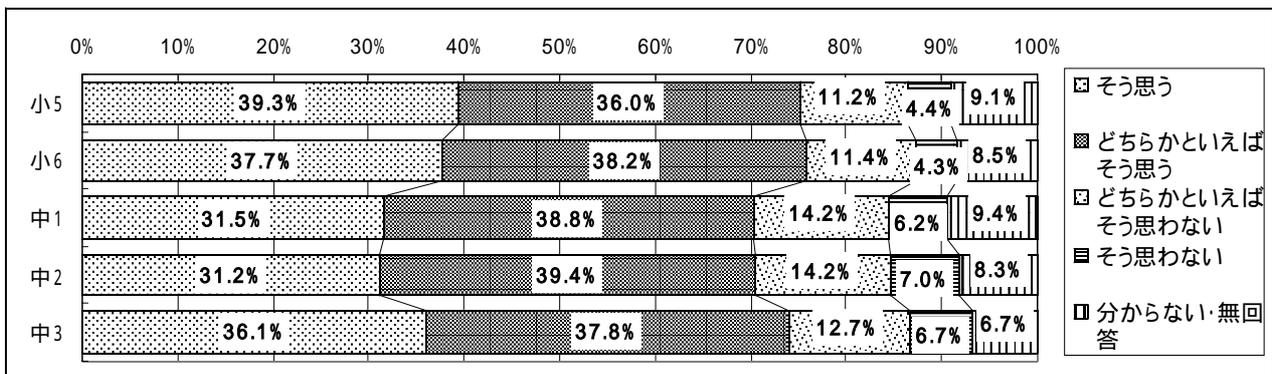


・ 国と比較すると中2、中3でやや低いものの、他の学年では、自分の力で答えを見付けられよう勉強したいと思っている児童生徒の割合は高い。

1 - 10 普段の生活や社会に出て役立つよう、勉強したい。

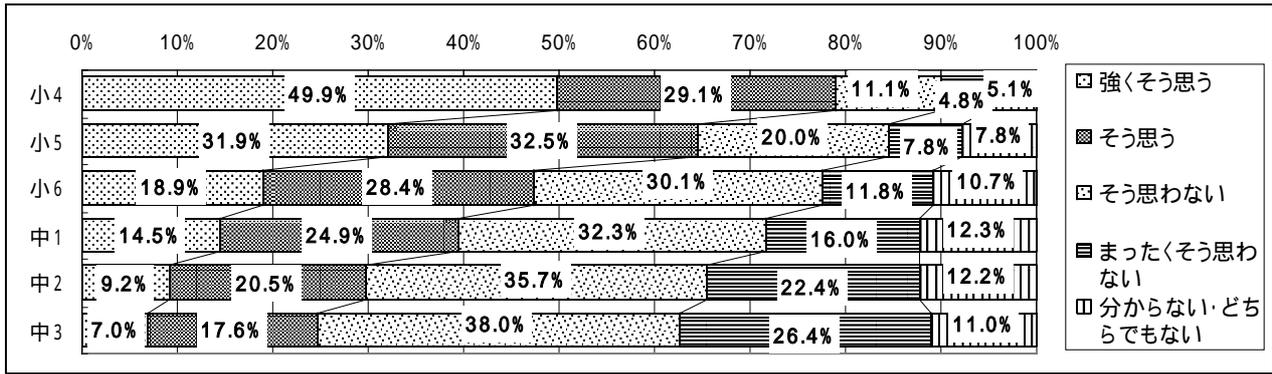


< 平成13年度国の調査結果：平成14年1月、2月調査 >

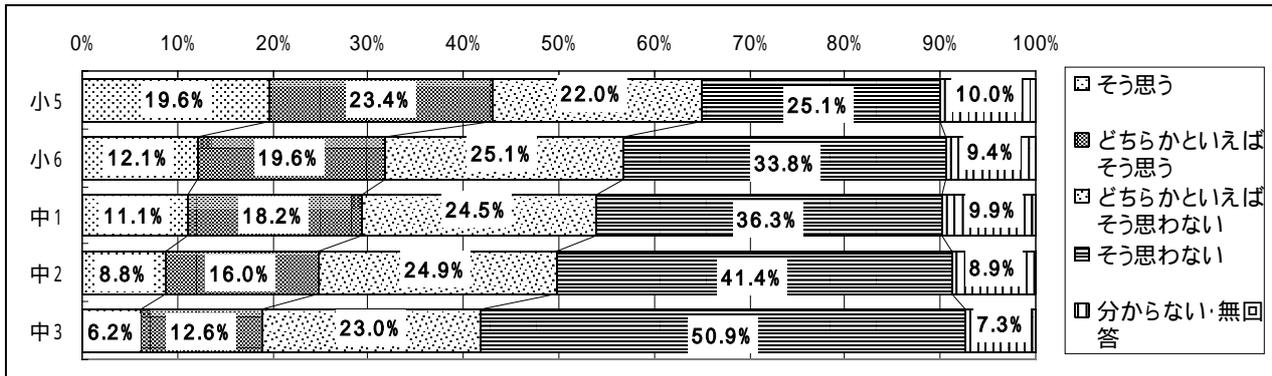


・ 小5～中1では、全国に比べて高いものの、中2、中3では、やや落ちる。

1 - 11 お父さんやお母さんにほめられるよう、勉強したい。

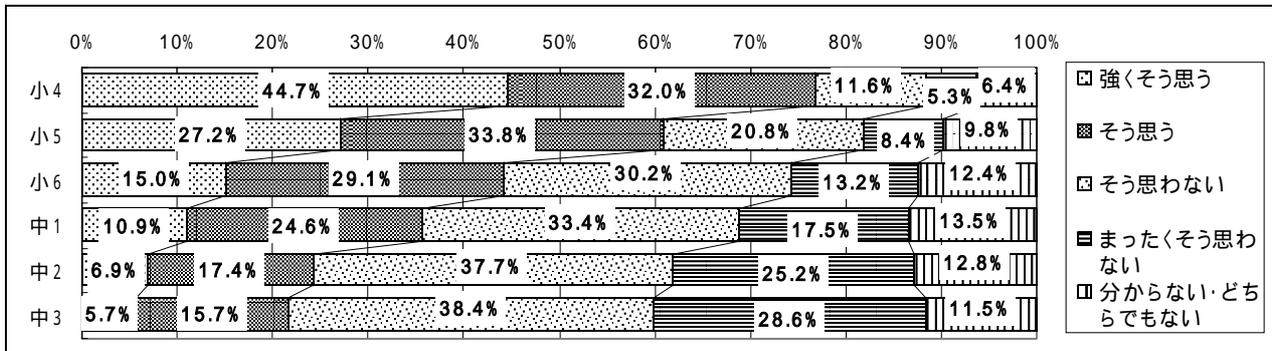


< 平成13年度国の調査結果：平成14年1月、2月調査 >

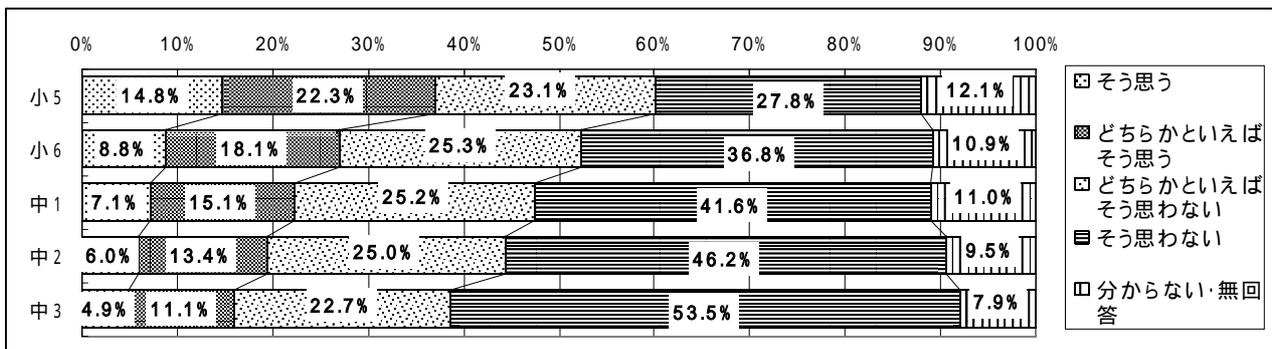


・全国に比べて、お父さんやお母さんに誉められるよう勉強したいと思っている児童生徒の割合は、比較的高い。

1 - 12 先生にほめられるよう、勉強したい



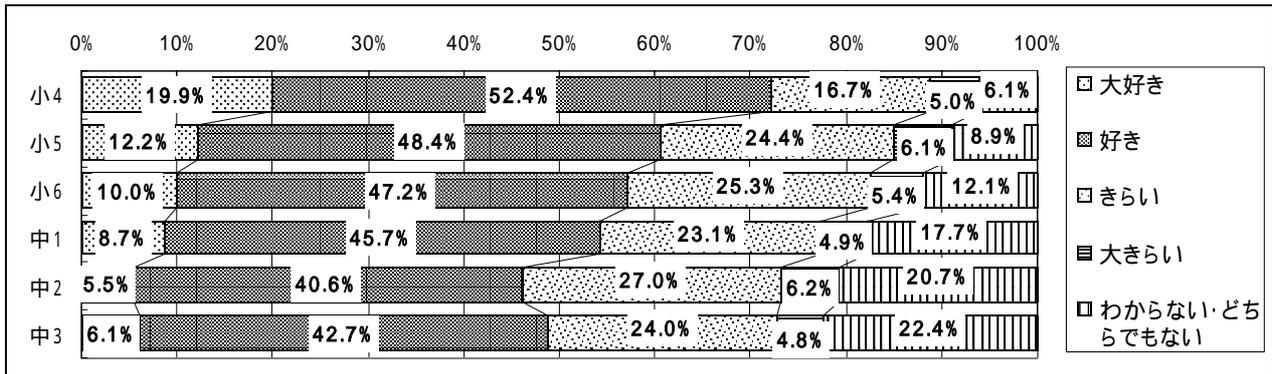
< 平成13年度国の調査結果：平成14年1月、2月調査 >



・1 - 11同様、全国に比較して誉められるよう勉強したいと思っている児童生徒の割合が高く、学習の動機付けに、保護者や教師が大きく関係することが分かる。

教科の好き嫌いについて

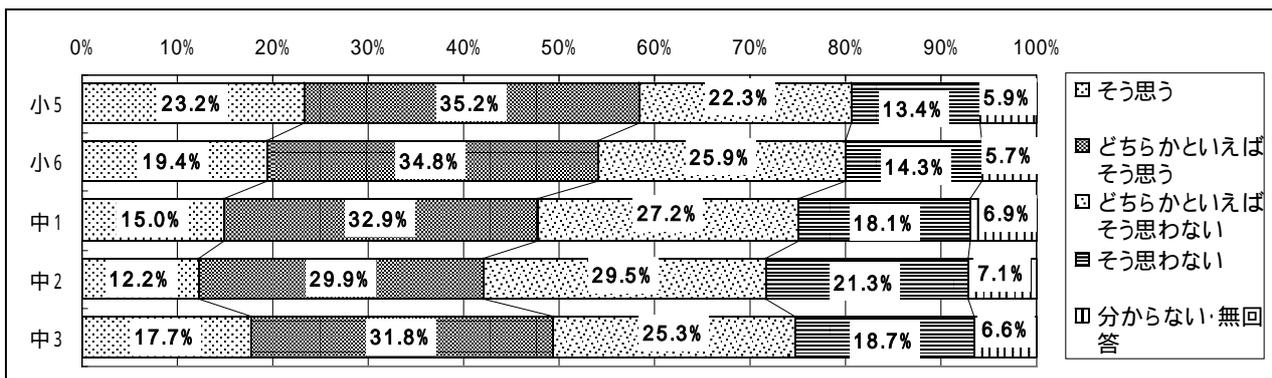
ア 国語



好き嫌いの理由		小4	小5	小6	中1	中2	中3
好きな理由	楽しい	22.6%	16.5%	14.3%	19.4%	16.3%	16.9%
	分かりやすい	18.7%	13.9%	13.6%	10.9%	9.0%	9.2%
	将来のためになる	11.8%	12.3%	12.0%	8.2%	8.8%	7.1%
	生活の中で役立つ	7.8%	7.9%	8.2%	7.6%	7.3%	8.2%
	人とのかかわりの中で役立つ				7.0%	6.2%	6.4%
	考えるのが好き	8.4%	8.1%	8.3%	4.9%	3.7%	5.1%
	得意	5.8%	5.4%	6.4%	5.0%	5.0%	7.1%
嫌いな理由	楽しくない	6.7%	9.0%	10.0%	9.2%	12.3%	10.5%
	分かりにくい	7.6%	8.6%	7.5%	6.6%	10.1%	10.1%
	将来のためにならない	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%	0.6%	0.7%
	生活の中で役立たない	0.2%	0.3%	0.2%	0.3%	0.8%	0.3%
	人とのかかわりの中で役立たない				0.2%	0.3%	0.2%
	考えるのが面倒	2.2%	3.9%	4.3%	5.1%	5.3%	4.0%
	不得意	5.2%	9.9%	10.5%	10.2%	9.9%	8.7%
その他	2.9%	4.0%	4.3%	5.2%	4.6%	5.4%	

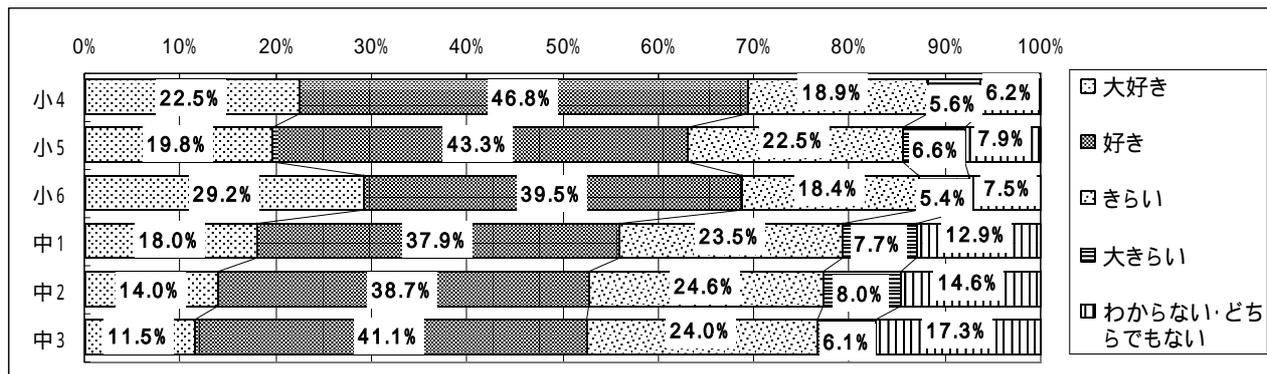
<平成13年度 国の調査より：平成14年1・2月実施>

国語の勉強が好きだ



- ・「大好き」「好き」と答える割合が、全国の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える割合よりも、中3が同程度であるほかは、すべて上回っている。
- ・県の調査で他教科と比較した際に、「大好き」と答える割合がもっとも低く、「わからない・どちらでもない」と答える割合が最も高い。
- ・好きな理由としては「楽しい」「分かりやすい」「将来のためになる」の3点の割合が高い。「考えるのが好き」と答えた割合は、小4から6までは、8%で安定しているが、中学校では、「考えるのが好き」と答える割合が減っている。

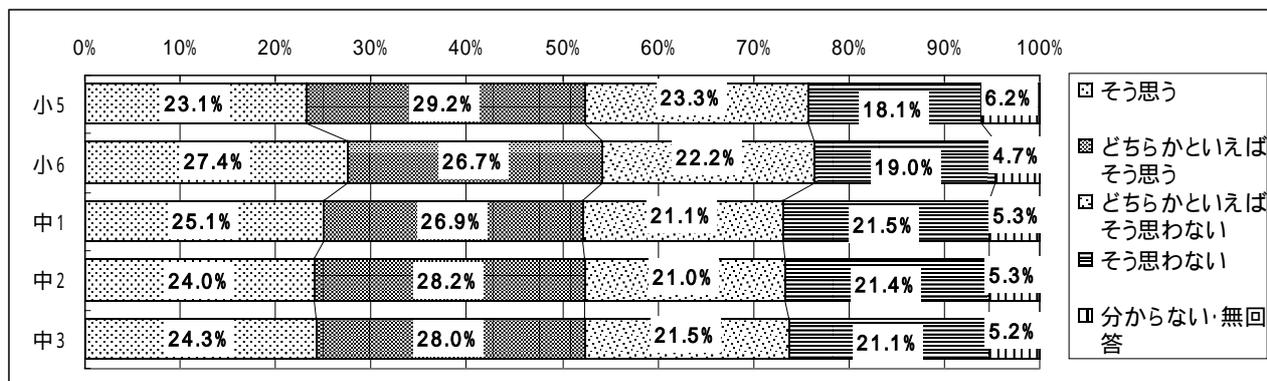
イ 社会



好き嫌いの理由		小4	小5	小6	中1	中2	中3
好きな理由	楽しい	17.3%	15.6%	30.8%	26.1%	25.9%	22.0%
	分かりやすい	13.3%	11.8%	11.2%	11.0%	12.1%	10.7%
	将来のためになる	18.3%	20.0%	12.2%	8.6%	6.0%	9.7%
	生活の中で役立つ	17.4%	10.3%	3.3%	3.3%	3.1%	5.4%
	人とのかかわりの中で役立つ				1.4%	1.5%	1.8%
	考えるのが好き	4.2%	5.3%	7.7%	4.9%	4.4%	4.3%
	得意	2.9%	4.0%	7.2%	6.3%	7.1%	7.5%
嫌いな理由	楽しくない	6.7%	7.3%	4.3%	4.7%	6.2%	5.7%
	分かりにくい	9.9%	10.9%	10.4%	12.7%	11.1%	10.3%
	将来のためにならない	0.3%	0.4%	0.7%	1.4%	2.6%	1.9%
	生活の中で役立たない	0.1%	0.3%	0.8%	1.0%	2.1%	1.7%
	人とのかかわりの中で役立たない				0.6%	0.7%	0.7%
	考えるのが面倒	2.1%	2.8%	2.1%	2.1%	2.4%	1.9%
	不得意	4.8%	8.1%	6.5%	11.3%	11.3%	12.2%
その他	2.6%	3.2%	2.8%	4.5%	3.6%	4.2%	

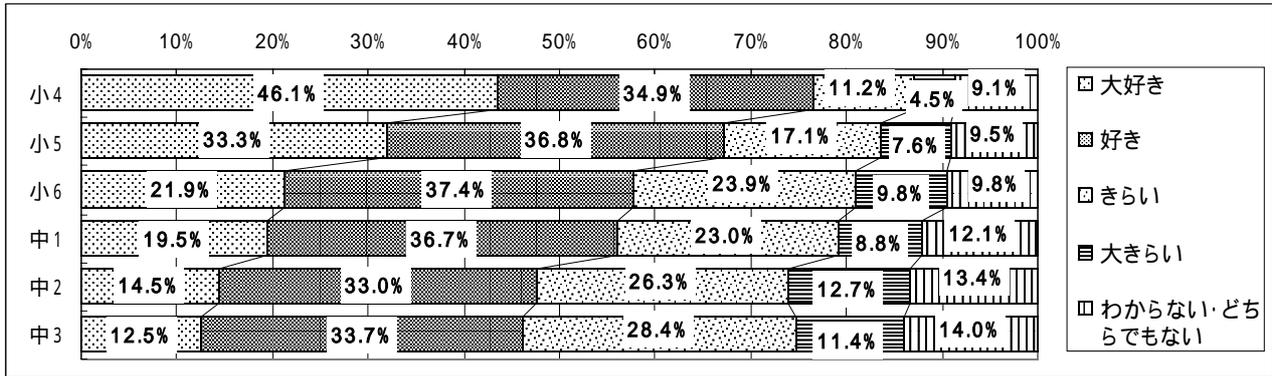
<平成13年度 国の調査より：平成14年1・2月実施>

社会の勉強が好きだ



- ・「大好き」「好き」と答える割合が、全国の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える割合よりも、どの学年も高い。特に、小5、小6は、全国を大きく上回っている。
- ・好きな理由の割合は、小・中ともに「楽しい」「分かりやすい」「将来のためになる」の順である。中学校では、学年が上がるに従い「得意」の割合が増える傾向にある。
- ・嫌いな理由の割合は、小・中ともに、「分かりにくい」が多い。中学校では、学年が上がるに従い「不得意」と答える割合が増える傾向にある。
- ・国とは違い、学年進行に伴い、「大好き」「好き」の割合が減っている。ただし、小6だけは、その割合が多くなっているのは、学習内容と関係が深いと思われる。また、中学校では、学年が上がるに従い、得意、不得意を意識する生徒が増える傾向にある。

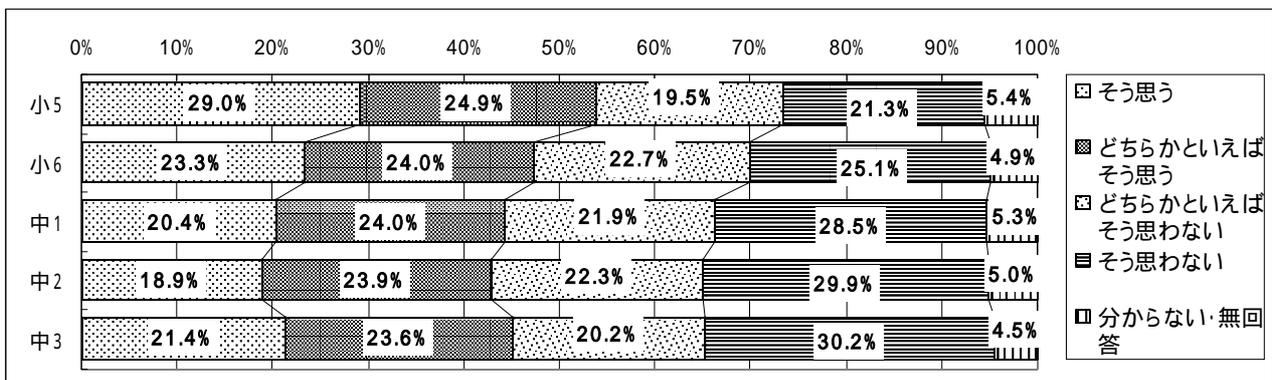
ウ 算数、数学



好き嫌いの理由		小4	小5	小6	中1	中2	中3
好きな理由	楽しい	20.9%	16.2%	10.9%	13.3%	11.7%	12.7%
	分かりやすい	16.5%	12.9%	10.0%	12.7%	11.3%	9.4%
	将来のためになる	9.7%	9.6%	10.9%	8.6%	6.4%	6.0%
	生活の中で役立つ	9.1%	9.5%	9.8%	7.8%	5.0%	3.7%
	人とのかかわりの中で役立つ				0.3%	0.3%	0.5%
	考えるのが好き	12.2%	11.8%	10.6%	10.2%	11.0%	13.7%
	得意	14.9%	13.2%	10.3%	9.5%	7.8%	6.7%
嫌いな理由	楽しくない	3.3%	5.1%	6.2%	5.2%	6.4%	5.1%
	分かりにくい	5.2%	7.6%	10.5%	10.1%	11.4%	11.5%
	将来のためにならない	0.2%	0.2%	0.4%	0.4%	1.1%	1.5%
	生活の中で役立つ	0.1%	0.3%	0.2%	0.3%	1.0%	1.8%
	人とのかかわりの中で役立つ				0.4%	0.5%	0.8%
	考えるのが面倒	3.1%	4.6%	7.4%	6.6%	8.9%	7.2%
	不得意	3.3%	7.2%	10.5%	11.6%	14.2%	16.3%
その他	1.6%	1.9%	2.2%	3.0%	2.8%	3.2%	

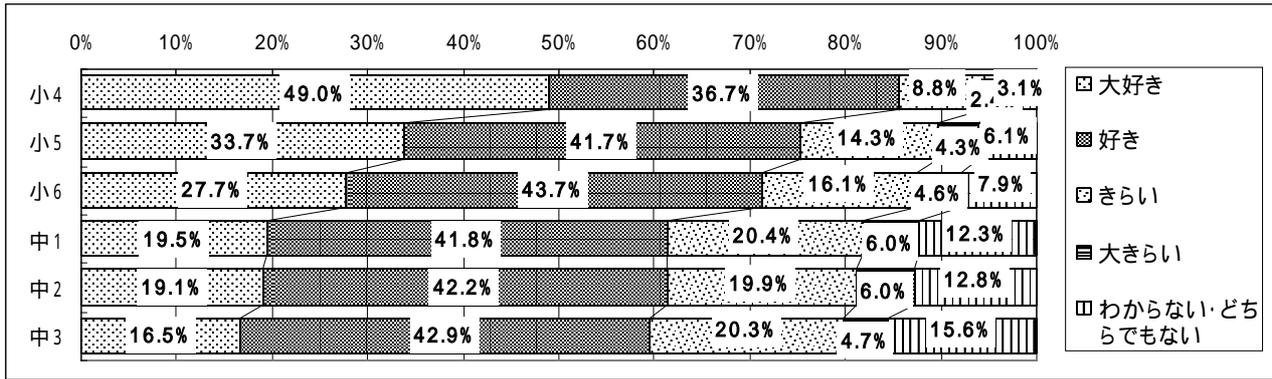
平成13年度 国の調査より：平成14年1・2月実施 >

算数、数学の勉強が好きだ



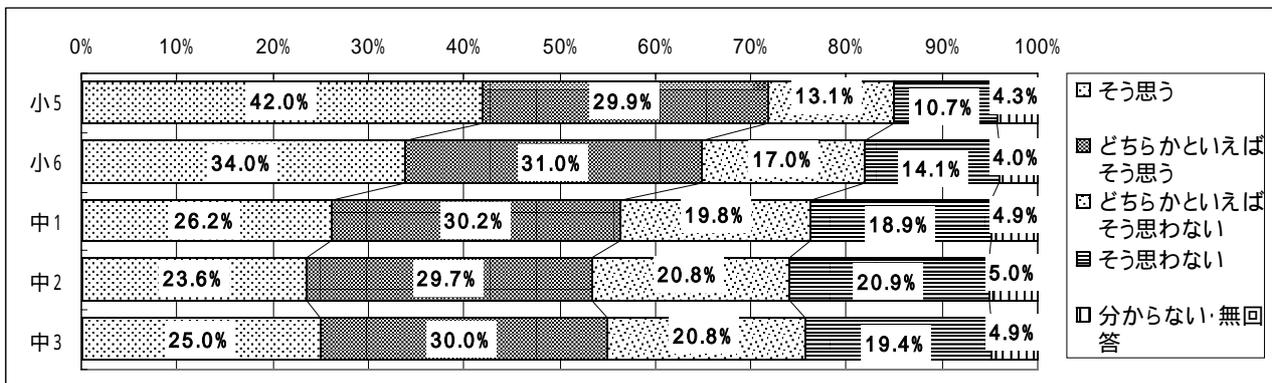
- ・「大好き」「好き」と答える割合が、全国の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える割合よりも、中3が同じ程度である他は、全て高い。特に、小4～中1は、全国を大きく上回っている。
- ・好きな理由の割合が、「楽しい」「分かりやすい」「将来のためになる」「考えるのが好き」「得意」に広く分散している。
- ・好きな理由として、「考えるのが好き」の割合が、小4～中3まで、10%～13%と安定しているのに対して、「考えるのが面倒」と答える割合が高くなる傾向にある。
- ・「将来のためになる」「生活の中で役立つ」と感じる割合が、中学校では低くなる。

工 理科



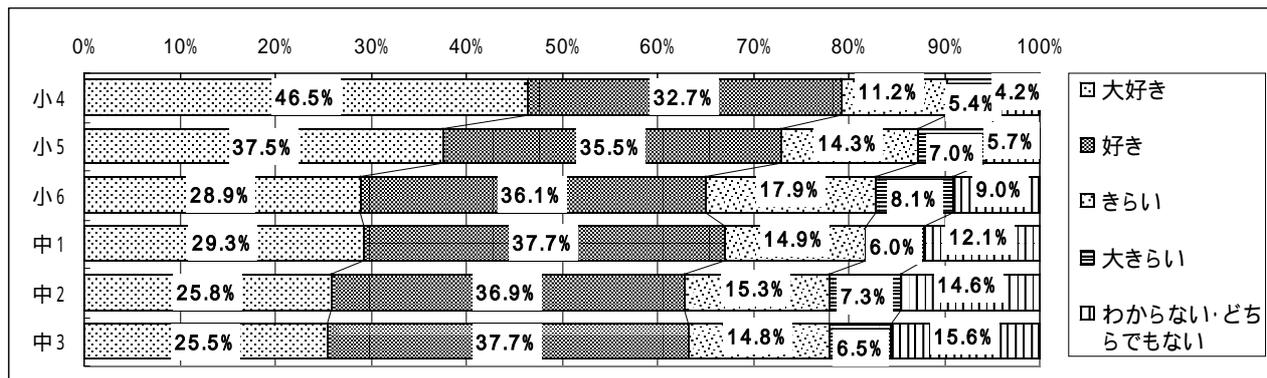
好き嫌いの理由		小4	小5	小6	中1	中2	中3
好きな理由	楽しい	41.3%	35.4%	34.8%	31.1%	30.1%	29.6%
	分かりやすい	14.5%	14.0%	13.2%	12.7%	12.8%	12.1%
	将来のためになる	5.0%	5.1%	4.9%	3.5%	3.2%	3.4%
	生活の中で役立つ	7.1%	6.1%	5.7%	5.1%	4.9%	4.5%
	人とのかかわりの中で役立つ				0.4%	0.5%	0.5%
	考えるのが好き	10.3%	10.2%	9.9%	8.4%	7.3%	7.4%
	得意	8.7%	7.2%	7.0%	6.6%	8.8%	10.0%
嫌いな理由	楽しくない	2.9%	4.8%	4.9%	4.8%	5.8%	4.4%
	分かりにくい	4.0%	5.9%	6.4%	9.0%	8.5%	7.8%
	将来のためにならない	0.4%	0.7%	1.2%	2.1%	2.7%	3.0%
	生活の中で役立たない	0.3%	0.5%	0.7%	1.1%	1.5%	1.9%
	人とのかかわりの中で役立たない				0.7%	0.9%	1.2%
	考えるのが面倒	0.8%	1.5%	1.7%	2.1%	2.4%	2.2%
	不得意	2.7%	5.4%	6.1%	8.4%	7.1%	7.5%
その他	2.1%	3.0%	3.3%	3.9%	3.7%	4.4%	

<平成13年度 国の調査より：平成14年1・2月実施>
理科の勉強が好きだ



- ・「大好き」「好き」と答える割合は、学年が上がるにつれて緩やかに減少する傾向にあるが、全国の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える割合よりも、すべての学年で上回っている。しかし、「大好き」と答える割合は、どの学年も全国より低い。
- ・好きな理由として、「楽しい」の割合が最も大きく、「分かりやすい」がこれに続く。
- ・好きな理由は、どの項目も学年が上がるにつれて割合が減少する傾向にあるが、「得意」の割合のみ中2と中3で増加している。
- ・嫌いな理由は、どの項目も学年が上がるにつれて割合が増加する傾向にあるが、「分かりにくい」と「不得意」の割合は、小6と中1の間での変化が他の項目よりも大きい。

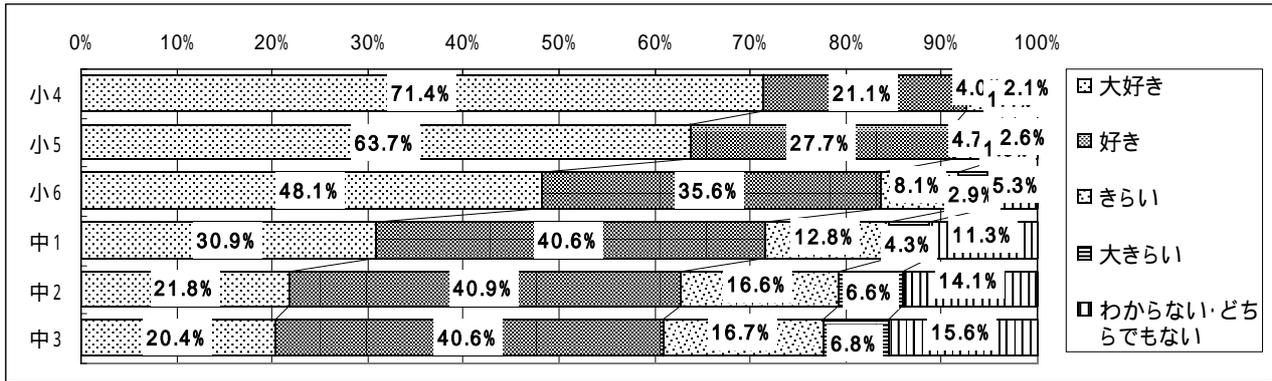
才 音楽



好き嫌いの理由		小4	小5	小6	中1	中2	中3
好きな理由	楽しい	49.3%	48.3%	46.2%	54.7%	54.2%	57.8%
	分かりやすい	10.5%	8.0%	6.7%	5.0%	3.4%	2.9%
	将来のためになる	3.3%	2.8%	2.1%	1.5%	1.9%	1.4%
	生活の中で役立つ	1.6%	1.6%	1.1%	1.2%	1.4%	1.6%
	人とのかかわりの中で役立つ				1.7%	1.6%	1.6%
	考えるのが好き	2.3%	1.5%	1.0%	0.6%	0.6%	0.4%
	得意	14.2%	13.3%	11.7%	8.4%	7.2%	5.3%
嫌いな理由	楽しくない	4.3%	4.6%	6.4%	6.1%	7.4%	8.3%
	分かりにくい	4.8%	4.4%	3.7%	2.0%	1.6%	1.3%
	将来のためにならない	0.9%	1.7%	3.3%	3.4%	4.7%	4.1%
	生活の中で役立つ	0.7%	1.3%	2.0%	1.8%	2.5%	2.3%
	人とのかかわりの中で役立つ				0.3%	0.6%	0.6%
	考えるのが面倒	0.6%	0.6%	0.5%	0.2%	0.7%	0.4%
	不得意	4.9%	8.6%	11.3%	8.2%	7.0%	6.4%
その他	2.8%	3.3%	4.1%	4.8%	5.2%	5.6%	

- ・「大好き」「好き」の割合は比較的高く、また、「きらい」「大きらい」の割合は小4～小6は減少しているが、その後はおおむね一定である。その理由としてほとんどが「楽しい」を挙げていることから、特に発達の段階の初期に、生涯にわたって音楽を愛好する心情と豊かな感性をはぐくむ音楽科の目標達成のための、指導と手立ての工夫がなされていることがうかがえる。
- ・小学校6年で「不得意」な理由で「きらい」の割合が増えているのは、この時期に変声期を迎え、思うように歌えなくなることも原因の一つと推察できる。子どもの実態をよく把握して「音楽そのもの」をきらいにさせない配慮が必要である。
- ・中学校2,3年では、少ない授業時数にもかかわらず、音楽の好きな割合が保たれている。この時期の発達の特性として、感性が高まり、一人一人の個性の自覚や自己認識を得るために音楽科の果たす役割は大きいと思われる。多様な音楽に触れる音楽活動の一層の充実が望まれる。

カ 図画工作、美術



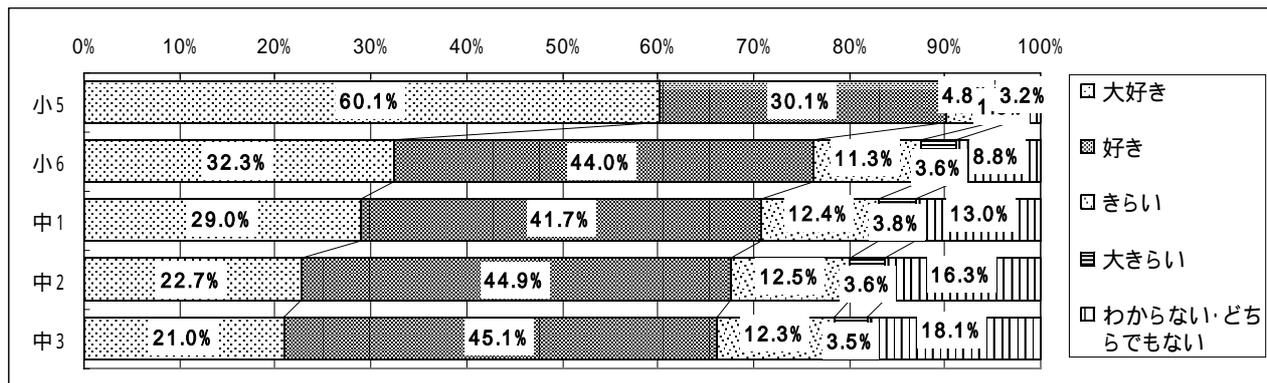
好き嫌いの理由		小4	小5	小6	中1	中2	中3
好きな理由	楽しい	62.0%	64.1%	62.1%	55.3%	53.0%	52.9%
	分かりやすい	4.2%	3.0%	2.6%	4.5%	2.7%	2.6%
	将来のためになる	2.6%	2.6%	2.0%	2.1%	1.7%	1.9%
	生活の中で役立つ	2.8%	3.7%	4.0%	2.6%	2.2%	1.7%
	人とのかかわりの中で役立つ				1.0%	0.8%	0.7%
	考えるのが好き	7.1%	6.9%	5.9%	3.5%	2.9%	3.3%
	得意	14.1%	12.2%	10.2%	8.4%	6.5%	6.4%
嫌いな理由	楽しくない	1.5%	1.4%	2.4%	4.1%	7.2%	7.1%
	分かりにくい	0.6%	0.4%	0.5%	0.8%	0.8%	1.0%
	将来のためにならない	0.4%	0.7%	1.0%	2.4%	4.4%	4.4%
	生活の中で役立つ	0.3%	0.3%	0.7%	1.5%	2.5%	2.4%
	人とのかかわりの中で役立つ				0.5%	0.7%	0.7%
	考えるのが面倒	0.7%	0.5%	1.1%	1.1%	1.3%	1.5%
	不得意	1.9%	2.7%	5.3%	7.6%	8.4%	8.5%
その他	1.6%	1.7%	2.3%	4.5%	4.7%	5.0%	

・「大好き」と「好き」を足した割合を見ると、小学校4年生、5年生、6年生ともに、図工が全教科の中で最も比率が高い。小学生のほとんどが図画工作好きであることが分かる。しかし、「大好き」+「好き」の割合が学年進行に伴い少なくなっていく様子を、他教科と比較してみると、図画工作・美術が最も急激であることが分かる。

小学校4年生は知的好奇心が拡大する年代であり、新たな材料や技法体験に強い喜びをもつことから、それを引き出す指導が行われ、効果を上げている。しかし、学年が上がるにつれ教科のねらいが鮮明になり、求められることも多くなるとともに、表現や鑑賞の内容が、知性や社会性、精神性の高まりに対応していくため、よりレベルの高い喜びが必要になるが、それが得られない子どもが急激に増えていっているのが読みとれる。

・好き嫌いの理由の第1位に「楽しい」がくることは、教科の特性から考えて大変好ましい。生涯にわたって愛好しようとする心情を育てることが目標の一つになっているからである。しかし、その他の理由の割合が、得意・不得意を除けば極めて低い点に問題を感じる。小学校中学年では「楽しいから好き」でよいが、学年が上がるにつれその他の理由等に気付かせる働きかけが必要であろう。中でも「考えるのが好き」の割合が学年が上がるにつれて低くなっていることを特に中学校で真摯に受け止め、授業改善を進めてほしい。

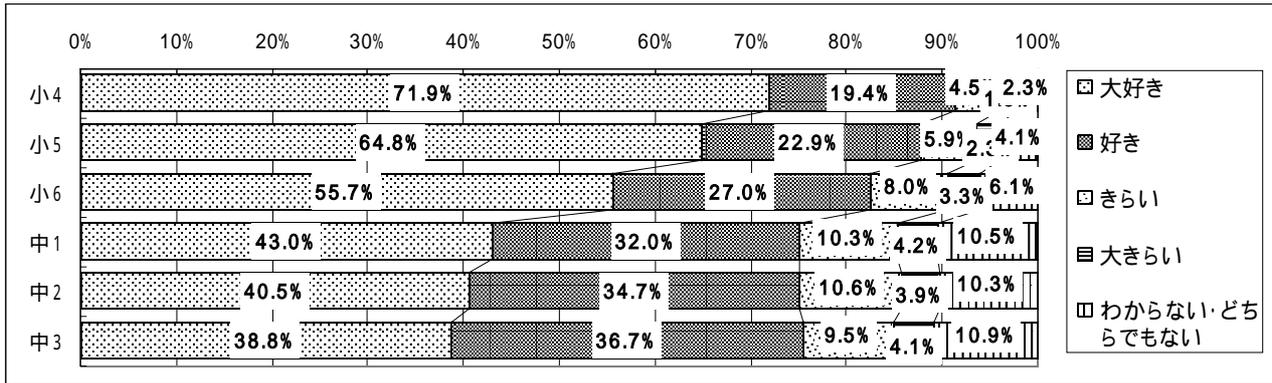
キ 家庭、技術・家庭



好き嫌いの理由		小5	小6	中1	中2	中3
好きな理由	楽しい	30.2%	19.2%	32.4%	35.2%	36.4%
	分かりやすい	3.9%	3.8%	3.9%	3.6%	3.0%
	将来のためになる	16.9%	19.3%	12.2%	13.2%	13.7%
	生活の中で役立つ	31.8%	34.7%	23.5%	20.2%	19.4%
	人とかかわりの中で役立つ			1.2%	1.5%	1.3%
	考えるのが好き	1.2%	1.1%	1.3%	1.1%	0.9%
	得意	7.9%	4.6%	4.3%	4.2%	3.9%
嫌いな理由	楽しくない	1.5%	4.6%	6.0%	6.4%	6.7%
	分かりにくい	1.7%	2.6%	2.9%	2.7%	2.3%
	将来のためにならない	0.3%	0.4%	0.6%	1.1%	1.2%
	生活の中で役立つ	0.1%	0.2%	0.5%	0.4%	0.6%
	人とかかわりの中で役立つ			0.4%	0.4%	0.5%
	考えるのが面倒	0.3%	0.8%	1.2%	1.4%	1.3%
	不得意	2.5%	6.0%	5.4%	4.6%	4.2%
その他	1.5%	2.9%	4.1%	4.2%	4.0%	

- ・他の教科と比べて、各学年ともにおおむね好意的に受け入れられており、「大好き」、「好き」の割合は、体育・保健体育、図画工作に次いで高い値を示している。
- ・小5、小6では、「生活の中で役立つ」教科としてとらえている割合が高く、教科のねらいが児童によく理解できるような授業を実践していることが分かる。
- ・学年進行に伴い、「不得意」「楽しくない」「わからない・どちらでもない」の割合が多くなっている。個に応じた指導や実践的・体験的な学習を通して、家庭生活に必要な基礎的技能を身に付けて学習への意欲を高めていく必要がある。
- ・中1～3では、ともに「楽しい」教科としてとらえている割合が高く、製作、整備、操作、実習などの実践的・体験的な学習活動が重視されていることが分かる。
- ・「将来のためになる」、「生活の中で役立つ」などの割合を増加させるためにも、今後さらに、授業を通して、学習した事柄を進んで生活の場で活用する能力や態度を育成する必要がある。

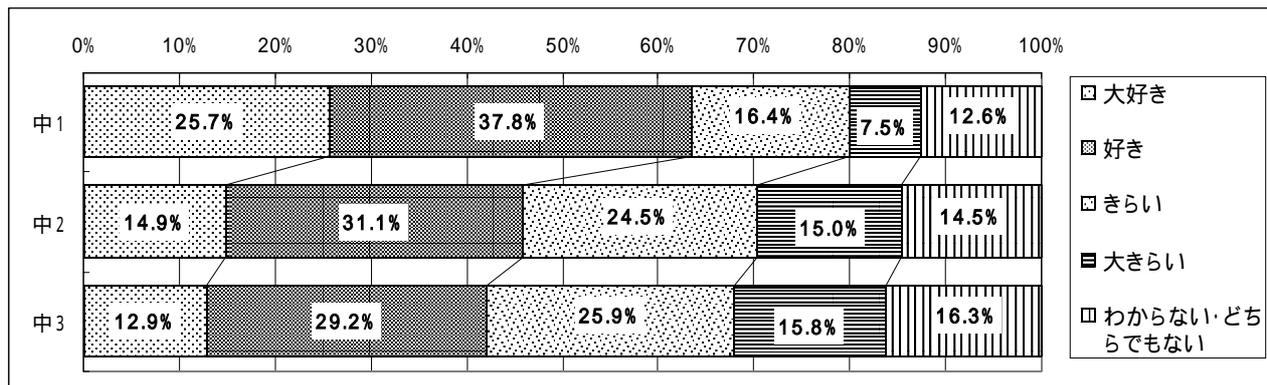
ク 体育、保健体育



好き嫌いの理由		小4	小5	小6	中1	中2	中3
好きな理由	楽しい	55.8%	56.9%	57.7%	55.3%	61.8%	64.1%
	分かりやすい	2.9%	1.8%	1.2%	2.3%	1.5%	1.2%
	将来のためになる	5.3%	5.2%	3.8%	4.7%	3.1%	2.8%
	生活の中で役立つ	3.6%	2.2%	2.1%	4.2%	3.3%	3.1%
	人とのかかわりの中で役立つ				1.5%	1.4%	1.0%
	考えるのが好き	0.6%	0.4%	0.5%	0.2%	0.3%	0.3%
	得意	23.8%	22.9%	20.0%	12.8%	10.1%	9.3%
嫌いな理由	楽しくない	1.4%	1.5%	2.1%	3.6%	3.6%	3.5%
	分かりにくい	0.3%	0.2%	0.2%	0.6%	0.3%	0.4%
	将来のためにならない	0.2%	0.3%	0.4%	0.8%	1.3%	1.0%
	生活の中で役立つ	0.2%	0.2%	0.3%	0.6%	0.7%	0.4%
	人とのかかわりの中で役立つ				0.2%	0.3%	0.3%
	考えるのが面倒	0.0%	0.1%	0.1%	0.3%	0.4%	0.3%
	不得意	3.8%	5.8%	8.1%	8.8%	8.4%	8.2%
その他	2.1%	2.6%	3.1%	4.1%	3.6%	3.9%	

- ・小学校において、大好きな教科の1番にあげられる体育も学年進行に伴い、「大好き」「好き」が少なくなっている。
- ・中学校においては、「大好き」「好き」と答えた生徒はほぼ一定しているが、「大好き」「好き」の比率を見ると、学年進行について「大好き」が少なくなり、「好き」と答えた生徒の比率が多くなっている。
- ・好きな理由を見てみると、楽しいと答えた児童生徒は、学年進行に伴い高くなっているが、得意と答えた児童生徒は逆に低くなっている。将来のためになる・生活の中で役立つなどといった項目は低く、健康・体力の向上などの意識は低いと考えられる。
- ・嫌いな理由を見てみると、楽しくない・不得意と答えた児童生徒は、年齢が上がるにつれて高くなっている。
- ・さらに、体育が楽しくない・不得意と答えた児童生徒の理由として考えられるのは、
 病弱という健康上の理由
 経験の乏しさから、上手くできないという理由（運動遊びの減少など）
 さらに者になる（比べられる）という心理的理由（器械運動のできるできない、陸上競技で走るのおそいなど）
 などが考えられるので、一人一人の実態に応じた対応が必要である。

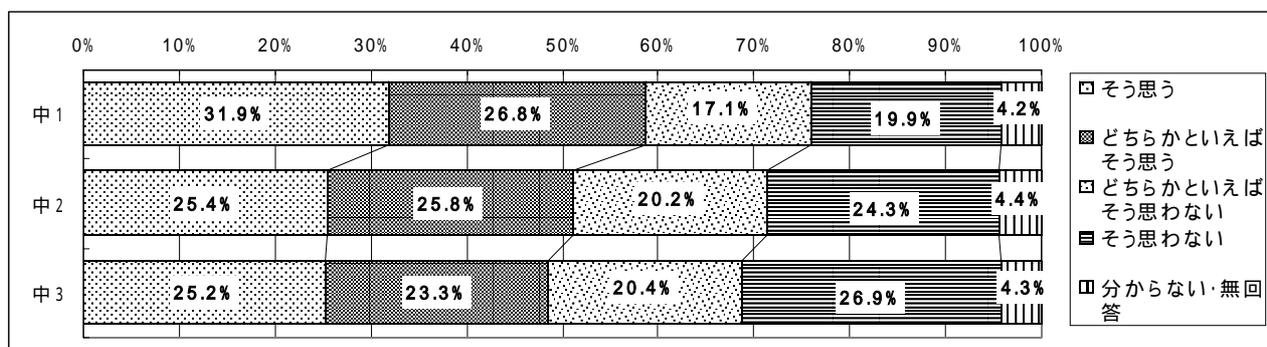
ケ 英語



好き嫌いの理由		中1	中2	中3
好きな理由	楽しい	20.3%	12.8%	12.7%
	分かりやすい	5.5%	4.5%	3.2%
	将来のためになる	24.0%	19.0%	18.6%
	生活の中で役立つ	4.1%	2.8%	3.2%
	人とかかわりの中で役立つ	9.1%	6.1%	5.9%
	考えるのが好き	1.4%	1.2%	1.0%
	得意	6.0%	5.4%	4.5%
嫌いな理由	楽しくない	3.3%	6.1%	5.9%
	分かりにくい	10.7%	15.6%	15.6%
	将来のためにならない	0.5%	1.7%	1.4%
	生活の中で役立たない	0.9%	1.7%	1.8%
	人とかかわりの中で役立たない	0.2%	0.5%	0.4%
	考えるのが面倒	1.2%	2.5%	2.9%
	不得意	9.1%	15.8%	19.0%
その他	3.6%	3.9%	3.8%	

<平成13年度 国の調査より：平成14年1・2月実施>

英語の勉強が好きだ



- ・ 学年進行に伴い、「大好き」「好き」の割合が減っている。
- ・ 好きな理由として、「将来のためになる」の割合が、他教科に比べて突出している。
- ・ 「大好き」「好き」と答える割合を、全国の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える割合と比較すると、中1から中2になると大きく減少しており、好きな理由の中の「楽しい」の割合も同様の傾向にある。
- ・ また、逆の傾向を示しているのが、嫌いな理由の中の「分かりにくい」の割合である。
- ・ 中1での「楽しい」英語の授業とはどのような中身なのか、また、中2になると英語の授業が急に「楽しくなく、分かりにくい」ものになるのはなぜか等を各学校において分析し、生徒の発達段階を考慮に入れながら授業改善に取り組む必要がある。

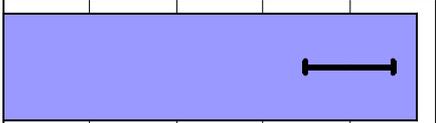
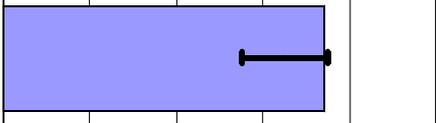
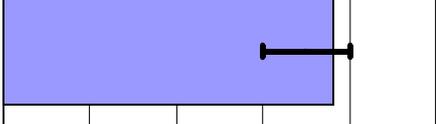
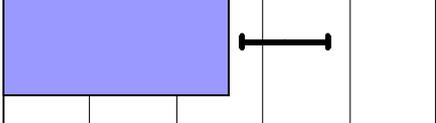
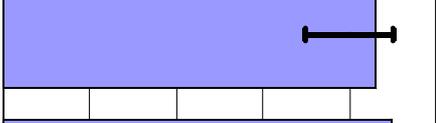
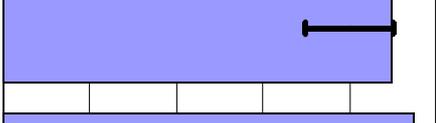
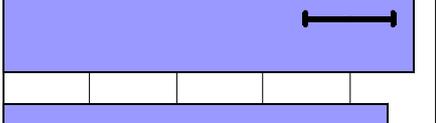
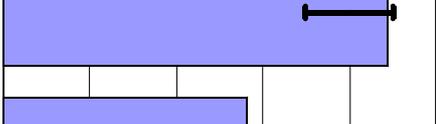
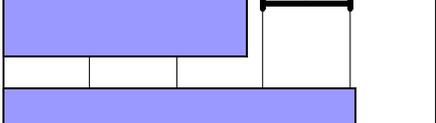
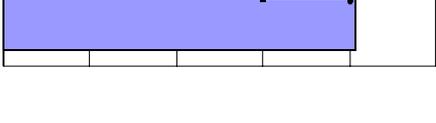
- 4 各教科の評価規準、小問別通過率、小問別反応率、通過率類型、通過率度数分布、調査結果及び考察

小学校 4 年

国 語

1 小学校4年国語 評価規準と評価の観点

領域	指導事項	評価規準	問題番号	観点別評価		
				書くこと	読むこと	言語事項
書くこと	ア	・伝えたい相手を明確にしている。	10)			
	エ	・書こうとすることの中心を明確にして分かりやすくまとめている。				
読むこと	ウ	・叙述に注意しながら文章を読み、想像豊かに内容をとらえている。	9)			
	オ	・細部に注意しながら文章を読み、一つ一つの言葉の関係を的確にとらえている。	6)			
		・細部に注意しながら文章を読み、中心となる大切な言葉をとらえている。	7)			
			8)			
言語事項	(1)イ(ア)	・第3学年までに配当されている漢字について、文脈に即して正しく読んでいる。	1)			
			2)			
		・第2学年までに配当されている漢字を書き、文の中で使うとともに、第3学年に配当されている漢字を漸次書いている。	3)			
			4)			
	(1)エ(ア)	・主語になる語句と述語となる語句の関係を正しく理解している。	5)			

通し番号	出題内容	平均通過率 (%)	設定通過率 (%)	
1)	読み(どうわ)	95.6	80.0	
2)	読み(ととのった)	74.2	65.0	
3)	書き(研究)	76.2	70.0	
4)	書き(着いた)	52.0	65.0	
5)	主語	86.3	80.0	
6)	内容の理解	89.6	80.0	
7)	内容の理解	94.8	80.0	
8)	内容の理解	89.0	80.0	
9)	内容の理解	56.3	70.0	
10)	好きな場所を教える文を書くこと	81.2	70.0	

 は設定通過率 ± 10% を示している。

3 小問別反応率

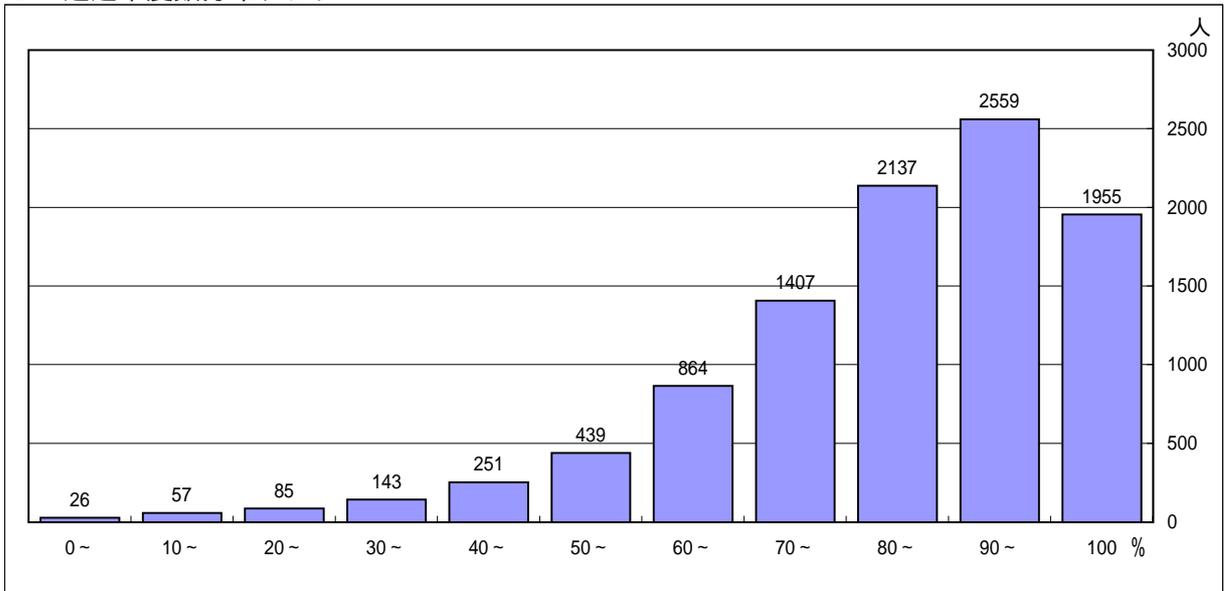
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)
一	1	(1) 95.6%	0.1%	3.0%	1.2%	0.0%
	2	(2) 74.2%	1.0%	20.3%	4.5%	0.0%
二	1	(3) 76.2%	1.3%	17.3%	5.2%	0.0%
	2	(4) 52.0%	3.2%	32.8%	12.0%	0.0%
三	(5)	86.3%	5.6%	7.4%	0.8%	0.0%
四	1	(6) 89.6%	0.8%	8.5%	1.1%	0.0%
	2	(1) (7) 94.8%	0.1%	3.3%	1.8%	0.0%
		(2) (8) 89.0%	0.6%	8.5%	2.0%	0.1%
	3	(9) 56.3%	27.0%	15.4%	1.3%	0.0%
五	(10)	81.2%	13.2%	3.3%	2.3%	0.0%

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	1	1	1955	1955
90 ~	36	37	2559	4514
80 ~	114	151	2137	6651
70 ~	132	283	1407	8058
60 ~	23	306	864	8922
50 ~	1	307	439	9361
40 ~	0	307	251	9612
30 ~	0	307	143	9755
20 ~	0	307	85	9840
10 ~	0	307	57	9897
0 ~	0	307	26	9923

5 (未履修)を除いた解答類型1~4の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 小学校4年国語 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全問題		10	3	5	2
観 点 別	書くこと	1	1	0	0
	読むこと	4	1	2	1
	言語事項	5	1	3	1

上回った：設定通過率10ポイント以上
 同程度：設定通過率±10ポイント
 下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回るものまたは同程度であるものの合計が、10問中8問である。
- ・昨年実施した本県学習状況調査の同一問題の通過率の比較では、2問中2問すべてが上回っている。
- ・観点別で通過率と設定通過率と比較した場合、「読むこと」では4問中3問が上回っているか同程度である。「言語事項」では5問中4問が上回っているか同程度である。「書くこと」は1問中1問が上回っている。
- ・無答率の大きかった問題は「言語事項」の4)であり、その割合は11.9%である。

小問別通過率度数分布

小学校4年生国語 小問別通過率度数分布表(校) 1学年20人以上データを提出した学校											
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	平均通過率
100%	41	3	4	1	14	12	26	13	0	7	0
95～100%	80	7	9	2	30	28	74	49	1	10	2
90～95%	36	11	13	4	29	51	52	40	6	34	8
85～90%	15	20	19	1	30	46	16	35	1	24	27
80～85%	3	20	27	4	19	20	6	22	4	23	40
75～80%	1	31	25	4	19	14	0	3	3	26	57
70～75%	0	26	25	7	25	3	1	4	6	14	30
65～70%	0	17	18	12	6	1	0	1	18	17	8
60～65%	0	11	18	16	0	0	0	3	14	8	3
55～60%	0	13	7	12	2	0	0	1	39	8	1
50～55%	0	9	4	20	2	0	1	1	23	2	0
45～50%	0	5	2	22	0	0	0	2	30	2	0
40～45%	0	0	2	16	0	0	0	1	16	0	0
35～40%	0	2	2	20	0	0	0	0	10	0	0
30～35%	0	0	0	21	0	0	0	1	2	1	0
25～30%	0	1	1	5	0	1	0	0	1	0	0
20～25%	0	0	0	4	0	0	0	0	1	0	0
15～20%	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0
10～15%	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	176	176	176	176	176	176	176	176	176	176	176

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、1)7)10)の3問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、4)9)の2問である。
- ・各校における通過率の差が50ポイント以上あった問題は、2)3)4)6)8)9)10)の7問である。

(2) 考察

調査結果から、小学校4年生の学習の実現状況はおおむね良好であるといえる。

設定通過率を10ポイント以上上回った問題は2問であった。1)の「童話」は読みの問題であったが、昨年と同一問題でもあり、各学校で基礎的な漢字の定着指導に力を入れていることが分かる。また、7)は文学的な文章の内容を読み取り、適切な言葉を文中から抜き出す問題であったが、直前の言葉に着目するという点で比較的容易に解答できたようである。

設定通過率と同程度となった10)は書くことの問題であったが、何のために書くのかや誰に読んでもらうのかなどを、児童に意識させた上で指導を行っていることが成果となって数値に現れてきている。

設定通過率を10ポイント以上下回った問題は2問であった。4)は漢字の訓を書く問題である。文脈の中で意味を考えながら書き取ることや同訓異字を辞書で探すような指導がなされていないことが原因であると考えられる。9)は読み取りの問題であったが、読むことが、自分の思いこみや恣意的なものの見方になっており、文中の言葉を手がかりに想像するという読みの基本が身に付いていない。

設定通過率±10%の範囲のあるものでも、度数分布表から通過率の差が50ポイント以上であった問題のうち、2)3)は漢字の読み書きの問題である。また、6)8)は読み取りの基礎的な問題である。これらの基礎的な内容は、2年間のまとまりの中で、繰り返し指導し確実に定着させることが必要であり、学校間の差があるということは、2年間を見通した意図的・計画的な指導の差と考える。

(3) 今後の指導

漢字や語句の指導については、単に、ドリル的な反復練習にとどまることなく、児童が言葉に興味をもち、日常生活の中で使おうとする意欲を喚起する指導の工夫が必要である。訓読みについては、同訓異字の語を関連して指導するなど、学習の広がり的大事にする。また、文章を読むことや書くことを通して、漢字の読み書きの大切さを実感できるように支援していく。特に、辞書を活用して、読んだり書いたりする場面をつくる必要がある。

文学的な文章を読むことについては、中学年では、場面の移り変わりや情景を基に想像しながら読む力を育て、一人一人の児童の感じ方や考え方に違いがあることに気付かせたい。そのためには、読書への興味・関心も深まるこの時期をとらえ、教科書教材に関連した図書の紹介や児童同士の図書紹介など、本と出会う場を工夫する。また、中学年の児童は、ともすれば、書かれていることと関係なく思いこんだり、勝手な想像を広げてしまったりすることがある。正しく読み取らせるためには、文脈に沿って、書かれている言葉を手がかりに、豊かに思い描くことや考える経験を積ませることが大事である。また、自分の読みと他の児童との読みを比べて、話し合いで自分の考えを変えたり、深めたりする交流の場も欠かせないことである。

書くことについては、単なる知識や技能としての書く力ではなく、相手意識や目的意識を明確にするとともに、児童の書きたいという思いを、引き出し、高めていく指導が望まれる。

小学校 5 年

国 語

1 小学校5年国語 評価規準と評価の観点

領域	指導事項	評価規準	問題番号	観点別評価		
				書くこと	読むこと	言語事項
書くこと	ア	・相手や目的を意識して書いている。	10)			
	エ	・書こうとするものの中心を明確にして、分かりやすく書いている。				
読むこと	イ	・中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係も押さえて、文章を正しく読んでいる。	6)			
	オ	・細部に注意しながら読み、一つ一つの言葉の関係を的確にとらえている。	7) 8)			
	オ	・細部に注意しながら読み、中心となる言葉や文をとらえている。	9)			
言語事項	(1) エ(イ)	・国語辞典の語句の配列順序を知り、使い方を理解している。	5)			
	(1) イ(ア)	・第4学年までに配当されている漢字について、文脈に即して正しく、読んでいる。	1) 2)			
	(1) イ(ア)	・第3学年までに配当されてる漢字を書き、文の中で使うとともに、第4学年に配当されている漢字を漸次書いている。	3) 4)			

通し番号	出題内容	平均通過率 (%)	設定通過率 (%)	0	100
1)	読み(いちがん)	50.9	70.0		
2)	読み(かならず)	98.1	85.0		
3)	書き(待つ)	73.9	65.0		
4)	書き(相談)	58.4	55.0		
5)	国語辞典の活用	86.8	80.0		
6)	段落構成の理解	43.8	55.0		
7)	内容の理解	72.0	65.0		
8)	内容の理解	64.0	65.0		
9)	内容の理解	69.7	65.0		
10)	学校の紹介文を書くこと	71.0	65.0		

は設定通過率 ± 10% を示している。

3 小問別反応率

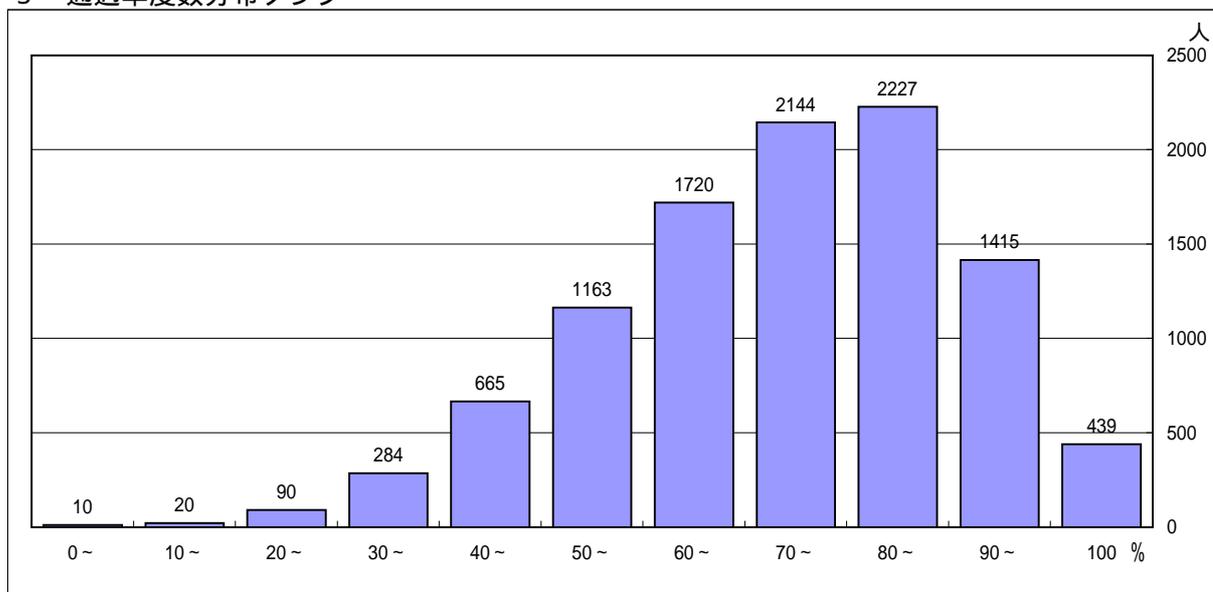
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)
一	1	(1) 50.9%	3.7%	38.4%	7.0%	0.7%
	2	(2) 98.1%	0.2%	1.3%	0.3%	0.0%
二	1	(3) 73.9%	2.7%	18.5%	4.9%	0.0%
	2	(4) 58.4%	23.7%	11.4%	6.4%	0.0%
三	(5)	86.8%	2.2%	10.1%	0.8%	0.0%
四	1	(6) 43.8%	23.2%	30.7%	2.3%	0.0%
	2	(1) (7) 72.0%	2.8%	24.6%	0.6%	0.0%
		(2) (8) 64.0%	3.0%	31.2%	1.8%	0.0%
	3	(9) 69.7%	3.3%	25.1%	1.9%	0.0%
五	(10)	71.0%	15.2%	10.4%	3.4%	0.0%

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	439	439
90 ~	2	2	1415	1854
80 ~	33	35	2227	4081
70 ~	108	143	2144	6225
60 ~	127	270	1720	7945
50 ~	35	305	1163	9108
40 ~	1	306	665	9773
30 ~	0	306	284	10057
20 ~	0	306	90	10147
10 ~	0	306	20	10167
0 ~	0	306	10	10177

5 (未履修)を除いた解答類型1~4の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 小学校5年国語 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全問題		10	1	7	2
観 点 別	書くこと	1	0	1	0
	読むこと	4	0	3	1
	言語事項	5	1	3	1

上回った：設定通過率10ポイント以上

同程度：設定通過率±10ポイント

下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回るものまたは同程度であるものの合計が、10問中8問である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査の同一問題またはそれに類似する問題の通過率の比較では、3問中2問が上回っている。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「言語事項」では5問中4問が上回っているか同程度である。「読むこと」では、4問中3問が同程度、「書くこと」では1問中1問が同程度である。
- ・無答率が高かったのは、言語事項1)4)である。

小問別通過率度数分布

小学校5年生国語 小問別通過率度数分布表(校)											1学年20人以上データを提出した学校	
以上 未滿	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	平均通過率	
100%	4	96	3	2	14	0	4	3	3	6	0	
95~100%	10	71	8	1	27	0	4	4	5	4	0	
90~95%	10	12	19	3	28	1	9	2	6	15	0	
85~90%	6	2	19	5	42	0	10	5	8	15	5	
80~85%	19	0	20	8	26	1	21	10	17	33	8	
75~80%	11	0	21	8	24	1	27	10	22	18	28	
70~75%	4	0	20	16	12	1	36	21	30	22	34	
65~70%	7	0	22	15	8	2	33	26	32	11	48	
60~65%	3	0	18	20	0	5	18	22	15	11	36	
55~60%	5	1	9	22	1	11	6	32	18	14	16	
50~55%	7	0	14	24	0	24	5	19	20	8	7	
45~50%	7	0	1	21	0	26	3	15	2	7	0	
40~45%	10	0	5	23	0	38	5	3	2	8	0	
35~40%	5	0	2	5	0	37	0	3	2	4	0	
30~35%	8	0	1	5	0	21	0	5	0	2	0	
25~30%	25	0	0	1	0	7	1	1	0	3	0	
20~25%	10	0	0	1	0	5	0	1	0	0	0	
15~20%	13	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	
10~15%	11	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	
5~10%	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0~5%	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	182	182	182	182	182	182	182	182	182	182	182	

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、2)の1問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、1)6)の2問である。
- ・各校における通過率の差が50ポイント以上あった問題は、1)3)4)6)7)8)9)10)の8問である。

(2) 考察

調査結果から、小学校5年生の学習の実現状況は、おおむね良好といえる。

設定通過率を10ポイント以上上回った問題は1問ある。この問題の通過率が90%以上の学校は、98%にも及ぶ。これは文脈の中で「必ず」の読みを問う問題であったが、子どもの生活の中で使われる頻度が高い文脈の中で出題したことにより、通過率が高くなったものと思われる。

また、設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、1)6)である。1)については、平成14年度に実施した学習状況調査と同一問題の「一丸」の読みを問う問題であった。この問題の通過率が下がった原因は、本県のほとんどの小学校で使用している教科書の「一丸」の読みの扱いが変わり、現在の5年生にとっては、教科書で「一丸」の読みを学習した経験がないということになる。しかし、漢字の読み・書きは、学年別漢字配当表によって指導すべきものであり、「一」は1年生、「丸」は2年生の配当漢字である。したがって当然指導されていなければならないのだが、実際には、教科書に扱われているかいないかによって、指導の重み付けが違っていると考えられる。また、熟語としての読みの指導も不十分と思われる。6)については、段落の入る位置を問う出題の仕方にとまどったことが考えられる。また、段落の中心となる語をとらえ段落相互の関係を考える指導が不十分だったと思われる。

5)の国語辞典の使い方については、学校間の通過率の差が小さく、通過率も設定通過率を上回っており、指導の成果が現れている。

10)は、通過率は設定通過率を上回ったが、学校間の通過率の差は大きく、「読み手を意識して書く」という条件のある文章を書く指導に格差がある。

(3) 今後の指導

漢字の読み書きにおいて、学校間の通過率の差が大きい。教科書の教材文に出現する漢字を中心とした指導から、子どもの日常生活の中で漢字を活用させ、繰り返し学習させる指導により定着を図る必要がある。

また、説明文を叙述に即して読む指導の充実が求められる。その際、読みの目的を意識させることにより、必要感をもたせて読むようにさせたい。その上で、接続語、文末、繰り返し語句を押さえ、子どもが主体的に文章の「中心」をとらえ、段落の内容を整理できるように指導しなければならない。さらに、読みのめあてをもたせることにより読み落としてはならない細部はどこかを考えられるようにする指導が大切である。説明的な文章や文学的文章などをバランスよく取り扱いながら、論理的な見方や考え方を育てることに配慮する必要がある。

書くことの指導では、記述するときだけでなく、書く材料の選択や構成を考える際にも、常に相手や目的に応じて工夫させることが大切である。また、書く相手を十分意識した上で、文字言語による伝え合うことよさを味わうことができるよう、交流する場面を設定する工夫も求められる。このような工夫により、相手や目的に応じた書き方ができるように指導していく必要がある。

小学校 6 年

国 語

1 小学校 6 年国語 評価規準と評価の観点

領域	指導事項	評価規準	問題番号	観点別評価		
				書くこと	読むこと	言語事項
書くこと	ア	・ 依頼状を書く目的や意図に応じて、依頼の気持ちが伝わるように効果的に書いている。	20)			
	イ	・ 依頼する内容や目的、見学したい日時が明確に分かりやすく書かれている。				
読むこと	ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 叙述に基づいて、登場人物の心情などを多面的にとらえ、情景などの表現描写を味わって読んでいる。 ・ 一つ一つの言葉を文脈の中での的確にとらえ、叙述に即して想像をふくらませながら、豊かに読み取っている。 	14) 15) 16) 17) 18) 19)			
言語事項	(1) ア(ア)	・ 第 5 学年までに配当されている漢字について、文脈に即して正しく読んでいる。	1) 2) 3)			
		・ 第 4 学年までに配当されている漢字を書き、文の中で使うとともに、第 5 学年に配当されている漢字を漸次書いている。	4) 5)			
	(1) ウ(ア)	・ 熟語の意味を正しく理解し、反対の意味をもつ熟語を照応させることができる。	6) 7) 8)			
	(1) ウ(ア)	・ 語句の使い方について正しく理解し、文中での的確に使い分けすることができる。	9) 10) 11)			
	(1) イ(ア)	・ 送りがなについて正しく理解している。	12) 13)			

通し番号	出題内容	平均通過率 (%)	設定通過率 (%)	0	100
1)	読み(けん)	96.8	90.0		
2)	読み(かさねる)	97.2	90.0		
3)	書き(季節)	68.6	80.0		
4)	書き(住所)	78.6	75.0		
5)	書き(借りる)	78.6	85.0		
6)	対義語	93.6	85.0		
7)	対義語	98.5	85.0		
8)	対義語	93.3	85.0		
9)	語句の使い方	97.7	90.0		
10)	語句の使い方	98.4	90.0		
11)	語句の使い方	97.6	90.0		
12)	送りがな	61.3	60.0		
13)	送りがな	77.1	60.0		
14)	内容の理解	63.9	60.0		
15)	内容の理解	83.1	75.0		
16)	内容の理解	94.4	85.0		
17)	語句の意味	50.1	55.0		
18)	心情の理解	77.2	60.0		
19)	心情の理解	53.5	55.0		
20)	工場見学の依頼の文を書くこと	67.0	60.0		

は設定通過率 ± 10% を示している。

3 小問別反応率

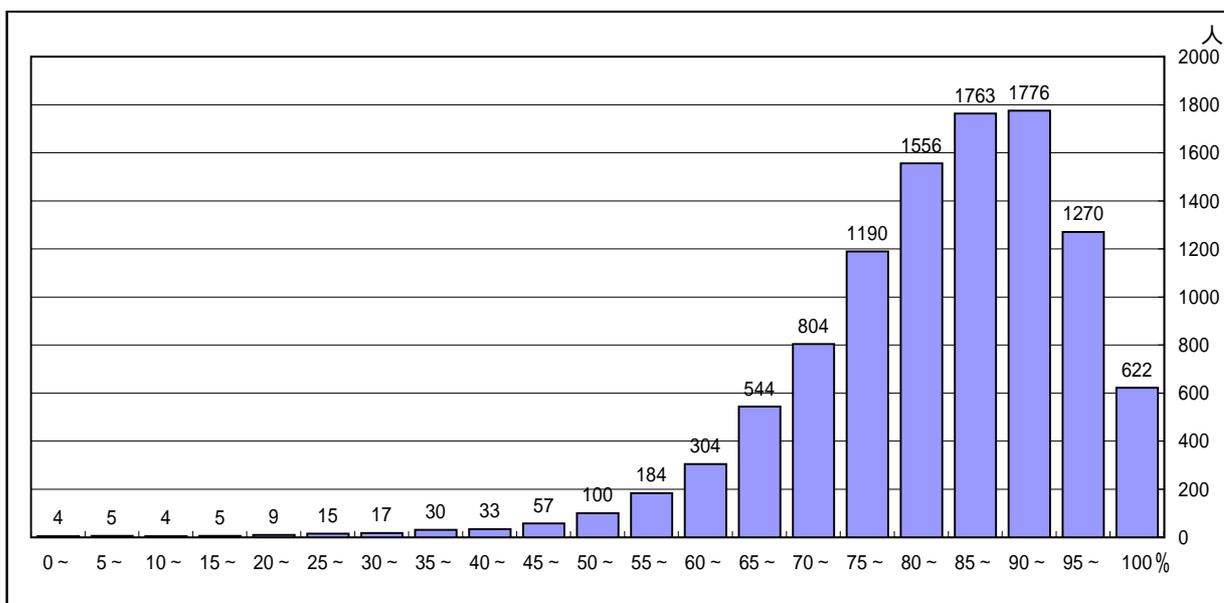
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)
一	1	(1) 98.8%	0.1%	0.7%	0.5%	0.0%
	2	(2) 97.2%	0.2%	1.8%	0.9%	0.0%
	3	(3) 68.6%	17.2%	6.9%	7.3%	0.0%
	4	(4) 78.6%	11.8%	3.8%	5.9%	0.0%
	5	(5) 78.6%	2.5%	16.4%	2.5%	0.0%
二	1	(6) 93.6%	0.7%	5.5%	0.2%	0.0%
	2	(7) 98.5%	0.2%	1.1%	0.2%	0.0%
	3	(8) 93.3%	0.6%	5.9%	0.2%	0.0%
三	1	(9) 97.7%	0.1%	2.1%	0.1%	0.0%
	2	(10) 98.4%	0.0%	1.5%	0.1%	0.0%
	3	(11) 97.6%	0.2%	2.1%	0.1%	0.0%
四	1	(12) 61.3%	7.0%	31.6%	0.1%	0.0%
	2	(13) 77.1%	4.7%	18.1%	0.1%	0.0%
五	1	(14) 63.9%	21.9%	13.0%	1.2%	0.0%
		(15) 83.1%	3.4%	11.8%	1.6%	0.0%
	2	(16) 94.4%	2.6%	2.7%	0.3%	0.0%
	3	(17) 50.1%	25.3%	24.2%	0.5%	0.0%
	4	(18) 77.2%	10.4%	11.9%	0.5%	0.0%
5	(19) 53.5%	6.5%	39.7%	0.3%	0.0%	
六	(20)	67.0%	28.8%	3.0%	1.2%	0.0%

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	1	1	622	622
95~	2	3	1270	1892
90~	16	19	1776	3668
85~	53	72	1763	5431
80~	140	212	1556	6987
75~	64	276	1190	8177
70~	23	299	804	8981
65~	5	304	544	9525
60~	2	306	304	9829
55~	0	306	184	10013
50~	0	306	100	10113
45~	0	306	57	10170
40~	0	306	33	10203
35~	0	306	30	10233
30~	0	306	17	10250
25~	0	306	15	10265
20~	0	306	9	10274
15~	0	306	5	10279
10~	0	306	4	10283
5~	0	306	5	10288
0~	0	306	4	10292

5 (未履修)を除いた解答類型1~4の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 小学校6年国語 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全問題		20	3	16	1
観 点 別	書くこと	1	0	1	0
	読むこと	6	1	5	0
	言語事項	13	2	10	1

上回った：設定通過率10ポイント以上
 同程度：設定通過率±10ポイント
 下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度のものの合計は、20問中19問である。
- ・過去に実施した本県の学習状況調査と同一問題または、それに類似する問題の通過率との比較では、7問中4問は上回っている。
- ・観点別に通過率と設定通過率を比較してみると、「書くこと」では同程度であり、「読むこと」については6問中すべてが上回っているか、同程度である。「言語事項」に関する問題では13問中12問は、上回っているか同程度である。
- ・無答率が高かった問題は、言語事項の3)4)である。

小問別通過率度数分布

小学校6年生国語 小問別通過率度数分布表(校)	1学年20人以上データを提出した学校																				平均通過率
以上 未滿	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	
100%	123	62	1	4	8	26	100	27	105	139	101	2	2	1	3	29	0	1	0	1	0
95~100%	54	82	4	9	16	59	74	57	57	32	60	3	2	3	12	65	1	1	0	2	1
90~95%	5	34	9	26	25	69	9	58	16	8	17	3	15	4	54	66	0	7	1	7	3
85~90%	1	5	4	27	23	16	1	21	5	3	4	10	28	11	42	20	3	22	0	5	26
80~85%	1	1	20	25	29	13	0	14	0	1	1	8	35	19	31	3	2	32	2	15	94
75~80%	0	0	20	19	16	0	0	7	0	0	0	9	29	27	21	1	1	54	3	27	44
70~75%	0	0	32	26	12	0	0	0	1	1	0	13	34	27	5	0	3	25	5	20	14
65~70%	0	0	24	19	14	0	0	0	0	0	1	20	20	11	5	0	5	30	12	26	2
60~65%	0	0	22	11	16	0	0	0	0	0	0	25	12	11	3	0	16	7	22	30	0
55~60%	0	0	17	11	12	0	0	0	0	0	0	24	2	14	2	0	21	2	35	18	0
50~55%	0	0	13	5	2	1	0	0	0	0	0	22	3	11	1	0	41	1	37	18	0
45~50%	0	0	6	1	4	0	0	0	0	0	0	15	2	2	0	0	31	2	27	3	0
40~45%	0	0	6	1	2	0	0	0	0	0	0	15	0	16	0	0	30	0	23	3	0
35~40%	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	6	0	5	0	0	12	0	12	3	0
30~35%	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	7	1	0	14	0	4	3	0
25~30%	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4	0	6	1	0	2	0	1	1	0
20~25%	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	5	2	0	2	0	0	1	0
15~20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	184	184	184	184	184	184	184	184	184	184	184	184	184	184	184	184	184	184	184	184	184

- ・設定通過率を10ポイント以上、上回った問題は、7) 13) 18) の3問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上、下回った問題は、3) の1問である。
- ・各校における通過率の差が50ポイント以上あった問題が、3) 4) 5) 12) 13) 14) 15) 17) 18) 19) 20) の11問である。

(2) 考察

調査結果から、小学校6年生の学習の実現状況はおおむね良好といえる。

設定通過率を10ポイント以上上回った問題は3問であるが、そのうち1問は過去に出題されたものと同じの問題であり、各校とも言語事項の定着のための指導に力を入れていることがうかがえる。また、文学的な文章を読む力については、選択肢であったために通過率が高かったと思われる。新しく送りがなについての問題を2問出題したが、難しいと思われた「快い」が児童の中に定着していた。

設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、3)の1問だけであったが、「季節」という日常よく使われる語句であることを考えると、どの子にも身に付けさせたい語句の一つである。漢字力の低下が、国語力の低下につながることはないように、削減された時数の中で、いかに効率よく漢字指導を積み重ねていくかが課題と思われる。特に、3・4年生段階での漢字の読み書き指導の在り方が問われている。

設定通過率の±10%の範囲にはあるが、度数分布表から各校の通過率の差が最も大きかったのは、15)の叙述に即して情景を読み取る問題であった。様子は読み取っていても適切な答え方ができるかどうかという点で差がついたのではないと思われる。

書くことの問題では、今回は「依頼状を書く」という問題で構成等も示されたこともあって比較的書きやすい出題であったように思われるが、各校の通過率にかなりの差がある。

(3) 今後の指導

漢字の読み書きや語句の意味や使い方など、小学校での基礎的・基本的な事項については、この学年で確実に身に付けることが求められている。そのためには、既習事項を繰り返し学ぶことも大事にしながら、さらに、日常生活で既習漢字を活用することや辞書を引いて調べて覚えることも身に付けさせたい。これからの授業では、提示される資料や話題、事例を児童の身近なものにすることや、言葉を学ぶ必要性に気付かせること、継続的・系統的に学習を進めることなどより多くの工夫が必要である。

一番の課題は日常の授業の中で読むことの指導がどのように行われているか、つまり文学的な文章の読み取りの過程での指導の在り方が問われている。本調査の性質上、選択肢が多くなってしまいう傾向があるが、叙述に即して読み取っていく学習を系統的に行うことが必要である。特に、高学年段階で重点的に扱うこととなっている登場人物の心情の読み取りについては、表現や叙述と関連付けて、自分の読みを確かなものにしていくとともに、読書活動の充実につながるようにすることが大事である。読むことの学習では、他の領域以上に、1時間1時間のねらいをはっきりとさせて、付けたい力を明確にした具体的な授業実践を積み重ねていくことが強く望まれる。特に未知の文章に出会ったときに発揮されてこそ、真に読みの力が付いたといえる。

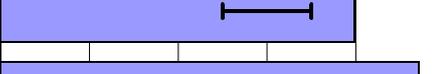
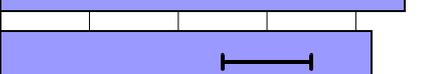
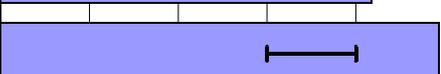
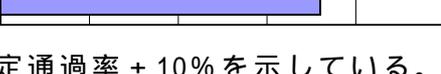
書く力の向上のためには、やはり書くことを地道に続けるしかないだろう。ただ、どう書かせるか、相手意識や目的意識、場面意識等のもたせ方に課題が多い。普段の授業の中で文章を書く過程を段階的に、系統立てて指導していかないと、相手意識をしっかりと、目的を明確にして書く力は育たない。そういう意味で現行の学習指導要領に示されている「言語活動例」を参考に、実際に書く場面を多く設定することが重要である。

中学校 1 年

国 語

1 中学校1年国語 評価規準と評価の観点

領域	指導事項	評価規準	問題番号	観点別評価		
				書くこと	読むこと	言語事項
書くこと	ア	・目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書いている。	20)			
	イ	・全体を見通して、書く必要のある事柄を整理して書いている。				
読むこと	イ	・目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえている。	15)			
		・指示語を手がかりに内容をとらえている。	19)			
	エ	・書かれている内容について、事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んでいる。	16)			
		・中心語句に着目して、文章構成を押さえ、内容をとらえている。	18)			
オ		17)				
言語事項	(1) ア(ア)	・第6学年までに配当されている漢字を、文脈に即して正しく読んでいる。	1)			
	(1) ア(ア)	・第5学年までに配当されている漢字書き、文の中で使うとともに、第6学年に配当されている漢字を漸次書いている。	2)			
			3)			
			4)			
			5)			
			6)			
	(1) ア(ア)	・文脈に沿って表意文字としての漢字を適切に使っている。	7)			
			8)			
(1) ウ(ウ)	・表現したり理解したりするために必要な語句について適切な辞書の引き方を理解している。	9)				
		10)				
(1) ウ(ア)	・語句に関する類別(副詞を使った表現)を理解している。	11)				
		12)				
(1) カ(ア)	・日常よく使われる敬語を、尊敬語・謙譲語・丁寧語に類別し、正しく使用している。	13)				
(1) ウ(ア)	・文中での語句の使い方について正しくとらえている。	14)				

通し番号	出題内容	平均通過率 (%)	設定通過率 (%)	0	100
1)	読み(えいが)	99.6	80.0		
2)	読み(みとめられる)	97.8	75.0		
3)	書き(飼育)	76.2	65.0		
4)	書き(桜)	92.2	85.0		
5)	書き(肥料)	79.7	60.0		
6)	書き(夢)	94.0	90.0		
7)	同訓異字	97.9	75.0		
8)	同訓異字	37.7	50.0		
9)	国語辞典の活用	91.1	70.0		
10)	国語辞典の活用	83.6	60.0		
11)	副詞の照応	98.7	70.0		
12)	副詞の照応	97.7	75.0		
13)	敬語	91.1	70.0		
14)	助詞の使い分け	84.9	80.0		
15)	内容の理解	70.3	75.0		
16)	内容の理解	94.9	75.0		
17)	内容の理解	59.4	70.0		
18)	段落構成の理解	71.1	75.0		
19)	内容の合致	40.6	60.0		
20)	短歌の鑑賞文を書くこと	72.0	70.0		

 は設定通過率 ± 10% を示している。

3 小問別反応率

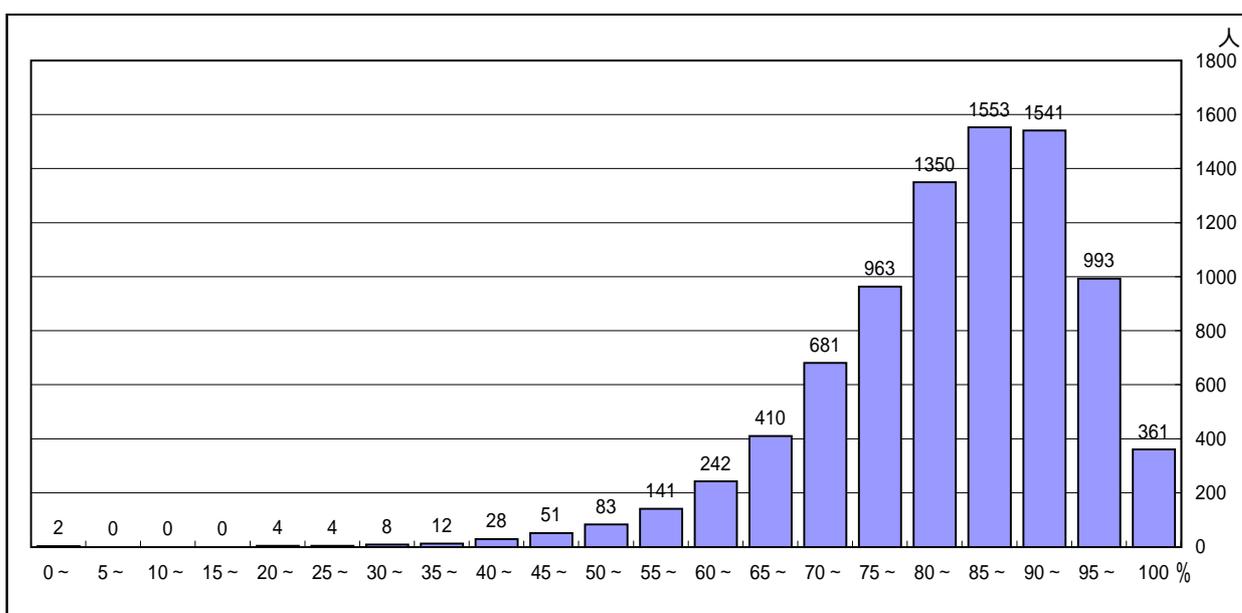
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)	
一	1	(1)	99.6%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%
	2	(2)	97.8%	0.4%	1.7%	0.2%	0.0%
	3	(3)	76.2%	14.1%	1.9%	7.8%	0.0%
	4	(4)	92.2%	0.5%	5.6%	1.7%	0.1%
	5	(5)	79.7%	11.0%	2.8%	6.5%	0.0%
	6	(6)	94.0%	0.4%	3.7%	1.9%	0.0%
二	1	(7)	97.9%	0.5%	1.5%	0.0%	0.0%
	2	(8)	37.7%	34.2%	27.9%	0.2%	0.0%
三	1	(9)	91.1%	0.5%	8.3%	0.1%	0.0%
		(10)	83.6%	3.1%	13.1%	0.2%	0.0%
	2	(11)	98.7%	0.3%	0.9%	0.1%	0.0%
		(12)	97.7%	1.5%	0.6%	0.1%	0.0%
	3	(13)	91.1%	4.8%	4.0%	0.1%	0.1%
	4	(14)	84.9%	7.1%	7.9%	0.1%	0.0%
四	1	(15)	70.3%	14.3%	15.1%	0.3%	0.0%
	2	(16)	94.9%	1.5%	3.3%	0.3%	0.0%
	3	(17)	59.4%	1.9%	30.3%	8.4%	0.0%
	4	(18)	71.1%	13.6%	14.8%	0.5%	0.0%
	5	(19)	40.6%	8.2%	50.8%	0.5%	0.0%
五	(20)	72.0%	16.0%	8.2%	3.8%	0.0%	

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	361	361
95～	0	0	993	1354
90～	0	0	1541	2895
85～	12	12	1553	4448
80～	89	101	1350	5798
75～	29	130	963	6761
70～	3	133	681	7442
65～	1	134	410	7852
60～	0	134	242	8094
55～	0	134	141	8235
50～	0	134	83	8318
45～	0	134	51	8369
40～	0	134	28	8397
35～	0	134	12	8409
30～	0	134	8	8417
25～	0	134	4	8421
20～	0	134	4	8425
15～	0	134	0	8425
10～	0	134	0	8425
5～	0	134	0	8425
0～	0	134	2	8427

5 (未履修) を除いた解答類型 1～4 の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 中学校1年国語 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全問題		20	11	6	3
観 点 別	書くこと	1	0	1	0
	読むこと	5	1	1	3
	言語事項	14	10	3	1

上回った：設定通過率10ポイント以上

同程度：設定通過率±10ポイント

下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度であるものの合計が20問中17問である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査の同一問題またはそれに類似する問題の通過率の比較では、4問中4問すべてが上回っている。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「書くこと」では同程度、「読むこと」においては、5問中3問が上回っているか同程度、「言語事項」では14問中13問が上回っているか同程度という結果である。
- ・無答率が高かった問題は、「言語事項」の3)5)と「読むこと」の17)である。

小問別通過率度数分布

中学校1年国語 小問別通過率度数分布表(校) 1学年20人以上データを提出した学校																					
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率
100%	97	39	1	8	1	16	44	0	8	1	63	35	3	2	0	11	0	0	0	1	0
95~100%	27	71	8	38	2	46	67	0	22	6	58	74	18	1	0	52	0	0	0	2	0
90~95%	0	12	6	41	12	35	12	0	48	17	3	15	56	25	0	52	0	1	0	9	0
85~90%	0	1	17	23	20	19	1	0	34	30	0	0	36	40	1	9	3	7	0	16	10
80~85%	0	1	14	11	30	4	0	0	12	36	0	0	10	31	7	0	0	9	0	20	80
75~80%	0	0	19	1	24	4	0	0	0	22	0	0	1	15	17	0	1	20	0	17	31
70~75%	0	0	26	1	12	0	0	1	0	10	0	0	0	7	42	0	8	33	0	14	3
65~70%	0	0	13	0	10	0	0	1	0	2	0	0	0	3	33	0	16	24	0	12	0
60~65%	0	0	10	1	12	0	0	3	0	0	0	0	0	0	16	0	25	16	1	9	0
55~60%	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5	0	26	9	1	4	0
50~55%	0	0	8	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	1	0	24	5	9	6	0
45~50%	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	1	0	14	0	20	2	0
40~45%	0	0	0	0	0	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	35	4	0
35~40%	0	0	0	0	0	0	0	21	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	29	2	0
30~35%	0	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	2	0
25~30%	0	0	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	2	0
20~25%	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
15~20%	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、1)2)3)5)7)9)10)11)12)13)16)の11問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、8)17)19)の3問である。
- ・各校における通過率の差が50ポイント以上あった問題は、8)15)17)20)の4問である。

(2) 考察

調査結果から、中学校1年生の学習の実現状況はおおむね良好といえる。

設定通過率を10ポイント以上上回った問題は11問であるが、そのほとんどが言語事項である。語句に関する類別の理解や、正しい敬語の類別、適切な辞書の引き方等は、通過率が高く、特に副詞を使った表現に関しては、ほとんどの学校が適切な指導をしていると考えられる。漢字の読みに関しても、「映画(えいが)」や「認(みと)める」など、ほとんどの生徒が第6学年まで配当されている日常的に使う漢字を正しく読んでいる状況にある。

また、設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、8)17)19)の3問である。8)の「収める」は、文脈に沿って表意文字としての漢字を適切に使っているかどうかを問う問題であるが、日常の中で、「収集」「収納」などの熟語としては使われていても、「収(おさ)める」という訓読みではあまり使われないから生徒には難しかったのであろう。

17)~19)は『人類よ、宇宙人になれ』という説明的文章を提示しての問題であったが、17)の文中の言葉を言い換えている部分を抜き出す問題については、無答率が8.4%と一番高かった。その理由としては、提示した文の文末が動詞であるのに対して、解答は名詞になっていることにより、混乱が生じたのではないかとということが考えられる。今後、類似問題を出題する際は、より適切な解答が得られる問題であったかどうかを吟味する必要がある。19)の文章の要旨をとらえ、四つの選択肢の中から適切なものを選ぶ問題は、説明的文章そのものの内容をとらえることはもちろん、各選択肢の文の内容もしっかり読みとらえないと、答えられない問題であった。正答率40.6%、その他の誤答50.8%となっていることから、事象と感想、意見などを読み分けながら、情報を正しくとらえることができていると考えられる。

書くことについては、各校の通過率の差が大きく、20問中で、最もばらつきが多い結果となった。クラスで歌会を行う設定で、誰の短歌がなぜ好きなのかということ、理由を添えて100字から120字くらいで書くという問題であったが、書く力は個人差が大きいことと各学校での指導の差がこの結果に表れている。

(3) 今後の指導

漢字の指導をする際には、語彙として理解させるような工夫をするとともに、漢字の成り立ちや意味を学習させることも大事である。また、同音異義語や同訓異字にも興味・関心を喚起するような指導が必要である。文法に関しても、教え込むことやドリルでの定着を図るだけでなく、生徒の身近な事例などを通して、興味をもって理解を深め、自分の生活に生かしていこうとするような意識付けが重要である。

説明的な文章を読むことを通して、小学校高学年では、目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読む能力の育成、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度の育成が求められる。そのためには、従来の「通読」「段落分け」「要点や要旨の把握」に固定された学習活動を見直すことが必要である。多様な文種、テーマと出会わせることをはじめとして、表現に即して目的や必要に応じて内容を短く要約することや論理の展開の仕方をとらえ表現に役立てること、さらに、要旨をとらえ、それに対する自分の考えをもつことなどの学習を幅広く行うことも大切である。

書くことでは、目的や意図を明確にもって書く場面を様々に設定し、積極的に評価し、個に応じた支援を続けていくことが必要である。

中学校 2 年

国 語

1 中学2年国語 評価規準と評価の観点

領域	指導事項	評価規準	問題番号	観点別評価		
				書くこと	読むこと	言語事項
書くこと	ア	・自分なりの視点をもってグラフを読み取り、自分の考えをまとめている。	20)			
	ウ	・相手意識、目的意識を明確にして、適切な構成で書いている。				
読むこと	ア	・当該語句の一般的な意味を踏まえて、文脈の中で具体的、個別的な意味をとらえ、心情の理解に生かしている。	16)			
	ウ	・時間の推移や心情の変化を基に、段落ごとの内容や段落相互の関係を正確にとらえて、構成や展開をとらえている。	17)			
	エ	・叙述に即して描写の対象や展開をとらえている。	15)			
		・叙述に即して心情の変化や展開をとらえている。	18)			
	・読み取ったことを根拠にして自分の考えをまとめている。	19)				
言語事項	(1)イ	・語句の辞書的な意味を理解し、文脈に応じて適切に用いている。	12)			
	(1)ウ	・日常生活で用いられる慣用的表現の平易な語彙を理解している。	13)			
	(1)エ、オ	・文の構造に関心をもち、修飾と被修飾の関係や文節について理解している。	10)			
		・文と文の接続の関係や接続詞の働きを理解している。	14)			
	(1)オ	・文の成分における主語と述語の関係を理解している。	9)			
		・代名詞、連体詞、副詞、形容動詞などの指示語の類別について理解している。	11)			
	(2)ア	・学年別配当表に示されている漢字について、文脈に即して正しく読んでいる。	1)			
			2)			
			3)			
			4)			
12)						
(2)イ	・学年別配当表に示されている漢字のうち900字程度について書き、文の中で使っている。	5)				
		6)				
		7)				
		8)				

通し番号	出題内容	平均通過率 (%)	設定通過率 (%)	0	100
1)	読み(けんぶん)	66.3	60.0		
2)	読み(たずねる)	98.8	85.0		
3)	読み(ついやす)	80.1	60.0		
4)	読み(かくちょう)	84.0	85.0		
5)	書き(率いる)	68.8	60.0		
6)	書き(往復)	71.3	60.0		
7)	書き(補う)	68.9	60.0		
8)	書き(危険)	64.0	60.0		
9)	主語	87.3	75.0		
10)	文の意味	49.3	50.0		
11)	品詞の識別	33.1	50.0		
12)	同音異義語	91.9	75.0		
13)	慣用句	66.4	60.0		
14)	接続詞	96.0	80.0		
15)	描写の理解	64.4	70.0		
16)	心情の理解	69.7	75.0		
17)	文章構成の理解	66.9	75.0		
18)	心情の理解	51.7	55.0		
19)	心情の読み取り	52.3	55.0		
20)	グラフに基づいて意見を書くこと	57.7	60.0		

は設定通過率 ± 10% を示している。

3 小問別反応率

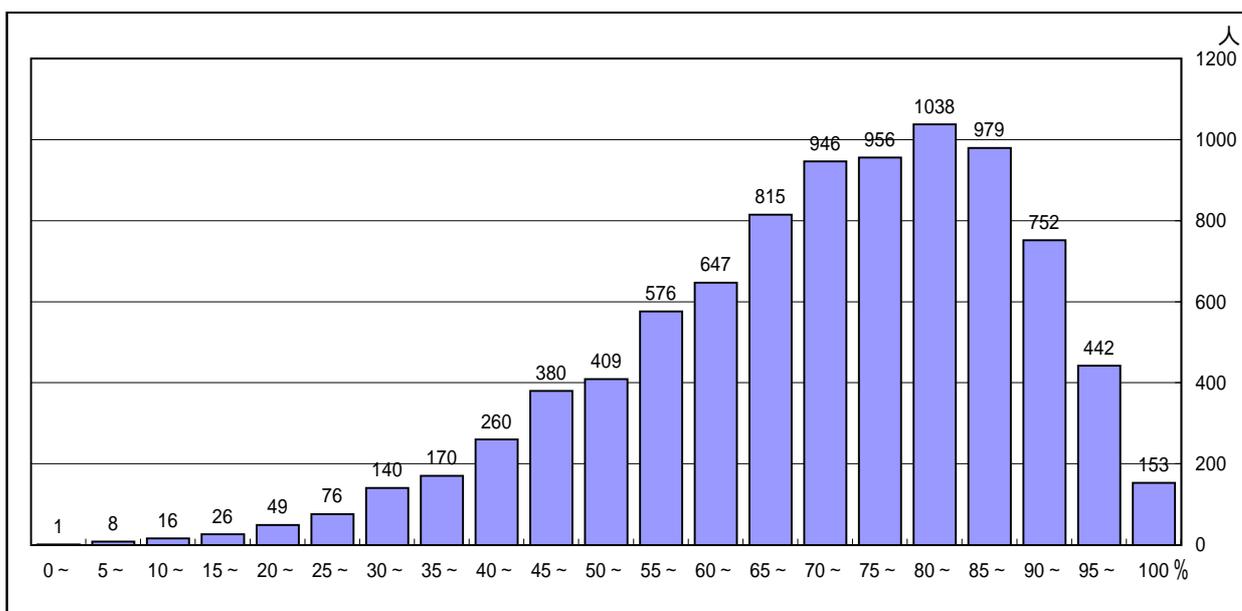
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)
一	1	(1) 66.3%	1.4%	21.4%	10.9%	0.0%
	2	(2) 98.8%	0.1%	1.0%	0.1%	0.0%
	3	(3) 80.1%	1.3%	16.0%	2.5%	0.0%
	4	(4) 84.0%	1.2%	11.2%	3.7%	0.0%
二	1	(5) 68.8%	0.8%	13.1%	17.4%	0.0%
	2	(6) 71.3%	13.5%	5.6%	9.5%	0.0%
	3	(7) 68.9%	1.2%	14.9%	15.1%	0.0%
	4	(8) 64.0%	22.0%	7.2%	6.8%	0.0%
三	1	(9) 87.3%	3.7%	8.6%	0.4%	0.0%
	2	(10) 49.3%	3.7%	45.1%	1.8%	0.0%
	3	(11) 33.1%	37.4%	28.3%	1.1%	19.1%
	4	(12) 91.9%	4.9%	2.9%	0.4%	0.0%
	5	(13) 66.4%	16.0%	16.7%	0.9%	0.0%
	6	(14) 96.0%	1.1%	2.3%	0.5%	0.0%
四	1	(15) 64.4%	4.0%	23.5%	8.1%	0.0%
	2	(16) 69.7%	3.6%	26.2%	0.5%	0.0%
	3	(17) 66.9%	19.9%	12.5%	0.7%	0.0%
	4	(1) (18) 51.7%	4.7%	25.9%	17.8%	0.0%
		(2) (19) 52.3%	2.7%	21.4%	23.5%	0.0%
五	(20) 57.7%	27.8%	6.9%	7.7%	0.0%	

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	153	153
95 ~	0	0	442	595
90 ~	0	0	752	1347
85 ~	1	1	979	2326
80 ~	4	5	1038	3364
75 ~	16	21	956	4320
70 ~	43	64	946	5266
65 ~	47	111	815	6081
60 ~	19	130	647	6728
55 ~	4	134	576	7304
50 ~	1	135	409	7713
45 ~	0	135	380	8093
40 ~	0	135	260	8353
35 ~	0	135	170	8523
30 ~	0	135	140	8663
25 ~	0	135	76	8739
20 ~	0	135	49	8788
15 ~	0	135	26	8814
10 ~	0	135	16	8830
5 ~	0	135	8	8838
0 ~	0	135	1	8839

5 (未履修)を除いた解答類型1~4の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 中学校2年国語 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全問題		20	6	13	1
観 点 別	書くこと	1	0	1	0
	読むこと	5	0	5	0
	言語事項	14	6	7	1

上回った：設定通過率10ポイント以上
 同程度：設定通過率±10ポイント
 下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回るものまたは同程度であるものの合計が、20問中19問である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査の同一問題、またはそれに類似する問題の通過率の比較では、6問中6問すべてが上回っている。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「書くこと」1問と「読むこと」5問は同程度である。「言語事項」は、14問中13問が上回っているか同程度である。
- ・無答率が高かったのは、「読むこと」の18) 19) である。

小問別通過率度数分布

中学校2年生国語 小問別通過率度数分布表(校)	1学年20人以上データを提出した学校																				平均通過率	
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)		
100%	0	70	2	2	0	1	0	1	2	0	1	4	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0
95~100%	1	56	10	13	2	1	0	0	9	0	0	33	4	78	0	0	0	0	0	0	0	0
90~95%	2	0	21	21	7	4	2	4	34	1	0	52	4	20	0	0	0	0	0	0	0	0
85~90%	7	1	20	22	8	10	6	4	41	0	1	27	1	2	2	3	0	0	2	3	1	1
80~85%	12	1	20	29	15	23	14	4	27	1	0	6	10	0	2	5	8	2	2	7	4	4
75~80%	13	0	20	18	15	17	26	9	10	3	1	5	12	0	10	19	11	3	10	5	13	13
70~75%	15	0	10	13	15	14	13	17	4	6	0	0	10	0	23	38	24	7	13	20	43	43
65~70%	12	0	9	3	23	19	21	19	1	4	1	0	15	0	20	28	34	4	13	15	44	44
60~65%	15	0	3	6	12	15	21	17	0	16	1	0	26	1	30	26	29	22	16	12	20	20
55~60%	16	0	5	1	11	10	13	20	0	16	1	1	22	0	22	6	13	12	12	9	2	2
50~55%	20	0	3	0	8	7	6	16	0	19	2	0	18	0	13	2	8	20	12	9	1	1
45~50%	7	0	4	0	6	2	4	13	0	15	4	0	3	0	1	0	0	26	8	12	0	0
40~45%	7	0	0	0	3	2	0	3	0	16	9	0	2	0	3	0	1	14	5	12	0	0
35~40%	0	0	0	0	2	1	2	0	0	12	12	0	1	0	1	0	0	8	8	11	0	0
30~35%	1	0	1	0	1	0	0	1	0	6	20	0	0	1	1	0	0	5	8	4	0	0
25~30%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	23	0	0	0	0	0	0	3	8	3	0	0
20~25%	0	0	0	0	0	1	0	0	0	6	17	0	0	0	0	0	0	1	6	3	0	0
15~20%	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	11	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、2) 3) 6) 9) 12) 14) の6問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、11) の1問である。
- ・各校における通過率の差が50ポイント以上あった問題は、1) 3) 5) 6) 7) 8) 10) 11) 13) 14) 15) 16) 18) 19) 20) の15問である。

(2) 考察

調査結果から、中学校2年生の学習の実現状況はおおむね良好といえる。

設定通過率を10ポイント以上上回った問題は6問で、上に示した度数分布表からは、2)9)12)14)のように、ほとんどの学校が85~100%の階級に入る問題と、3)6)のように通過率の差が50ポイント以上の問題がある。これらは、言語事項の漢字の読み書きと文法の主語・述語、接続に関するもので、日常的に使用されたり意識されたりする事項であるが、各学校の指導状況が同じように良好とは判断できず、設定通過率はほぼ適切と考える。

また、設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、11)の1問である。これは、言語事項の「こそあど」言葉を分類する問題で、中学1年生の指導事項である。学習してからの経過期間は短い、日常の使用頻度は高くても役割の分類についてはあまり意識されない事項であることから、設定通過率も低く設定した。にもかかわらず、さらに下回った結果となり、各学校の指導の在り方を見直す必要がある。また、教科書の巻末一覧にしか「品詞」という用語が見つからないなどのことから、出題文中の「品詞」という用語に反応して「未履修」と判断したものが19.1%もあった。この点については、今後類似の問題を出題する際には吟味が必要ともいえる。

設定通過率±10%の範囲にありながら、度数分布表から通過率のばらつきが大きかった問題のうち1)5)7)8)は漢字の読み書きで、設定通過率60%に対して度数分布が45~85%のところによく多くの学校がある。1)5)7)は生徒にしては日常の使用頻度があまり高くないものでも社会生活では使用頻度が高いとみられているものであり、いずれも音読み、訓読み、部首の組み合わせなど、総合的に文章の中で使えるように指導して定着を図る必要のあるものである。1)5)のように過去にも出題されて注目されているものでも、このようにばらついた結果からみると、各学校の指導の在り方を見直す必要がある。

10)は、修飾・被修飾の係り受けの関係を理解する力と文節に区切る力の複合問題である。設定通過率50%に対して、各学校の通過率の差が大きいため、日常の表現に関連させた文法の指導が課題である。

19)は文学的文章の読み取りを、文章中の言葉を活用して説明するもので、その他の誤答以外の内容や無記入を合わせると半数近い。主体的に読みを深めるために、表現に生きる読みの指導が課題である。

20)はグラフから読み取ったことをもとに条件に従って文章を書く問題である。各学校の通過率が10~90%と大きく差があることは、以前従来型の経験中心の作文を指導しているところと情報活用や条件把握に指導の重点を移しているところの差とも考えられる。また、無記入や未完成、分量不足のものも14.6%であることから、「書くこと」の内容に関する指導が充実してくることで、今後は通過率の向上が期待できるもの考える。

(3) 今後の指導

どの領域、言語事項も、全体的に度数分布における開きが大きく、各学校の定着を図る指導の在り方に差があるとみることができる。

漢字や語句、文法の学習は単にドリルに頼むことなく、日常の言語活動に関連させて必要感をもたせての繰り返し学習を工夫する必要がある。

読むことの学習では、文学的文章でも説明的文章でも「何がどう書かれてあるか」を主体的に読み進めることができるように、ただそこに、「何が書かれてあるか」という単なる情報の取り出しに終わることなく、自分としてその情報をどう解釈し、どう評価するかまでを学ばせることが必要である。

中学校 3 年

国 語

1 中学校3年国語 評価規準と評価の観点

領域	指導事項	評価規準	問題番号	観点別評価		
				書くこと	読むこと	言語事項
書くこと	ア	・日常生活での体験や身近な情報の中から、課題に対する材料を見付け、自分の考えを深めている。	20)			
	イ	・課題に対して自分の立場を明確にし、伝えたい事柄や根拠となる事実を明確にしている。				
	ウ	・説得力をもつための確かな根拠となる材料を適切に配列している。				
読むこと	イ	・文脈の中で語句の意味をおさえ、書き手の論理の展開をとらえ、内容を正確に理解している。	10)			
			11)			
			13)			
	ウ	・叙述に即して、段落ごとの内容や段落相互の関係をもとに、論理の展開を的確にとらえている。	12)			
エ	・文章を読んで要旨をとらえ、書き手の立場やものの見方・考え方を正確にとらえている。	17)				
		18)				
言語事項	(1)イ、ウ	・事象や行為などを表す多様な語句や抽象的な概念を表す語句について理解している。	2)			
			3)			
	(1)カ	・自立語で活用のある単語の活用の種類について理解している。	15)			
	(1)カ	・付属語で活用のある単語の働きについて理解している。	16)			
	(1)キ	・相手や場面に応じて敬語を適切に使い分けている。	1)			
	(2)ア	・学年別配当表に示されている漢字について、文脈に即して漢字を正しく読んでいる。	4)			
			5)			
(2)イ	・学年別配当表に示されている漢字のうち950字程度について、文脈の中で漢字の意味を考えて正しく書いている。	6)				
		7)				
		8)				
			9)			

通し番号	出題内容	平均通過率 (%)	設定通過率 (%)	0	100
1)	語句の使い方	95.9	90.0		
2)	語句の使い方	77.9	75.0		
3)	語句の使い方	77.1	75.0		
4)	読み(うやまう)	76.5	70.0		
5)	読み(くちょう)	98.1	90.0		
6)	読み(まぎらわしい)	86.4	75.0		
7)	書き(備える)	67.8	65.0		
8)	書き(成績)	56.4	50.0		
9)	書き(宣伝)	81.3	75.0		
10)	内容の理解	91.2	85.0		
11)	内容の理解	88.3	85.0		
12)	段落構成の理解	66.4	65.0		
13)	内容の理解	68.0	70.0		
14)	内容の合致	81.9	80.0		
15)	動詞の活用	61.6	65.0		
16)	助詞の用法	81.5	70.0		
17)	歴史的仮名遣い	93.0	90.0		
18)	主語の理解	33.2	50.0		
19)	内容の合致	41.4	50.0		
20)	他の人の考えについて意見を書くこと	62.9	65.0		

は設定通過率 ± 10% を示している。

3 小問別反応率

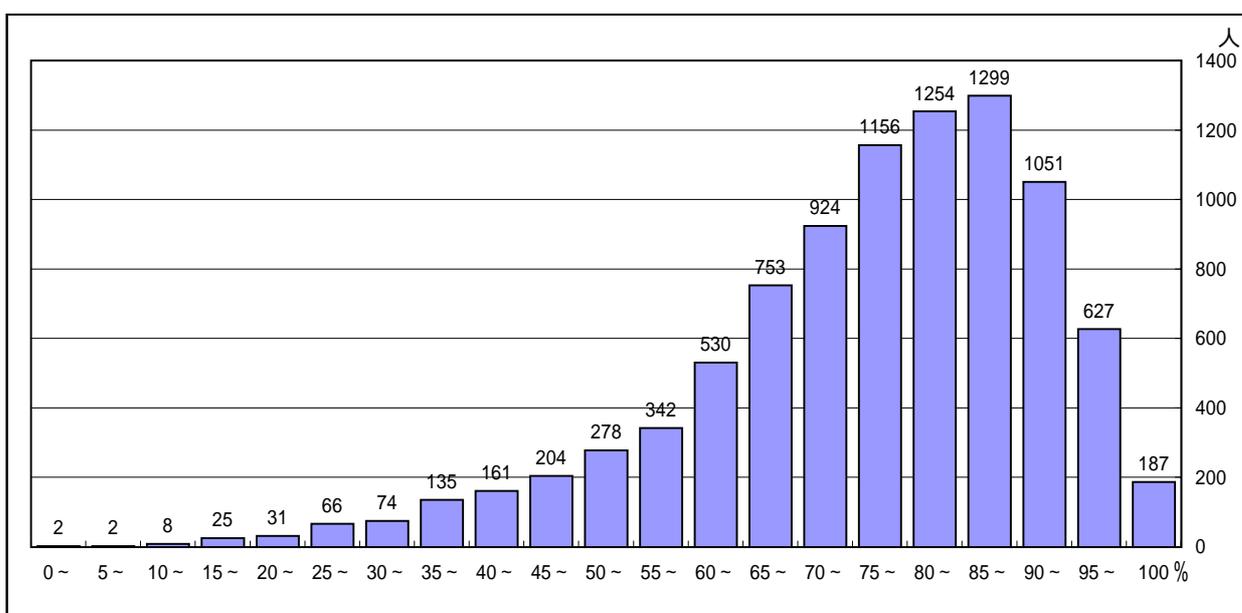
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)
一	1	(1) 95.9%	1.9%	1.8%	0.3%	0.0%
	2	(2) 77.9%	18.7%	3.1%	0.3%	0.0%
	3	(3) 77.1%	20.2%	2.3%	0.4%	0.0%
二	1	(4) 76.5%	0.8%	14.7%	8.1%	0.0%
	2	(5) 98.1%	0.5%	1.0%	0.4%	0.0%
	3	(6) 86.4%	0.6%	6.7%	6.2%	0.0%
	4	(7) 67.8%	1.3%	17.0%	13.8%	0.0%
	5	(8) 56.4%	36.2%	2.3%	5.1%	0.0%
	6	(9) 81.3%	9.1%	2.0%	7.6%	0.0%
三	1	(10) 91.2%	5.0%	3.6%	0.2%	0.0%
		(11) 88.3%	6.5%	4.9%	0.3%	0.0%
	2	(12) 66.4%	14.1%	19.1%	0.5%	0.0%
	3	(13) 68.0%	6.9%	14.5%	10.6%	0.0%
四	1	(14) 81.9%	6.0%	11.8%	0.3%	0.0%
	2	(15) 61.6%	28.3%	9.9%	0.3%	0.0%
五	1	(16) 81.5%	6.0%	12.3%	0.2%	0.0%
	2	(17) 93.0%	0.4%	4.5%	2.1%	0.0%
	3	(18) 33.2%	46.8%	15.2%	4.8%	0.0%
六	(19)	41.4%	31.8%	26.4%	0.5%	0.0%
六	(20)	62.9%	25.2%	6.3%	5.6%	0.0%

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	187	187
95～	0	0	627	814
90～	0	0	1051	1865
85～	1	1	1299	3164
80～	13	14	1254	4418
75～	54	68	1156	5574
70～	50	118	924	6498
65～	16	134	753	7251
60～	1	135	530	7781
55～	0	135	342	8123
50～	0	135	278	8401
45～	0	135	204	8605
40～	0	135	161	8766
35～	0	135	135	8901
30～	0	135	74	8975
25～	0	135	66	9041
20～	0	135	31	9072
15～	0	135	25	9097
10～	0	135	8	9105
5～	0	135	2	9107
0～	0	135	2	9109

5 (未履修)を除いた解答類型1～4の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 中学校3年国語 調査結果及び考察

(3) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全問題		20	2	17	1
観 点 別	書くこと	1	0	1	0
	読むこと	8	0	7	1
	言語事項	11	2	9	0

上回った：設定通過率10ポイント以上

同程度：設定通過率±10ポイント

下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度のものの合計が、20問中19問である。
- ・過去の本県学習状況調査の同一問題またはそれに類似する問題の通過率を比較すると、6問中4問が上回っている。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「書くこと」では1問、「読むこと」では8問中7問が同程度であり、「言語事項」では11問すべてが上回っているか同程度である。
- ・無答率が高いのは、「言語事項」の7)「読むこと」の13)である。

小問別通過率度数分布

中学校3年国語 小問別通過率度数分布表(校 1学年20人以上データを提出した学校)																					平均通過率
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	
100%	16	1	0	2	47	2	0	1	1	6	1	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0
95~100%	70	2	4	3	72	15	1	2	3	19	12	0	1	1	1	0	44	0	0	3	0
90~95%	38	4	12	14	6	29	4	4	18	64	33	1	2	16	1	7	54	0	0	4	0
85~90%	1	9	12	17	0	27	4	7	24	33	62	0	7	26	1	34	17	0	0	8	0
80~85%	0	32	25	15	0	29	13	3	32	4	17	4	10	45	6	39	4	0	0	8	10
75~80%	0	48	21	17	0	13	16	6	20	1	1	11	15	25	2	27	2	0	0	9	52
70~75%	1	21	24	27	0	9	17	3	12	0	0	21	28	12	12	15	0	0	0	17	49
65~70%	1	6	13	11	0	3	18	14	10	0	0	34	24	1	25	4	0	2	1	15	15
60~65%	0	4	7	9	1	0	19	8	7	0	0	30	18	0	25	0	0	2	2	14	1
55~60%	0	0	8	8	0	0	20	9	0	0	0	19	10	0	20	0	0	2	6	13	0
50~55%	0	0	0	0	1	0	6	19	0	0	0	5	5	0	25	0	0	3	7	11	0
45~50%	0	0	1	3	0	0	5	10	0	0	0	1	4	1	9	0	1	3	21	7	0
40~45%	0	0	0	0	0	0	2	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	39	5	0
35~40%	0	0	0	0	0	0	1	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	26	1	0
30~35%	0	0	0	1	0	0	1	4	0	0	0	1	2	0	0	0	0	35	13	5	0
25~30%	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	21	7	2	0
20~25%	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	14	3	1	0
15~20%	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、6) 16)の2問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、18)の1問である。
- ・各校における通過率の差が50ポイント以上あった問題は、3) 4) 5) 7) 8) 11) 12) 13) 14) 15) 17) 18) 19) 20) の14問である。

(2) 考察

設定通過率10ポイント以上上回った問題は2問である。6)は「紛らわしい」という漢字の書き取りであるが、比較的出題の頻度の高い問題である。また、16)は助動詞「れる」の意味・用法を問うものでこれも頻度の高い問題である。度数分布がともに80~95%に集中していて定着度が高いといえる。

一方、設定通過率を10ポイント以上下回った問題は18)である。古文の特徴の一つである省略された主語を問うもので、古文に触れる機会が限られていることや主語として考えられる語句が複数あったこと、さらには省略されたものを補う読み方があまり意識されていないことが低い通過率の要因と考えられる。

設定通過率±10%の範囲にあるものの、度数分布表からは通過率のばらつきが大きい問題も少なくない。その中で4)は30~100%に広がっている。「敬う」の読みの問題であるが、この漢字の音読みに比べて訓読みは日常生活での使用頻度もそれほど高くなく、定着度が低いことが原因と考えられる。そのことは国や県の過去の調査結果の通過率が低いことから言えることである。8)は「成績」の書き取りの問題である。これもかつて出題されたもので通過率の低い問題の一つである。「績」を「積」と書き誤ることが多く、そのことは解答類型の結果からもうかがわれる。使用頻度の高い語句ではあるものの、「成積」を正しいと思いこみ、訂正する機会が幾度かあっても定着しがたい熟語の一つと言えそうである。部首の違いや漢字の意味の違いまで指導しているかどうかで定着度が違ってくるのではないかと思われる。13)は文章中の言葉を用いて制限字数内で答える問題である。通過率が25~100%までばらつきがある。一般に、記述式の問題は通過率がそれほど高くない傾向にあるが、この問題でも無答率が10.6%であった。解答を含む段落さえ見つければ文章中の言葉を使えるのでそれほど難易度は高くないのだが、10以上ある段落から探すことに抵抗があったものと思われる。

(3) 今後の指導

言語事項の指導は、読むことや書くことの指導と関連させたり、取り立てて指導したりしているが、こと漢字に関しては小学校ほど丁寧な指導はなされていない。漢字も語句も文脈の中で生きて働くものであり、単元の中で読んだり書いたりすることで適宜指導することはもちろんのこと、帯単元として継続的に指導することも有効であろう。また、既習の漢字の中で定着度の低いものを洗い出し、繰り返し指導する工夫なども求められる。

説明的な文章を読むことの指導においては、例えば「原因と結果」「具体と抽象」「話題の転換」「理由と結論」などの具体的な視点から、文章の叙述に即して論理の展開を把握することが重要である。その上で読み取ったことを書きまとめたり、自分の考えをもたせたりする指導を大事にしたい。

古典の学習では、音読や朗読を大切にしながら古文の独特のリズムや表現の特徴に気付かせ、古典に親しむような指導を心がけることはもちろんだが、原文と現代語訳文の比較を通して、主語や述語・助詞なども補ってより正確な内容理解を図ることも求められる。

小学校 6 年
社 会

1 小学校6年 社会 評価規準と評価の観点

内 容	評 価 規 準	通し番号	観 点		
			思考 ・ 判断	技能 ・ 表現	知識 ・ 理解
目標 (3)	・地図を効果的に活用して、具体的に調べることができる。	1)			
目標 (3)	・調べた結果を目的に応じた方法で表現することができる。	2)			
(1) ア	・様々な食料生産と国民の食生活とのかかわりを、統計などの基礎的資料を活用して具体的に調べることができる。	7)			
(1) イ	・我が国の主な食料生産物の分布を、地図や統計などの基礎的資料を活用して具体的に調べることができる。	3)			
(1) イ	・調べたことをもとに、我が国の農業が自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考え、適切に判断することができる。	4)			
(1) ウ	・食料生産に従事している人々の努力が分かっている。	5)			
(1) ウ	・食料生産に従事している人々の工夫や努力を、基礎的資料を活用して具体的に調べることができる。	6)			
(2) ア	・工業生産と国民生活とのかかわりを、統計などの基礎的資料を活用して具体的に調べることができる。	9)			
(2) イ	・我が国の工業地域の分布が分かっている。	8)			
(2) ウ	・工業生産を支える運輸の働きが分かっている。	10)			
(2) ウ	・工業生産を支える貿易の現状を、地図や統計などの基礎的資料を活用して具体的に調べることができる。	11)			
(2) ウ	・工業生産を支える貿易の働きを、地図や統計などの基礎的資料を活用して具体的に調べることができる。	12)			
(3) ア	・放送、新聞、電信電話などの産業と国民生活とのかかわりが分かっている。	14)			
(3) ア	・我が国の通信などの産業と国民生活とのかかわりを、基礎的資料を活用して調べることができる。	15)			
(3) ア	・調べたことをもとに、我が国の通信などの産業が国民の生活に大きな影響を及ぼしていることを考え、適切に判断することができる。	17)			
(3) イ	・我が国の通信などの産業にかかわる仕事を調べ、その仕事に従事している人々の工夫や努力が分かっている。	13) 16)			
(4) ア	・国土の地形・位置の概要が分かっている。	18) 19)			
(4) ウ	・国土の保全や水資源の涵養のための森林資源の働きが分かっている。	20)			

通し 番号	出題内容	平均 通過率 (%)	設定 通過率 (%)	0	100
(1)	地図帳の「さくいん」の活用	87.4	85.0		
(2)	石川県の位置	82.7	75.0		
(3)	食料生産物の分布	89.3	80.0		
(4)	自然環境と農業	81.5	60.0		
(5)	稲作農家の悩み	76.2	70.0		
(6)	農家の工夫・努力	83.8	80.0		
(7)	我が国の食料生産と食生活	65.8	70.0		
(8)	我が国の工業地域の分布	88.1	80.0		
(9)	我が国の工業の特色	72.7	60.0		
(10)	工業生産と運輸	61.5	70.0		
(11)	我が国の輸出相手国	92.6	80.0		
(12)	我が国の貿易の特色	60.8	65.0		
(13)	情報の仕事	87.4	80.0		
(14)	情報と国民生活 (1)	61.8	70.0		
(15)	インターネットの普及	59.3	65.0		
(16)	情報に従事する人々の工夫	76.9	75.0		
(17)	情報と国民生活 (2)	52.9	60.0		
(18)	我が国の国土の特色	55.5	75.0		
(19)	我が国の国土の位置	82.5	75.0		
(20)	森林の働き	52.0	70.0		

は設定通過率 ± 10% を示している。

3 小問別反応率

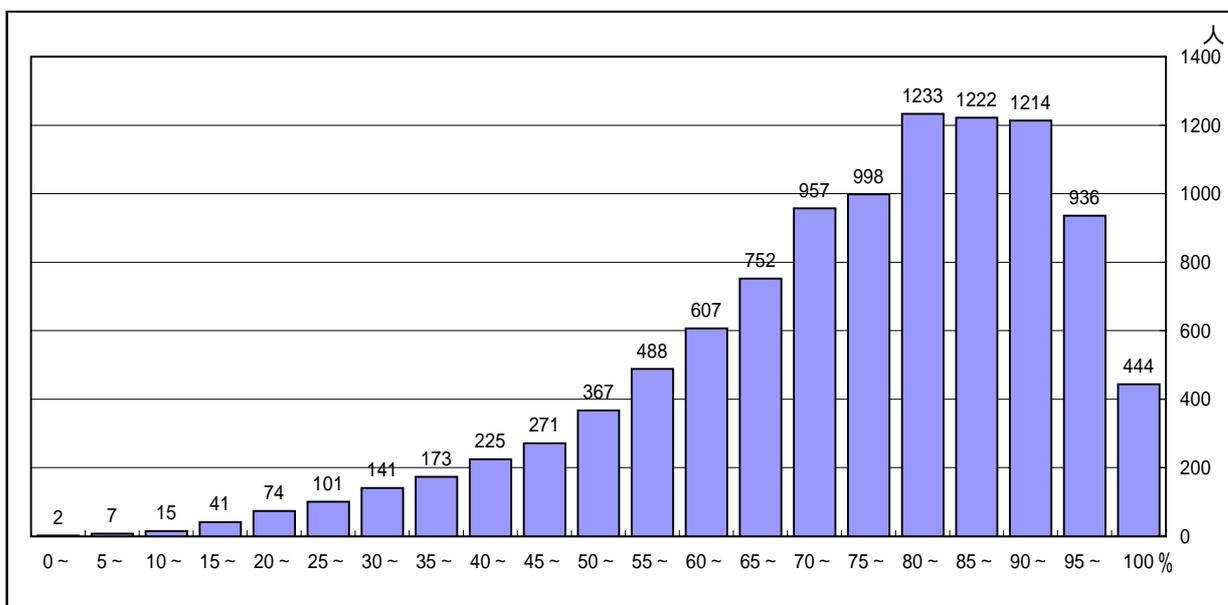
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)
1	(1)	(1) 87.4%	1.5%	4.8%	6.3%	0.1%
	(2)	(2) 82.7%	1.9%	3.6%	11.8%	0.1%
2	(1)	(3) 89.3%	5.8%	4.3%	0.6%	0.1%
	(2)	(4) 81.5%	0.9%	10.3%	7.3%	0.1%
	(3)	(5) 76.2%	21.3%	2.1%	0.4%	0.1%
	(4)	(6) 83.8%	14.3%	1.4%	0.4%	0.1%
	(5)	(7) 65.8%	16.4%	16.7%	1.1%	0.1%
3	(1)	(8) 88.1%	3.9%	7.5%	0.6%	0.2%
	(2)	(9) 72.7%	8.2%	18.7%	0.5%	0.2%
	(3)	(10) 61.5%	12.0%	25.7%	0.8%	0.2%
	(4)	(11) 92.6%	1.0%	5.5%	0.8%	0.2%
		(12) 60.8%	13.8%	24.6%	0.7%	0.2%
4	(1)	(13) 87.4%	3.3%	8.9%	0.4%	0.2%
	(2)	(14) 61.8%	32.1%	5.6%	0.6%	0.2%
	(3)	(15) 59.3%	11.9%	28.0%	0.8%	0.2%
	(4)	(16) 76.9%	11.3%	11.1%	0.6%	0.2%
	(5)	(17) 52.9%	20.6%	13.5%	13.0%	0.2%
5	(1)	(18) 55.5%	20.6%	22.7%	1.2%	0.2%
	(2)	(19) 82.5%	6.9%	9.5%	1.1%	0.2%
	(3)	(20) 52.0%	29.3%	17.8%	0.9%	0.5%

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	1	1	444	444
95～	1	2	936	1380
90～	6	8	1214	2594
85～	18	26	1222	3816
80～	35	61	1233	5049
75～	77	138	998	6047
70～	81	219	957	7004
65～	60	279	752	7756
60～	14	293	607	8363
55～	5	298	488	8851
50～	1	299	367	9218
45～	1	300	271	9489
40～	2	302	225	9714
35～	0	302	173	9887
30～	0	302	141	10028
25～	0	302	101	10129
20～	0	302	74	10203
15～	0	302	41	10244
10～	0	302	15	10259
5～	0	302	7	10266
0～	0	302	2	10268

5 (未履修)を除いた解答類型1～4の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 小学校6年 社会 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全問題		20	3	15	2
観 点 別	思考・判断	2	1	1	0
	技能・表現	9	2	7	0
	知識・理解	9	0	7	2

上回った：設定通過率10ポイント以上
 同程度：設定通過率±10ポイント
 下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度であるものの合計が、20問中18問である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査の同一問題、またはそれに類似する問題の通過率の比較では、8問中7問が上回っている。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「社会的な思考・判断」では、2問中2問が上回っているか同程度である。「観察・資料活用の技能・表現」では、9問中全てが上回っているか同程度である。「社会的な事象についての知識・理解」では、9問中7問が同程度で、2問が下回った。

小問別通過率度数分布

小学校6年社会 小問別通過率度数分布表校	1学年20人以上データを提出した学校																				平均通過率
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	
100%	25	10	4	5	1	5	0	6	1	0	34	0	6	1	0	0	0	0	2	0	0
95~100%	33	14	33	7	6	7	1	22	4	0	41	0	22	2	0	5	0	0	9	0	0
90~95%	42	38	56	28	16	29	2	50	6	0	66	1	45	10	0	11	4	0	33	2	1
85~90%	31	34	50	25	20	42	4	54	21	6	31	4	51	9	3	16	4	0	30	4	6
80~85%	16	29	32	36	43	46	8	35	23	4	11	2	38	11	2	36	7	9	38	0	17
75~80%	11	17	8	41	26	32	17	13	30	13	0	8	13	8	5	46	9	10	33	3	50
70~75%	10	14	2	17	15	12	23	2	30	17	2	16	7	11	15	29	8	10	21	6	57
65~70%	4	16	0	15	20	8	43	3	25	25	0	33	3	15	26	24	15	14	12	7	39
60~65%	6	9	0	7	20	2	37	0	18	37	0	38	0	21	33	10	16	33	6	22	13
55~60%	4	2	0	3	6	1	27	0	12	26	0	28	0	23	34	5	16	19	0	33	2
50~55%	3	0	0	1	6	1	16	0	9	35	0	27	0	23	33	1	24	27	1	24	0
45~50%	0	1	0	0	0	0	3	0	3	13	0	13	0	12	19	1	13	15	0	29	0
40~45%	0	0	0	0	5	0	1	0	2	4	0	6	0	23	8	1	21	26	0	28	0
35~40%	0	0	0	0	1	0	3	0	1	4	0	7	0	6	3	0	14	14	0	13	0
30~35%	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	7	4	0	14	5	0	3	0
25~30%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	10	2	0	7	0
20~25%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	4	0
15~20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、4) 9) 11) の3問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、18) 20) の2問である。
- ・各校における通過率の差が50ポイント以上あった問題は、2) 5) 7) 9) 10) 12) 14) 15) 16) 17) 18) 20) の12問である。
- ・無答率が大きかった問題(10%以上)は、2) 17) の2問である。

(2) 考察

設定通過率を10ポイント以上上回った問題は3問であるが、特に、4)11)については、度数分布表の80%以上の階級に半数以上の学校が入っており、学習状況が極めて良好なことが分かる。日常の学習において、グラフ等の丁寧な読み取りが、学習活動に取り入れられている成果と考えられる。

設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、2問であるが、いずれも内容(4)の社会的事象についての知識・理解に関する問題であった。両問とも、誤答の割合が20%程度もしくはそれ以上であり、学習状況が不十分であることが分かる。地図や映像を活用したり、作業的な学習を取り入れたりするなど、子どもの学びに沿った指導の工夫が求められる。

14)は、設定通過率 $\pm 10\%$ の範囲であるが、度数分布表においても最もばらつきの大きい問題である。解答類型2の割合が32.1%ということから、問題を正確に読み取っていない状況も推察される。社会的事象等を観点別に分類する学習活動を、効果的に取り入れることも大事である。

2)17)は、同じく設定通過率 $\pm 10\%$ の範囲であるが、無答率が10%以上の問題である。2)17)とも、時間をかけて丁寧に解答することを求められる問題である。

また、2)は、作業的な問題であり、設定通過率を上回っているが、無答率も高くなっている。17)は、論述的な問題である。二つの妥当な視点から記述できたもの(解答類型1)が、52.9%、一つの妥当な視点から記述できたもの(解答類型2)が20.6%で、問題に対する適切な解答を一つ以上書けた割合は、72.9%となっている。文章で解答することに慣れていない状況もうかがわれるが、一方で、こうした問題に抵抗を感じている児童が、他の問題よりも多いことが分かる。

7)12)15)は、複数資料の読み取りを必要とする問題である。一つの資料の読み取りは丁寧かつ正確にできているが、複数資料を関連付けて読み取る力は弱いことが分かる。

各問題について、未履修と回答している学校が若干あるが、履修については、出題の資料そのものを使った学習をしたか否かではないので、学習指導要領の目標、内容を再度確認してほしい。

(3) 今後の指導

一つ一つの資料の読み取りを大切にしたい学習の成果が表れているが、今後は複数の資料を比較・関連付けるなどして、社会的事象の意味を考える学習を工夫することが必要である。

社会的事象についての知識・理解については、指導の一層の工夫が求められる。学習指導要領の目標、内容から基礎・基本を確認し、ドリルのみにも頼ったり、用語の暗記に終わったりすることは避けなければいけない。実物、地図、統計等の各種資料を子どもの学びに応じ、工夫して提示するとともに、作業的な学習を効果的に取り入れるなどして、学習を通しての知識・理解になることが大事である。

中学校 1 年
社 会

1 中学校1年 社会 評価規準と評価の観点

内 容	評 価 規 準	通し番号	観 点		
			思考 ・ 判断	技能 ・ 表現	知識 ・ 理解
(1) アイ	・国土の統一から天皇を中心とした政治への流れを遺跡や文化財を関連付けて理解している。	1)			
(1) ア イ ウ ク	・我が国の歴史上の主な事象にかかわる人物の働きや代表的な文化遺産について問題意識をもち、学習の見通しをもって、追究・解決している。 ・調べたことをもとに、我が国の歴史上の主な事象にかかわる人物の働きや代表的な文化遺産が我が国の国家・社会の発展に果たした役割を考え、適切に判断している。	2) 4) 8) 11) 16) 17)			
(1) ア イ ウ ク	・我が国の歴史上の主な歴史的事象について、文章資料などの基礎的資料を活用し、人物の働きを中心に調べている。	7)			
(1) ウ	・北条時宗が全国の武士を動員して元の攻撃を退けたことを理解している。	3)			
(1) ウ	・室町幕府が置かれた京都の位置を理解している。	5)			
(1) エ	・戦国の世が統一されたことが分かっている。	6)			
(1) オ	・徳川家光が大名を抑える仕組みを整えたことが分かっている。	9)			
(1) オ	・江戸幕府により、キリスト教の禁止や海外との貿易の統制などが行われたことが分かっている。	10)			
(1) カ	・明治政府が廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を入れつつ近代化を進めたことが分かっている。	12) 13)			
(1) ク	・我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かっている。	14) 15)			
(2) イ	・日本国憲法は、国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることが分かっている。	18) 19)			
(3) イ	・調べたことをもとに、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考え、適切に判断している。	20)			

通し 番号	出題内容	平均 通過率 (%)	設定 通過率 (%)	0	100
(1)	古代の遺跡・文化遺産	64.3	65.0		
(2)	将軍と御家人の関係	73.7	60.0		
(3)	元寇の様子	60.8	75.0		
(4)	室町時代の文化の特色	64.3	65.0		
(5)	室町幕府の位置	64.4	55.0		
(6)	信長・秀吉・家康について	77.5	75.0		
(7)	秀吉の業績	74.1	65.0		
(8)	武家諸法度の役割	64.1	65.0		
(9)	家光の業績	50.8	70.0		
(10)	鎖国の内容	39.6	50.0		
(11)	五箇条の御誓文の内容	46.2	60.0		
(12)	明治天皇の業績	30.9	55.0		
(13)	福沢諭吉の業績	90.9	75.0		
(14)	伊藤博文の業績	65.7	65.0		
(15)	陸奥宗光の業績	46.9	65.0		
(16)	太平洋戦争のあらまし(1)	62.5	60.0		
(17)	太平洋戦争のあらまし(2)	58.2	60.0		
(18)	日本国憲法の三大原則	82.9	70.0		
(19)	国民の義務	94.2	80.0		
(20)	日本の経済援助	73.8	50.0		

は設定通過率 ± 10% を示している。

3 小問別反応率

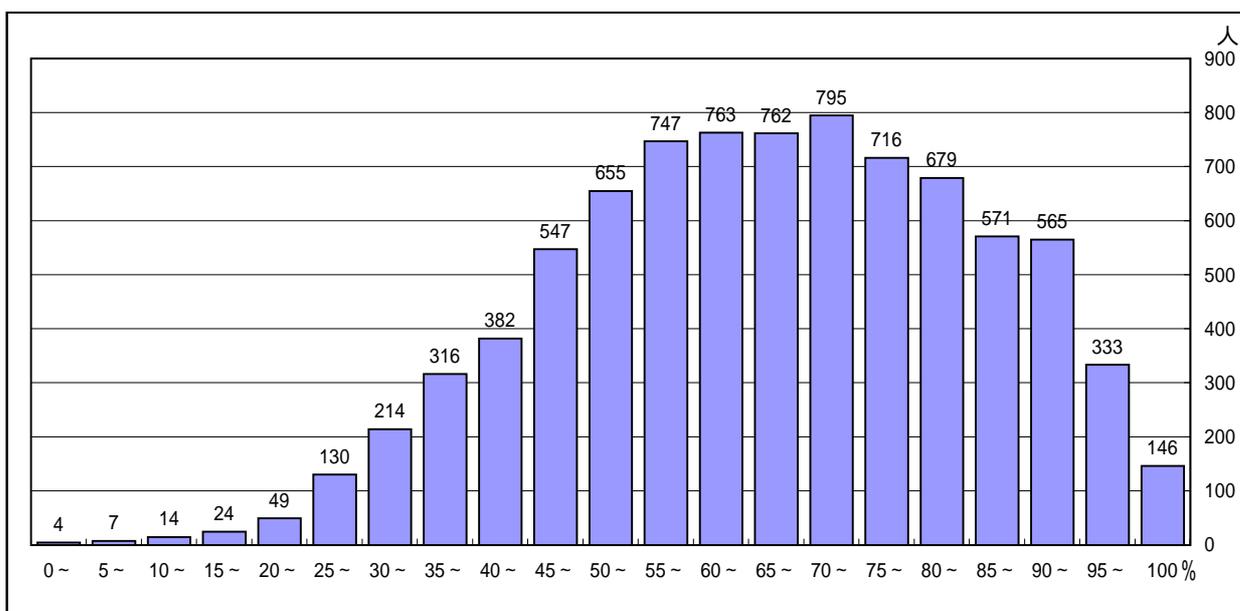
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)
1	(1)	64.3%	24.9%	10.7%	0.0%	0.0%
2	(1)	(2) 73.7%	10.2%	15.9%	0.2%	0.0%
	(2)	(3) 60.8%	18.9%	20.0%	0.3%	0.0%
3	(1)	(4) 64.3%	10.7%	24.6%	0.4%	0.0%
	(2)	(5) 64.4%	18.1%	16.9%	0.6%	0.0%
4	(1)	(6) 77.5%	6.7%	15.5%	0.4%	0.0%
	(2)	(7) 74.1%	11.9%	13.6%	0.3%	0.0%
5	(1)	(8) 64.1%	16.6%	18.7%	0.6%	0.0%
	(2)	(9) 50.8%	31.8%	11.0%	6.4%	0.0%
	(3)	(10) 39.6%	40.0%	20.1%	0.3%	0.0%
6	(1)	(11) 46.2%	7.7%	45.5%	0.6%	0.0%
	(2)	(12) 30.9%	29.1%	39.2%	0.8%	0.0%
	(3)	(13) 90.9%	5.8%	2.9%	0.3%	0.0%
7	(ア)	(14) 65.7%	12.4%	21.3%	0.6%	0.0%
	(イ)	(15) 46.9%	20.5%	31.8%	0.8%	0.0%
8	(ア)	(16) 62.5%	3.0%	34.0%	0.5%	0.0%
	(イ)	(17) 58.2%	31.7%	9.5%	0.5%	0.0%
9	(1)	(18) 82.9%	2.9%	9.3%	4.9%	0.0%
	(2)	(19) 94.2%	0.6%	4.9%	0.3%	0.0%
10	(20)	73.8%	6.9%	18.6%	0.7%	0.0%

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	146	146
95～	0	0	333	479
90～	0	0	565	1044
85～	0	0	571	1615
80～	1	1	679	2294
75～	3	4	716	3010
70～	10	14	795	3805
65～	48	62	762	4567
60～	49	111	763	5330
55～	20	131	747	6077
50～	3	134	655	6732
45～	0	134	547	7279
40～	0	134	382	7661
35～	0	134	316	7977
30～	0	134	214	8191
25～	0	134	130	8321
20～	0	134	49	8370
15～	0	134	24	8394
10～	0	134	14	8408
5～	0	134	7	8415
0～	0	134	4	8419

5 (未履修) を除いた解答類型 1～4 の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 中学校1年 社会 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全問題		20	5	9	6
観 点 別	思考・判断	6	1	4	1
	技能・表現	2	1	1	0
	知識・理解	12	3	4	5

上回った：設定通過率 + 10以上
 同程度：設定通過率 ± 10
 下回った：設定通過率 - 10以下

- ・設定通過率を上回るものまたは同程度であるものの合計が、20問中14問である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査の同一問題またはそれに類似する問題の通過率の比較では、5問中3問が上回っている。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「思考・判断」では、6問中5問が上回っているか同程度、「技能・表現」では、2問中2問が上回っているか同程度である。「知識・理解」については、12問中7問が上回っているか同程度という結果であった。

小問別通過率度数分布 1学年20人以上データを提出した学校

中学校1年社会 小問別通過率度数分布表	1学年20人以上データを提出した学校																				平均通過率
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15~20%	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	17	0	1	2	0	0	0	0	0	0
20~25%	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4	0	22	0	0	2	0	0	0	0	0	0
25~30%	1	0	0	0	0	0	0	0	4	16	3	31	0	0	6	0	0	0	0	0	0
30~35%	0	0	2	0	0	0	0	0	4	26	11	19	0	0	6	2	0	0	0	0	0
35~40%	0	0	3	2	0	0	0	1	12	17	17	8	0	0	19	1	3	0	0	0	0
40~45%	1	0	3	4	1	0	0	5	18	23	30	3	0	2	21	3	4	0	0	0	0
45~50%	9	2	6	3	3	0	0	6	25	16	25	5	0	5	18	6	12	1	0	0	0
50~55%	14	1	20	11	4	0	3	8	11	7	13	6	0	11	17	20	30	1	0	0	0
55~60%	16	6	23	15	26	4	4	22	17	3	9	3	0	19	17	20	25	2	0	4	20
60~65%	18	12	23	37	31	5	11	27	11	6	6	2	1	21	7	26	19	1	1	8	48
65~70%	23	19	15	20	30	9	22	19	10	1	5	2	0	21	4	17	16	7	0	22	45
70~75%	21	16	17	16	15	23	26	21	4	1	3	2	0	19	4	12	12	11	1	34	9
75~80%	14	33	3	9	10	33	25	8	4	1	1	0	1	13	1	8	2	19	0	29	2
80~85%	4	19	6	6	2	30	22	5	2	0	1	0	13	7	0	5	1	22	2	21	0
85~90%	1	14	2	1	2	15	7	2	1	0	0	0	35	4	0	4	0	27	10	6	0
90~95%	0	2	0	0	0	5	4	0	0	0	0	0	47	1	0	0	0	25	44	0	0
95~100%	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	6	52	0	0
100%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	2	14	0	0
	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、2) 13) 18) 19) 20) の5問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、3) 9) 10) 11) 12) 15) の6問である。
- ・各校における通過率の差が50ポイント以上あった問題が、1) 3) 9) 10) 11) 12) 14) 15) 16) の9問である。

(2) 考察

調査結果から、中学校1年生の学習の実現状況は、おおむね良好といえる。設定通過率を10ポイント以上上回った問題は5問であるが、度数分布表からは、例えば13) 19)などは80～100%の通過率に入る学校がほとんどであり、各学校の指導状況が大変よいことがうかがわれる。一方、設定通過率を10ポイント以上下回った3) 9) 11) 12) 15)の5問は、今後の学習指導の改善が求められるものである。

3)は、元軍との戦いの様子から武士の戦いぶりを調べさせる学習を「いつ・どこで」を明確にしながらいれば、十分に解ける問題であると考えられる。設定通過率 $\pm 10\%$ の範囲に入っている学校やそれを上回っている学校が3分の1もあることから、設定通過率がそれほど高かったとは考えにくい。

9)は、設定通過率70%に対して、度数分布が35～70%のところによくの学校がある。また、徳川家康という誤答が約32%である。徳川家康と江戸幕府の始まりについては理解しているが、徳川家光の時代に参勤交代が制度として確立し、大名を抑える仕組みが整えられたことについては、定着が低いことが分かる。

10)は、設定通過率50%に対して $\pm 10\%$ を若干下回って、度数分布が25～50%のところによくの学校がある。キリスト教の禁止と海外貿易の統制の2つの要素が選択肢に入ったことによるものと考えられる。選択肢の吟味が必要な問題であった。11) 12)は、前年度も出題した問題である。通過率を前年度と比較すると、11) 37.3% 46.2%、12) 29.4% 30.9%と若干の伸びはあるものの、いずれも設定通過率より大きく下回っている。また、度数分布では、11)は30～60%、12)は15～40%のところによくの学校が分布している。問題の難易度を考えて設定通過率を設定したが、他の問題と比較しても設定通過率が高くはないと考えられる。明治天皇の名による五箇条の御誓文の発布とその内容についての理解が不足しているといえる。

15)は、基礎的な問題であるが、通過率が設定通過率より約18%下回る46.9%である。度数分布では、35～60%によくの学校が分布し、80%以上の学校はない。幕末に結ばれた不平等条約を改正するために、大きな役割を果たした外務大臣についての理解が不足している。

(3) 今後の指導

学習指導要領の内容(1)の取扱いについては、歴史的事象を網羅的に取り上げることのないよう、ア(農耕の始まり)～ク(オリンピックの開催)の内容ごとに、「何を調べ」させ「何が分かる」ことが大切かを明確にし、単元を構成する必要がある。また、取り上げる人物についても、歴史的事象との関連でなぜその人物が取り上げられているのかという視点をより明確にした指導を行うことが大切である。例えば、11) 12)の「明治維新」の取扱いについては、江戸城の明け渡し、天皇を中心とした新政府の成立、五箇条の御誓文の発布、廃藩置県や四民平等などの諸改革の実施という歴史的事象を取り上げる。そして、勝海舟と西郷隆盛の会談の内容を紙芝居等で紹介することで、江戸城明け渡しの様子をつかませたり、明治天皇や木戸孝允、大久保利通のエピソードや読み物資料から業績を調べさせたりすることで、近代的な政治や社会の仕組みがどのようにして整えられていったのかを具体的につかませたい。

中学校 2 年
社 会

1 中学校2年 社会 評価規準と評価の観点

内 容	評 価 規 準	通し番号	観 点		
			思考 ・ 判断	技能 ・ 表現	知識 ・ 理解
(1) ア	地	・主な国々の名称と位置、世界の地域区分を理解し、その知識を身に付けている。	3)		
(1) ア		・経度と時差を理解し、その知識を身に付けている。	4)		
(1) イ	理	・日本の国土の絶対的位置と相対的位置を理解し、その知識を身に付けている。	1)		
(1) イ		・都道府県の位置と名称を理解し、その知識を身に付けている。	2)		
(2) ア	的	・身近な地域の特色をとらえるために、縮尺の大きな地図を読み取ることができる。	5) 6)		
(2) ア		・市町村規模の地域的特色を、縮尺の大きな地図などを活用してとらえるとともに、そのとらえる視点や方法、地理的なまとめ方を身に付けている。	7)		
(2) イ		・都道府県規模の地域的特色をとらえる課題を追究するための視点や方法を考察し、適切に選択している。	10)		
(2) イ	野	・都道府県の地域的特色をとらえるために、地図の読み取り、統計のグラフ化などを通して、学習に役立つ情報を適切に選択して活用している。	8) 9)		
(1) ア	歴	・朝鮮との歴史的な関係の大きな流れを理解している。	19) 20)		
(2) ア		・人類の出現、古代文明の発生、日本列島における人々の生活の変化を、我が国の歴史とかかわる東アジアの歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。	11)		
(2) イ	史	・東アジアとのかかわり、古墳の広まり、大和朝廷による統一を通して、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察している。	12)		
(2) イ		・国家が形成されていく過程のあらましを、我が国の歴史とかかわる東アジアの歴史を背景に理解するとともに、当時の人々の信仰、大陸から移住してきた人々の我が国の社会に果たした役割に気付き、その知識を身に付けている。	13)		
(2) ウ	分	・国家の仕組みが整えられ、その後、天皇・貴族の政治が展開されたことに関する画像や文献などの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。	14)		
(2) ウ		野	・聖徳太子の政治と大化の改新、律令国家の確立、摂関政治を通して、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察している。	15)	
(2) エ	野	・国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを、我が国の歴史とかかわる東アジアの歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。	16)		
(4) ウ		・江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、身分制度の確立及び農村の様子を通して、幕府の政治の特色を多面的・多角的に考察している。	17)		
(4) ウ	・江戸幕府の政治の特色を、我が国の歴史とかかわる世界の歴史を背景に理解するとともに、鎖国下の対外関係に気付き、その知識を身に付けている。	18)			

通し番号	出題内容	平均通過率 (%)	設定通過率 (%)	0	100
(1)	我が国の位置と領域	58.7	65.0		
(2)	都道府県の位置と名称	49.7	50.0		
(3)	主な国の位置	16.8	60.0		
(4)	経度と時差	49.6	50.0		
(5)	地形図の読み取り(距離)	44.8	60.0		
(6)	地形図の読み取り(地形)	47.2	60.0		
(7)	地形図の読み取り(地図記号)	78.5	80.0		
(8)	年齢別人口のグラフの作成	40.7	50.0		
(9)	帯グラフの読み取り	40.9	60.0		
(10)	産業構造の読み取り	40.8	50.0		
(11)	縄文時代の特色	41.4	55.0		
(12)	大和朝廷の特色	72.2	55.0		
(13)	神話・伝説の説明	72.8	70.0		
(14)	摂関政治の特色(1)	54.6	55.0		
(15)	摂関政治の特色(2)	57.9	60.0		
(16)	国風文化とその作品	88.1	80.0		
(17)	江戸時代の身分制度	72.3	65.0		
(18)	鎖国に至る経緯	36.1	55.0		
(19)	日本と朝鮮との関わり(1)	16.3	50.0		
(20)	日本と朝鮮の関わり(2)	39.3	55.0		

は設定通過率 ± 10% を示している。

3 小問別反応率

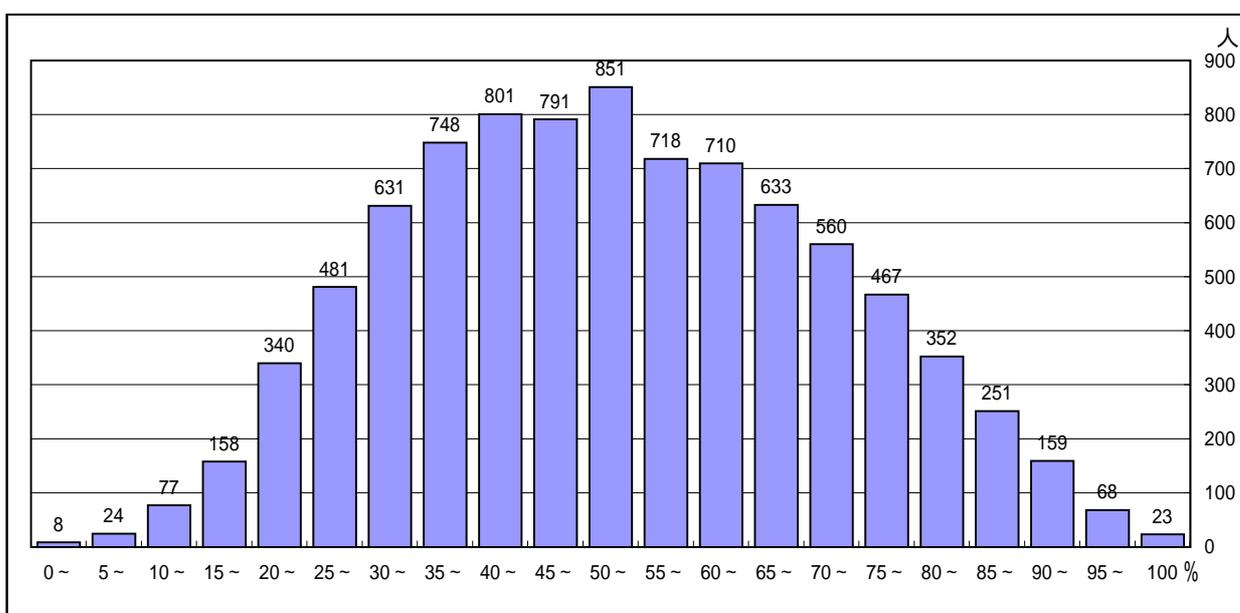
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)
1	(1)	58.7%	16.6%	24.4%	0.3%	0.0%
2	(2)	49.7%	1.6%	32.8%	15.9%	0.0%
3	(A)	(3) 16.8%	36.7%	37.5%	9.0%	0.0%
	(B)	(4) 49.6%	10.1%	35.8%	4.6%	0.0%
4	(1)	(5) 44.8%	11.6%	33.5%	10.0%	0.0%
	(2)	(6) 47.2%	14.1%	36.0%	2.6%	0.0%
	(3)	(7) 78.5%	13.4%	7.5%	0.6%	0.0%
5	(1)	(8) 40.7%	5.7%	20.4%	33.2%	0.6%
	(2)	(9) 40.9%	7.3%	49.7%	2.1%	0.6%
	(3)	(10) 40.8%	30.2%	25.2%	3.8%	0.6%
6	(1)	(11) 41.4%	14.7%	43.0%	0.9%	0.0%
	(2)	(12) 72.2%	10.6%	16.1%	1.2%	0.0%
	(3)	(13) 72.8%	8.7%	16.9%	1.5%	0.0%
7	(1)	(14) 54.6%	3.3%	24.2%	17.9%	0.0%
	(2)	(15) 57.9%	3.3%	8.0%	30.8%	0.3%
	(3)	(16) 88.1%	8.8%	2.3%	0.8%	0.0%
8	(1)	(17) 72.3%	16.6%	9.9%	1.2%	0.2%
	(2)	(18) 36.1%	18.8%	34.6%	10.5%	0.2%
9	(1)	(19) 16.3%	36.5%	44.2%	3.0%	1.0%
	(2)	(20) 39.3%	5.3%	52.5%	2.8%	20.4%

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	23	23
95～	0	0	68	91
90～	0	0	159	250
85～	0	0	251	501
80～	0	0	352	853
75～	0	0	467	1320
70～	1	1	560	1880
65～	1	2	633	2513
60～	6	8	710	3223
55～	25	33	718	3941
50～	45	78	851	4792
45～	38	116	791	5583
40～	16	132	801	6384
35～	2	134	748	7132
30～	1	135	631	7763
25～	0	135	481	8244
20～	0	135	340	8584
15～	0	135	158	8742
10～	0	135	77	8819
5～	0	135	24	8843
0～	0	135	8	8851

5 (未履修)を除いた解答類型1～4の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 中学校2年 社会 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全 問 題		20	1	11	8
観 点 別	思考・判断	4	1	3	0
	技能・表現	5	0	2	3
	知識・理解	11	0	6	5

上回った：設定通過率10ポイント以上
 同程度：設定通過率±10ポイント
 下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回るもの、同程度であるものの合計が、20問中12問である。
- ・過去に実施した本県学習状況の同一問題、またはそれに類似する問題の通過率の比較では、5問中4問が上回った。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「思考・判断」では、4問中4問が上回っているか同程度である。「技能・表現」では、5問中3問が下回った。「知識・理解」では、11問中6問が同程度であった。

小問別通過率度数分布

中学校年別会小問別通過率度数分布表校 1学年20人以上データ提出した学校																					
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率
100%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	1	0
95~100%	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	3	8	3	0	0	0	0
90~95%	0	1	0	0	0	0	18	0	0	1	1	2	1	1	2	46	2	0	0	0	0
85~90%	1	0	0	1	0	0	18	0	0	0	0	6	8	0	3	35	6	0	1	0	0
80~85%	1	4	0	0	0	0	20	0	0	0	0	13	24	0	6	21	16	0	0	1	0
75~80%	3	1	0	0	1	0	26	0	0	0	0	22	27	4	5	8	29	1	0	0	0
70~75%	9	9	0	5	2	0	21	1	0	0	0	45	29	3	10	5	25	1	0	3	1
65~70%	12	12	0	5	5	3	9	1	0	0	1	18	16	14	16	0	22	1	0	4	0
60~65%	35	9	1	15	6	10	9	3	4	2	6	16	13	21	15	0	8	6	0	6	6
55~60%	33	11	0	12	8	13	2	9	3	3	5	5	6	18	15	0	8	5	0	3	22
50~55%	22	22	0	20	19	27	3	11	11	13	15	1	4	25	20	1	4	9	1	5	46
45~50%	8	9	0	22	19	26	0	16	23	15	19	0	0	23	11	0	2	8	0	10	37
40~45%	3	18	0	23	30	27	0	26	32	36	16	0	0	9	15	0	1	12	0	14	13
35~40%	0	9	2	10	20	14	0	28	22	25	25	0	0	9	1	0	1	20	2	13	3
30~35%	1	11	4	9	9	5	0	18	18	19	22	0	0	0	3	0	0	16	1	13	0
25~30%	0	4	10	3	6	3	0	6	11	10	11	0	0	0	1	0	0	16	13	18	0
20~25%	0	6	17	2	3	0	0	3	1	3	4	0	0	1	1	0	0	17	17	10	0
15~20%	0	1	41	1	0	0	0	4	1	0	3	0	0	0	0	0	0	10	24	4	0
10~15%	0	0	39	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	35	0	0
5~10%	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	26	0	0
0~5%	0	1	5	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8	23	0
	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、12) だけである。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、3) 5) 6) 9) 11) 18) 19) 20) の8問である。
- ・各校における通過率の差が50ポイント以上（未履修回答校を除く）あった問題は、1) 2) 4) 7) 8) 9) 10) 11) 14) 15) 17) 18) 19) 20) の14問である。

(2) 考察

2) は、秋田県のほか、愛知、山形、新潟、長野の各県の名前と位置が理解できていないと正答に結び付かないが、結果はほぼ設定通過率とおりであり、都道府県名の定着に対して各校が努力していることが分かる。

3) は、昨年度と同じような出題形式であった。県の平均通過率が、設定通過率に比べて非常に低い。緯度・経度を意識させながら世界の国々や大陸の位置関係をとらえる学習が十分に行われていないことがうかがえる。

4) と15) は、各学校の通過率のばらつきが特に大きい。時差などの計算を伴うような学習や、社会的事象を多角的にとらえてイメージをふくらませるような学習への取り組みについて、特に差が大きい。15) の記述式の問題については、設定通過率に近い通過率ではあるが、度数分布が20～90%の範囲に広がり学校間格差が大きい。

5) 6) 7) 等の地形図を使った問題について、地形図の読み取りに不慣れな状況がみられる。身近な地域の学習では実際にフィールドワークを通して学ぶことが望ましい。

8) のグラフ作成、14) の語句、15) の文章記述については無答率が高く、それぞれ3分の1近くが無答となっている。

表やグラフから特徴を読み取ったりグラフ化したりする8) 9) 等の問題は、全体的に通過率が低く、設定通過率を10～20%も下回っている。資料活用能力の育成が十分意識されていないように思われる。

小学校6年生の結果と同様、鎖国についての理解を問う18) の平均通過率が低い。外国との関連でとらえなければならない時代であるので、学習を組み立てる際に工夫が必要である。

19) 20) は、前述のように「歴史の流れ」について学習し、歴史学習の導入として位置付けられる問題である。新しく取り上げられた内容であるため、各校の取り組みの程度が浅かったことや、小学校での各時代の押さえが不十分であることなどが、極めて通過率が低かったことの理由と思われる。また、小学校で扱う内容をもとに出題されているが、問題中に中学校の歴史後半で扱う内容があることから、未履修と判断した学校があったと思われる。

(3) 今後の指導

今回の出題内容は、そのほとんどが用語的な知識のみでは解答できないものである。また、問題すべてを、実際の授業での学習方法をイメージして作成している。

学習指導要領の趣旨を理解し、授業改善に真剣に取り組んでいる学校の生徒ほど力が発揮できたと思われる。

地理的分野の「都道府県」や「国」の事例選択においては、どこを取り上げても共通して身に付けなければならない資質・能力があることを念頭において指導する必要がある。また、グラフや表からの読み取りなど、資料を活用する能力の育成を意識した授業を積み重ねたい。

歴史的分野では、「時代の流れ」を意識させながら、各時代ごとに大きくまとめる視点が特に求められる。そのためにも、学習内容を精選して年間指導計画を見直し、それを十分活用しながら授業を進めたい。

両分野とも、多面的に社会的事象をとらえさせ、異なる視点からとらえさせることにより、社会的思考力が高められ、基礎的・基本的内容についても定着を図ることができる。また、ねらいを明確にし、総合的な学習の時間との違いを意識して単元を構想したい。さらに、地域の規模に応じた調査等の新しい学習内容が多いことから、再度指導の手立てについて検討が必要である。

中学校 3 年
社 会

1 中学校3年 社会 評価規準と評価の観点

内 容	評 価 規 準	通し番号	観 点		
			思考 ・ 判断	技能 ・ 表現	知識 ・ 理解
(2)ウ	地	・世界の国々の諸事象を位置や空間的な広がりとかかわり度ととらえ、地理的事象として見いだしている。 ・国家規模の地域的特色をとらえる課題を追究するための視点や方法を考察し、適切に選択している。	1)		
(2)ウ	理	・世界の国々の地域的特色をとらえるために、地図の読み取り、統計のグラフ化や地図化などを通して、学習に役立つ情報を適切に活用している。 ・世界の国々の地域的特色を追究し考察した過程や結果を地図化したり報告書などにまとめたり、発表したりしている。	2) 3) 4) 5)		
(3)ア	的	・国内の諸地域の地域的特色を明らかにする視点や方法を考察している。	8)		
(3)ア	分	・世界的視野から見た日本の地域的特色をとらえるために、地図の読み取り、統計のグラフ化や地図化などを通して、学習に役立つ情報を適切に選択している。	6)		
(3)ア	野	・世界と日本を比較し関連付けて、地域的特色を明らかにする視点や方法を理解し、それらの知識を身に付けている。	7)		
(3)イ		・アの(ア)～(オ)の各項目で学習した成果を相互に関連付けて世界的視野からとらえた日本の地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。	9)		
(3)イ		・アの(ア)～(オ)の各項目で学習した成果を相互に関連付けて日本全体の視野からとらえた国内の地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。	10)		
(1)イ	歴 史 的 分 野	・身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域の歴史に関する様々な資料を収集し、適切に活用している。	11)		
(1)イ		・身近な地域の具体的な事柄とかかわらせ、我が国の歴史を理解している。	12)		
(5)イ		・明治維新の経緯のあらましや人々の生活の大きな変化に関する絵画、グラフなどの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	13)		
(5)ウ		・急速に近代化を進めた我が国の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましを、当時の国際情勢を背景に理解し、その知識を身に付けている。	14)		
(5)エ		・我が国の近代産業の発展とそこでの国民生活の変化及び近代文化の形成と文化の大衆化を多面的・多角的に考察し、公正に判断している。	17) 18)		
(5)オ		・第一次世界大戦の背景や戦後の国際協調の動き、政党政治の発達、社会運動の展開などを通して、第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましと我が国の国民の政治的自覚の高まりを多面的・多角的に考察し、公正に判断している。	16)		
(5)オ		・第一次世界大戦前後の我が国の動きと世界の動きのあらましを理解するとともに、この時期の我が国の国民の政治的自覚の高まりに気付き、その知識を身に付けている。	15)		
(5)キ		・第二次大戦後、国際社会に復帰するまでの我が国の民主化と再建の過程や国際社会への参加を多面的・多角的に考察し、公正に判断している。	20)		
(5)キ		・第二次大戦後、国際社会に復帰するまでの我が国の民主化と再建の過程を理解している。	19)		

通し番号	出題内容	平均通過率 (%)	設定通過率 (%)	0	100
(1)	工業地域の立地条件	68.6	60.0		
(2)	加工貿易国の特徴	75.9	60.0		
(3)	貿易黒字の特徴	57.9	55.0		
(4)	農業（綿花栽培）と自然条件	33.3	50.0		
(5)	アメリカ、中国、日本の農業の様子	48.4	45.0		
(6)	我が国の食糧事情	82.7	70.0		
(7)	我が国の食生活	58.9	55.0		
(8)	都心への通勤時間	59.9	60.0		
(9)	我が国の特徴	51.6	65.0		
(10)	地域の特色（阪神地方）	84.8	65.0		
(11)	江戸時代における飢饉	33.1	50.0		
(12)	大塩平八郎の乱	44.6	60.0		
(13)	明治時代初期の内閣総理大臣	80.6	80.0		
(14)	有権者の割合の移り変わり	50.2	60.0		
(15)	第一次世界大戦中の日本の動き	61.6	70.0		
(16)	第一次世界大戦後の世界の動き	73.5	65.0		
(17)	第一次世界大戦中・大戦後の日本経済	55.9	55.0		
(18)	第一次世界大戦中・大戦後の日本経済	57.7	55.0		
(19)	農地改革の様子	45.3	55.0		
(20)	国際社会への参加	45.9	55.0		

 は設定通過率 ± 10% を示している。

3 小問別反応率

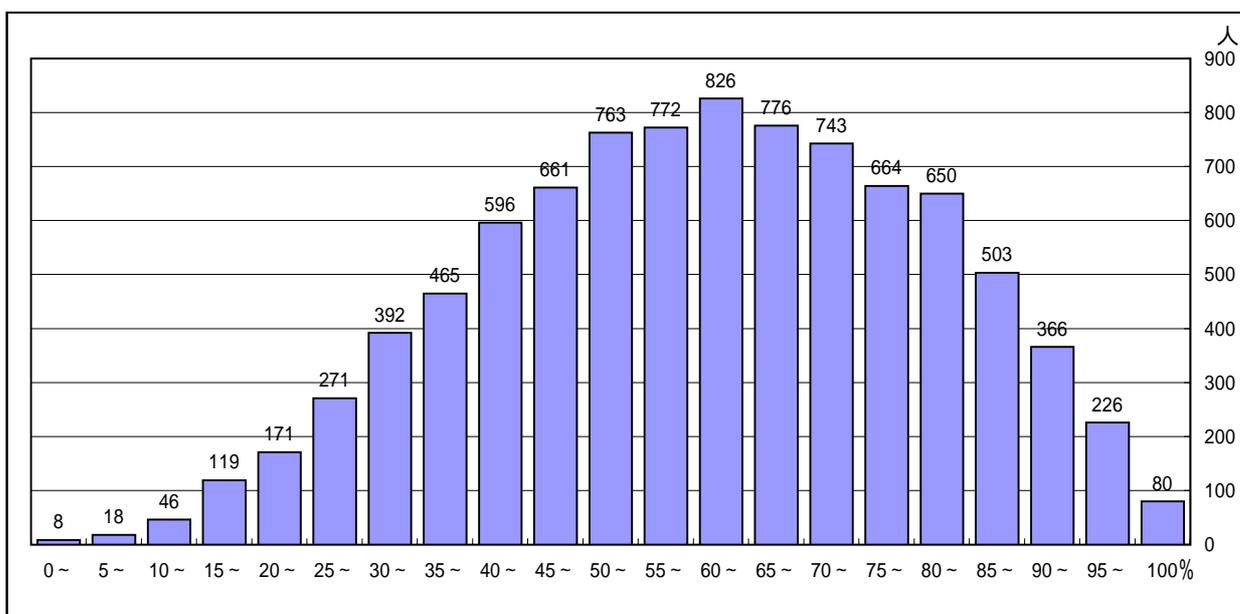
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)	
1	(1)	(1) 68.6%	5.3%	25.9%	0.2%	0.0%	
	(2)	(2) 75.9%	12.0%	11.7%	0.3%	0.0%	
	(3)	(3) 57.9%	22.4%	18.9%	0.8%	0.0%	
2	(1)	(4) 33.3%	15.5%	28.3%	22.9%	0.0%	
	(2)	(5) 48.4%	23.8%	27.1%	0.8%	0.0%	
3	(1)	(6) 82.7%	5.2%	11.6%	0.5%	0.0%	
	(2)	(7) 58.9%	17.2%	23.2%	0.6%	0.0%	
	(3)	(8) 59.9%	5.6%	33.6%	1.0%	0.0%	
4	(1)	(9) 51.6%	33.9%	13.9%	0.6%	0.0%	
	(2)	(10) 84.8%	9.8%	4.9%	0.5%	0.0%	
5	(1)	(11) 33.1%	15.9%	13.7%	37.3%	0.0%	
	(2)	(12) 44.6%	0.6%	18.0%	36.8%	0.0%	
6	(1)	(13) 80.6%	4.6%	6.6%	8.2%	0.0%	
	(2)	(14) 50.2%	18.2%	30.6%	1.0%	0.0%	
7	(1)	(15) 61.6%	23.9%	14.0%	0.5%	0.0%	
	(2)	(16) 73.5%	15.8%	10.1%	0.6%	0.0%	
	(3)	A (17)	55.9%	11.6%	31.7%	0.8%	0.0%
		B (18)	57.7%	12.6%	29.0%	0.8%	0.0%
8	(1)	(19) 45.3%	16.2%	36.5%	2.0%	0.0%	
	(2)	(20) 45.9%	26.1%	25.7%	2.3%	0.0%	

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	80	80
95～	0	0	226	306
90～	0	0	366	672
85～	0	0	503	1175
80～	0	0	650	1825
75～	0	0	664	2489
70～	6	6	743	3232
65～	15	21	776	4008
60～	36	57	826	4834
55～	44	101	772	5606
50～	31	132	763	6369
45～	3	135	661	7030
40～	0	135	596	7626
35～	0	135	465	8091
30～	0	135	392	8483
25～	0	135	271	8754
20～	0	135	171	8925
15～	0	135	119	9044
10～	0	135	46	9090
5～	0	135	18	9108
0～	0	135	8	9116

5 (未履修) を除いた解答類型 1～4 の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 中学校3年 社会科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全問題		20	3	13	4
観 点 別	思考・判断	6	0	6	0
	技能・表現	7	2	3	2
	知識・理解	7	1	4	2

上回った：設定通過率10ポイント以上
 同程度：設定通過率±10ポイント
 下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度であるものの合計が、20問中16問である。
- ・過去に実施した文部科学省や本県学習状況調査の同一問題、またはそれに類似する問題の通過率の比較では、9問中8問が上回り、他の1問も若干の低下が見られた程度であった。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「思考・判断」では、6問中6問が同程度、「資料活用の技能・表現」では、7問中5問が上回っているか同程度である。「知識・理解」については、7問中5問が上回っているか同程度という結果であった。
- ・無答率が20%を超えた問題が3問あったが、そのうち2問は文章での解答を求めるものであった。

小問別通過率度数分布

中学校3年社会 小問別通過率度数分布表(校)	1学年20人以上データを提出した学校																				平均通過率
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	
100%	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
95~100%	0	0	0	0	0	8	0	0	0	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
90~95%	1	4	1	0	0	20	0	0	1	23	0	0	14	0	0	1	0	0	0	0	0
85~90%	4	9	0	0	0	23	1	1	0	43	0	0	32	0	1	5	0	0	0	0	0
80~85%	9	23	1	0	0	36	2	3	3	32	0	1	32	0	4	20	0	0	0	0	1
75~80%	21	35	7	0	0	26	4	9	2	20	2	3	23	0	5	31	0	3	0	1	0
70~75%	27	34	4	2	1	13	10	15	6	5	0	6	10	0	16	38	10	7	3	4	4
65~70%	26	17	20	3	5	1	23	19	10	0	1	3	3	3	22	16	15	12	3	7	13
60~65%	19	4	20	3	10	0	21	20	17	0	4	2	4	13	26	12	20	28	8	7	35
55~60%	14	0	25	6	15	0	24	23	12	0	8	14	0	21	18	3	24	34	20	6	42
50~55%	5	0	24	5	27	0	25	14	23	0	8	13	1	29	21	1	26	24	15	21	30
45~50%	1	0	10	8	24	0	12	14	18	0	6	18	1	33	10	0	21	11	17	20	3
40~45%	0	0	10	13	24	0	3	3	14	0	11	20	2	15	2	0	8	6	25	21	0
35~40%	0	0	3	12	16	0	1	5	11	0	15	17	1	5	0	0	1	1	13	17	0
30~35%	0	0	0	18	5	0	0	0	3	0	17	14	0	5	1	0	2	1	13	10	0
25~30%	0	0	1	24	0	0	1	1	3	0	15	8	0	2	0	0	0	0	6	12	0
20~25%	0	0	0	18	0	0	0	0	3	0	15	5	0	0	1	0	0	0	3	0	0
15~20%	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	12	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10~15%	0	0	0	4	0	0	0	0	1	0	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5~10%	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、2) 6) 10) の3問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、4) 9) 11) 12) の4問である。
- ・各校における通過率の差が50ポイント以上あった問題は、3) 4) 7) 8) 9) 11) 12) 13) 15) 19) 20) の11問である。

(2) 考察

調査結果から、中学校3年生の学習の実現状況は、おおむね良好といえる。

設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、地理的分野の3問である。このうち2)は、加工貿易国かどうかを調べる資料を選択する問題であったが、他の資料に比べ授業で活用することも多いため、比較的高い通過率となったと思われる。また、10)は、「大震災」が大きなヒントとなり高い通過率となった。

一方、設定通過率を10ポイント以上の問題は、地理的分野2問、歴史的分野2問であった。このうち3問は、2つの資料を組み合わせて考察する問題である。4)は、アメリカにおける綿花の栽培地域を示す分布図を、気温と降水量からなる資料と重ね合わせて、綿花の栽培地域の気候面での特色を読み取る問題である。地理としては、基礎的な資料活用能力となるが、普段の授業でどの程度地図帳を活用しているか、また、資料から読み取れる内容を文章として表現させているかが問われる問題である。歴史の11)12)の通過率も低かった。その要因として考えられるのが、文章資料に接する機会の少なさである。視覚に訴える資料が増えているが、文章資料に接する機会が減っていないだろうか。さらに、歴史的事象の理解が断片的な知識の域から脱していないために、初めて読む資料を既習の学習内容と結び付けて類推する力に欠けるとともに、そのような場面で考察をあきらめてしまう傾向が見られる。「大塩平八郎」と答える12)の通過率が、50%を割り込むとともに、無答も多かった。見慣れない資料が出題されたとしても、基礎・基本がしっかりと定着できていれば、解答できる問題であった。

また、11)12)の問題は各校の正答率の開きが大きく、各校における授業での取り組みに差があるように思われる。地理では9)も正答率の開きが大きかった。世界遺産に関する部分で多少の戸惑いがあったと思われるが、国土に占める山地の割合、時差の発生する仕組み、秋田県に吹き込む季節風などの基礎的な理解が確かなものかどうか、正答率に反映したと考えられる。

(3) 今後の指導

「用語を覚えることが基礎であり、それらを使って思考・判断することが応用だ。」といったとらえが、生徒のみならず指導者にもないだろうか。確かな学力を育成するためには様々なアプローチがあるが、ここでは、用語をどう扱っていくことが基礎・基本の確かな定着につながるか、という視点で授業改善を考えたい。

例えば、2で指摘した「大塩平八郎(の乱)」は「社会の変動や欧米諸国の接近に対応した幕府の政治改革と政治の行き詰まりを理解させる」(学習指導要領から抜粋)学習の中に位置付けられる必要がある。言い換えれば、社会の変動と幕府政治の行き詰まりを学ぶ事例として「大塩平八郎(の乱)」を扱っているか、吟味してほしい。そのような扱いは「関心・意欲・態度」「思考・判断」「資料活用の技能・表現」を生かし育てる学習で、初めて可能となる。この学習過程で用語は、社会的事象の意味や関連を内包した価値ある学習内容となり、断片的な知識ではなく総合的な理解の一側面として生徒に定着する。それが「なるほど、分かった。」という状態であり、確かな学力が身に付いた一つの状態である。

「活動あって学びなし」という言葉がある。社会科においての学びとは、この「なるほど、分かった。」ということ、つまり社会的事象を社会科的な見方や考え方でとらえ、納得することが本質である。日々の学習が、確かな学びとなっているか点検していただきたい。その際、一緒に行われた意識調査も、点検の一つの指標として活用していきたい。意識調査も授業改善に結び付いてこそ、はじめて意義をもつものである。

小学校 4 年 算 数

1 小学校4年 算数 評価規準と評価の観点

領域	内 容	評 価 規 準	通し 番号	観 点			
				考 え 方	表 現 ・ 処 理	知 識 ・ 理 解	
A 数 と 計 算	(1)アイウ 数の表し方	・ 万の単位までの数の大きさについて、よんだり表したりすることができる。	(5)				
		・ 一つの数を、10倍、100倍したり10で割ったりした大きさをつくること ができる。	(6)				
	(2)アイウ 加法と減法	・ 3位数の加法及び減法の計算が確実にでき、それらを用いること ができる。	(1)				
		(3)アイウ 乗法	・ 2位数や3位数に1位数をかけたり、2位数に2位数をかけたりする計 算が確実にでき、それらを用いることができる。	(2) (3)			
			・ 2位数や3位数に1位数をかけたり、2位数に2位数をかけたりする計 算が確実にでき、それらを用いる場面を理解している。	(9)			
	・ 2位数や3位数に1位数をかけたり、2位数に2位数をかけたりする乗 法の計算の仕方を、乗法九九などの基本的な計算を基にして考える。	(10)					
(4)アイウ 除法	・ 除数と商がともに1位数である除法の計算が確実にでき、それを用 いることができる。	(4) (8)					
B 量 と 測 定	(1)アイウ エ 長さ、かさ、 重さの単位と 測定	・ 長さの単位(km)、かさの単位(ℓ)、重さの単位(g)を用いて、身 の回りの具体物の大きさを表したり測定したりすることができる。	(7)				
		・ 長さの単位(km)を知り、他の長さの単位との関係を理解している。	(14)				
		・ かさの単位(ℓ)(dl)、重さの単位(kg)の単位を知り、他の単位と の関係について理解している。	(20)				
	(3)アイ 時間	・ 生活での活動を通して、時間の大きさについての豊かな感覚をもってい る。	(11) (12)				
・ 必要な時刻や時間を求めることができる。		(13)					
C 図 形	(1)アイ 基本的な図 形	・ 頂点、辺、面という構成要素に着目し、その個数や形について調べる活 動を通して、箱の形の特徴を見つけることができる。	(15)				
		・ 正方形、長方形、直角三角形の意味を理解し、方眼紙上にそれらを作図 したり、紙を折ってそれらを作ったりすることができる。	(18)				
		・ 正方形、長方形、直角三角形の意味を理解している。	(19)				
D 数量 関係	(1)アイ 資料の整理 表とグラフ	・ 棒グラフのよみ方やかき方を理解している。	(16)				
		・ 棒グラフを見て、最大値や最小値の値をとらえたり、集団のもつ全 体的な特徴をよみとることができる。	(17)				

2 小学校4年 算数 小問別通過率と設定通過率

小問 番号	出題内容	平均 通過率 (%)	設定 通過率 (%)	0	100
(1)	3位数 - 3位数	82.9	70.0		
(2)	2位数 × 1位数	82.8	80.0		
(3)	2位数 × 2位数	56.1	70.0		
(4)	2位数 ÷ 1位数	88.6	90.0		
(5)	十進位取り記数法	92.0	90.0		
(6)	100倍した数	91.7	90.0		
(7)	はかり(重さ)をよむ	81.1	70.0		
(8)	2位数 ÷ 1位数の文章題	71.8	70.0		
(9)	2位数 × 1位数の文章題	62.7	90.0		
(10)	12 × 3の考え方の式をよむ	77.3	70.0		
(11)	時間の単位(秒)	80.4	90.0		
(12)	時間の単位(時間)	90.0	90.0		
(13)	何分後の時刻	87.7	80.0		
(14)	道のりを求める文章題	81.1	70.0		
(15)	直方体の面の形	84.1	80.0		
(16)	棒グラフの1メモリ	93.1	80.0		
(17)	棒グラフをよむ	69.9	70.0		
(18)	直角三角形をかく	66.9	70.0		
(19)	長方形・正方形の性質	67.5	70.0		
(20)	重さを求める文章題	93.4	80.0		

グラフ中の  は、設定通過率 ± 10% を示している。

3 小問別反応率

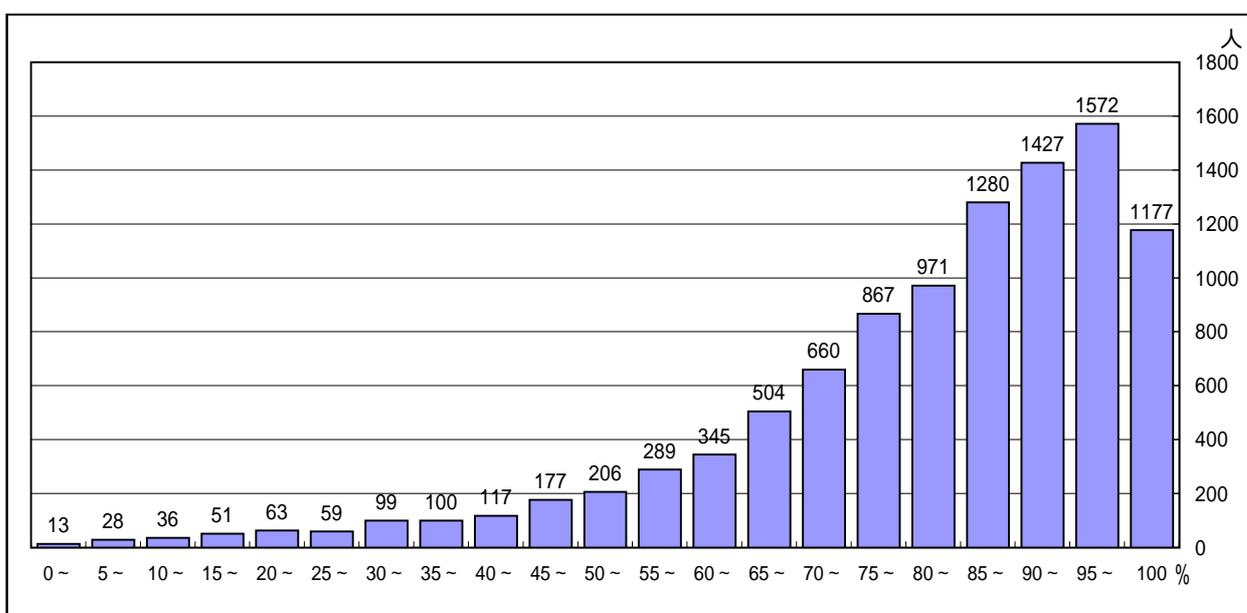
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)	
1	(1)	(1)	82.9%	1.8%	14.9%	0.4%	0.0%
	(2)	(2)	82.8%	0.5%	15.9%	0.9%	0.0%
	(3)	(3)	56.1%	1.9%	38.8%	3.2%	0.0%
	(4)	(4)	88.6%	3.5%	6.6%	1.3%	0.0%
2	(1)	(5)	92.0%	0.2%	7.3%	0.4%	0.0%
	(2)	(6)	91.7%	2.6%	5.0%	0.7%	0.0%
3	(7)	81.1%	0.2%	18.1%	0.7%	0.0%	
4	(8)	71.8%	3.2%	19.6%	5.4%	0.0%	
5	(1)	(9)	62.7%	0.8%	34.0%	2.5%	0.0%
	(2)	(10)	77.3%	11.7%	9.0%	1.9%	0.0%
6	(1)	(11)	80.4%	9.6%	7.3%	2.8%	0.0%
	(2)	(12)	90.0%	0.6%	6.8%	2.6%	0.0%
7	(13)	87.7%	0.4%	11.3%	0.7%	0.0%	
8	(14)	81.1%	1.1%	16.1%	1.8%	0.0%	
9	(15)	84.1%	9.1%	5.9%	0.9%	0.0%	
10	(1)	(16)	93.1%	2.5%	3.3%	1.1%	0.0%
	(2)	(17)	69.9%	22.5%	6.4%	1.3%	0.0%
11	(1)	(18)	66.9%	14.3%	15.5%	3.3%	0.0%
	(2)	(19)	67.5%	9.8%	19.7%	3.0%	0.0%
12	(20)	93.4%	0.2%	4.5%	2.0%	0.0%	

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	1177	1177
95～	11	11	1572	2749
90～	30	41	1427	4176
85～	48	89	1280	5456
80～	69	158	971	6427
75～	90	248	867	7294
70～	41	289	660	7954
65～	13	302	504	8458
60～	1	303	345	8803
55～	4	307	289	9092
50～	0	307	206	9298
45～	0	307	177	9475
40～	0	307	117	9592
35～	0	307	100	9692
30～	0	307	99	9791
25～	0	307	59	9850
20～	0	307	63	9913
15～	0	307	51	9964
10～	0	307	36	10000
5～	0	307	28	10028
0～	0	307	13	10041

5 (未履修) を除いた解答類型 1～4 の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 小学校4年 算数 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全問題		20	5	13	2
観 点 別	考え方	3	0	3	0
	表現・処理	10	2	7	1
	知識・理解	7	3	3	1

上回った：設定通過率10ポイント以上
 同程度：設定通過率±10ポイント
 下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回るか、または同程度であるものの合計が、20問中18問である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査の同一問題、またはそれに類似する問題との通過率の比較では、8問中8問すべてで上回っている。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「数学的な考え方」では、3問中3問が同程度、「表現・処理」では、10問中9問が上回っているか同程度、「知識・理解」では、7問中6問が上回っているか同程度という結果であった。
- ・無答率が一番高いものでも、8)の5.4%であり、どの問題によく取り組んでいる。

小問別通過率度数分布

小学校4年算数 小問別通過率度数分布表(1学年20人以上データを提出した学校)																					平均通過率
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	
100%	3	6	0	6	18	19	5	4	0	1	6	18	7	2	3	30	1	1	2	13	0
95~100%	20	8	1	25	46	43	8	4	3	4	13	37	21	4	13	46	0	1	1	64	2
90~95%	24	27	4	50	53	60	19	12	1	13	17	45	51	25	22	54	5	8	4	66	10
85~90%	32	33	7	47	32	17	30	14	4	17	32	37	39	32	42	30	9	9	8	25	22
80~85%	36	39	8	28	17	24	33	16	7	36	28	21	31	38	54	12	16	12	17	6	40
75~80%	30	25	11	11	5	10	36	30	11	37	26	8	15	33	27	2	19	17	19	3	65
70~75%	14	16	11	5	3	1	18	16	17	32	14	7	6	20	11	2	35	13	18	0	29
65~70%	13	14	10	2	1	1	11	19	30	18	20	1	5	11	5	0	34	29	27	0	7
60~65%	3	5	17	2	1	2	10	17	25	15	5	2	0	9	0	1	27	26	32	0	0
55~60%	0	2	19	0	0	0	6	12	23	1	10	1	2	1	0	0	19	15	19	0	2
50~55%	2	1	20	0	1	0	1	15	28	2	3	0	0	1	0	0	3	21	18	0	0
45~50%	0	1	15	0	0	0	0	7	11	0	3	0	0	0	0	0	5	11	4	0	0
40~45%	0	0	19	0	0	0	0	4	8	1	0	0	0	0	0	0	2	5	5	0	0
35~40%	0	0	15	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	0	0	0	1	4	2	0	0
30~35%	0	0	7	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	4	1	0	0
25~30%	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
20~25%	0	0	5	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15~20%	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5~10%	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、1)7)14)16)20)の5問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、3)9)の2問である。
- ・各校における通過率の差が50ポイント以上あった問題は、2)3)4)8)9)10)11)14)17)18)19)の11問である。

(2) 考察

調査結果から、小学校4年生の学習の実現状況はおおむね良好といえる。

設定通過率を10ポイント以上上回った問題は5問であった。例えば、小問20)では、設定通過率80%に対して、度数分布表では85~100%の範囲に入る学校がほとんどであった。各校の指導状況が大変よいことがうかがわれると同時に、今後の設定通過率の吟味の参考にしたい。

設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、3)9)の2問である。3)は、 98×45 という単純な(2位数) \times (2位数)の計算である。度数分布が5~100%まで広いことから、各校の結果に大きな差があることが分かる。設定通過率 $\pm 10\%$ の範囲に入っている学校やそれを上回っている学校も多くあることから、設定通過率がそれほど高いものとは考えにくい。子どもたちの計算力を高める学習は、各校において力を入れているところではあるが、この問題のように繰り上がりや繰り下がりが複数回あったり、あるいは計算過程に0を含んだりする問題になると正しく計算できない子どもが多く見られる。また、基本的な計算問題である小問1)2)で、各校における通過率の差が大きいかを考えると、基本的な計算問題の習熟を図る指導にはなお一層の工夫が求められる。

9)は、「花かざりを1つつくるのにリボンが75cm いります。8つ作るには、リボンはどれだけいるでしょうか、式を書きなさい。」という問題である。設定通過率90%に対して度数分布が50~80%に多くの学校が集中している。子どもたちがリボンテープを用いて花飾りをつくるのが少ないため、花飾りとリボンの関係を適切にとらえることのできないための誤答と思われる。子どもたちの生活体験・既習体験とずれた出題の仕方になっていたとも考えられるため、今後、類似問題を出題する場合には、出題内容、形式等について十分な検討が必要であると考えている。

8)9)10)は、演算や式表示の考えについて問う問題であったが、通過率の差が大きいかことから、事象を把握し、式に結び付ける部分の指導について課題があるのではないかと考えられる。

(3) 今後の指導

基本的な計算問題においても、各校における通過率の差が大きい。子どもたち一人一人の計算過程におけるつまづきを的確に把握し、それに応じたきめ細かな指導と、定期的に習熟を図るための学習を設定するなどの配慮と工夫が必要である。

問題解決学習において一つの問題を自力解決した後、考えを子どもたちから発表させることが多いが、10)の問題のように、式から考えをよむ活動や図から式を予想する活動を取り入れることによって、子どもたちはより深くその解決のための考えに触れる学習ができる。また、このことにより、どの考えが数学的によいのかなど数学のよさを感じさせる学習が可能となる。また、8)9)のような問題に数多く触れさせるためには、子どもたちに問題を作らせるなどの学習活動が有効である。子どもたちの多様な生活経験の中から出てきた問題を、教師が整理し、子どもたちとともに考えていくことによって子どもたちの問題解決能力を高めていきたい。

11)13)15)19)は、子どもたちが毎日接することができるような問題である。このような問題を取り上げ、そこから、さらに別の問題を発見させ、新たな学習に発展させ、数学的な考え方を一層深めさせる指導の工夫が求められる。

小学校 5 年 算 数

1 小学校5年 算数 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し 番号	観 点			
				考 え 方	表 現 ・ 処 理	知 識 ・ 理 解	
A 数 と 計 算	(1)ア 整数の表し 方	・億や兆の単位について知り、整数が十進位取り記数法によって表されるといいう仕組みについて理解している。	(8)				
		・億や兆の単位について知り、整数が十進位取り記数法によって表されるといいう仕組みについて理解している。	(5)				
	(2)アイ 概数と四捨 五入	・四捨五入を用いてある位までや上から何桁のような概数にすることができる。	(7)				
	(3)アイウ エ 整数の除法	・2位数を3位数を1位数や2位数で割る計算が確実にでき、必要な場面で活用できる。	(2 3)				
		(4)アイウ 小数の意味 とその計算	・整数で表せない大きさを小数を用いて表すことができる。 ・1/10の位までの小数の加法及び減法の計算ができる。	(9 1)			
	(5)アイ 分数の意味 と表し方	・1より小さい大きさや等分した大きさを分数を用いて表すことができる。	(10)				
		・分数は、単位分数のいくつ分かで表すことができることを理解している。	(6)				
	B 量 と 測 定	(1)アイウ 面積	・身の回りにある具体物の面積の大きさをとらえるなど、身の回りの広さを適切にとらえることができる。	(11)			
			・長方形や正方形の面積を公式を用いて求めることができる。	(12)			
			・長方形や正方形の面積の公式を、適切に用いることができる。	(18)			
(2)アイ 角の大きさ	・分度器を用いて角の大きさを測定したり、必要な角の大きさを作図したりすることができる。	(17)					
C 図 形	(1)アイウ 基本的な平 面図形	・辺の長さの相等関係に着目して、二等辺三角形、正三角形を見つける。	(13)				
		・作図などを通して、円の性質に気付く。	(16)				
D 数 量 関 係	(1)アイ 伴って変わる二つの数量の関係	・二つの数量の関係について、対応する数量があることに着目し、その対応のきまりを見いだすことができる。	(19)				
		・二つの数量の関係について、対応する数量があることに着目し、その対応のきまりを見いだし、それらの関係を考えることができる。	(20)				
	(2)アイ 数量の関係 の式	・四則の混合した式や()を用いた式について正しく計算することができる。	(4)				
	(3)アイウ 資料の分類 整理とグラ フ	・変化の様子を折れ線グラフに表すこと、グラフから変化をよみとることを理解している。	(14)				
		・数量の関係について、表や折れ線グラフに表したり、それらから変化の特徴をよみとったりすることができる。	(15)				

2 小学校5年 算数 小問別通過率と設定通過率

小問 番号	出題内容	平均 通過率 (%)	設定 通過率 (%)	0	100
(1)	小数 - 小数 (小数点第1位)	93.1	90.0		
(2)	3位数 ÷ 1位数	93.0	90.0		
(3)	3位数 ÷ 2位数(あまりあり)	85.3	80.0		
(4)	乗除の混じった計算	83.2	80.0		
(5)	80億の10倍	91.7	90.0		
(6)	分数の構成	94.3	80.0		
(7)	一万の位までの概数	84.9	70.0		
(8)	億までの数の表し方	83.4	80.0		
(9)	数直線上の小数の位置	94.5	80.0		
(10)	1 m の1/3の長さ	80.3	90.0		
(11)	教科書の表紙の面積の量感	36.9	60.0		
(12)	同じ面積の長方形をつくる	49.8	70.0		
(13)	正三角形の性質	62.8	70.0		
(14)	折れ線グラフのよみ	94.6	90.0		
(15)	折れ線グラフのよみ	85.9	80.0		
(16)	円の直径と半径	75.6	60.0		
(17)	角度(分度器)のよみ	93.3	90.0		
(18)	凹型の複合図形の面積	62.6	50.0		
(19)	正方形の1辺と周りの長さ	71.2	80.0		
(20)	正方形の1辺と周りの長さ	70.4	70.0		

グラフ中の  は、設定通過率 ± 10% を示している。

3 小問別反応率

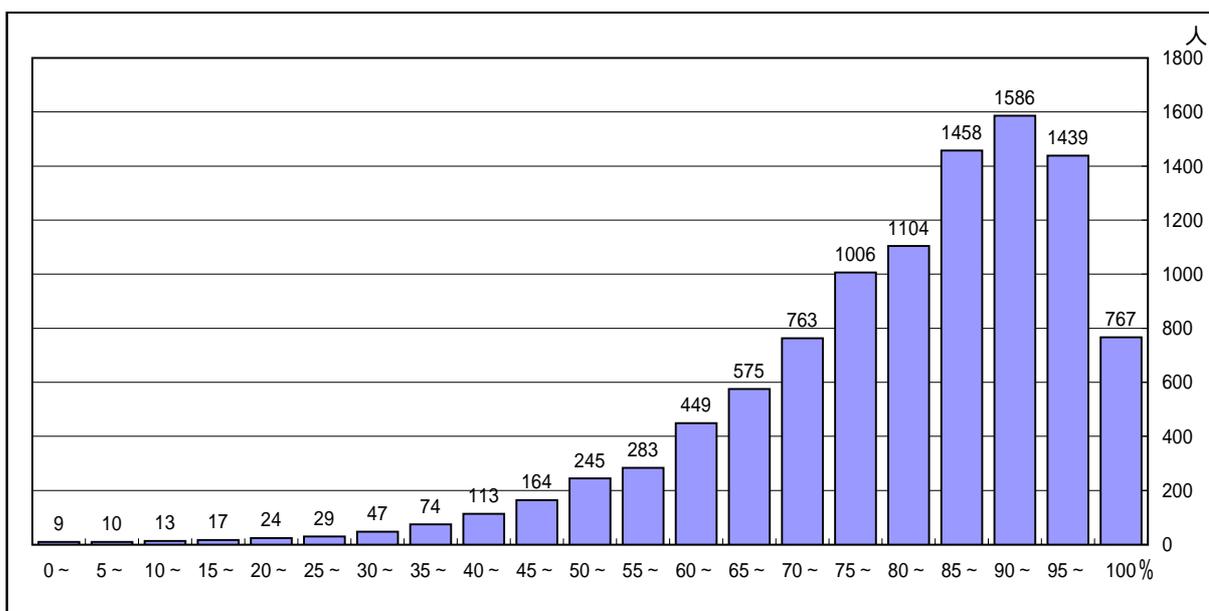
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)
1	(1)	(1) 93.1%	1.2%	5.5%	0.2%	0.0%
	(2)	(2) 93.0%	0.2%	6.2%	0.6%	0.0%
	(3)	(3) 85.3%	2.7%	10.5%	1.5%	0.0%
	(4)	(4) 83.2%	10.6%	5.3%	0.9%	0.0%
2	(1)	(5) 91.7%	2.7%	4.9%	0.6%	0.0%
	(2)	(6) 94.3%	1.2%	3.9%	0.6%	0.0%
	(3)	(7) 84.9%	5.4%	8.8%	1.0%	0.0%
3	(1)	(8) 83.4%	0.3%	15.3%	1.0%	0.0%
	(2)	(9) 94.5%	0.6%	4.6%	0.4%	0.0%
	(3)	(10) 80.3%	4.5%	13.0%	2.2%	0.0%
4	(1)	(11) 36.9%	59.4%	3.0%	0.7%	0.0%
	(2)	(12) 49.8%	37.6%	10.8%	1.7%	0.0%
5	(13)	62.8%	20.5%	14.6%	2.1%	0.0%
6	(1)	(14) 94.6%	2.0%	2.7%	0.7%	0.0%
	(2)	(15) 85.9%	3.8%	9.8%	0.5%	0.0%
7	(16)	75.6%	16.3%	6.9%	1.2%	0.0%
8	(17)	93.3%	1.3%	5.0%	0.4%	0.0%
9	(18)	62.6%	3.0%	30.9%	3.4%	0.0%
10	(1)	(19) 71.2%	13.1%	14.1%	1.6%	0.0%
	(2)	(20) 70.4%	0.9%	25.3%	3.4%	0.0%

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	767	767
95 ~	5	5	1439	2206
90 ~	12	17	1586	3792
85 ~	45	62	1458	5250
80 ~	90	152	1104	6354
75 ~	97	249	1006	7360
70 ~	38	287	763	8123
65 ~	14	301	575	8698
60 ~	2	303	449	9147
55 ~	2	305	283	9430
50 ~	1	306	245	9675
45 ~	0	306	164	9839
40 ~	0	306	113	9952
35 ~	0	306	74	10026
30 ~	0	306	47	10073
25 ~	0	306	29	10102
20 ~	0	306	24	10126
15 ~	0	306	17	10143
10 ~	0	306	13	10156
5 ~	0	306	10	10166
0 ~	0	306	9	10175

5 (未履修)を除いた解答類型1~4の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 小学校5年 算数 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
	全問題	20	5	13	2
観 点 別	考え方	5	2	2	1
	表現・処理	11	2	8	1
	知識・理解	4	1	3	0

上回った：設定通過率10ポイント以上
 同程度：設定通過率±10ポイント
 下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回るか、または同程度の問題は、20問中18問である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査の同一問題、またはそれに類似した問題における通過率の比較では、8問中8問すべてで上回っている。
- ・観点別に通過率と設定通過率を比較した場合、「数学的な考え方」では、5問中4問、「数量や図形についての表現・処理」においては、11問中10問、「知識・理解」4問中4問が上回っているか同程度という結果であった。
- ・無答率が一番高い問題でも、18) 20)の3.4%であり、どの問題にもよく取り組んでいる。

小問別通過率度数分布

小学校5年生算数 小問別通過率度数分布表(校)	1学年20人以上データ提出した学校																				平均通過率
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	
100%	16	20	5	7	14	30	9	1	38	3	0	0	0	37	7	0	19	0	0	0	0
95~100%	57	62	11	9	36	62	21	11	73	8	0	0	5	71	21	0	56	2	2	0	0
90~95%	65	51	31	31	64	63	35	26	41	24	1	1	1	55	39	10	69	1	4	1	5
85~90%	28	29	46	41	45	18	38	37	19	25	3	2	7	13	41	24	26	5	14	11	23
80~85%	9	14	45	37	16	5	33	44	6	35	1	8	14	3	30	31	7	12	15	18	46
75~80%	4	3	31	24	2	3	14	35	4	32	6	6	11	0	18	29	3	18	33	30	66
70~75%	0	1	4	15	3	0	9	16	0	23	3	7	23	0	16	32	0	29	26	36	28
65~70%	0	1	5	7	0	0	7	6	0	17	3	12	21	0	4	29	1	17	29	24	11
60~65%	0	0	3	6	1	0	6	5	0	8	5	12	18	0	3	10	0	16	24	26	1
55~60%	0	0	0	2	0	0	2	0	0	3	9	15	22	0	2	10	0	18	16	19	1
50~55%	0	0	0	2	0	0	3	0	0	2	8	14	29	0	0	2	0	22	9	9	0
45~50%	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	10	18	9	0	0	2	0	11	5	3	0
40~45%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	12	25	8	0	0	1	0	14	1	3	0
35~40%	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	15	27	4	0	0	1	0	7	3	0	0
30~35%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26	15	5	0	0	0	0	4	0	1	0
25~30%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	10	1	0	0	0	0	4	0	0	0
20~25%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	3	3	0	0	0	0	1	0	0	0
15~20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0~5%	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、6) 7) 9) 16) 18)の5問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、11) 12)の2問である。
- ・通過率の差が50ポイント以上あった問題は、1) 7) 10) 11) 12) 13) 14) 16) 18) 19) 20)の11問である。特に、11) 12) 13) 18)の問題の広がり大きい。

(2) 考察

調査結果から、小学校5年生の学習の実現状況はおおむね良好といえる。

設定通過率を10ポイント以上上回った問題は5問であるが、度数分布表から、2)のように、75～100%の範囲に入る学校がほとんどであり、無答率も3.4%以下であった。各学校の指導状況がよいことがうかがえる。しかし、16)18)の通過率はそれぞれ75.6%、62.6%で、設定通過率より高いものの学校間の格差が大きいなど課題も見られる。16)は、円の直径や半径に関する知識・理解をみる問題である。「小さい」円の半径を「大きい」円の半径と勘違いしたか、小さい円の「直径」と「半径」を区別がつかずに応えてしまったと思われる子どもが16%、その他の誤答が7%見られた。18)は、その他の誤答が31%と多く、誤答傾向もつかみにくい。子どもがどこでつまづいているのかを把握し、個に応じた指導を積み重ねる必要がある。

また、設定通過率を10ポイント以上下回った問題は11)12)で、学校間の格差がかなり大きい。11)は、算数の教科書の表紙の面積として(46cm²、460cm²、4600cm²)の中からふさわしいものを選ぶ問題である。4600cm²を選択した子どもや、無答の子どもはほとんどみられなかったものの、60%の子どもが46cm²を選択していた。普段の授業では、縦・横の長さが与えられ、面積を求める学習はよく行われているが、身の回りの広さを概数で感覚的にとらえたり、ある広さが与えられたときの縦・横の長さを推察したりする学習が不足しているものと考えられる。

12)は、一辺6mの正方形と面積が等しく、横9mの長方形をつくったときの縦の長さを求める問題である。無答の子どもは2%と多くはなかったものの、等積であることを縦と横の長さの和が等しいととらえ3mと反応した子どもが38%、その他の誤答が11%であった。一般に、児童は、面積が広いと感じるとき、周りの長さも長いと感覚的にとらえている。しかし、周りの長さが同じでも、さまざまな面積の長方形がつくられることから、周りの長さとの面積の関係の指導に工夫が求められる。

19)20)の問題は対応表からきまりを見つけたり、見つけたきまりを活用することができるかどうかをみる問題である。平均通過率が設定通過率の10ポイント以内にあるものの、度数分布のばらつきが大きい。2つの数量関係がつかめているのか、対応表の見方ができているのかなど、問題把握の段階から確認することが必要である。

(3) 今後の指導

1)～4)のような基本的な計算問題については、過去問との比較などから確実に力が付いてきていると考えられるが、学校間格差があるので、計算過程を吟味するなどの指導の工夫が求められる。

子どもたちが、自分で実際に作業や体験を通して学ぶ機会が多くなっているが、作業的・体験的な活動だけで終わっている授業が多くないだろうか。10)11)12)13)16)18)の結果から、具体物を用いたり、実際に作業や体験したりすることによって、子どもたちが具体的なイメージをつかみ、理解を確かにしたり、思考を深めたりしているのかをきちんと見取ることが大切である。また、課題提示を工夫し、追究して得た知識や技能、考え方を活用する場をもつことによって、問題解決的な学習が充実してくるものと考えられる。

小学校 6 年 算 数

1 小学校6年 算数 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し 番号	観 点		
				考 え 方	表 現 ・ 処 理	知 識 ・ 理 解
数 と 計 算	(1)ア 偶数と奇数	・ある整数を偶数か奇数に分けることができる。	(1)			
	(3)アイウ 小数の乗 法、減法	・1/10の位までの小数どうしの乗法及び除法の計算ができる。また、余りを求めることができる。	(2) (3)			
		・小数の乗法や除法がどのような場面でどのように用いられるか、判断できる。	(6)			
	(4)イウエ 分数の加 法と減法	・分数の大きさを数直線や線分図に表すなど、分数の大きさや構成についての豊かな感覚をもっている。	(8)			
		・同分母の真分数と真分数との加法及び減法の計算ができる。	(4) (5)			
		・整数や小数を分数で表したり、分数を整数や小数で表したりする方法について理解している。	(9) (10)			
B 量 と 測 定	(1)アイ 三角形、 平行四辺 形、円の 面積	・三角形、平行四辺形の面積を求めるため、必要な部分の長さが判断できる。	(14)			
		・三角形、平行四辺形の面積を求めることができる。	(15)			
		・円の面積の求め方を理解している。	(19)			
C 図 形	(1)アイウ 基本的な 平面図形	・いろいろな四角形の辺や角の相等関係、直線の平行、垂直などの位置関係に着目して、平行四辺形、ひし形の性質を理解し、それを適用できる。	(13)			
		・いろいろな四角形の辺や角の相等関係、直線の平行、垂直などの位置関係に着目して、平行四辺形、ひし形の性質を考える。	(16) (17)			
		・平行や直線の関係について理解している。	(18)			
		・円周率の意味について理解している。	(12)			
D 数 量 関 係	(1)ア 四則計算	・計算の範囲を小数に広げて、交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことを理解している。	(20)			
		・簡単な式で表されている関係について、数量の関係を調べることができる。	(11)			
	(2) 百分率	・百分率に関する基本的な計算ができる。	(7)			

2 小学校 6 年 算数 小問別通過率と設定通過率

小問 番号	出題内容	平均 通過率 (%)	設定 通過率 (%)	0	100
(1)	偶数と奇数の弁別	84.5	80.0		
(2)	小数×小数(小数第1位)	89.5	70.0		
(3)	小数(小数第1位)÷2位数	85.5	70.0		
(4)	同分母分数の加法	96.5	80.0		
(5)	同分母分数の減法	94.4	80.0		
(6)	小数のわり算の文章題	74.8	70.0		
(7)	百分率にあたる量	33.0	60.0		
(8)	2 m の 1 / 3 の長さ	20.4	60.0		
(9)	小数を分数に	65.0	70.0		
(10)	分数を小数に	67.1	70.0		
(11)	式から考え方をよむ	52.7	70.0		
(12)	円周と直径の関係	74.0	60.0		
(13)	平行四辺形の性質	63.0	60.0		
(14)	三角形の面積(式)	63.6	60.0		
(15)	三角形の面積(答)	64.4	60.0		
(16)	平面図形の性質	72.9	70.0		
(17)	平面図形の性質	71.3	70.0		
(18)	平行の確認	51.1	60.0		
(19)	円の面積	57.0	60.0		
(20)	計算のきまり	76.2	70.0		

グラフ中の  は、設定通過率 ± 10% を示している。

3 小問別反応率

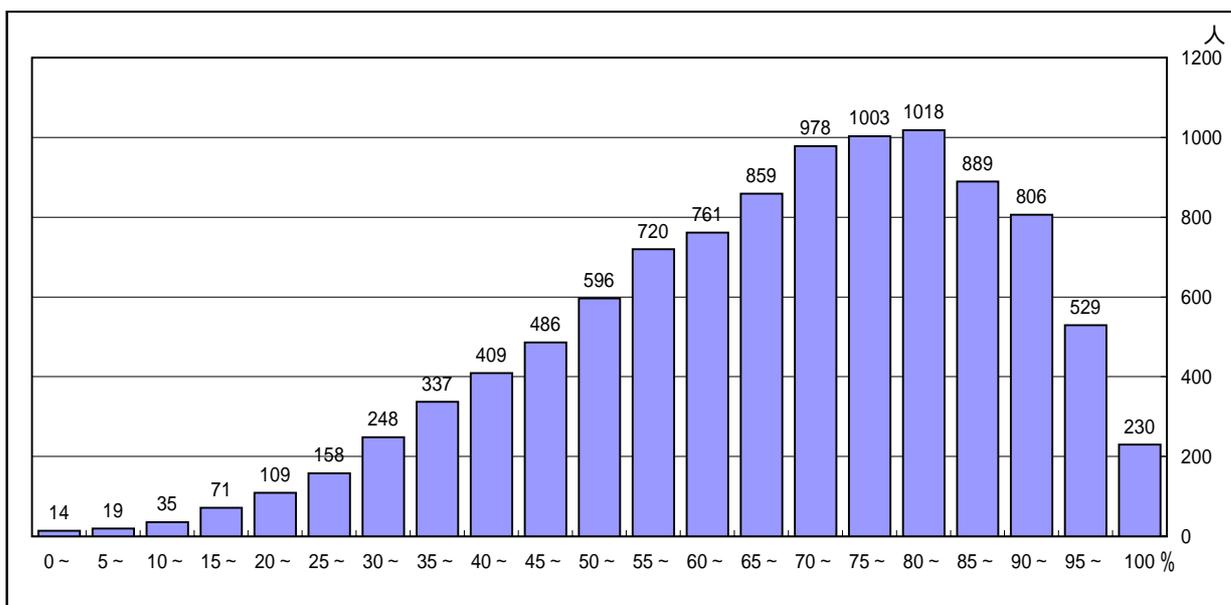
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)	
1	(1)	84.5%	3.2%	12.0%	0.3%	0.0%	
2	(1)	(2)	89.4%	4.2%	6.2%	0.2%	0.0%
	(2)	(3)	85.5%	5.7%	6.9%	1.8%	0.0%
	(3)	(4)	72.9%	23.6%	3.3%	0.2%	0.0%
	(4)	(5)	53.8%	40.6%	5.3%	0.2%	0.0%
3	(6)	74.8%	9.5%	13.4%	2.3%	0.0%	
4	(1)	(7)	33.0%	6.4%	51.4%	9.2%	0.2%
	(2)	(8)	20.4%	59.8%	17.3%	2.5%	0.0%
5	(1)	(9)	34.0%	31.0%	27.9%	7.1%	0.0%
	(2)	(10)	67.1%	0.7%	27.8%	4.4%	0.0%
6	(11)	52.7%	11.7%	34.3%	1.2%	0.0%	
7	(12)	74.0%	7.7%	16.7%	1.6%	0.0%	
8	(13)	63.0%	20.2%	15.5%	1.3%	0.0%	
9	式	(14)	63.6%	5.2%	22.8%	8.4%	0.0%
	答え	(15)	64.4%	5.1%	21.9%	8.7%	0.0%
10	(1)	(16)	72.9%	2.3%	24.3%	0.5%	0.0%
	(2)	(17)	71.3%	2.4%	25.7%	0.5%	0.0%
11	(18)	51.1%	20.7%	27.5%	0.6%	0.0%	
12	(19)	57.0%	3.8%	35.4%	3.7%	0.0%	
13	(20)	76.2%	14.0%	8.4%	1.4%	0.0%	

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	230	230
95~	1	1	529	759
90~	7	8	806	1565
85~	12	20	889	2454
80~	17	37	1018	3472
75~	38	75	1003	4475
70~	66	141	978	5453
65~	64	205	859	6312
60~	49	254	761	7073
55~	34	288	720	7793
50~	10	298	596	8389
45~	5	303	486	8875
40~	2	305	409	9284
35~	1	306	337	9621
30~	0	306	248	9869
25~	0	306	158	10027
20~	0	306	109	10136
15~	0	306	71	10207
10~	0	306	35	10242
5~	0	306	19	10261
0~	0	306	14	10275

5 (未履修)を除いた解答類型1~4の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 小学校6年 算数 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全問題		20	5	12	3
観 点 別	考え方	4	0	4	0
	表現・処理	9	4	3	2
	知識・理解	7	1	5	1

上回った：設定通過率10ポイント以上
 同程度：設定通過率±10ポイント
 下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度であるものの合計が、20問中17問である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査の同一問題、またはそれに類似する問題の通過率の比較では、7問中7問すべてが上回っている。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「数学的な考え方」では、4問中4問が同程度、「表現・処理」では9問中7問が上回っているか同程度である。「知識・理解」については、7問中6問が同程度という結果であった。
- ・無答率が最も高い問題は、7) 9.2%、15) 8.7%、14) の8.4%であった。

小問別通過率度数分布

小学校6年生算数 小問別通過率度数分布表校	1学年20人以上データを提出した学校																				平均通過率
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	
100%	7	12	5	54	24	4	0	0	1	1	0	0	2	1	1	0	1	1	0	0	0
95~100%	20	39	17	89	68	6	0	0	0	1	1	2	4	2	2	3	6	0	2	3	0
90~95%	31	48	40	34	67	22	0	1	14	7	0	8	19	3	4	7	8	0	3	8	2
85~90%	35	39	35	6	16	16	3	2	15	12	2	13	7	4	5	15	11	0	4	17	5
80~85%	38	25	41	0	7	28	3	2	18	16	6	34	10	17	13	23	13	4	8	29	6
75~80%	24	12	28	1	2	25	1	5	22	24	6	33	9	20	25	38	27	6	13	41	19
70~75%	17	5	11	0	1	22	1	2	17	23	10	40	19	20	21	29	30	4	17	41	37
65~70%	5	3	3	0	0	16	5	1	19	20	9	19	10	24	16	30	31	6	24	25	48
60~65%	7	2	3	0	0	16	2	4	12	25	15	20	12	22	23	21	26	23	12	10	33
55~60%	0	0	0	0	0	10	8	4	9	13	16	7	18	14	21	7	13	25	17	8	22
50~55%	1	0	0	1	0	9	8	2	14	18	36	8	13	16	15	8	12	38	22	3	8
45~50%	0	0	1	0	0	5	3	7	12	6	32	0	14	9	13	1	5	22	14	0	4
40~45%	0	0	1	0	0	3	19	5	5	10	21	0	14	11	10	2	2	27	12	0	0
35~40%	0	0	0	0	0	1	19	5	10	4	16	1	15	5	7	1	0	9	10	0	1
30~35%	0	0	0	0	0	1	26	10	4	3	9	0	13	10	6	0	0	12	11	0	0
25~30%	0	0	0	0	0	1	20	5	1	0	4	0	3	4	2	0	0	4	7	0	0
20~25%	0	0	0	0	0	0	23	8	3	2	1	0	2	0	0	0	0	2	3	0	0
15~20%	0	0	0	0	0	0	26	11	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	2	0	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	12	29	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	5	40	6	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	1	42	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0
	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、2) 3) 4) 5) 12) の5問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、7) 8) 11) の3問である。
- ・各校における通過率の差が50ポイント以上あった問題は、3) 6) 7) 8) 9) 10) 11) 12) 13) 14) 15) 16) 17) 18) 19) の15問である。

(2) 考察

調査結果から、小学校6年生の学習の実現状況はおおむね良好といえる。

設定通過率を10ポイント以上上回った問題は5問であるが、度数分布表から、例えば2)のように、75～100%の範囲に入る学校が多く、各学校の指導状況が大変よいことがうかがわれ、今後、設定通過率を吟味する際の参考にしたい。

また、設定通過率を10ポイント以上下回った問題は7)8)11)である。8)は、2mのテープを3等分した長さを求める問題である。各教科書でよく扱っている内容であるが、度数分布が0～95%まで広く分布していることから、各校の結果に大きな差があることが分かる。設定通過率±10%の範囲に入っている学校やそれを上回っている学校もある。割合分数としての1/3と答えた児童が60%おり、量分数と割合分数が混同を理解していると考えられる。分数の意味理解に関する学習は、各校において力を入れているところではあるが、再度「量の分け方を指示する」、「量の大きさを示す」、「割合を表す」、「整数の除法の結果を表す」などの意味を確認して指導する必要がある。また、分数の計算に関しては、面積図や数直線等を活用しながら、既習事項を生かして子ども自らが計算方法を考えていく過程を重視することが大事である。

11)は、おはじきを使って正方形の形をつくったときのおはじきの数を求める式について、どのような考えで求めたかを問う問題である。設定通過率70%に対して度数分布が40～55%の範囲に多くの学校が集中しているのは、数量の関係を表す式を読むことに不慣れな結果であると考えられるので、今後、このような学習を充実させる必要である。また、次回、類似問題を出題する際、設定通過率の吟味の参考にしたい

7)については、百分率の計算に関する問題であるが、その他の誤答が51.4%であり、計算技能に問題があったと考えられ、小数の乗法や除法の計算の方法について発展的にとらえさせることに課題がある。

14)については、三角形の面積を求める式を問う問題である。度数が0～100%の間に広く分布している。鈍角三角形では、底辺のとり方によって、高さが三角形の内部にならない場合があるが、その場合の底辺と高さの関係を正確にとらえていないことが考えられるので、厚紙でつくった鈍角三角形模型の高さを実測させるなどの指導の工夫が求められる。

(3) 今後の指導

学校間格差の大きい問題が15問ある。通過率が80%を越える基本的な計算問題においても、差が大きいことなどから、子ども自ら計算方法を考える過程を重視し、計算の意味理解を確実にし、習熟を図る指導の一層の工夫が必要である。

問題解決的な学習においては、子どもたちの考えを練り合わせる場面があるが、11)の問題のように、図から式を予想させたり、式から考えを読む活動を取り入れたりすることにより、子どもたちはより深くその解決のための考えに触れる学習ができる。このことにより、問題解決能力を高め、算数のよさを感じさせることができる。

また、18)のような問題や作業的・体験的な活動など算数的活動を積極的に取り入れ数量や図形に関する感覚を豊かにする指導が求められる。特に、量感覚については、基準となる量感覚を確実に身に付けさせ、具体物と量を結び付ける活動を通して、確かな量感覚をはぐくむことができるようにすることが大切である。

中学校 1 年
数 学

1 中学校1年 数学 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し番号	観 点		
				見方・考え方	表現・処理	知識・理解
A 数 と 計 算	(1)ア 約数、倍数	・整数を約数、倍数の観点から分類して考えることができる。	(6			
		・具体的な場面に即して、約数、倍数、公約数、公倍数を求めることができる。	(18			
	(2)アイウ 異分母の分数 の加法、減法	・異分母の分数の加法及び減法の計算ができ、それを用いることができる。	(1			
		・分数の相等及び大小の比べ方を理解している。	(3			
(3)アイウ 分数の乗法、 除法	・帯分数を含まない分数の乗法及び除法の計算ができ、それを用いることができる。	(2				
	・分数の乗法及び除法の計算が、どのような場面でどのように求められるかを理解している。	(5				
(4)ア 積、商の見積 もり	・積や商を概数で見積もる方法について理解している。	(8				
B 量 と 測 定	(1) 概形とおよそ の面積	・実物を実測するなどして、面積や体積の大きさについての豊かな感覚をもっている。	(9			
		・身近にある様々な図形の面積などを求めるために、その概形をとらえて、測定しやすい図形とみたり、測定しやすい図形に分けたりする工夫をする。	(10			
	(2)アイウ 体積	・立方体、直方体の体積を求めることができる。	(15			
(3)アイ 異種の二つの 割合	・異種の二つの量の割合でとらえられる速さや人口密度などの表し方を、単位量当たりの考えなどを用いて考える。	(16				
C 図 形	(1)アイウ 基本的な立体 図形と空間	・構成要素の個数、面の形、面の平行及び垂直の関係も含めて、立方体や直方体について理解している。	(13			
		・構成要素の個数、面の形、面の平行及び垂直の関係などに着目し、立方体や直方体を考察することができる。	(14			
		・立方体、直方体を見取り図や展開図で表すことができる。	(17			
D 数 量 関 係	(1) 簡単な比の意 味	・二つの数量の関係を比で表したり、調べたりすることができる。	(11			
	(2)ア 比例の表とグ ラフ	・日常生活の中の伴って変わる二つの数量の中から比例関係にあるものについて理解している。	(4			
		・比例関係にある二つの数量の関係を表やグラフに表すことができる。	(20			
(3) 平均の意味	・身の回りにある事柄について、平均の考えを用いて考察する。	(19				
			(7			

2 中学校1年 数学 小問別通過率と設定通過率

小問 番号	出題内容	平均 通過率 (%)	設定 通過率 (%)	0	100
(1)	異分母分数の加法	91.3	80.0		
(2)	整数÷分数	82.9	80.0		
(3)	分数の減法の文章題	72.2	70.0		
(4)	比の文章題	69.8	60.0		
(5)	分数の乗除の文章題	44.5	60.0		
(6)	倍数と順序数	30.9	60.0		
(7)	合計と平均の関係	35.2	60.0		
(8)	計算の見積もり	77.6	80.0		
(9)	mlの量感	76.1	70.0		
(10)	cm ² の量感	41.3	60.0		
(11)	立方体の辺と面との関係	11.1	50.0		
(12)	立方体の展開図	90.6	80.0		
(13)	単位あたりの量(比べ方)	70.7	60.0		
(14)	単位あたりの量(答)	61.1	60.0		
(15)	概形をとらえての求積	52.4	60.0		
(16)	直方体の面の形と体積	69.7	70.0		
(17)	直方体の面の形と体積	44.3	60.0		
(18)	最小公倍数を利用した文章題	76.7	60.0		
(19)	比例のグラフ	40.6	70.0		
(20)	比例関係にあるもの	47.7	60.0		

グラフ中の は、設定通過率±10%を示している。

3 小問別反応率

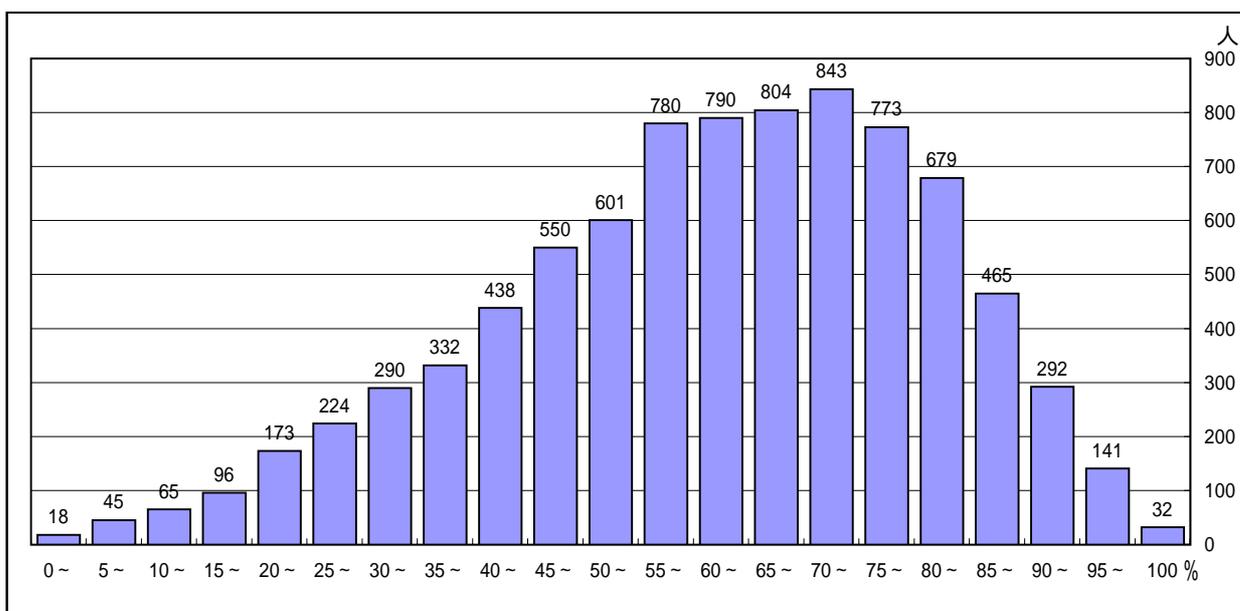
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)
1	(1)	(1) 91.3%	1.6%	6.7%	0.4%	0.0%
	(2)	(2) 82.9%	4.1%	11.9%	1.1%	0.0%
2	(1)	(3) 72.2%	1.1%	23.7%	3.0%	0.0%
	(2)	(4) 69.8%	12.0%	11.6%	6.6%	0.0%
3	(1)	(5) 44.5%	9.1%	29.5%	16.9%	0.0%
	(2)	(6) 30.9%	20.3%	46.2%	2.6%	0.0%
	(3)	(7) 35.2%	1.0%	58.1%	5.7%	0.0%
4	(8)	77.6%	1.4%	19.8%	1.2%	0.0%
5	(1)	(9) 76.1%	15.6%	7.5%	0.8%	0.0%
	(2)	(10) 41.3%	52.4%	5.7%	0.5%	0.0%
6	(1)	(11) 11.1%	18.0%	68.9%	2.0%	0.8%
	(2)	(12) 90.6%	0.5%	7.6%	1.3%	0.0%
7	(1) 比べ方	(13) 70.7%	2.2%	15.5%	11.6%	0.0%
		答え (14) 61.1%	32.7%	1.0%	5.2%	0.0%
	(2)	(15) 52.4%	21.9%	22.8%	2.8%	0.0%
8	(1)	(16) 69.7%	3.1%	23.6%	3.5%	0.1%
	(2)	(17) 44.3%	6.0%	46.1%	3.6%	0.0%
	(3)	(18) 76.7%	0.9%	17.1%	5.2%	0.0%
9	(1)	(19) 40.6%	19.2%	35.3%	5.0%	0.0%
	(2)	(20) 47.7%	9.5%	31.3%	11.4%	0.0%

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	32	32
95～	0	0	141	173
90～	0	0	292	465
85～	0	0	465	930
80～	0	0	679	1609
75～	1	1	773	2382
70～	3	4	843	3225
65～	12	16	804	4029
60～	45	61	790	4819
55～	52	113	780	5599
50～	17	130	601	6200
45～	2	132	550	6750
40～	2	134	438	7188
35～	0	134	332	7520
30～	0	134	290	7810
25～	0	134	224	8034
20～	0	134	173	8207
15～	0	134	96	8303
10～	0	134	65	8368
5～	0	134	45	8413
0～	0	134	18	8431

5 (未履修)を除いた解答類型1～4の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 中学校1年 数学 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全問題		20	4	8	8
観 点 別	見方・考え方	7	1	3	3
	表現・処理	7	3	3	1
	知識・理解	6	0	2	4

上回った：設定通過率10ポイント以上

同程度：設定通過率±ポイント10

下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度であるものの合計が、20問中12問である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査及び国の教育課程状況調査の同一問題、またはそれに類似する問題の通過率の比較では、7問中5問が上回っている。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「数学的な考え方」では7問中3問が、「表現・処理」では8問中6問が上回っているか同程度である。「知識・理解」については、5問中3問が同程度という結果であった。
- ・解答類型から見てみると、無答率が10%を超えたものが、20問中が3問である。その3問は式、記述、言葉での解答が必要な問題である。
- ・無答率が10%を超える問題は、5)13)20)の3問であり、これらは、式を書かせたり、比べ方を書かせたりする問題である。

小問別通過率度数分布

中学校1年数学 小問別通過率度数分布表(校) 1学年20人以上データを提出した学校																					
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率
100%	2	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
95~100%	25	1	0	1	0	0	0	0	3	1	0	18	1	0	0	1	0	1	0	0	0
90~95%	54	20	2	7	0	0	0	3	7	2	0	55	4	0	0	0	0	5	0	0	0
85~90%	33	34	3	8	0	0	0	16	10	1	0	39	3	2	0	3	0	15	0	0	0
80~85%	9	26	13	7	0	0	0	31	2	5	0	5	19	1	1	10	0	33	0	0	0
75~80%	1	27	27	8	1	0	0	38	22	4	0	1	24	3	0	22	0	26	1	0	0
70~75%	0	7	39	21	1	0	1	15	30	2	0	1	18	8	3	30	1	18	4	2	3
65~70%	0	4	18	21	2	0	0	16	20	1	0	2	26	23	11	26	1	14	5	5	11
60~65%	0	4	10	23	3	1	0	4	3	2	0	0	8	35	20	20	3	6	6	10	42
55~60%	0	1	10	14	8	0	1	0	4	6	0	0	6	24	23	6	5	3	4	16	50
50~55%	0	0	2	9	18	2	8	0	0	4	1	0	7	20	21	4	17	2	12	19	15
45~50%	0	0	0	3	24	3	7	0	2	12	0	0	3	6	12	1	29	0	12	23	2
40~45%	0	0	0	0	24	6	17	0	0	12	0	0	1	1	20	1	24	1	11	24	1
35~40%	0	0	0	0	27	26	27	0	1	21	0	0	2	0	9	0	30	0	16	16	0
30~35%	0	0	0	0	11	27	29	0	0	20	1	0	1	1	3	0	8	0	30	4	0
25~30%	0	0	0	0	3	28	21	0	0	17	2	0	1	0	0	0	4	0	11	4	0
20~25%	0	0	0	0	2	18	8	0	0	11	4	0	0	0	1	0	2	0	6	0	0
15~20%	0	0	0	0	0	9	2	0	0	2	18	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0
10~15%	0	0	0	0	0	2	2	0	0	1	38	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	42	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、1)12)13)18)の4問である。
- ・設定通過率を10ポイント以下下回った問題は、5)6)7)10)11)17)19)20)の8問である。
- ・各校における通過率の差が50ポイント以上あった問題は、4)5)6)7)8)9)10)11)13)14)15)16)17)18)19)20)の16問である。

(2) 考察

設定通過率を10ポイント以上上回った問題は4問であるが、そのうち1)12)は、通過率が90%を超えており、各校における通過率の差も少ない。各学校での指導状況が大変よいことがうかがえる。13)は人の混み具合の問題であるが、多様な解決方法が存在することから通過率が高かったものと思われる。

設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、8問ある。これらの問題に共通することは、問題を解決するための見方や考え方に複数の要素が挙げられることである。例えば、6)は、「数式における見方や考え方」「関数的な見方や考え方」などがかかっている。このような複数の要素がからむ問題では、生徒が正確に問題を把握し、各解決段階で適切にその考えを働かせ、解決していくことが求められる。なお、「関数的な見方や考え方」については、例えば、20)でも通過率が低いことなどから、課題が多いと考えられる。11)も図形に対する見方や考え方や論理的に考える力などが必要とされる複数の要素がからむ問題である。実際に展開図をつくり、組み立て、考察する学習は行われているが、それを頭の中で組み立て、考察する学習が不足しているものと考えられる。ほとんどの学校が0~20%のところに分布しており、展開図、立方体における辺と面の位置関係を関連したものとして扱う工夫も必要であろう。また、今後、類似問題を出題する際の設定通過率の吟味の参考としたい。

10)は、 2400cm^2 という面積が何を表すかを選択肢で答えるものである。52.4%(通過率41.3%)の生徒が教室の面積と答えているが、小学校5年生の教科書の表紙の面積を問う問題の通過率も低かったことを考え合わせると、数や量に対する豊かな感覚の育成がこの学年でも課題となっていることが分かる。また、度数が広い範囲に分布していることから各校の指導状況に大きな差があることが分かる。

13)14)は、人の混み具合の比べ方を問われているが、答えを求める14)の通過率が比べ方を答える13)の通過率より9.6ポイント下がっている。基準とした量に対して比較する量が何を意味しているのか生徒がしっかりととらえていないと考えられる。ここでも、6)と同様、「数式における見方や考え方」の育成に課題があるといえる。

(3) 今後の指導

観点別で通過率をとらえると、「表現・処理」についてはおおむね良好といえるが、「数学的な考え方」「知識・理解」については良好とはいえない状況である。各校においては、「表現・処理」の力を一層向上させながら、「数学的な考え方」「知識・理解」を高めていくことが望まれる。

日々の授業において、どの観点の何をねらい、どんな生徒の姿でそれを評価し、どう確実な定着に結び付けるのかを明確にした実践が求められる。

問題を解決するための見方や考え方に複数の要素がからむ問題等についても意図的に取り上げ、指導をしていく必要がある。論理的に考える力は数学の問題解決に欠かせないものであるが、それを育てる学習の一つが数学である。事象を数理的に考察する機会を多くし、その能力を高め、活用していく授業を進めていきたいものである。

また、今回調査した問題は小学校の内容であり、十分に定着していない内容もみられることなどから、各校においては、自校に入学してきた1年生のレディネスを各单元ごとに把握して、指導に生かすことが重要である。また、本調査の結果を関係小学校へ伝えるなど、小・中間で連携を図りながら、学習を進めることが必要である。

中学校 2 年
数 学

1 中学校2年 数学 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し 番号	観 点		
				見方・ 考え方	表現・ 処理	知識・ 理解
数 と 計 算	(1)アイ 正の数・負 の数	・正の数・負の数の大小関係、不等号や絶対値の意味を理解している。	(1)			
		・正の数・負の数の四則計算ができる。	(2)			
		・基準に対し反対の方向や性質を表す場面で、正の数・負の数を用いて考えることができる。	(3)			
	(2)アイウ 文字と式	・簡単な一次式の加法と減法の計算ができる。	(4)			
		・事象の中にある数量やその関係を文字式を使って表現することができる。	(5)			
		・事象の中にある数量やその関係・法則を文字を用いて表現し、一般的に考えることができる。	(6)			
	(3)アイウ 一元一次方 程式	・簡単な一元一次方程式を解くことができる。	(7)			
		・具体的な事象の中の数量の関係をとらえ、一元一次方程式をつくることができる。	(8)			
図 形	(1)アイ 平面図形	・角の二等分線を作図することができる。	(9)			
		・作図した図形が条件に適するものであるかどうか振り返って考えることができる。	(10)			
	(2)ウ 図形の計量	・錐体の表面積と体積を求めることができる。	(12)			
	(3)アイ 立体図形	・空間における直線や平面の位置関係を分類することができる。	(13)			
		・柱体・錐体などの空間図形は、平面図形の運動によって構成されることを理解している。	(11)			
		・見取図や展開図を目的に応じて調べ、空間図形を平面図形に帰着させて考えることができる。	(14)			
数 量 関 係	(1)アイウエ 比例・反比 例	・反比例のグラフの特徴を理解している。	(15)			
		・比例の式 $y = ax$ とグラフの特徴を理解している。	(16)			
		・比例や反比例の関係を式で表すことができる。	(17)			
		・比例のグラフを読みとり、その関係を式などで表現することができる。	(18)			
		・具体的な事象を、変域を意識しながら比例、反比例の見方や考え方を生かして調べることができる。	(19)			
		・比例の表、式、グラフを用いて具体的な事象について考察することができる。	(20)			

2 中学校 2年 数学 小問別通過率と設定通過率

小問 番号	出題内容	平均 通過率 (%)	設定 通過率 (%)	0	100
(1)	正負の数の大小	45.5	60.0		
(2)	正負の数の加減乗除混合計算	84.5	70.0		
(3)	正負の数の利用	35.6	50.0		
(4)	一次式の加法と減法	77.4	70.0		
(5)	a m の $\frac{2}{3}$ の長さ	35.6	60.0		
(6)	文字を用いての立式	33.9	50.0		
(7)	一次方程式の計算	79.1	80.0		
(8)	一次方程式の文章題(式)	62.3	60.0		
(9)	角の二等分線の作図	72.0	70.0		
(10)	角の二等分を利用した求角	16.5	50.0		
(11)	回転体と見取り図	89.2	80.0		
(12)	回転体の求積(円錐)	43.9	60.0		
(13)	立方体の辺と面の関係	62.7	60.0		
(14)	立体の展開図と対応する頂点	34.3	50.0		
(15)	反比例のグラフと座標平面	65.7	70.0		
(16)	比例定数と傾き	47.5	60.0		
(17)	対応表と反比例の式	32.9	60.0		
(18)	比例のグラフと式	41.4	60.0		
(19)	比例の x 変域と y 変域	15.6	50.0		
(20)	比例の利用	46.0	50.0		

グラフ中の は、設定通過率 $\pm 10\%$ を示している。

3 小問別反応率

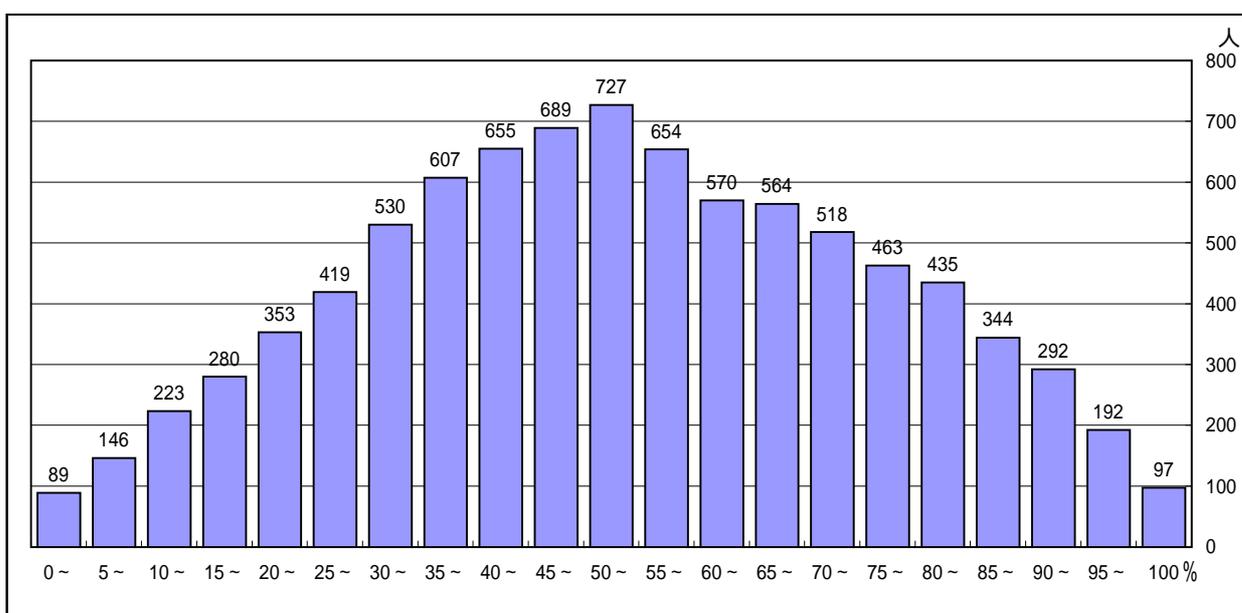
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)	
1	(1)	(1)	45.5%	15.8%	36.9%	1.8%	0.0%
	(2)	(2)	84.5%	4.2%	10.5%	0.8%	0.0%
	(3)	(3)	35.6%	13.4%	43.3%	7.6%	0.0%
	(4)	(4)	77.4%	8.9%	12.0%	1.8%	0.0%
2	(1)	(5)	35.6%	9.2%	50.3%	4.9%	0.0%
	(2)	(6)	33.9%	11.2%	44.5%	10.4%	0.0%
3	(1)	(7)	79.1%	4.1%	13.8%	3.1%	0.0%
	(2)	(8)	62.3%	3.4%	24.2%	10.1%	0.0%
4	(1)	(9)	72.0%	3.9%	14.0%	10.2%	0.0%
	(2)	(10)	16.5%	1.4%	58.4%	23.7%	0.0%
5	(1)	(11)	89.2%	4.6%	5.7%	0.6%	0.0%
	(2)	(12)	43.9%	10.2%	30.8%	15.0%	0.0%
6	(1)	(13)	62.7%	12.2%	23.7%	1.4%	0.0%
	(2)	(14)	34.3%	14.4%	42.9%	8.4%	0.0%
7	(1)	(15)	65.7%	13.8%	14.4%	6.1%	0.0%
	(2)	(16)	47.5%	9.7%	39.5%	3.3%	0.0%
	(3)	(17)	32.9%	0.6%	47.7%	18.8%	0.0%
8	(1)	(18)	41.4%	0.5%	42.7%	15.4%	0.0%
	(2)	(19)	15.6%	8.0%	40.9%	35.5%	0.0%
	(3)	(20)	46.0%	1.1%	38.6%	14.2%	0.0%

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	97	97
95～	0	0	192	289
90～	0	0	292	581
85～	0	0	344	925
80～	0	0	435	1360
75～	0	0	463	1823
70～	1	1	518	2341
65～	3	4	564	2905
60～	11	15	570	3475
55～	20	35	654	4129
50～	44	79	727	4856
45～	34	113	689	5545
40～	13	126	655	6200
35～	7	133	607	6807
30～	2	135	530	7337
25～	0	135	419	7756
20～	0	135	353	8109
15～	0	135	280	8389
10～	0	135	223	8612
5～	0	135	146	8758
0～	0	135	89	8847

5 (未履修) を除いた解答類型 1～4 の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 中学校2年 数学 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全問題		20	1	8	11
観 点 別	考え方	7	0	2	5
	表現・処理	7	1	3	3
	知識・理解	6	0	3	3

上回った：設定通過率10ポイント以上
 同程度：設定通過率±10
 下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度であるものの合計が、20問中9問である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査の同一問題、またはそれに類似する問題の通過率の比較では、6問中6問全てが上回っている。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「数学的な考え方」では7問中2問が同程度、「表現・処理」では7問中4問が上回っているか同程度である。「知識・理解」については6問中3問が同程度という結果であった。
- ・無答率が高かったのが、(19の35.5%であり、ついで(10の23.7%となっている。また、無答率が10%を越えている問題は、6)8)9)12)17)18)20)である。

小問別通過率度数分布

以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率	
100%	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
95~100%	0	8	0	1	0	0	1	0	3	0	17	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
90~95%	0	23	0	5	0	0	13	1	10	0	45	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	
85~90%	0	37	0	20	1	0	15	3	8	0	37	0	3	0	5	0	0	0	0	0	1	
80~85%	1	26	0	31	0	1	37	5	25	0	16	2	3	0	12	1	0	0	0	1	0	
75~80%	1	18	0	35	1	0	25	11	15	0	1	2	8	2	12	3	0	1	0	2	0	
70~75%	2	9	0	16	0	2	20	7	20	0	3	3	21	0	18	12	1	3	0	2	1	
65~70%	1	2	0	7	2	1	9	18	21	0	2	3	26	1	19	3	0	5	0	5	3	
60~65%	5	1	1	4	0	1	3	30	8	1	0	10	22	0	19	7	2	5	0	10	9	
55~60%	11	2	1	2	1	2	2	20	4	1	0	9	15	1	16	8	5	7	0	7	19	
50~55%	20	0	6	3	3	4	1	17	6	1	1	11	17	1	15	17	4	12	0	18	44	
45~50%	30	0	12	1	8	9	1	8	5	1	0	15	5	7	5	13	7	13	1	20	33	
40~45%	23	0	19	2	17	21	0	4	1	2	0	20	6	9	1	22	15	21	0	21	12	
35~40%	17	0	26	0	29	11	0	3	1	6	0	16	1	32	2	18	16	15	2	20	6	
30~35%	7	0	29	0	29	22	0	1	0	5	0	14	0	43	1	13	19	13	4	11	1	
25~30%	8	0	16	0	22	23	0	0	0	12	0	16	0	16	1	7	23	17	5	6	0	
20~25%	2	0	11	0	13	13	0	0	1	11	0	5	0	13	0	1	13	9	24	3	0	
15~20%	0	0	6	0	2	11	0	0	0	17	0	0	0	2	0	2	11	5	22	0	0	
10~15%	0	0	1	0	0	6	0	0	0	31	0	2	0	1	0	1	8	1	39	1	0	
5~10%	0	0	0	0	0	1	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	3	1	24	0	0	
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	1	0	7	0	0	
	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、1)である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、1)3)5)6)10)12)14)16)17)18)19)の11問である。
- ・各校における通過率の差が50ポイント以上あった問題は、1)4)5)6)8)9)10)12)13)14)15)16)17)18)20)の15問である。

(2) 考察

調査結果から、中学校2年生の学習の状況は、過去に実施した学習状況調査の同一問題またはそれに類似する問題の通過率との比較において、向上してきているといえる。

しかし、設定通過率との比較では下回っている問題数が多い。19)では、ほとんどの学校で設定通過率を下回っており、このような問題については今後、設定通過率を設定する際に参考にしたい。

設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、2)の正の数・負の数の計算であり、小問別通過率度数分布をみるとほとんどの学校が設定通過率を越えている。文字式の計算、一次方程式の解法などの計算においても設定通過率に比較してよくできており、計算能力はおおむね良好と判断できる。

また、設定通過率を10ポイント以上下回った問題は11問あったが、特に、数学的な見方・考え方の観点で出題された問題についての通過率が低い。10)の問題は過去に実施した問題と出題の形式を変えている。焦点化された問題の答えを単に求めるだけでなく、条件をいろいろ変えながら図から成り立つ性質をよみとる活動を大切にする必要がある。5)は、テープ図の数量を分数を用いて表す問題であった。テープ図や線分図を文字式に表す力は、方程式や関数の学習においても大切な基礎・基本であり、より確かな定着が求められる。

領域別にみると、数量関係における問題では、設定通過率に比べて正答率が低い傾向がみられる。19)は、比例の関係をグラフより読みとり、それを式化する、変域を求めるといふ、多様な思考を必要とする問題である。数量関係の問題において、複合的な要素のある問題には苦手な傾向がみられる。17)は、表より反比例の関係にあるものを見つけ出しその関係を式に表す問題であるが、反比例を感覚的に理解している生徒が多く、定義に立ち返って判断する考え方にまだ慣れていない状況である。

6)17)20)は、各校における正答率に75ポイントの差があった。6)の問題はマッチ棒を使って、正三角形を n 個つくるときに必要なマッチ棒の本数を問う問題である。各校とも、マッチ棒で正方形をつくる学習は行っているようであるが、操作的な活動を学習に取り入れる場合、何を目指した活動なのかを生徒に把握させ、活動に取り組みせる必要がある。

(3) 今後の指導

「数と式」の領域はおおむね改善されてきている。ただし、文字式を用いた表現や文字式による事象の考察では、設定通過率を下回っている。身の回りの事象について、文字式を用いて表現したり、式を読んだりする活動を重視した授業を大切にしたい。

図形においては簡単な理解・処理はよくできているが、文部科学省の調査では、円の面積を求める公式の活用力が不十分な傾向が見られた。今回の本県調査でも、円錐の体積を求める問題で正答率が低い。他の単元でも、錘体の体積等をからめた問題を意図的に取り入れるなどの工夫によって、学習内容の確実な習得を図る必要がある。

数量関係については、式・表・グラフの理解や活用ができていない。ただ単に、比例の式や反比例の式を求めさせることなど、単発的な処理能力を求めるのではなく、問題解決において、式・表・グラフが有用であることを十分感得させる授業を通して、確実な理解を目指す必要がある。

中学校 3 年
数 学

1 中学校3年 数学 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し 番号	観 点		
				見 方 ・ 考 え 方	表 現 ・ 処 理	知 識 ・ 理 解
数 と 式	(1)アイウ 式の計算	・簡単な整式の加法及び減法の計算ができる。	(1)			
		・単項式の乗法・除法の仕方を理解している。	(2)			
		・事象を文字式を使って表現したり、文字式が意味することを読みとったり、一般的な説明ができることを理解している。	(6 7)			
		・具体的な場面で、数量を表す式をきまりに従って変形したり、関係を表す式を目的に合うよう変形したりすることができる。	(5)			
	(2)アイ 連立方程式	・二つの文字を用いると数量の関係簡単に式に表せるものがあることに気付き、これを方程式とみて、解の意味について考察することができる。	(8)			
		・加減法や代入法を用いて、連立二元一次方程式を解くことができる。	(3)			
・具体的な事象の中の数量関係をとらえ、連立二元一次方程式を用いて解を求めるとともに、解や解決の方法が適切であるかどうか振り返って考察することができる。		(9)				
図 形	(1)アイ 平行と合同	・平行線の性質を理解している。	(10)			
		・多角形の内角の和、外角の和の性質などを既知のことに帰着して論理的に考察することができる。	(11)			
	(2)イウ 図形の性質	・「底角は等しい」など二等辺三角形に関する性質について理解し、問題解決に適用できる。	(12)			
		・三角形の合同条件や直角三角形の合同条件などを用いた図形の性質の証明をよみとったり、表したりすることができる。	(13)			
		・二つの図形が合同になるための条件を考察することができる。	(14)			
		・平行四辺形に関する性質や条件について理解している。	(15)			
		・円周角と中心角の性質を用いて、角の相等関係を示したり、角の大きさを求めたりすることができる。	(16)			
数 量 関 係	(1)アイ 一次関数	・一次関数の関係を表、式、グラフなどで表現したり、その特徴をよみとったりすることができる。	(17 18)			
		・一次関数の表、式、グラフなどを用いて、具体的な事象を表現したり、処理したりすることができる。	(19)			
		・具体的な事象を一次関数を用いて考察し、その結果が適切であるかどうか振り返って考えることができる。	(20)			
	(2)イ 確率	・簡単な場合について確率を求めたり、その求め方を説明したりすることができる。	(4)			

2 中学校3年 数学 小問別通過率と設定通過率

小問 番号	出題内容	平均 通過率 (%)	設定 通過率 (%)	0	100
(1)	多項式の計算	86.3	80.0		
(2)	単項式の乗除	50.3	60.0		
(3)	連立方程式の求解(計算)	77.1	80.0		
(4)	確率の計算	68.1	70.0		
(5)	等式変形	47.1	60.0		
(6)	文字式による説明	81.5	80.0		
(7)	文字式による説明	68.3	60.0		
(8)	二元一次方程式の意味	41.6	50.0		
(9)	連立方程式の文章題(式)	49.9	60.0		
(10)	平行と角の関係	88.9	70.0		
(11)	五角形の内角の和の求め方	56.8	60.0		
(12)	二等辺三角形の底角と外角	39.3	50.0		
(13)	合同の証明	62.8	70.0		
(14)	合同の証明	27.5	50.0		
(15)	平行四辺形になるための条件	31.6	60.0		
(16)	円周角と中心角	50.5	60.0		
(17)	一次関数の判断(対応表と式)	50.5	60.0		
(18)	一次関数のグラフと式	34.8	60.0		
(19)	一次関数の応用(グラフ)	46.1	60.0		
(20)	一次関数の応用(作問)	43.5	50.0		

グラフ中の  は、設定通過率 ± 10% を示している。

3 小問別反応率

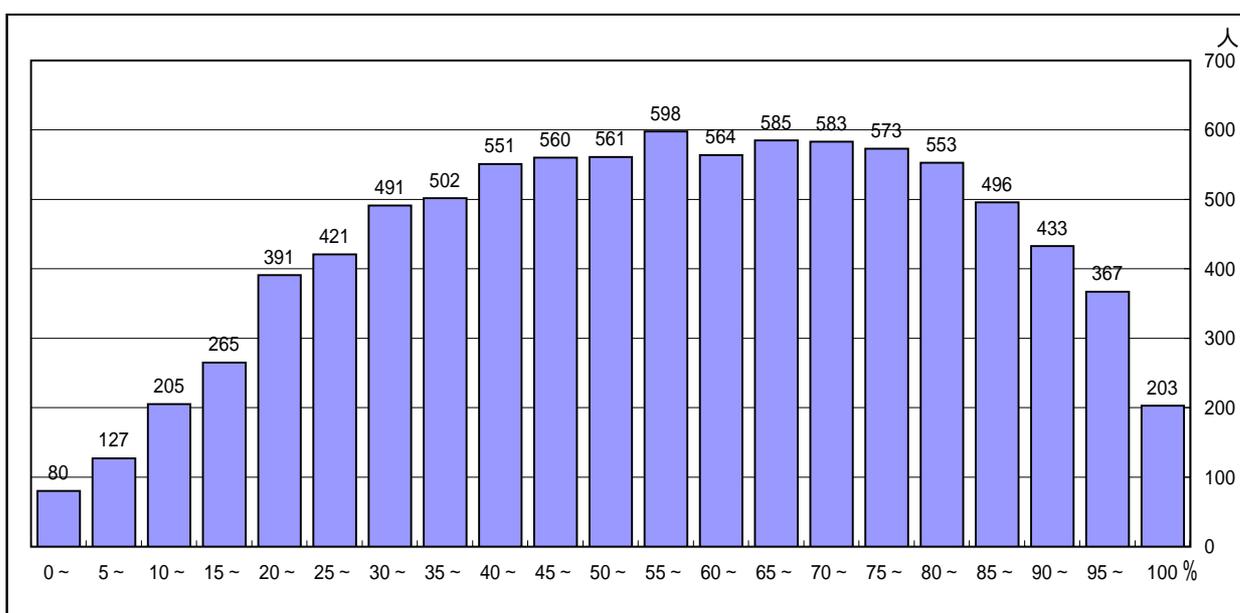
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)
1	(1)	(1) 86.3%	3.0%	9.9%	0.8%	0.0%
	(2)	(2) 50.3%	40.3%	6.2%	3.1%	0.0%
	(3)	(3) 77.1%	1.5%	16.9%	4.6%	0.0%
	(4)	(4) 68.1%	1.9%	23.7%	6.3%	0.0%
2	(1)	(5) 47.1%	4.4%	34.1%	14.4%	0.0%
	(2)	(6) 81.5%	5.4%	11.8%	1.3%	0.0%
		(7) 68.3%	19.2%	11.0%	1.6%	0.0%
3	(1)	(8) 41.6%	1.1%	15.5%	41.7%	0.0%
	(2)	(9) 49.9%	5.3%	25.2%	19.6%	0.0%
4	(1)	(10) 88.9%	2.3%	6.9%	1.9%	0.0%
	(2)	(11) 56.8%	4.5%	19.9%	18.8%	0.0%
	(3)	(12) 39.3%	2.9%	28.8%	29.0%	0.0%
5	(1)	(13) 62.8%	0.2%	26.4%	10.6%	0.0%
	(2)	(14) 27.5%	0.1%	30.6%	41.9%	0.0%
6	(1)	(15) 31.6%	29.6%	37.3%	1.5%	0.0%
	(2)	(16) 50.5%	9.3%	25.7%	14.5%	0.0%
7	(1)	(17) 50.5%	25.9%	21.2%	2.4%	0.0%
	(2)	(18) 34.8%	3.3%	47.0%	14.8%	0.0%
8	(1)	(19) 46.1%	5.5%	35.9%	12.5%	0.0%
	(2)	(20) 43.5%	0.0%	21.7%	34.8%	0.0%

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	203	203
95 ~	0	0	367	570
90 ~	0	0	433	1003
85 ~	0	0	496	1499
80 ~	0	0	553	2052
75 ~	3	3	573	2625
70 ~	2	5	583	3208
65 ~	6	11	585	3793
60 ~	26	37	564	4357
55 ~	38	75	598	4955
50 ~	29	104	561	5516
45 ~	26	130	560	6076
40 ~	2	132	551	6627
35 ~	2	134	502	7129
30 ~	1	135	491	7620
25 ~	0	135	421	8041
20 ~	0	135	391	8432
15 ~	0	135	265	8697
10 ~	0	135	205	8902
5 ~	0	135	127	9029
0 ~	0	135	80	9109

5 (未履修)を除いた解答類型1~4の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 中学校3年 数学 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全問題		20	1	12	7
観 点 別	見方・考え方	6	0	3	3
	表現・処理	8	0	5	3
	知識・理解	6	1	4	1

上回った：設定通過率10ポイント以上
 同程度：設定通過率±10ポイント
 下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回るものまたは同程度であるものの合計は、20問中13問である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査の同一問題またはそれに類似する問題の通過率の比較では、6問中5問で上回るか同程度である。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「数学的な見方・考え方」では、6問中3問、「表現・処理」では8問中5問が同程度である。「知識・理解」については、6問中5問が上回っているか同程度という結果であった。
- ・無問率が20%を越える問題は、高い順に14)、8)、20)、12)である。14)と8)は40%を越えている。

小問別通過率度数分布

中学校3年数学 小問別通過率度数分布表(校)	1学年20人以上データを提出した学校																				平均通過率
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	
100%	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
95~100%	7	0	0	1	0	4	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
90~95%	32	0	4	4	0	22	5	0	0	46	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
85~90%	37	1	20	11	0	19	6	0	1	28	3	1	0	0	0	4	1	0	0	0	0
80~85%	32	10	24	9	1	35	10	1	0	22	1	1	5	0	0	0	1	0	0	1	0
75~80%	10	6	33	17	4	29	15	0	2	8	7	0	11	0	0	3	0	1	0	1	3
70~75%	2	7	23	22	2	9	24	3	0	1	3	0	19	0	1	2	4	0	0	2	1
65~70%	3	5	17	20	9	6	24	5	9	1	14	0	18	0	0	11	5	3	5	2	4
60~65%	0	7	5	13	9	1	19	7	9	0	24	2	34	1	2	12	8	0	9	4	23
55~60%	0	15	1	13	15	0	9	8	21	0	26	4	16	1	3	18	20	3	11	12	37
50~55%	0	13	0	10	14	2	11	18	28	0	17	6	12	6	4	18	23	3	23	20	29
45~50%	0	8	0	3	15	0	3	10	19	0	11	24	4	2	3	16	23	16	25	19	26
40~45%	0	15	0	3	21	0	0	14	15	0	14	26	5	9	11	15	21	16	24	18	1
35~40%	0	19	0	1	22	0	0	19	6	0	4	22	2	12	16	11	14	17	14	18	2
30~35%	0	12	0	0	4	0	1	18	11	0	1	14	0	15	23	8	6	19	13	12	1
25~30%	0	5	0	0	4	0	0	11	4	0	1	18	0	29	31	5	0	21	2	6	0
20~25%	0	2	0	0	5	0	0	10	1	0	0	6	1	27	16	2	0	18	0	7	0
15~20%	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	11	11	2	0	7	0	3	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	3	0	10	6	0	0	2	1	2	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は10)の1問だけである。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は5)、9)、12)、14)、15)、18)、19)の7問である。
- ・1)、3)、6)、10)の4問以外は、各校における通過率の差が50ポイント以上ある。
- ・学校数の最大値が設定通過率より高いところにある問題は1)、4)、6)、7)、10)、20)の6問ある。一方、学校数の最大値が50%より低いところにある問題は2)、5)、8)、12)、14)、15)、18)、19)の8問ある。

(2) 考察

10)は平行四辺形になるための条件を理解しているかを問う基本的な問題であるが、設定通過率を10ポイント以上上回っている。このように基礎的・基本的な知識・技能を問う問題においては、ほとんどの問題で設定通過率を上回るか同程度であることから、基礎的・基本的な学習内容についてはおおむね満足できる状況にあるといえる。各校において基礎・基本の確実な定着を目指した指導が進められていることがうかがえる。また、過去に実施した本県学習状況調査の同一問題またはそれに類似する問題の通過率が向上している点から考えると、各校において本県の課題を受け止めた指導が進められていることもうかがえる。

一方で設定通過率を10ポイント下回った問題が5)、9)、12)、14)、15)、18)、19)の7問あった。これまで行ってきた指導の課題と受け止め、指導改善の手がかりとしたい。

5)は、両辺が単項式の単純な等式を変形する問題であるが、通過率自体が50%を切っている。3)の連立方程式の計算の通過率は高く、よく扱う方程式においては等式の変形はよくできている。等式の変形は、特に式を扱う際などでは、基本的な力なので、目的に応じて自由に形を変えることができるよういろいろな等式を扱って指導しておきたい。また、文字そのものの理解も大きな影響を与えていると考えられるので、文字や文字式の理解も大事にしていきたい。

18)はグラフから傾きや切片、あるいは2つの座標を読みとって一次関数の式を求める比較的平易な問題であるが、これも設定通過率を大きく下回っている。2つの座標を与えると一次関数の式は簡単に求めることができると考えられるが、この結果はグラフから必要な情報を読みとれないことを意味していると考えられる。例えば、式における変化の割合が、表やグラフではどのように表れるのかなどの学習をじっくりと行うというように、関数の学習において、表、式、グラフの一体化した指導に心がける必要がある。

19)は事象から関係を読みとってグラフに表す問題であり、事象を考察する力が付いているかどうか判断できる問題である。日々の授業で表、式、グラフの学習にとどまらず、それらをもとに事象の考察を大事にした学習を積極的に行う必要がある。

14)は二つの角が等しい理由を記述する問題である。特別な図形の性質を使うものではなく、直観的にとらえることができる比較的平易な問題である。普段からいろいろな図形に慣れ親しみ、図形の中から成り立つことを見つけ、理由を考える場面を授業の中で大事にしていきたい。また、この問題は無答率が41.9%と極めて高いことから、生徒の証明に取り組む意欲や態度を育てていく必要性を感じる。

(3) 今後の指導

文字や文字式の指導は中学校3年間の指導の中で、意味理解を大事にしながらか各学年でていねいな指導に心がけたい。

一次関数にかかわる問題はどの問題も通過率があまり芳しくないことから、表、式、グラフの意味を大事にしながらか、その関連に目を向けた指導に心がけたい。また、事象の考察を目的として、表、式、グラフを積極的に活用する学習を取り入れていく必要がある。

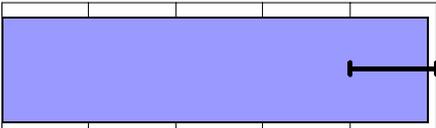
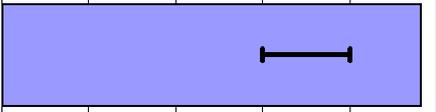
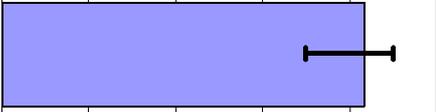
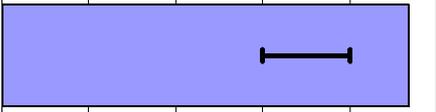
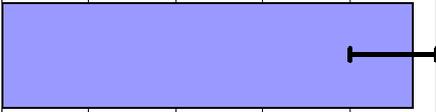
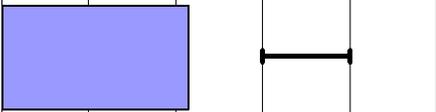
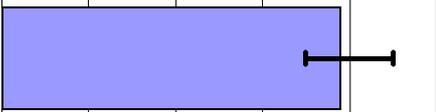
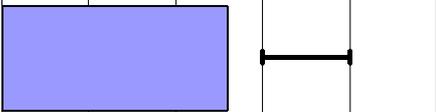
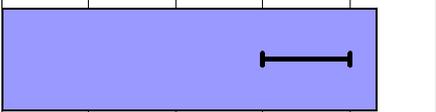
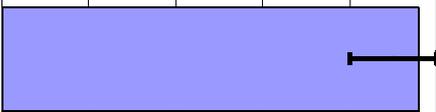
図形においては、証明に消極的な面が見られる。証明の記述を大事にしながらか、証明の仕組みそのものの理解や証明の意義、よさを感じさせる指導の工夫がほしい。いろいろな図形に数多くふれながらか、その中にどんなことが成り立つのか、それがどんな理由で成り立つのか、簡単にいえない場合はどんな道筋で示せばよいのかなどを学習場面でじっくり取り上げていきたい。

基礎的・基本的な学習内容は比較的よく身に付いているが、問題を多面的にとらえたり、関連付けてじっくり考え解決することに弱さが見られる。日々の授業で、別の視点から問題をとらえさせたり、総合的な問題に挑戦させたりしながら、思考を働かせ、粘り強く解決に向かえるようにしていきたい。

小学校 4 年
理 科

1 小学校4年 理科 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し番号	観点		
				思考判断	技能表現	知識理解
A 生物とその環境		・昆虫の育ち方には一定の順序があることを理解している。	(2)			
	(1) ア	・昆虫の体は頭、胸、及び腹からできていることを理解している。	(3)			
		・昆虫の育ち方の違いを理解している。	(4)			
	(1) ウ	・昆虫の成長の様子と、食べ物やすみかの関係を理解している。	(1)			
B 物質とエネルギー	(1) イ	・光を反射させたり集めたりしたときの明るさの違いを調べることができる。	(9)			
	(2) ア	・豆電球が点灯するときとしないときを比較して、それらの違いを考えることができる。	(5)			
	(3) イ	・磁石の極性を調べることができる。	(6)			
C 地球と宇宙	(1) ア	・日陰は太陽の光を遮るとでき、そのとき太陽は影の反対側にあることを理解している。	(7)			
		・太陽は東の方から出て西の方に沈むことを理解している。	(8)			
	(1) イ	・温度計を適切に使って、温度を測ることができる。	(10)			

通 し 番 号	出題内容	平 均 通 過 率 (%)	設 定 通 過 率 (%)	0 100 %
(1)	モンシロチョウが卵を産む場所	98.2	90.0	
(2)	モンシロチョウの育ち方の順序	96.6	70.0	
(3)	モンシロチョウの体のつくり	83.2	80.0	
(4)	昆虫の育ち方の違い	93.5	70.0	
(5)	電気を通すつなぎ方	94.4	90.0	
(6)	磁石の性質	43.1	70.0	
(7)	日陰の位置と太陽の位置	77.9	80.0	
(8)	太陽の動き	51.8	70.0	
(9)	はね返した日光の明るさの違い	86.1	70.0	
(10)	温度計の使い方	95.8	90.0	

 は設定通過率 ± 10% を示している。

3 小問別反応率

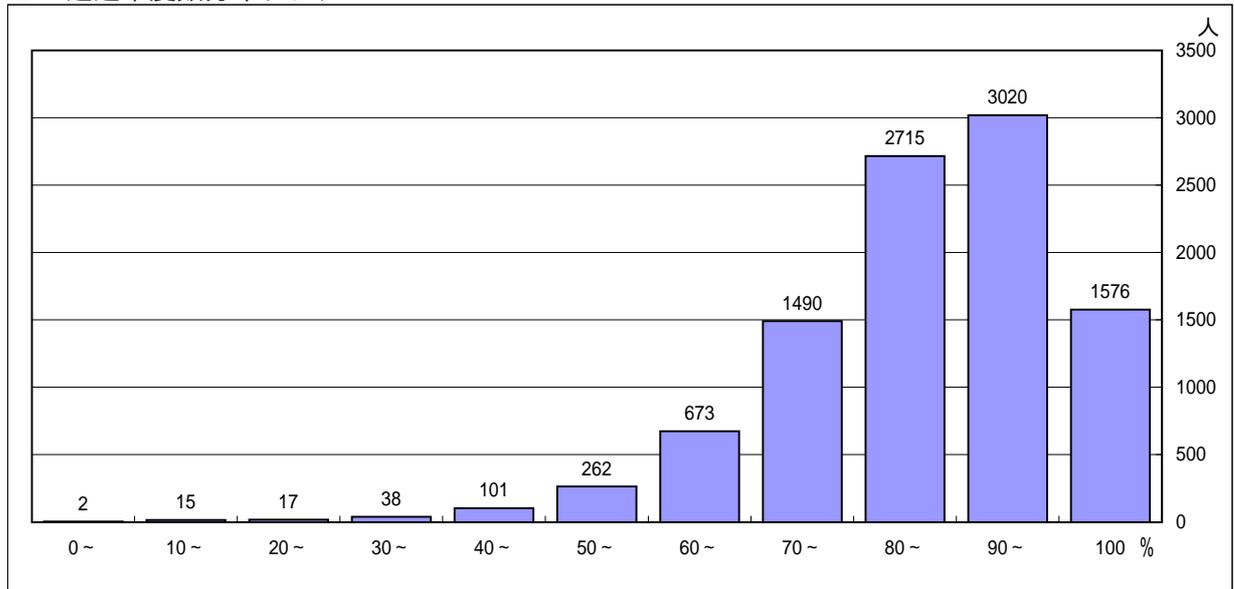
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)
1	(1)	(1) 98.2%	1.5%	0.3%	0.1%	0.1%
	(2)	(2) 96.6%	1.0%	2.4%	0.1%	0.1%
	(3)	(3) 83.2%	7.2%	9.4%	0.2%	0.1%
	(4)	(4) 93.5%	2.9%	3.2%	0.4%	0.1%
2	(5)	94.4%	1.9%	3.6%	0.2%	0.2%
3-	(6)	43.1%	8.8%	47.8%	0.4%	0.3%
4	(1)	(7) 77.9%	4.2%	17.8%	0.2%	0.2%
	(2)	(8) 51.9%	20.6%	26.6%	0.9%	0.2%
5	(1)	(9) 86.1%	3.5%	9.8%	0.6%	0.2%
	(2)	(10) 95.8%	1.7%	2.3%	0.1%	0.1%

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	4	4	1576	1576
90~	35	39	3020	4596
80~	161	200	2715	7311
70~	97	297	1490	8801
60~	6	303	673	9474
50~	0	303	262	9736
40~	0	303	101	9837
30~	0	303	38	9875
20~	0	303	17	9892
10~	0	303	15	9907
0~	0	303	2	9909

5 (未履修)を除いた解答類型1~4の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 小学校4年 理科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全問題		10	3	5	2
観 点 別	科学的な思考	1	0	1	0
	技能・表現	3	1	1	1
	知識・理解	6	2	3	1

上回った：設定通過率10ポイント以上
 同程度：設定通過率±10ポイント
 下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度であるものの合計が、10問中8問である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査の同一問題、またはそれに類似する問題との通過率の比較では5問中4問が上回っている。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「科学的な思考」では1問中1問が同程度、「技能・表現」では3問中2問が上回っているか同程度である。「知識・理解」については6問中5問が上回っているか同程度という結果である。
- ・無記入は、8)が1.0%であり、他は0.1～0.6%の範囲である。

小問別通過率度数分布

小学校4年理科 小問別通過率度数分布表(校) 1学年20人以上データを提出した学校											
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	平均通過率
100%	102	62	3	25	48	0	3	0	6	54	0
95～100%	55	71	11	53	49	0	3	2	18	72	4
90～95%	17	31	36	69	46	6	7	3	42	34	7
85～90%	4	10	39	24	18	3	26	4	40	12	33
80～85%	0	2	29	4	10	1	38	6	37	4	65
75～80%	0	2	29	0	6	4	39	7	19	2	55
70～75%	0	0	9	0	0	3	22	5	7	0	12
65～70%	0	0	11	2	1	2	22	11	3	0	1
60～65%	0	0	6	1	0	2	11	12	5	0	1
55～60%	0	0	4	0	0	8	2	17	1	0	0
50～55%	0	0	0	0	0	10	4	25	0	0	0
45～50%	0	0	0	0	0	20	0	15	0	0	0
40～45%	0	0	0	0	0	29	1	15	0	0	0
35～40%	0	0	1	0	0	29	0	15	0	0	0
30～35%	0	0	0	0	0	28	0	20	0	0	0
25～30%	0	0	0	0	0	20	0	17	0	0	0
20～25%	0	0	0	0	0	7	0	3	0	0	0
15～20%	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0
10～15%	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、2) 4) 9) の3問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、6) 8) の2問である。
- ・各校における通過率の差が50ポイント以上あった問題は、3) 6) 7) 8) の4問である。

(2) 考察

設定通過率を10ポイント以上上回った問題は3問であるが、度数分布表ではほとんどの学校が75～100%の範囲に入っており、各学校の指導状況が大変よいことがうかがわれる。また、過去に実施した本県学習状況調査の同一問題またはそれに類似する問題との通過率を比較すると、5問中、1)3)5)10)の4問が上回っている。1)5)10)においては、通過率の分布からみても各学校の指導状況が大変よいことがうかがわれる。全体的に学習状況はおおむね良好である。

一方、設定通過率を10ポイント以上下回ったのは6)8)の2問である。

6)は、印のない磁石の極性を調べる問題である。通過率の分布は、5～95%の範囲で幅が広く、25～55%の範囲に位置する学校数は全体の7割を超える。また、「Nきょく Sきょく」の正答に対して、「Sきょく Nきょく」という誤答が8.8%と少なく、「と が逆」などの他の誤答が47.8%と多いことから、実験や観察が単なる磁石遊びに終わらないような指導の工夫が必要である。

8)は、南の空の太陽の動きを問う問題である。太陽が動いていく方向を東とする誤答が20.6%であることから、太陽の動く方向は理解できていても東西の方角が分からないことが原因と考えられる。また、通過率の分布範囲も広く、中学年の児童にとっては、太陽の動きを方位で示す空間把握にかかわる事象の理解や定着は容易ではないことが推察される。したがって、身近な問題と関連付けたり、日常的に観察を行ったりするなど、具体的な活動や体験を通して無理なく学習できるように指導を工夫する必要がある。

各校における通過率のばらつきが50ポイント以上あった問題は3)6)7)8)の4問である。このうち、6)は5～95%未満まで、8)は15～100%未満まで分布しており、学校間の差が大きい。

3)は、モンシロチョウのからだのつくりを問う問題である。通過率が80～95%の範囲にある学校が多いものの、55～80%の学校も多い。7)の太陽の陰の位置を求める問題でも、同様に学校によってばらつきが大きい結果となっている。モンシロチョウは身近な素材であり、太陽のかけは身近な事象である。設定通過率を下回っている場合は、生物の飼育や栽培などの直接体験を確実に取り入れたり、継続的な観察を通して生物や自然事象とのかかわりを深めるなどの工夫が求められる。

(3) 今後の指導

中学年の子どもの特性や考え方を踏まえ、次の2点を大切にしていきたい。一つは自然事象や日常生活と関連付けて理解を図る指導、もう一つはものづくりや栽培、飼育、野外観察等の具体的な活動を充実させて実感を伴った理解を図る指導である。

ものづくりは、5)6)の問題のような電気や磁石に関する学習内容の理解を促すために効果的である。また、モンシロチョウやホウセンカは飼育や栽培に最も普通な素材であるので、効果的に活用することにより、1)～4)のような知識・理解を深めたい。8)の問題では、校庭での日なたと日陰の観察から太陽の位置への関心を引き出す工夫が必要である。また、飼育や栽培は楽しさだけでなく根気も必要である。児童自らが飼育・栽培活動に親しみながらも、途中で挫折することがないような指導の工夫が求められる。

観察、実験、栽培、飼育等を通して子どもに自然事象を感じさせ、興味・関心をもって追究する活動を通して、自然の事物・現象の違いに気付いたり、共通性に気付いたりしながら問題解決していく過程を大事にしたい。この問題解決の過程で、子どもたちは自然事象の性質や規則性、相互の関係などを実感を伴って理解できるようになる。そして、自ら自然に働きかけてつくり上げた知識は生きて働く力となる。繰り返し指導などを行う場合も、単にペーパー上で理解を図るのではなく、自然とかかわらせながら知識を獲得することができるような指導の工夫改善が必要である。

小学校 5 年
理 科

1 小学校第5学年 理科 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し番号	観点		
				思考判断	技能表現	知識理解
A 生物と その 環境		・動物の活動や植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあることを理解している。	(3)			
	(1) アイ	・季節ごとの動物の活動や植物の成長を、季節の気温の変化と関係付けて考えることができる。	(4)			
		・季節ごとの動物の活動や植物の成長を定期的に記録することができる。	(5)			
B 物質 と エ ネ ル ギ ー	(1) ア	・閉じこめた空気は押し縮められるが、水は押し縮められないことを理解している。	(6)			
	(2) アイ	・加熱器具などを安全に操作することができる。	(10)			
	(3) アイ	・乾電池の数やつなぎ方を変えて、回路を流れる電流の強さとその働きの違いを関係付けて考えることができる。	(1)			
		・簡易電流計などを適切に操作することができる。	(2)			
C 地球 と 宇 宙	(1)	・月や星の位置の変化と時間を関係付けて考えることができる。	(7)			
	アウ	・星の集まりは、1日のうちでも時刻によって、並び方は変わらないが、位置が変わることを理解している。	(8)			
	(2) ア	・水は、温度によって水蒸気や氷に変わることを理解している。	(9)			

通 し 番 号	出題内容	平 均 通 過 率 (%)	設 定 通 過 率 (%)	%	
				0	100
(1)	乾電池のつなぎ方と電流の強さ	50.6	50.0		
(2)	検流計をつないだ回路	81.8	80.0		
(3)	オオカマキリの活動またはヘチマの成長と季節	85.0	60.0		
(4)	オオカマキリの活動またはヘチマの成長と温度	90.5	80.0		
(5)	動植物の定期的記録	93.4	70.0		
(6)	圧力と水・空気の体積変化	79.6	50.0		
(7)	月の動き	61.2	70.0		
(8)	星の日周運動	89.5	80.0		
(9)	温度と水の状態変化	56.5	50.0		
(10)	加熱器具の扱い方	89.3	80.0		

は設定通過率 ± 10% を示している。

3 小問別反応率

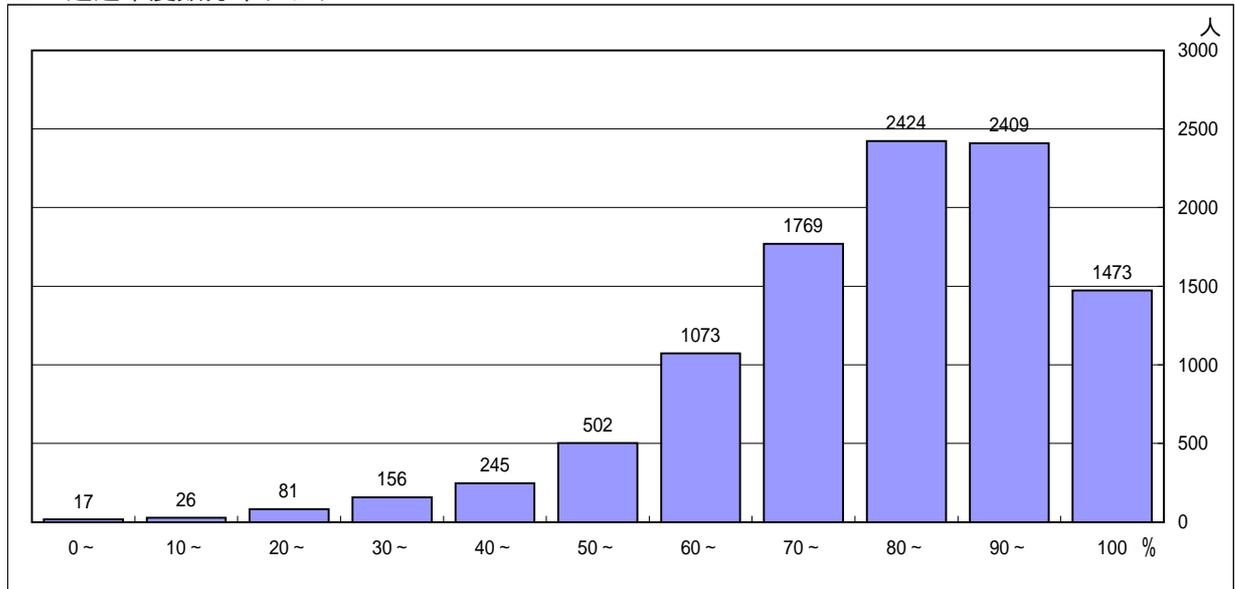
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)
1	(1)	(1) 50.6%	18.4%	30.6%	0.4%	0.0%
	(2)	(2) 81.8%	3.3%	13.8%	1.1%	0.0%
2	(1)	(3) 85.0%	8.9%	5.9%	0.2%	0.0%
	(2)	(4) 90.5%	3.9%	5.3%	0.3%	0.0%
	(3)	(5) 93.4%	3.7%	2.6%	0.3%	0.0%
3	(6)	79.6%	6.2%	13.9%	0.4%	0.0%
4	(1)	(7) 61.2%	18.4%	20.0%	0.4%	0.0%
	(2)	(8) 89.5%	2.9%	7.1%	0.4%	0.0%
5	(1)	(9) 56.5%	18.4%	21.5%	3.6%	0.0%
	(2)	(10) 89.3%	2.4%	7.9%	0.4%	0.0%

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	1473	1473
90 ~	19	19	2409	3882
80 ~	104	123	2424	6306
70 ~	142	265	1769	8075
60 ~	36	301	1073	9148
50 ~	4	305	502	9650
40 ~	1	306	245	9895
30 ~	0	306	156	10051
20 ~	0	306	81	10132
10 ~	0	306	26	10158
0 ~	0	306	17	10175

5 (未履修)を除いた解答類型1～4の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 小学校5年 理科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全問題		10	4	6	0
観 点 別	科学的な思考	3	1	2	0
	技能・表現	3	1	2	0
	知識・理解	4	2	2	0

上回った：設定通過率10ポイント以上
 同程度：設定通過率±10ポイント
 下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回ったものは10問中4問、設定通過率と同程度のものは10問中6問である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査の同一問題、またはそれに類似する問題との通過率の比較では、4問中4問全てが上回っている。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「科学的な思考」と「技能・表現」ではそれぞれ3問中上回っているもの1問、同程度のもの2問であり、「知識・理解」では4問中2問が上回り、2問が同程度という結果である。
- ・無記入は、名称を記入する9)が3.6%、配線を作図する2)が1.1%であるが、他は0.1~0.4%の範囲である。

小問別通過率度数分布

小学校5年生理科 小問別通過率度数分布表(校)											1学年20人以上データを提出した学校	
以上	未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	平均通過率
100%		0	4	8	12	20	3	0	13	2	4	0
95~100%		0	13	14	29	55	16	2	34	2	25	0
90~95%		1	28	34	72	64	37	4	53	5	66	7
85~90%		3	32	45	37	31	17	3	37	6	50	20
80~85%		5	33	34	22	8	33	9	23	14	26	41
75~80%		11	28	28	6	2	23	18	9	4	7	53
70~75%		8	23	8	0	0	13	14	5	8	1	39
65~70%		11	13	8	0	0	15	26	4	8	2	16
60~65%		15	2	1	1	0	6	22	3	17	0	3
55~60%		14	3	0	0	0	8	25	0	26	0	0
50~55%		17	2	0	1	1	7	24	0	25	0	1
45~50%		22	0	0	1	0	0	12	0	16	0	1
40~45%		22	0	1	0	0	2	9	0	21	0	0
35~40%		14	0	0	0	0	0	7	0	10	0	0
30~35%		16	0	0	0	0	0	2	0	11	0	0
25~30%		14	0	0	0	0	0	4	0	5	0	0
20~25%		1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
15~20%		3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10~15%		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5~10%		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0~5%		4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、3)4)5)6)の4問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題はない。
- ・各校における通過率の差が50ポイント以上あった問題は、1)3)4)6)7)9)の6問である。

(2) 考察

調査結果から、小学校5年生の学習の実現状況はおおむね良好といえる。

設定通過率を10ポイント以上上回った問題は4問であるが、度数分布表から分かるように、3)4)5)は80~100%未満の範囲にほとんどの学校が位置している。また、設定通過率に達しなかった問題が1問のみであることや、過去に実施した本県学習状況調査の同一問題、またはそれに類似する問題の通過率を比較した場合、すべてが上回っていることから、各学校の指導状況のよさがうかがわれる。

設定通過率に達しなかったのは7)の時間とともに月が動く向きを問う問題であり、通過率の度数分布の範囲は25~100%未満まで広く、各学校の結果には大きな差がある。月が図の左上の方向に昇っていくとする誤答が18.4%もあることから、時間とともに月の動く方向や西に沈むということは分かっているが、図で西の方角が分からなかったり、月の動きを空間的にとらえることができなかつたりしていることが考えられる。第4学年の7)の天球上の太陽の動きと同様に、中学年の児童にとっては、天体の動きを方位で示す空間把握にかかわる事象の理解や定着は容易ではないことが推察される。

通過率が最も低かったのは1)の50.6%である。電池を並列つなぎにする誤答が18.4%であることから、乾電池2個を並列にモーターにつなげばよいところまでは理解できていても、乾電池のつなぎ方と電流の強さとの関係が理解できていない児童が多いことが分かる。また、その他の誤答が30.6%もあることから、単なる体験活動にのみ終始し、日常経験や学習過程における操作活動の意味付けが不足していることが考えられる。モーターの回り方と電流の強さの関係について、電池のつなぎ方という条件に着目させながら計画的に実験を行う必要がある。

また、10問中ただ一つ名称を記入する問題である9)が、二番目に低い通過率となっている。「水蒸気」と解答した児童は56.5%であり、18.4%の児童が「空気」と答えていることから、水を熱したときに水中から出てくる泡が何かを調べる実験において、単に現象としてとらえていることが考えられる。泡が空気ではなく水が変化したものであることをもとに、水蒸気存在を推論するという問題解決の思考を大切に学習展開の工夫が必要である。

(3) 今後の指導

小学校4年生では、学習過程において自然の事物・現象の変化とそれに関係する要因を抽出する資質・能力の育成が求められる。そのためには、子どもが自らの生活経験と関係付けが容易な学習内容を用意したり、性質や規則性を具体の操作や製作と結び付ける活動を設定したりするなど、実感を伴った理解を通して考えをつくりもつようにすることが大事である。

天体の学習においては、実感を伴った理解を図るために、宿泊を伴う学習の際に月や星座の観察を実施したり、科学館等のプラネタリウムを活用したりするなどの工夫が必要である。

また、B区分のものづくりは、追究活動と関連させ、効果的・計画的に学習過程に位置付けて実施していくことが大事であり、一人一人の子どもに適切な支援を行いながら、問題解決的に活動が展開されるような状況を構成する必要がある。

小学校 6 年
理 科

1 小学校第6学年 理科 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し番号	観 点		
				思考判断	技能表現	知識理解
A 生物とその環境	(1)イ	・植物の発芽にかかわる条件を見いだすことができる。	(3)			
	(1)ウ	・植物の成長について、条件に着目して観察や実験の計画をすることができる。	(4)			
	(1)エ	・植物の結実にかかわる条件を見いだすことができる。	(5)			
		・顕微鏡などを適切に操作することができる。	(6)			
		・花のつくりや花粉などを、顕微鏡などを適切に操作して観察することができる。	(7)			
	(2)アイ	・魚の卵の内部の変化か、人の発生や成長の変化にかかわる条件を見いだすことができる。(選択)	(1)			
		・生まれた卵は、日がたつにつれて中の様子に変化してかえることを理解している。(選択) ・人は、母体内で成長して生まれることを理解している。(選択)	(2)			
B 物質とエネルギー	(1)イ	・物の溶け方の違いを調べる工夫をし、溶け方の規則性を計画的に調べることができる。	(8) (9)			
	(1)ウ	・物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変わらないことを理解している。	(10)			
	(2)ア	・てこの実験装置などを使って、てこがつり合うときのおもりの重さや支点からの距離を関係付けて考えることができる。	(14) (15)			
I	(3)アイ	・ふりこか衝突の規則性を調べる工夫をし、条件に着目してそれぞれの実験装置を操作することができる。(選択)	(16)			
		・糸につるしたおもりが1往復する時間は、おもりの重さなどによっては変わらないが、糸の長さによって変わることを理解している。(選択) ・おもりが他の物を動かす働きは、おもりの重さや動く速さによって変わることを理解している。(選択)	(17)			
C 地球と宇宙	(1)ア	・百葉箱を利用するなどして、1日の気温の変化を調べる工夫をし、記録することができる。	(18)			
		・1日の気温の変化する様子を適切に測ることができる。	(19)			
		・天気によって1日の気温の変化の仕方に違いがあることを理解している。	(20)			
	(2)ア	・雨の降り方によって、流れる水の速さや水の量が変わることを実際の川に当てはめて考えることができる。	(11)			
		・流れる水の速さや量の変化を調べる工夫をし、計画的に調べることができる。	(12)			
		・流れる水には、土地を削ったり、石や土などを流したり積もらせたりする働きがあることを理解している。	(13)			

通し 番号	出題内容	平均 通過率 (%)	設定 通過率 (%)	0	100
(1)	メダカの卵の変化または人の発生の仕方	98.6	60.0		
(2)	子めだかまたは母体内での人の養分のとり方	94.4	70.0		
(3)	インゲンマメの発芽の条件	83.8	60.0		
(4)	インゲンマメの成長の条件	79.0	70.0		
(5)	ヘチマの子房の変化の要因	80.1	70.0		
(6)	顕微鏡の操作手順	67.3	70.0		
(7)	顕微鏡の視野	75.0	60.0		
(8)	ホウ酸が水に溶ける量	92.4	80.0		
(9)	ホウ酸が水に溶ける量	90.1	80.0		
(10)	ホウ酸が水に溶けたときの重さ	72.3	70.0		
(11)	洪水のときの川の水量と流速	95.8	90.0		
(12)	流れる水の働きと流速の関係	86.8	90.0		
(13)	流れる水の働き	56.9	50.0		
(14)	天秤状の棒を水平にする方法	88.3	70.0		
(15)	天秤状の棒を水平にする方法	89.0	90.0		
(16)	物の運動を調べる変数の固定	74.5	70.0		
(17)	物の運動に関係する要因	77.4	70.0		
(18)	百葉箱設置の条件	94.1	90.0		
(19)	気温のはかり方	85.5	80.0		
(20)	天気と1日の気温の変化	77.7	80.0		

は設定通過率 ± 10% を示している。

3 小問別反応率

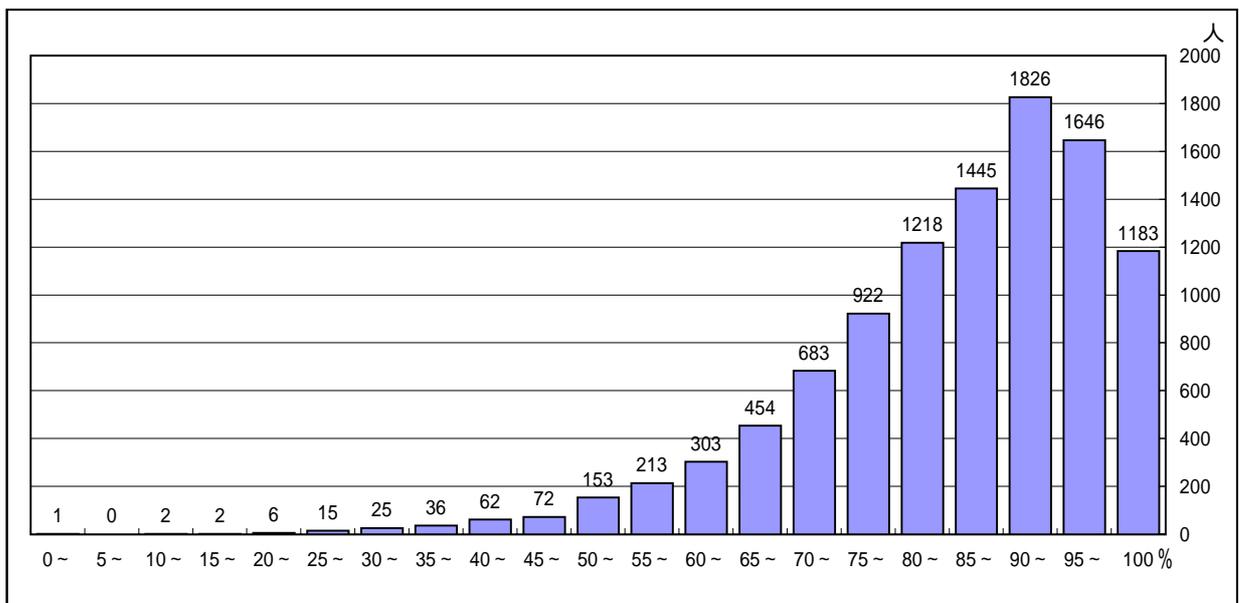
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)
1	(1)	(1) 98.6%	0.7%	0.6%	0.1%	0.0%
	(2)	(2) 94.4%	2.5%	3.0%	0.2%	0.1%
2	(1)	(3) 83.8%	5.9%	10.1%	0.2%	0.0%
	(2)	(4) 79.0%	8.5%	11.1%	1.4%	0.0%
3	(1)	(5) 80.1%	4.7%	15.0%	0.2%	0.2%
	(2)	(6) 67.3%	7.1%	23.5%	2.1%	0.1%
	(3)	(7) 75.0%	11.7%	12.9%	0.3%	0.1%
4	(1)	(8) 92.4%	3.3%	4.0%	0.3%	0.1%
		(9) 90.1%	4.3%	5.3%	0.3%	0.1%
	(2)	(10) 72.3%	6.2%	21.2%	0.4%	0.1%
5	(1)	(11) 95.8%	2.2%	1.8%	0.2%	0.2%
	(2)	(12) 86.8%	1.7%	11.2%	0.2%	0.2%
	(3)	(13) 56.9%	4.2%	38.6%	0.3%	0.2%
6	(14)	88.3%	4.7%	6.6%	0.3%	0.1%
	(15)	89.0%	4.0%	6.7%	0.3%	0.1%
7	(1)	(16) 74.5%	9.6%	15.7%	0.2%	0.1%
	(2)	(17) 77.4%	9.1%	13.1%	0.4%	0.1%
8	(1)	(18) 94.1%	2.7%	3.1%	0.1%	0.1%
	(2)	(19) 85.5%	6.6%	7.6%	0.3%	0.1%
	(3)	(20) 77.7%	9.3%	12.8%	0.2%	0.1%

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	1	1	1183	1183
95~	7	8	1646	2829
90~	33	41	1826	4655
85~	71	112	1445	6100
80~	122	234	1218	7318
75~	51	285	922	8240
70~	13	298	683	8923
65~	0	298	454	9377
60~	4	302	303	9680
55~	0	302	213	9893
50~	0	302	153	10046
45~	0	302	72	10118
40~	0	302	62	10180
35~	0	302	36	10216
30~	0	302	25	10241
25~	0	302	15	10256
20~	0	302	6	10262
15~	0	302	2	10264
10~	0	302	2	10266
5~	0	302	0	10266
0~	0	302	1	10267

5 (未履修)を除いた解答類型1~4の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 小学校6年 理科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全問題		20	8	12	0
観 点 別	科学的な思考	6	4	2	0
	技能・表現	8	3	5	0
	知識・理解	6	1	5	0

上回った：設定通過率10ポイント以上
 同程度：設定通過率±10ポイント
 下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回ったものは20問中8問、設定通過率と同程度のものは20問中12問である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査の同一問題、または国の教育課程実施状況調査の同一問との通過率の比較では、上回るもの4問、同程度のものが6問である。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「科学的な思考」では6問中上回っているもの4問、同程度のもの2問、「技能・表現」では8問中上回っているもの3問、同程度のもの5問、「知識・理解」では6問中上回っているもの1問、同程度のもの5問という結果である。
- ・無記入は、6)が2.1%、4)が1.4%であるが、他は0.1～0.4%である。

小問別通過率度数分布

小学校6年生理科 小問別通過率度数分布表(校)		1学年20人以上データを提出した学校																				平均通過率
以上	未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	
100%	116	35	4	0	3	0	3	16	16	0	51	17	0	3	6	0	1	41	25	5	0	0
95～100%	62	63	10	9	4	2	6	49	43	5	83	41	1	27	24	4	5	61	35	10	3	3
90～95%	3	59	27	19	18	5	12	62	61	7	44	40	0	55	63	17	9	51	30	21	8	8
85～90%	3	20	49	20	30	10	16	42	26	19	5	26	7	55	54	13	26	15	25	26	45	45
80～85%	0	7	48	42	50	17	29	8	18	23	1	20	2	30	28	46	35	13	23	22	85	85
75～80%	1	1	27	44	38	30	30	7	10	28	0	11	5	12	5	23	43	4	14	26	35	35
70～75%	0	0	8	24	16	18	28	1	7	31	0	11	10	1	4	28	24	0	12	20	9	9
65～70%	0	0	10	11	13	26	28	0	1	25	0	7	19	0	1	16	24	0	7	19	0	0
60～65%	0	0	2	7	7	20	14	0	1	21	1	4	22	0	0	10	10	0	3	22	0	0
55～60%	0	0	0	5	3	22	9	0	1	13	0	1	23	0	0	11	1	0	4	9	0	0
50～55%	0	0	0	1	2	16	7	0	0	9	0	3	31	1	0	4	6	0	5	2	0	0
45～50%	0	0	0	0	0	9	1	0	0	1	0	1	26	0	0	2	1	0	2	2	0	0
40～45%	0	0	0	1	0	8	2	0	0	1	0	1	21	0	0	3	0	0	0	1	0	0
35～40%	0	0	0	2	0	2	0	0	0	1	0	2	10	0	0	2	0	0	0	0	0	0
30～35%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	7	0	0	3	0	0	0	0	0	0
25～30%	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
20～25%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
15～20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
10～15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、1) 2) 3) 5) 7) 8) 9) 14) の8問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題はない。
- ・各校における通過率の差が50ポイント以上あった問題は、4) 5) 6) 7) 10) 12) 13) 14) 16) 19) 20) の11問である。

(2) 考察

調査結果から、小学校6年生の学習状況は比較的良好といえる。

設定通過率を10ポイント以上上回った問題は8問であるが、度数分布表から分かるように8問中7問が通過率75～100%の範囲に集中しており、各学校の指導状況のよさがうかがわれる。

一方、6)と20)は、3割以上の学校が設定通過率を10ポイント以上下回った問題である。6)は、顕微鏡の正しい使い方を問う問題である。顕微鏡の操作が十分でないのは、使用する機会が少ないことや、顕微鏡の台数の不足が影響していると考えられる。各自が一台ずつ顕微鏡を使用して十分な操作ができるよう、近隣の学校と連携・協力して顕微鏡の使用台数を確保するなどの工夫が必要である。20)は天気による気温の変化の違いを問う問題であるが、誤答が多いのは、一日の気温の変化の仕方を天気の様子と関係付けて理解できていないためと考えられる。晴れや曇り、雨の日など、異なる天候条件で、一日の気温の変化を実際に調べながら理解させることが大事である。

10)と13)では、平均通過率が設定通過率を下回った学校が、それぞれ38.9%、29.2%ある。10)は、物を水に溶かしたときの重さを問う問題である。通過率が低いのは、水に溶けたときに物が変化の様子は理解しているが、重さが不変であることをとらえていないためと考えられる。溶解前後の質量を実測する体験を通して、物理変化では質量が保存されることの確実な理解を図る必要がある。13)は、流水の働きを問う問題である。削られた川岸や石や土が積もった川原の様子を、流れる水の働きと関係付けてとらえていないことが考えられる。野外での直接観察やモデル実験を取り入れ、実感を伴った理解を図ることが大切である。

16)は設定通過率を下回った学校は29.2%であるが、学校による通過率の差が大きい。物の運動に関係する条件に気を付けて規則性を調べる方法を問う問題であるが、この単元の最も重要なポイントである「変える条件」と「そろえる条件」に注目した調べ方の定着は必ずしも十分ではないと考えられる。

(3) 今後の指導

子ども自身が見通しをもって観察や実験に取り組み、問題解決能力と科学的な見方や考え方を身に付けていく過程を今まで以上に重視していく必要がある。

観察や実験のための器具等の使い方を身に付けていくためには、器具等を使うことの意味を明確にし、適切に使うことや順序に従って操作することの意味を考えさせながら指導していく必要がある。

5年生で求められる「条件を制御しながら計画的に観察や実験などを行う資質・能力」を育てるためには、自然の事物・現象にかかわる条件に子ども自身が気づき、制御すべき条件とそうでない条件を子ども自身が区別できるようにする場が大切である。流水の働きや天気の変化の学習において、実感を伴った理解を図るようには、普段何気なく見ている自然現象にかかわる規則性を観察や実験を通して見だし、見いだした規則性を当てはめ、再度実際の自然現象を見直すような指導が必要である。

また、水に溶かした物質の質量の保存性など目に見えない事象にかかわる規則性を理解できるようにするには、子どもの素朴な思いに基づいた予想を大切に、子ども自身が自分の立てた見通しと実験結果を比べて確認・反証を明確し、その理由付けを十分できるようにすることが必要である。

なお、5年生では、「動物の発生と成長」や「物の運動」で課題選択学習を行うことになるが、子どもが興味・関心をもって主体的に課題を選択できるようにするとともに、ゆとりの中で十分な問題解決活動ができるよう配慮する必要がある。

中学校 1 年
理 科

1 中学校第1学年 理科 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し番号	観 点		
				思考判断	技能表現	知識理解
A 生物とその環境	(1)ア	・呼気と吸気の成分を指示薬や気体検知管などを適切に使って調べることができる。	(1)			
		・人の呼吸の働きを多面的に考えることができる。	(2)			
	(1)ウ	・人の体のつくりと呼吸の働きとのかかわりについて推論することができる。	(8)			
		・人の体のつくりと循環の働きとのかかわりについて推論することができる。	(9)			
	(2)ア	・ヨウ素液などを適切に使って日光とでんぷんのでき方の比較対照実験の方法を考え、計画することができる。	(10)			
		・植物の葉に日光が当たるとでんぷんができることを理解している。	(11)			
(2)ウ	・生物が空気を通してかかわって生きていることをとらえることができる。	(3)				
B 物質とエネルギー	(1)ア	・水溶液の性質を安全に調べることができる。	(4)			
		・水溶液の性質や変化とその要因を関係付けながら、水溶液の性質や働きを多面的に考えることができる。	(5)			
	(1)アイウ	・水溶液の性質について、実験の結果をもとにして推論することができる。	(6) (7)			
	(2)ア	・植物体が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができることを理解している。	(17)			
		・物の燃焼と空気の変化について、実験の結果をもとに推論することができる。	(18)			
	(3)イ	・電磁石の強さの変化を調べる工夫をし、導線などを適切に使って計画的に実験することができる。	(15)			
・電磁石の強さと電流の強さや導線の巻き数を関係付けて考えることができる。		(16)				
C 地球と宇宙	(1)ア	・数地点の土地の構成物を関係付けて、地層の広がりを推論することができる。	(12)			
		・数地点の土地の様子や構成物から、土地のつくりや変化の様子を多面的に考えることができる。	(13)			
	(1)イ	・地層には、流れる水の働きや火山の噴火によってできたものがあることを理解している。	(14)			
	(1)ウエ	・土地は、火山の噴火によって変化することを理解している。 (選択)	(19)			
		・土地は、地震によって変化することを理解している。(選択)				
	・火山の噴火によって引き起こされる災害について理解している。 (選択)	(20)				
	・地震によって引き起こされる災害について理解している。(選択)					

通し番号	出題内容	平均通過率 (%)	設定通過率 (%)	0	100
(1)	気体検知管の読み取り	78.6	80.0		
(2)	室内の酸素と二酸化炭素の量の変化	90.6	90.0		
(3)	光合成と酸素の量の変化	80.5	80.0		
(4)	水溶液のにおいのかぎ方	88.9	80.0		
(5)	リトマス紙の反応	75.5	70.0		
(6)	水溶液の同定	70.2	70.0		
(7)	水溶液の同定	86.0	80.0		
(8)	酸素の多い血液が流れる血管	41.0	50.0		
(9)	肺、心臓の位置と血液循環	40.0	50.0		
(10)	光合成と日光の関係	80.9	70.0		
(11)	でんぷんを確かめる指示薬	88.2	80.0		
(12)	地層の対比	70.7	70.0		
(13)	地層の広がり	60.8	60.0		
(14)	火山の噴火によってできた地層	85.4	80.0		
(15)	強い電磁石にする乾電池のつなぎ方	67.5	70.0		
(16)	電磁石を強くする方法	75.4	80.0		
(17)	ろうそくの燃焼と二酸化炭素の発生	95.7	90.0		
(18)	酸素の減少を確かめる実験	50.2	60.0		
(19)	火山の噴火・断層	94.0	80.0		
(20)	火山の噴火または地震による災害	91.6	80.0		

 は設定通過率 ± 10% を示している。

3 小問別反応率

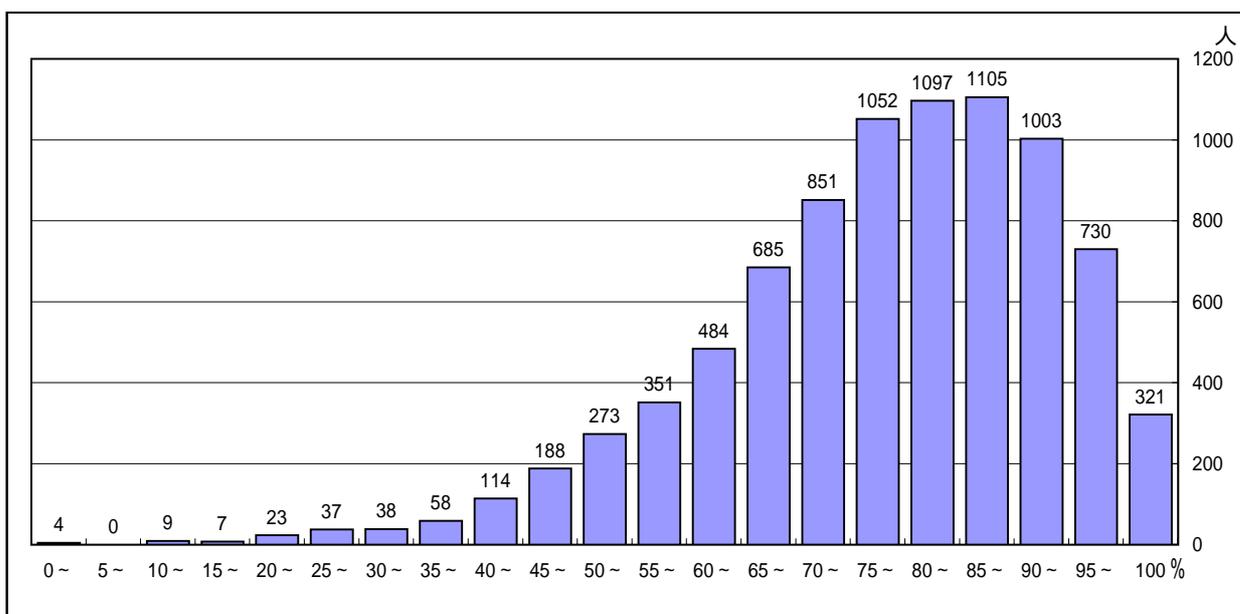
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)	
1	(1)	(1) 78.6%	11.0%	10.3%	0.1%	0.0%	
	(2)	(2) 90.6%	2.9%	6.4%	0.1%	0.0%	
	(3)	(3) 80.5%	11.1%	8.2%	0.2%	0.0%	
2	(1)	(4) 88.9%	1.1%	6.6%	3.4%	0.0%	
	(2)	(5) 75.5%	19.4%	4.9%	0.2%	0.0%	
	(3)	B (6)	70.2%	13.1%	16.5%	0.2%	0.0%
		C (7)	86.0%	4.6%	9.2%	0.2%	0.0%
3	(1)	(8) 41.0%	40.0%	18.3%	0.7%	0.0%	
	(2)	(9) 40.0%	17.3%	41.8%	0.8%	0.0%	
4	(1)	(10) 80.9%	10.2%	8.5%	0.4%	0.0%	
	(2)	(11) 88.2%	0.5%	8.7%	2.7%	0.0%	
5	(1)	(12) 70.7%	23.6%	5.2%	0.4%	0.0%	
	(2)	(13) 60.8%	8.6%	30.2%	0.5%	0.0%	
	(3)	(14) 85.4%	7.4%	6.8%	0.4%	0.0%	
6	(1)	(15) 67.5%	3.3%	24.1%	5.1%	0.0%	
	(2)	(16) 75.4%	1.0%	15.6%	8.0%	0.0%	
7	(1)	(17) 95.7%	0.8%	2.1%	1.5%	0.0%	
	(2)	(18) 50.2%	15.6%	33.7%	0.5%	0.0%	
8	(1)	(19) 94.0%	1.9%	2.9%	1.2%	0.5%	
	(2)	(20) 91.6%	0.5%	6.0%	1.9%	0.0%	

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	321	321
95 ~	0	0	730	1051
90 ~	2	2	1003	2054
85 ~	3	5	1105	3159
80 ~	16	21	1097	4256
75 ~	55	76	1052	5308
70 ~	45	121	851	6159
65 ~	12	133	685	6844
60 ~	1	134	484	7328
55 ~	0	134	351	7679
50 ~	0	134	273	7952
45 ~	0	134	188	8140
40 ~	0	134	114	8254
35 ~	0	134	58	8312
30 ~	0	134	38	8350
25 ~	0	134	37	8387
20 ~	0	134	23	8410
15 ~	0	134	7	8417
10 ~	0	134	9	8426
5 ~	0	134	0	8426
0 ~	0	134	4	8430

5 (未履修)を除いた解答類型1~4の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 中学校1年 理科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全問題		20	3	16	1
観 点 別	科学的な思考	10	0	9	1
	技能・表現	4	1	3	0
	知識・理解	6	2	4	0

上回った：設定通過率10ポイント以上
 同程度：設定通過率±10ポイント
 下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度であるものの合計が、20問中19問である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査の同一問題、またはそれに類似する問題の通過率の比較では、6問中4問が上回っている。
- ・文部科学省教育課程実施状況調査の同一問題、またはそれに類似する問題との比較では、4問中3問が通過率を下回っている。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「科学的な思考」では10問中9問が同程度である。「観察・実験の技能・表現」及び「自然事象についての知識・理解」では全てが上回っているか同程度という結果である。
- ・無記入は、記述する16)が8.0%、配線を作図する15)が5.1%、記述する4)が3.4%とやや高い値を示している。

小問別通過率度数分布

以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率
100%	0	5	0	14	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	1	0	23	0	12	15	0
95~100%	0	16	4	22	0	0	5	1	0	1	19	1	0	6	5	1	62	0	46	38	0
90~95%	2	55	7	41	3	0	29	0	0	4	33	0	1	21	7	4	28	0	46	35	1
85~90%	20	33	25	23	12	6	44	0	0	22	38	3	3	45	9	21	8	0	15	20	3
80~85%	32	12	33	9	26	14	26	0	2	52	14	13	3	34	8	25	2	0	3	5	14
75~80%	37	3	30	8	21	24	13	0	0	28	7	23	9	11	7	16	1	6	2	5	52
70~75%	19	0	14	4	30	17	4	2	0	10	4	37	19	3	10	28	0	7	0	4	42
65~70%	9	0	9	2	18	31	1	0	1	4	1	23	10	2	14	13	0	10	0	2	11
60~65%	2	0	1	0	5	19	1	2	1	2	2	13	18	1	23	8	0	11	0	0	1
55~60%	3	0	1	0	7	6	0	9	2	0	3	7	24	0	13	4	0	11	0	0	0
50~55%	0	0	0	1	2	2	0	8	9	1	0	2	20	0	16	1	0	19	0	0	0
45~50%	0	0	0	0	0	3	0	18	17	0	0	1	8	0	8	1	0	17	0	0	0
40~45%	0	0	0	0	0	1	0	24	28	0	0	0	5	0	1	1	0	16	0	0	0
35~40%	0	0	0	0	0	0	0	25	25	0	0	1	2	0	2	0	0	14	0	0	0
30~35%	0	0	0	0	0	0	0	19	25	0	0	0	1	0	0	1	0	10	0	0	0
25~30%	0	0	0	0	0	0	0	12	12	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
20~25%	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15~20%	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、10) 19) 20) の3問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、9) の1問である。
- ・各校における通過率の差が50ポイント以上あった問題は、6) 8) 9) 11) 12) 13) 15) 16) 18) の9問である。

(2) 考察

調査結果から、中学校1年生における実現状況はおおむね良好といえる。

10) 19) 20) は、設定通過率を10ポイント以上上回っている。10)の結果から、光合成に日光が関係していることを調べる実験を、子どもたちに十分に考えさせながら行っていることが推察される。また、19)と20)は、平均通過率が85~100%の範囲にある学校がほとんどで、各学校の指導状況がよいことがうかがわれる。この小問は課題選択の単元の問題であり、各学校で子どもの興味・関心に応じた選択の機会を十分に保障した学習が行われた結果と考えられる。

平均通過率が設定通過率を10ポイント以上下回ったのは9)である。また、同じ大問の8)も設定通過率を9ポイント下回っている。この2つは、度数分布が10~100%未満まで広範囲にわたっており、学校間の差が大きい。両問とも複数の要素を含んだ思考を必要とする問題であり、通過率が低かった原因として、肺の働きについての理解が不足していることと、心臓、肺、全身を結ぶ血液循環の系統を十分にとらえていないことが考えられる。全身をめぐる血液の流れとはたらきについては、直接観察することが困難な内容であることから、指導に当たっては、図鑑やビデオソフトなどの資料を活用するなど、効果的な指導の工夫が求められる。

18)については、設定通過率60%に対して度数分布が15~80%とばらついており、平均通過率が80%以上の学校はない。この問題は、植物体が燃焼するとき空気中の酸素が使われて少なくなった理由を実験結果から考える問題である。石灰水が白く濁ったとする誤答が15.6%であることから、二酸化炭素の量とろうそくの炎の大きさが関係しているとの誤った解釈が多いことが分かる。植物体が燃えると二酸化炭素ができることは大変よく理解されているが、ここでは、酸素には物を燃やす働きがあり、ろうそくの炎の大きさは二酸化炭素の量に関係するのではなく、酸素の量に帰着していることをしっかりとおさえることが必要である。

(3) 今後の指導

小学校6年生では、多面的に追究する資質・能力の育成が求められるが、この多面的に追究することにかかわる問題の通過率が設定通過率を下回る傾向にある。各学校においては、小学校3年生から5年生までに育成すべき問題解決の能力を明確にして指導を積み重ね、多面的な視点から観察・実験などを行い、結論を導く能力を育てる指導が求められる。

また、野外観察やねらいを明確にしたものづくりの活動を計画的に実施し、実感を伴った理解を図る工夫が必要である。例えば、12) 13) 14) はいずれも設定通過率を上回ってはいるものの、13) 14) については、平成13年度に実施した文部科学省の教育課程実施状況調査の通過率を下回る結果となっている。特に、13)については、野外で直接観察することで理解を図ることができる問題である。授業時間内に地層観察の実施が困難な場合は、遠足や校外学習等の機会を生かして実施したり、地質ボーリング資料を利用して土地の構成物を調べたりする方法も考えられる。また、博物館とも連携して指導の工夫を図りたい。15) 16) は、設定通過率をやや下回っている。ここでは、電磁石の性質を利用したものづくりを行うことにより、導線のつなぎ方やより強い電磁石にする方法について、実感を伴った理解を図ることが可能になる。

身近に見られる自然の事物・現象の変化や働きに子どもが問題を見だし、見いだした問題を多面的に追究する活動を教師が意図的・計画的に設定し、子どもに問題解決の能力を育成していく必要がある。その際、比較や要因抽出、条件制御などを中心とした問題解決の能力を問題解決の一連の活動に位置付け、結論を導いてくるようにすることが大事である。

なお、6年生では、「土地のつくりと変化」の内容において課題選択学習を行うことになる。子どもの興味・関心や地域の特性等を考慮し、選択に必要な情報を子どもに提供して子どもの主体的な選択を促すとともに、ゆとりの中で問題解決のための活動が十分に行われるよう配慮する必要がある。

中学校 2 年
理 科

1 中学校第2学年 理科 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し番号	観点			
				思考判断	技能表現	知識理解	
物理領域	(1)ア	・凸レンズの働きを調べる方法を考え、実験結果から物体の位置と像のでき方との関係を見いだすことができる。	(6)				
	(1)	・凸レンズの働きを調べる方法を考え、実験結果から物体の位置と像のできる位置との関係を見いだすことができる。	(7)				
	(1)イ (ア)	・力の単位や圧力の単位などを理解し、知識を身に付けている。	(8)				
	(1)イ (1)	・圧力の基本的な概念及び原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・空気にも重さがあることを調べる実験を行い、基本操作を習得している。	(9) (10)				
化学領域	(2)ア (ウ)	・気体の発生と性質について調べる方法を考え、観察、実験の基本操作を習得している。 ・気体の発生と性質について調べる方法を考え、気体の種類による特性を見いだすとともに、適切な捕集方法を指摘できる。	(16) (17)				
	(2)イ (1)	・酸、アルカリにはそれぞれに共通の性質があることを理解し、知識を身に付けている。	(18)				
	(2)イ (1)	・酸とアルカリを混ぜ合わせると、中和してそれぞれの性質が打ち消されて塩が生成することなどを理解し、知識を身に付けている。 ・酸・アルカリ・中和に関する観察・実験の基本操作を習得している。	(19) (20)				
	生物領域	(1)ア (ア)	・顕微鏡やルーペなどの観察器具の基本操作を習得している。	(3)			
		(1)イ (1)	・光合成の働きを調べる観察・実験を行い、基本操作を習得している。	(1)			
・観察・実験結果から、植物の体のつくりと光合成の働きを考察できる。			(2)				
・植物の体のつくりと働きについて理解し、知識を身に付けている。			(4)				
(1)ウ (ア)	・いろいろな植物の体のつくりにおける共通点や相違点を基に、植物を分類できることを理解し、知識を身に付けている。	(5)					
地学領域	(2)ア (ア)	・地層の重なり方の規則性を見だし、地層の広がりやを推定できる。	(15)				
	(2)イ (ア)	・双眼実体顕微鏡などを使い、火山の噴出物や火成岩の観察を行うことができる。	(13)				
		・火山岩と深成岩の特徴や成因について理解し、知識を身に付けている。	(14)				
	(2)イ (1)	・地震計の記録から、初期微動継続時間が震源からの距離に関係していることを推定できる。	(11)				
		・地震の揺れの大きさ（震度）と地震の規模（マグニチュード）について、その違いを理解し、知識を身に付けている。	(12)				

通し番号	出題内容	平均通過率 (%)	設定通過率 (%)	0	100
(1)	光合成と葉緑体	53.3	50.0		
(2)	デンプンができる条件と場所	80.0	80.0		
(3)	顕微鏡の操作	47.2	80.0		
(4)	気孔のつくりと働き	84.2	80.0		
(5)	双子葉類の根、茎、葉の特徴	50.8	50.0		
(6)	凸レンズでできる像	56.9	50.0		
(7)	凸レンズでできる像と距離の関係	51.1	50.0		
(8)	重力の単位	39.7	70.0		
(9)	圧力の大きさ	76.5	70.0		
(10)	空気の重さを確かめる方法	55.4	50.0		
(11)	初期微動継続時間と震源からの距離の関係	64.9	50.0		
(12)	マグニチュードの意味	51.4	80.0		
(13)	火山灰を観察するための押し洗い	36.8	70.0		
(14)	火山岩のつくりとでき方	60.1	70.0		
(15)	地層の傾き	41.5	50.0		
(16)	気体のつくり方	66.7	70.0		
(17)	気体の捕集方法	60.2	50.0		
(18)	酸性の水溶液の性質	53.4	70.0		
(19)	中性の水溶液とBTB溶液の反応	74.4	80.0		
(20)	中性の水溶液にする操作	45.6	50.0		

は設定通過率 ± 10% を示している。

3 小問別反応率

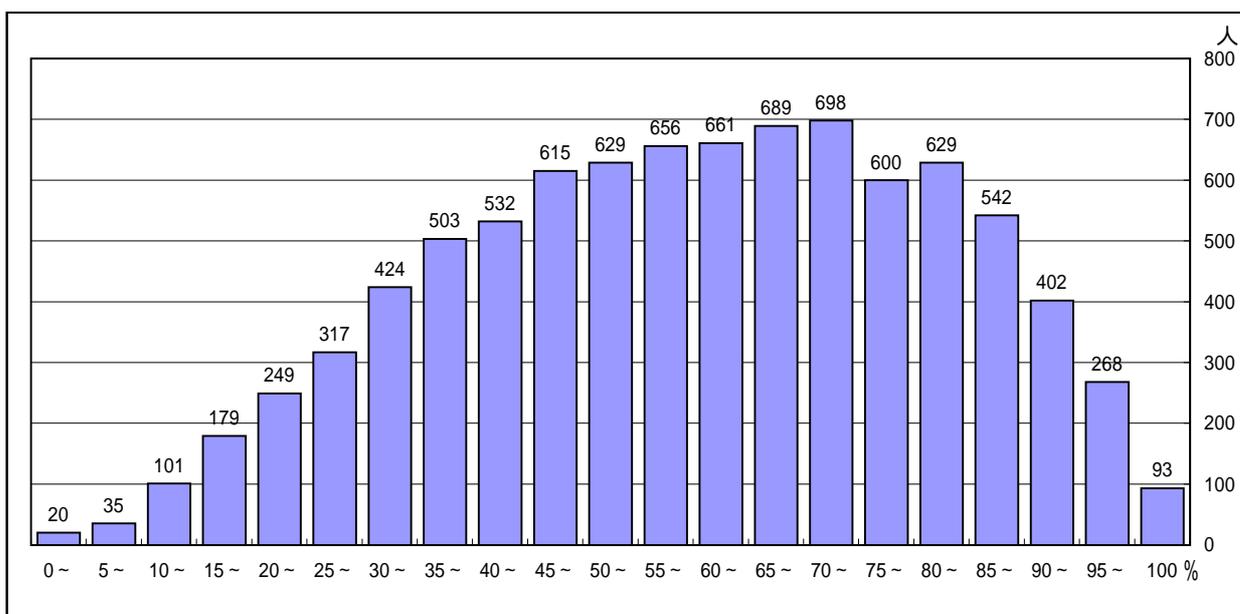
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)
1	(1)	(1) 53.3%	6.1%	40.1%	0.6%	0.0%
	(2)	(2) 80.0%	3.4%	16.2%	0.4%	0.0%
	(3)	(3) 47.2%	41.2%	10.7%	0.9%	0.0%
	(4)	(4) 84.2%	3.8%	11.5%	0.5%	0.0%
	(5)	(5) 50.8%	11.5%	36.7%	1.0%	0.3%
2	(1)	(6) 56.9%	24.8%	17.4%	0.9%	0.0%
	(2)	(7) 51.1%	20.4%	27.0%	1.5%	0.0%
3	(1)	(8) 39.7%	3.1%	38.5%	18.7%	0.0%
	(2)	(9) 76.5%	6.9%	14.9%	1.7%	0.0%
4	(10)	55.4%	9.7%	12.1%	22.8%	0.0%
5	(1)	(11) 64.9%	2.3%	20.8%	11.9%	0.0%
	(2)	(12) 51.4%	35.8%	11.9%	0.9%	0.0%
6	(1)	(13) 36.8%	2.6%	19.0%	41.7%	0.7%
	(2)	(14) 60.1%	14.3%	24.1%	1.4%	0.0%
	(3)	(15) 41.5%	23.7%	31.3%	3.6%	0.0%
7	(1)	(16) 66.7%	20.9%	11.6%	0.8%	0.0%
	(2)	(17) 60.2%	18.4%	20.6%	0.7%	0.0%
8	(1)	(18) 53.4%	20.9%	24.2%	1.4%	0.0%
	(2)	(19) 74.4%	2.4%	20.7%	2.5%	0.0%
	(3)	(20) 45.6%	10.4%	17.7%	26.4%	0.0%

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	93	93
95～	0	0	268	361
90～	0	0	402	763
85～	1	1	542	1305
80～	1	2	629	1934
75～	1	3	600	2534
70～	8	11	698	3232
65～	8	19	689	3921
60～	26	45	661	4582
55～	40	85	656	5238
50～	37	122	629	5867
45～	8	130	615	6482
40～	4	134	532	7014
35～	1	135	503	7517
30～	0	135	424	7941
25～	0	135	317	8258
20～	0	135	249	8507
15～	0	135	179	8686
10～	0	135	101	8787
5～	0	135	35	8822
0～	0	135	20	8842

5 (未履修)を除いた解答類型1～4の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 中学校2年 理科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全問題		20	2	13	5
観 点 別	科学的な思考	6	2	4	0
	技能・表現	6	0	4	2
	知識・理解	7	0	4	3

上回った：設定通過率10ポイント以上
 同程度：設定通過率±10ポイント
 下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度であるものの合計が、20問中15問である。
- ・文部科学省教育課程実施状況調査問題及び過去に実施した本県学習状況調査の同一問題、またはそれに類似する問題の通過率の比較では、10問中4問が上回り、4問が同程度、2問が下回っている。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「科学的な思考」では6問中2問が上回り、2問が同程度、「技能・表現」では6問中4問が同程度であり、「知識・理解」では、7問中4問が同程度、3問が下回っている結果であった。
- ・無記入は、記述する問題である13)が41.7%、20)が26.4%、10)が22.8%、11)が11.9%と高い値を示している。

小問別通過率度数分布

中学校2年理科小問別通過率度数分布表校 1学年20人以上データを提出した学校	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率
以上 未満	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100%	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
95~100%	0	3	0	4	0	0	0	0	5	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
90~95%	0	10	0	28	0	2	0	0	7	1	3	1	0	0	0	2	0	1	7	0	0
85~90%	1	28	1	33	2	2	1	1	11	1	6	2	0	2	0	3	4	0	12	0	0
80~85%	5	29	1	36	0	5	1	2	36	2	15	1	0	2	0	8	9	0	20	0	1
75~80%	2	32	2	12	5	6	7	1	22	7	15	0	1	7	0	15	15	0	28	2	1
70~75%	12	14	3	6	3	11	4	1	14	10	17	5	4	11	1	22	8	3	21	2	8
65~70%	7	9	6	7	7	11	4	6	17	13	14	9	5	27	1	23	18	11	15	7	8
60~65%	14	2	13	0	15	17	13	4	9	22	19	10	5	23	1	26	17	10	12	7	25
55~60%	18	1	15	1	10	18	20	6	4	14	9	14	9	19	3	16	16	23	7	15	39
50~55%	17	0	17	0	28	13	18	11	1	10	6	24	10	16	20	9	16	36	3	21	35
45~50%	13	0	13	0	16	16	17	13	0	15	5	19	9	12	15	2	8	23	0	14	7
40~45%	22	0	19	0	14	16	23	20	2	17	9	19	13	7	36	1	10	12	2	19	3
35~40%	6	0	17	0	13	5	8	14	0	11	6	13	13	1	20	1	3	7	0	19	1
30~35%	5	0	7	0	10	3	5	11	0	4	2	9	14	1	24	0	1	1	0	8	0
25~30%	3	0	9	0	4	2	5	12	0	1	1	1	11	0	4	0	0	0	0	8	0
20~25%	3	0	4	0	0	1	2	15	0	0	0	1	8	0	2	0	1	1	0	1	0
15~20%	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	10	0	1	0	1	0	0	2	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	1	0
5~10%	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0
	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、11) 17) の2問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、3) 8) 12) 13) 18) の5問である。
- ・各校における通過率の差が50ポイント以上あった問題は、2) 4) を除く18問である。

(2) 考察

調査結果から、中学校2年生の学習の実現状況はおおむね良好といえるが、いくつかの単元で指導方法の一層の改善が求められる結果となっている。

設定通過率を10ポイント以上上回った問題は2問であるが、上に示した度数分布表からは、例えば11)が25～100%の範囲に、17)が15～100%の範囲に広く分布しており、各学校の結果に大きな差が生じている。文部科学省及び本県学習状況調査の同一問題、またはそれに類似する問題の通過率との比較では、1)の光合成における葉緑体の必要性、6)の凸レンズによってスクリーンに映る実像の向きと大きさ、11)の地震波の記録から震源までの距離の違いを推定する問題が、それぞれ過去の通過率よりも10ポイント以上向上しており、この学習内容に関しては指導の改善がうかがえる。

設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、3)8)12)13)18)の5問である。

これらは、度数分布においてすべて75%以上の幅があり、各学校の結果に大きな差が生じている。このうち、8)では無記入が18.7%であることも含め、力の単位としてNを用いることへの対応が十分ではないと考えられる。12)ではマグニチュードを「ゆれの大きさ」とする誤答が35.8%もあり、マグニチュードと震度の意味を取り違えていることが分かる。また、13)は無記入が41.7%にも及ぶことから、この操作が実際の授業で生徒実験としてあまり行われていないことが考えられる。露頭や登山道から採取したものや火山灰そのものから鉱物を特定する方法を習得させる必要があると思われる。18)は、「酸性でリトマス紙が赤から青になる」とする誤答が20.9%もあり、小学校においても実験で確認していることとはいえ、酸性やアルカリ性の水溶液とリトマス紙の反応という基本的な知識が不足している状況にある。

10)は、自分で実験方法を考える力を問う問題であるが、通過率が55.4%で無記入が22.8%であることを考えると、目的意識をもって実験していることは考えにくい。自ら考え、判断し、問題解決していく力の育成のために、自分で計画を立て、それに基づいて予想し、検証していく学習過程の基礎を身に付けさせる必要がある。そのためにも、生徒自身が観察・実験の方法を考え、工夫する場面を意図的に設定するなど、観察・実験の質的な改善が求められる。

(3) 今後の指導

今回の学習状況調査では、「知識・理解」を問う7問の中で、5問が設定通過率を下回る結果となった。特に、「大地の変化」の内容である大問6は、すべて設定通過率を下回っている。「大地の変化」は3年生から1年生に移ってきた内容である。3年生での指導方法をそのまま行うのではなく、1年生が十分に理解できるよう、1年生という発達段階を考慮した指導計画・指導方法を工夫する必要がある。また、「地層と過去の様子」の学習に当たっては、野外観察の機会をもつことや実物の資料に触れることが必要である。学校周辺の露頭の有無による条件の差も大きいと考えられるが、校外学習等を利用して野外観察の場を設定するなど、積極的に取り入れることが大切である。

観察・実験は各学校でよく実施されており、特に個に応じた指導方法の一つとして、学習シートを用いての観察・実験が多く見られる。しかし、教師が学習の順序や方法をすべて準備した学習シートからは、10)で求めるような力を育成することはできない。与えられたことをそのままどっていくという学習のプロセスでは、自ら考え、解決する力を育成することが困難である。

観察・実験が生徒にとって問題解決のための活動となるよう、予想や仮説の設定のもとに、生徒が観察・実験の方法を考え、検証していく過程を一層重視するとともに、問題を解決していく過程を通して必要な技能や知識の習得が十分に図られるよう、学習過程の工夫や教材の開発を進めることが望まれる。

中学校 3 年
理 科

1 中学校第3学年 理科 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し番号	観点		
				思考判断	技能表現	知識理解
物理領域	(3)ア (1)	・直列回路や並列回路における電流や電圧の規則性を指摘できる。	(16)			
	(3)ア (ウ)	・直列回路や並列回路における金属線の電気抵抗の観察、実験などを行い、結果を適切に処理することができる。	(17)			
	(3)イ (ア)	・磁石や電流による磁界の観察、実験などを行い、規則性を見いだすことができる。	(18)			
	(3)イ (1)	・コイルや磁石を動かすことによって電流が得られる観察、実験などを行い、規則性を見いだすことができる。	(19)			
		・コイルや磁石を動かすことによって電流が得られる観察、実験などを行い、規則性を見いだすことができる。	(20)			
化学領域	(4)ア (ア)	・物質を分解する実験方法を理解し、知識を身に付けている。	(4)			
	(2)ア (1)	・物質には性質の違いや共通の性質があり、それに基づいて分類できることを理解し、知識を身に付けている。	(5)			
	(4)ア (1)	・物質は原子や分子からできており、原子記号で表せることを理解し、知識を身に付けている。	(6)			
	(4)イ (1)	・安全に注意して化合の実験を行ったり、化学変化の質量を注意深く測定したりする方法を習得している。	(7)			
		・一定の質量の物質に反応する他方の物質の質量には限度があり、その限度の質量は一方の質量に比例することを理解し、知識を身に付けている。	(8)			
生物領域	(3)ア (ウ)	・消化などで適切な条件を設定して実験を行うことができる。	(9)			
		・消化の仕組みなどについて理解し、知識を身に付けている。	(10)			
		・腎臓や肝臓の働きについて理解し、知識を身に付けている。	(11)			
	(3)イ (ア)	・脊椎動物の5つの仲間の特徴や脊椎動物の例などについて理解し、知識を身に付けている。	(12)			
		・脊椎動物の5つの仲間の特徴や脊椎動物の例などについて理解し、知識を身に付けている。	(13)			
地学領域	(4)ア (ア)	・風向、風力の観測器具の取り扱い方や観測の方法を習得している。	(14)			
		・気温、湿度の観測器具の取り扱い方や観測の方法を習得している。	(15)			
		・気温、湿度、気圧、風向、風力などの気象要素について理解し、知識を身に付けている。	(1)			
		・気温、湿度、気圧、風向、風力、天候などの観測結果を基に、天気の変化の規則性、気温と湿度の日較差と天候との関係、気温の変化と湿度の変化の関係、気圧の変化と天候や雲の様子との関係などの規則性を見いだすことができる。	(2)			
	(4)イ (1)	・前線が通過するときの気温、湿度、気圧、風向、風力、天候などの変化から、前線が通過するときの天気の変化の規則性を見いだすことができる。	(3)			

通し番号	出題内容	平均通過率 (%)	設定通過率 (%)	0	100
(1)	風向、風力、天気を読み取り	61.1	80.0		
(2)	湿度と気圧のグラフ	45.8	70.0		
(3)	寒冷前線が通過した日時	42.0	60.0		
(4)	水の電気分解	92.9	80.0		
(5)	化合物	54.5	60.0		
(6)	酸素の分子モデル	56.9	60.0		
(7)	マグネシウムを熱するときの実験技能	48.4	70.0		
(8)	マグネシウムと酸素の化合する割合	28.3	50.0		
(9)	だ液の働きを調べるための対照実験	38.6	60.0		
(10)	デンプンや糖の検出	34.3	70.0		
(11)	肝臓の働き	41.3	80.0		
(12)	呼吸の仕方によるセキツイ動物の分類	85.0	80.0		
(13)	セキツイ動物の分類	72.5	80.0		
(14)	風向計からの風向の読み取り	42.1	60.0		
(15)	湿度表による湿度の読み取り	76.8	60.0		
(16)	電流回路での電流と電圧のきまり	59.7	70.0		
(17)	電流と電圧の関係グラフ	66.0	60.0		
(18)	コイルの回りに生じる磁界の向き	35.5	50.0		
(19)	誘導電流の向き	42.4	50.0		
(20)	誘導電流の大きさ	78.9	70.0		

は設定通過率 $\pm 10\%$ を示している。

3 小問別反応率

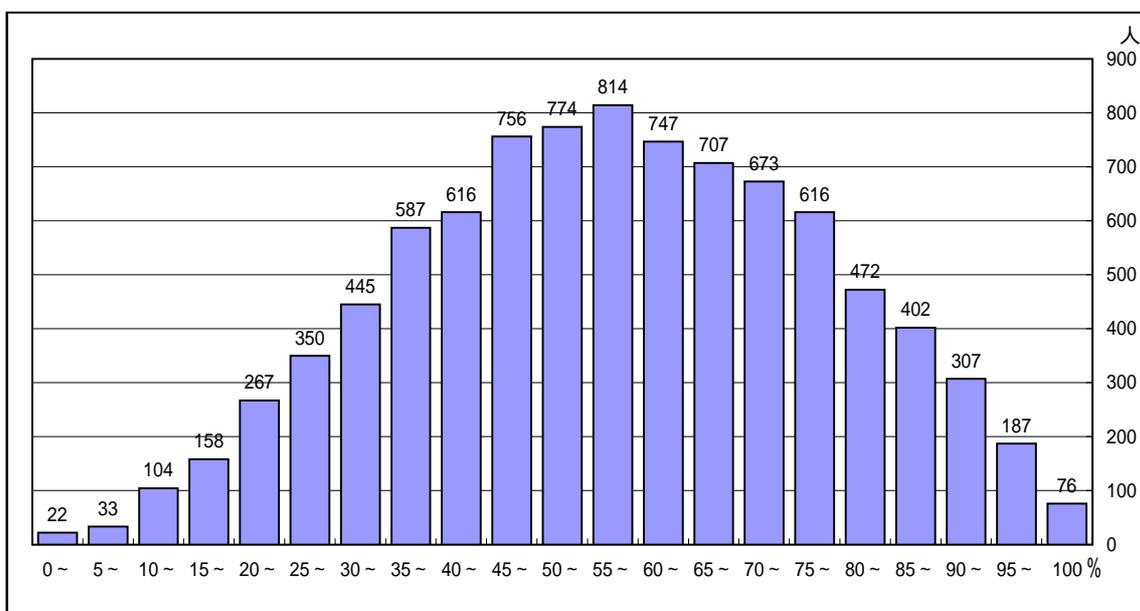
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)
1	(1)	(1) 61.1%	4.8%	32.8%	1.3%	0.0%
	(2)	(2) 45.8%	18.1%	29.5%	6.7%	0.0%
	(3)	(3) 42.0%	6.2%	47.2%	4.7%	0.0%
2	(1)	(4) 92.9%	1.2%	5.7%	0.2%	0.0%
	(2)	(5) 54.5%	26.3%	18.9%	0.3%	0.0%
	(3)	(6) 56.9%	13.6%	29.2%	0.3%	0.0%
3	(1)	(7) 48.4%	4.7%	25.8%	21.1%	0.2%
	(2)	(8) 28.3%	11.0%	43.6%	17.1%	0.3%
4	(1)	(9) 38.6%	7.2%	40.0%	14.2%	0.1%
	(2)	(10) 34.3%	7.9%	56.4%	1.3%	0.0%
	(3)	(11) 41.3%	11.2%	45.7%	1.8%	0.0%
5	(1)	(12) 85.0%	3.9%	10.9%	0.3%	0.0%
	(2)	(13) 72.5%	12.5%	14.7%	0.4%	0.0%
6	(1)	(14) 42.1%	50.4%	4.8%	2.7%	0.0%
	(2)	(15) 76.8%	10.0%	12.3%	1.0%	0.0%
7	(1)	(16) 59.7%	15.6%	23.9%	0.7%	0.0%
	(2)	(17) 66.0%	7.9%	18.9%	7.2%	0.0%
8	(1)	(18) 35.5%	18.4%	45.2%	0.9%	0.0%
	(2)	(19) 42.4%	23.5%	32.6%	1.5%	0.0%
		(20) 78.9%	0.3%	7.8%	13.0%	0.0%

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	76	76
95～	0	0	187	263
90～	0	0	307	570
85～	0	0	402	972
80～	0	0	472	1444
75～	1	1	616	2060
70～	3	4	673	2733
65～	10	14	707	3440
60～	26	40	747	4187
55～	35	75	814	5001
50～	31	106	774	5775
45～	23	129	756	6531
40～	5	134	616	7147
35～	1	135	587	7734
30～	0	135	445	8179
25～	0	135	350	8529
20～	0	135	267	8796
15～	0	135	158	8954
10～	0	135	104	9058
5～	0	135	33	9091
0～	0	135	22	9113

5 (未履修)を除いた解答類型1～4の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 中学校3年 理科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全問題		20	2	7	11
観 点 別	科学的な思考	5	0	2	3
	技能・表現	6	1	1	4
	知識・理解	9	1	4	4

上回った：設定通過率10ポイント以上
 同程度：設定通過率±10ポイント
 下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度であるものが9問、下回るものが11問ある。
- ・過去に実施した本県学習状況調査の同一問題、またはそれに類似する問題の通過率の比較では、10問中9問が上回り、残り1問も - 1%以内で、ほぼ同程度ある。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「科学的な思考」では5問中3問、「技能・表現」では6問中4問、「知識・理解」では9問中4問が、それぞれ下回るという結果である。
- ・無記入は、記述する問題である7)が21.1%、8)が17.1%、9)が14.2%、20)が13.0%と高い値を示している。

小問別通過率度数分布

以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率
100%	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0
95~100%	0	0	0	43	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	0	2	0	0	4	0
90~95%	1	0	0	40	0	0	1	0	1	0	0	22	7	1	10	1	9	0	0	11	0
85~90%	2	0	0	23	1	2	4	0	1	0	0	42	8	0	24	0	7	0	0	22	0
80~85%	5	0	0	6	2	3	3	0	0	0	3	37	17	3	20	6	7	0	0	30	0
75~80%	9	1	0	0	1	4	5	0	6	1	0	12	20	3	28	4	19	1	0	25	1
70~75%	17	0	1	2	12	13	10	0	7	0	3	5	20	0	18	7	18	0	1	15	3
65~70%	18	4	3	1	9	11	4	1	12	1	2	3	24	5	15	21	14	2	1	11	7
60~65%	21	5	8	0	21	20	7	2	5	0	2	0	14	7	6	20	10	2	3	3	25
55~60%	21	14	12	0	23	20	14	5	6	1	9	0	9	8	2	27	10	0	7	1	33
50~55%	11	28	19	0	19	19	9	6	12	8	13	0	6	11	2	25	13	3	13	1	29
45~50%	11	14	13	0	13	13	12	6	6	11	16	0	1	15	1	8	7	12	29	1	23
40~45%	7	28	19	0	13	13	16	8	8	17	21	0	0	13	0	5	1	14	28	0	5
35~40%	1	17	12	0	6	6	14	7	10	25	20	0	0	13	1	1	3	32	16	1	1
30~35%	2	13	18	0	6	2	8	19	10	20	15	0	0	14	0	2	1	25	18	0	0
25~30%	1	3	12	0	0	1	6	25	9	19	8	0	0	17	0	0	3	22	9	0	0
20~25%	0	0	10	0	1	0	6	16	9	14	7	0	0	9	0	0	1	13	2	0	0
15~20%	0	0	0	0	0	0	4	15	7	9	4	0	0	6	0	0	2	1	0	0	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	10	8	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	3	3	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	1	4	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、4) 15) の2問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、1) 2) 3) 7) 8) 9) 10) 11) 14) 16) 18) の11問である。
- ・各校における通過率の差が50ポイント以上あった問題は、4) 12) を除く18問である。

(2) 考察

調査結果から、設定通過率を下回った問題は11問であるが、過去に実施した問題との比較ではほとんどが上回っている。

設定通過率を10ポイント以上上回った問題は2問であるが、4)の水の電気分解に関する問題では通過率が90%を超えており、実験がよく行われているとともに、実験方法もよく理解されているといえる。しかし、得られた結果を基に、物質の変化を原子、分子のモデルと関連付けて理解しているかどうかを見る5)と6)の問題については、通過率が60%を下回っており、度数分布も25~90%とばらつきが大きい。

設定通過率を10ポイント以上下回った問題は11問あるが、そのうち8問は記述式や複数の解答を組み合わせたたりする完全解答の問題である。7)は、化学変化における量的な関係を見いださせるために、注意深く実験する方法の習得が図られているかを見る問題であるが、通過率は48.4%で度数分布も0~95%とばらつきが大きい。また、無記入が20%を超えている。問題文で「化合物の質量を正確にはかるため」と強調したにもかかわらず、熱するときの注意として「火傷」だけととらえることが多いのは、実験の目的を十分に理解していないことが原因と考えられる。8)は、最も通過率の低かった問題である。誤答傾向から、質量の増える理由をしっかりとらえていないことが考えられる。マグネシウムや銅の酸化の実験は、正しいデータが得にくく時間のかかる実験であるが、グループで金属の質量を変えたり複数回の実験データを基にして考察する時間を保障するなど、定量的な実験に基づき結論を導き出す方法を習得させ、化学変化における物質の質量関係を見いださせるようにするための教師の支援が必要である。

9)は、だ液の働きを調べる実験で、問題解決のための実験方法を考える問いである。通過率の度数分布は0~95%まで範囲が広く、ばらつきが大きい。試験管の代わりにアルミニウムはくを使う方法もあるが、方法は違ってても対照実験が必要である理由を把握しないまま無目的に実験を行っていることが、誤答や無記入の割合が大きい原因と考えられる。仮説や予想など、見通しをもって観察や実験を行うことがより強く求められる。

(3) 今後の指導

記述式を除けば知識・理解の状況をみる問題は、おおむね通過率が50%を超えているが、科学的な思考を問う問題の通過率は50%以下である。ほとんどの問題で各校における通過率の差が50ポイント以上あることから、課題は各校により異なるものの、「目的意識をもって」観察や実験を行うことが一層重要視されていることを今一度再確認したい。

「観察や実験は好きだが、結果から考察したりまとめたりすることが苦手である」という声が今もってある。観察・実験の質的転換を図るために、単にそのプロセスをたどるだけでなく、一つ一つの観察・実験のねらいをよく把握した上で行き、結果について十分吟味し考察することが求められる。そのために、生徒の自然事象に対する疑問を大切にしながら、生徒自らの課題としてとらえることができるように身近に見ることと結び付く事象提示を工夫し、問題解決の能力を養っていく必要がある。また、課題-予想(仮説)-検証方法-結果-考察という一連の過程を経て、自然の規則性や法則性を発見できるように構成するとともに、主体的な活動によって科学的な思考力や表現力を育てていくことを一層重視していくことが大切である。なお、実験シートがマニュアル書や言葉を埋めるだけの形式的なものにならないように工夫を図りたい。

特に、中学校2、3年では定量的な実験が増えてくるため、技能の習熟が実験をスムーズに行うポイントとなる。3年間を見通して、生徒一人一人の技能の確実な習熟が計画的に図られるような指導の工夫が求められる。

中学校 2 年

英 語

1 中学校2年 英語 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し番号	観点		
				表現	理解	知識・理解
聞くこと	ア(イ)	[正確な聞き取り] ・聞いた内容について正しく内容を聞き取ることができる。	(1 (2			
	ア(イ)	[適切な聞き取り] ・聞いた内容について大切な部分を聞き取ることができる。	(3 (4 (5			
	ア(ウ)	[適切な聞き取り] ・質問や依頼などに対して、適切に応じることができる。	(6 (7			
読むこと	ウ(ウ)	[正確な読み取り] ・書かれた内容について正しく読み取ることができる。	(8			
	ウ(ウ)	[適切な読み取り] ・書かれた情報について大切な部分を読み取ることができる。	(9 (10 (11			
	ウ(ウ)	[言語についての知識・理解] ・場面や状況にふさわしい表現を知っている。	(12 (13			
書くこと	エ(ウ)	[正確な筆記] ・書こうとすることを読み手に正確に伝えることができる。	(14 (15 (16			
	エ(ウ)	[適切な筆記] ・文のつながりや構成を考えた文章を書くことができる。	(17			
	エ(ウ)	[言語についての知識・理解] ・文構造についての知識がある。	(18 (19 (20			

通し番号	出題内容	平均通過率 (%)	設定通過率 (%)	0	100
(1)	(聞)電話での応答の場面	85.9	75.0		
(2)	(聞)月日の説明	88.7	75.0		
(3)	(聞)買い物の場面	95.0	70.0		
(4)	(聞)道案内の場面	88.5	75.0		
(5)	(聞)贈り物を渡す場面	97.6	70.0		
(6)	(聞)質問への対応	46.4	65.0		
(7)	(聞)指示への対応	42.3	65.0		
(8)	(読)初対面のあいさつの場面	79.0	70.0		
(9)	(読)友人についての描写	82.0	80.0		
(10)	(読)友人関係の描写	77.9	70.0		
(11)	(読)友人の行動の描写	25.3	70.0		
(12)	(読)食事に誘う場面	88.2	80.0		
(13)	(読)人名を尋ねる場面	49.1	70.0		
(14)	(書)好みを尋ねる質問	63.5	75.0		
(15)	(書)登校方法を尋ねる質問	15.4	60.0		
(16)	(書)人物の行動の描写	14.6	55.0		
(17)	(書)まとまった自己紹介	53.5	60.0		
(18)	(書)自分の行動の説明	36.0	70.0		
(19)	(書)過去の出来事の描写	43.4	70.0		
(20)	(書)相手を誘う表現	75.0	75.0		

は設定通過率 ± 10% を示している。

3 小問別反応率

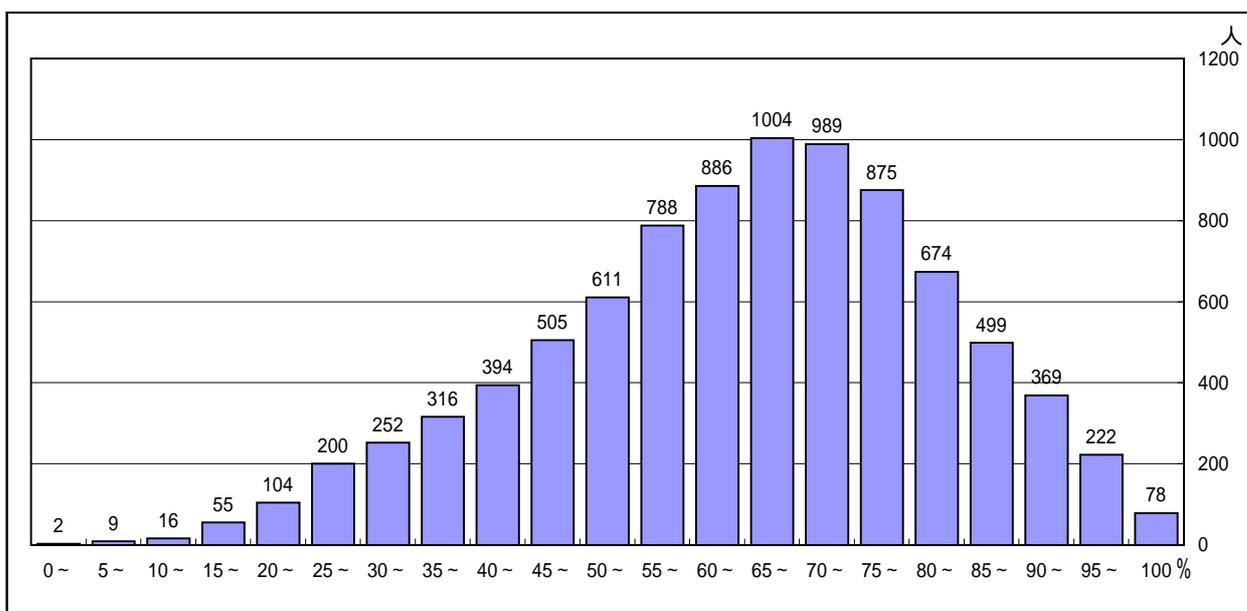
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)
1	(1)	(1) 85.9%	5.6%	8.5%	0.1%	0.0%
	(2)	(2) 88.7%	7.3%	3.9%	0.1%	0.0%
2	(1)	(3) 95.0%	3.4%	1.6%	0.0%	0.0%
	(2)	(4) 88.5%	7.9%	3.4%	0.1%	0.0%
	(3)	(5) 97.6%	1.4%	0.9%	0.1%	0.0%
3	(1)	(6) 46.4%	39.7%	13.8%	0.2%	0.0%
	(2)	(7) 42.3%	30.1%	26.7%	0.9%	0.0%
4	(8)	79.0%	6.5%	14.4%	0.2%	0.0%
5	(1)	(9) 82.0%	8.3%	9.1%	0.6%	0.0%
	(2)	(10) 77.9%	3.2%	17.9%	1.0%	0.0%
		(11) 25.3%	40.2%	33.3%	1.2%	0.0%
6	(1)	(12) 88.2%	3.7%	7.8%	0.3%	0.0%
	(2)	(13) 49.1%	28.6%	21.6%	0.6%	0.0%
7	(1)	(14) 63.5%	6.2%	13.6%	16.8%	0.0%
	(2)	(15) 15.4%	5.0%	55.4%	24.2%	0.0%
	(3)	(16) 14.6%	22.4%	26.8%	36.1%	0.0%
8	(17)	53.5%	31.8%	6.9%	7.8%	0.0%
9	(18)	36.0%	2.1%	54.4%	7.5%	0.0%
	(19)	43.4%	11.0%	35.2%	10.3%	0.0%
	(20)	75.0%	6.7%	10.9%	7.4%	0.0%

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	78	78
95 ~	0	0	222	300
90 ~	0	0	369	669
85 ~	0	0	499	1168
80 ~	0	0	674	1842
75 ~	3	3	875	2717
70 ~	14	17	989	3706
65 ~	27	44	1004	4710
60 ~	44	88	886	5596
55 ~	33	121	788	6384
50 ~	11	132	611	6995
45 ~	3	135	505	7500
40 ~	0	135	394	7894
35 ~	0	135	316	8210
30 ~	0	135	252	8462
25 ~	0	135	200	8662
20 ~	0	135	104	8766
15 ~	0	135	55	8821
10 ~	0	135	16	8837
5 ~	0	135	9	8846
0 ~	0	135	2	8848

5 (未履修) を除いた解答類型 1 ~ 4 の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 中学校2年 英語 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全問題		20	5	6	9
領域別	聞くこと	7	5	0	2
	読むこと	6	0	4	2
	書くこと	7	0	2	5

上回った：設定通過率10ポイント以上
 同程度：設定通過率±10ポイント
 下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度であるものの合計が、20問中11問である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査の同一問題、またはそれに類似する問題の通過率の比較では、5問中4問が上回っている。
- ・領域別で通過率と設定通過率を比較した場合、「聞くこと」では、7問中5問が上回っているが、2問が下回っている。「読むこと」では、6問中4問が同程度で2問が下回っている。「書くこと」については、7問中2問が同程度で5問が下回ったという結果であった。
- ・無答率が高かった問題は、15) 16) であり、それぞれ24.2%、36.1%であった。

小問別通過率度数分布

中学校2年生英語 小問別通過率度数分布表(校)	1学年20人以上データを提出した学校																				平均通過率
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	
100%	2	2	14	4	41	0	0	0	0	1	0	4	0	0	0	0	2	0	0	1	0
95~100%	5	9	68	11	71	0	0	1	5	0	0	16	0	0	0	0	1	0	0	2	0
90~95%	34	46	28	41	14	0	0	7	17	10	0	44	0	1	0	0	7	0	0	10	0
85~90%	37	47	15	39	1	0	0	18	28	21	0	31	1	3	0	0	4	0	1	9	0
80~85%	23	17	1	19	0	0	0	39	31	27	1	20	0	12	0	0	7	0	0	19	0
75~80%	17	3	1	10	0	0	0	28	24	28	0	4	4	8	0	0	11	0	0	27	2
70~75%	4	2	0	2	0	1	0	18	10	25	0	6	6	11	0	0	10	0	5	25	13
65~70%	3	0	0	0	0	6	1	12	8	9	1	0	5	19	0	0	8	4	6	12	26
60~65%	1	1	0	0	0	4	2	4	1	3	1	1	10	26	0	0	4	2	6	8	42
55~60%	0	0	0	0	0	11	9	0	1	1	0	0	13	22	1	0	8	4	6	7	32
50~55%	0	0	0	0	0	21	14	0	1	1	0	0	18	13	4	0	7	9	15	1	9
45~50%	1	0	0	0	0	20	23	0	0	0	2	0	21	4	1	1	6	12	18	3	3
40~45%	0	0	0	1	0	26	30	0	0	0	5	0	16	5	1	0	14	13	20	2	0
35~40%	0	0	0	0	0	21	25	0	0	0	6	1	15	0	5	4	8	22	17	0	0
30~35%	0	0	0	0	0	13	16	0	1	0	13	0	7	2	9	1	8	21	13	1	0
25~30%	0	0	0	0	0	4	5	0	0	0	23	0	5	1	4	9	6	15	9	0	0
20~25%	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	39	0	3	0	9	15	7	14	4	0	0
15~20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0	1	0	19	20	2	9	7	0	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	11	0	0	0	14	30	4	1	0	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	28	30	1	1	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	32	17	2	0	0	0	0
	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、1) 2) 3) 4) 5) の5問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、6) 7) 11) 13) 14) 15) 16) 18) 19) の9問である。
- ・各校における通過率の差が50ポイント以上あった問題は、1) 4) 6) 7) 9) 10) 11) 12) 13) 14) 15) 16) 17) 18) 19) 20) の16問である。
- ・特に15) 16) の2問は通過率が著しく低い。

(2) 考察

調査結果から、中学校2年生の全般的な学習の実現状況は「聞くこと」「読むこと」についてはおおむね良好といえるが、「書くこと」については良好であるとはいえない。

設定通過率を10ポイント以上上回った問題は「聞くこと」についての5問である。度数分布表からも75～100%の範囲にある学校がほとんどであり、各校の「聞くこと」における指導状況が大変良好であることがうかがわれる。

設定通過率を10ポイント以上下回った問題が9問あり、特に15)と16)の2問が大きく下回っており、無答率も高かった。2問とも対話文中のヒントと絵から答を導き出すものである。15)は、「By bus.」から「How do you」を導き出す問題で、設定通過率60%に対して15.4%であった。原因として、教師が日々の授業を英語で行う努力をしながらも、実際の授業中のインタラクションにおいて生徒が教師や他の生徒に英語で質問するという場面設定が少ないことなどが考えられる。16)は、絵を参考にして、「What does he do?」というヒントから「He studies English.」等の答を導き出す問題で、設定通過率55%に対して14.6%であった。この問題に関しては、生徒が対話文と絵の関連をうまく捉えることができなかつた可能性がある。今後、類似問題を作成する際には、対話文と絵の関連性に一層留意する必要がある。

17)は、「自己紹介文を3文以上書く」という問題であるが、度数が0～100%までと最も広く分布しており、また、「内容のつながりが悪い」と判断された誤答が31.8%もあり、あるトピックでまとまった英文を書かせることについて、各校の取り組みに大きな差があることが分かる。設定通過率±10%の範囲に入っている学校やそれを上回っている学校も多くあることから、課題のある学校については指導の改善が求められる。

18)19)については、ともに単語を並べかえて文を作る問題である。設定通過率70%に対して度数分布が20%～60%の範囲に多くの学校が入っている。設定通過率自体は高くないと思われるので、「主語＋動詞＋目的語」という英文の基本的な語順を確実に習得させる指導の工夫が必要である。

(3) 今後の指導

中学校段階では音声によるコミュニケーション能力を重視しているということで、特に「聞くこと」と「話すこと」の言語活動に重点をおいて指導することとなっている。そこで「書くこと」については、「話せる程度の内容は正確かつ適切に書けるようにする」ということを基本にして、指導に当たることが大切である。そのために必要な語彙や文法事項等の言語材料を計画的に繰り返し指導することが、バランスのとれた実践的コミュニケーション能力の基礎を養うことにつながると考える。

また、一つのトピックを与えてまとまった英文を書かせる指導は、各校において実践されているところではあるが、「書くこと」の生徒の能力を3年間でどのように高めていくかを明確にした「スキルアップ表」などを作成し、生徒に到達点を意識させながら、自己紹介、自分が住んでいる地域や日本の紹介、学校での学習や活動などの生徒に身近なトピックについて繰り返し書かせることにより、よく用いられる表現を定着・拡充させていくなどの工夫が求められる。

中学校 3 年

英 語

1 中学校3年 英語 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し番号	観 点		
				表 現	理 解	知識・ 理解
聞くこと	ア(イ)	[正確な聞き取り] ・聞いた内容について正しく内容を聞き取ることができる。	(1 (2			
	ア(イ)	[適切な聞き取り] ・聞いた内容について大切な部分を聞き取ることができる。	(3 (4 (5			
	ア(ウ)	[適切な聞き取り] ・質問や依頼などに対して、適切に応じることができる。	(6 (7			
読むこと	ウ(ウ)	[適切な読み取り] ・書かれた情報について大切な部分を読み取ることができる。	(10 (11			
	ウ(エ)	[適切な読み取り] ・伝言や手紙などに対して、適切に応じることができる。	(12 (13			
	ウ(ウ)	[言語についての知識・理解] ・場面や状況にふさわしい表現を知っている。	(8 (9			
書くこと	エ(ウ)	[正確な筆記] ・書こうとすることを読み手に正確に伝えることができる。	(15 (16			
	エ(ウ)	[適切な筆記] ・文のつながりや構成を考えた文章を書くことができる。	(17			
	エ(ウ)	[適切な筆記] ・内容を整理し、必要な分量を書くことができる。	(14			
	エ(ウ)	[言語についての知識・理解] ・文構造についての知識がある。	(18 (19 (20			

通し番号	出題内容	平均通過率 (%)	設定通過率 (%)	0	100
(1)	(聞)室内にある物の描写	88.5	75.0		
(2)	(聞)人物の動作の描写	98.7	75.0		
(3)	(聞)天候の説明	97.3	80.0		
(4)	(聞)スポーツの好みの説明	95.8	80.0		
(5)	(聞)電話での応答の場面	89.8	70.0		
(6)	(聞)相手の意見への対応	80.1	65.0		
(7)	(聞)留守番電話への対応	40.7	60.0		
(8)	(読)借用を依頼する場面	68.4	60.0		
(9)	(読)誘いを断る場面	72.3	60.0		
(10)	(読)人物の行き先の描写	83.2	80.0		
(11)	(読)アメリカ社会の描写	74.6	75.0		
(12)	(読)招待状への対応	68.6	70.0		
(13)	(読)天気予報への対応	86.8	70.0		
(14)	(書)まとまった友人紹介	39.1	50.0		
(15)	(書)行き先を尋ねる質問	27.1	55.0		
(16)	(書)季節の好みを尋ねる質問	35.8	45.0		
(17)	(書)まとまった体験談	33.6	40.0		
(18)	(書)道を尋ねる質問	73.5	70.0		
(19)	(書)自分の行動予定の説明	40.4	70.0		
(20)	(書)贈り物の説明	57.2	65.0		

は設定通過率 ± 10% を示している。

3 小問別反応率

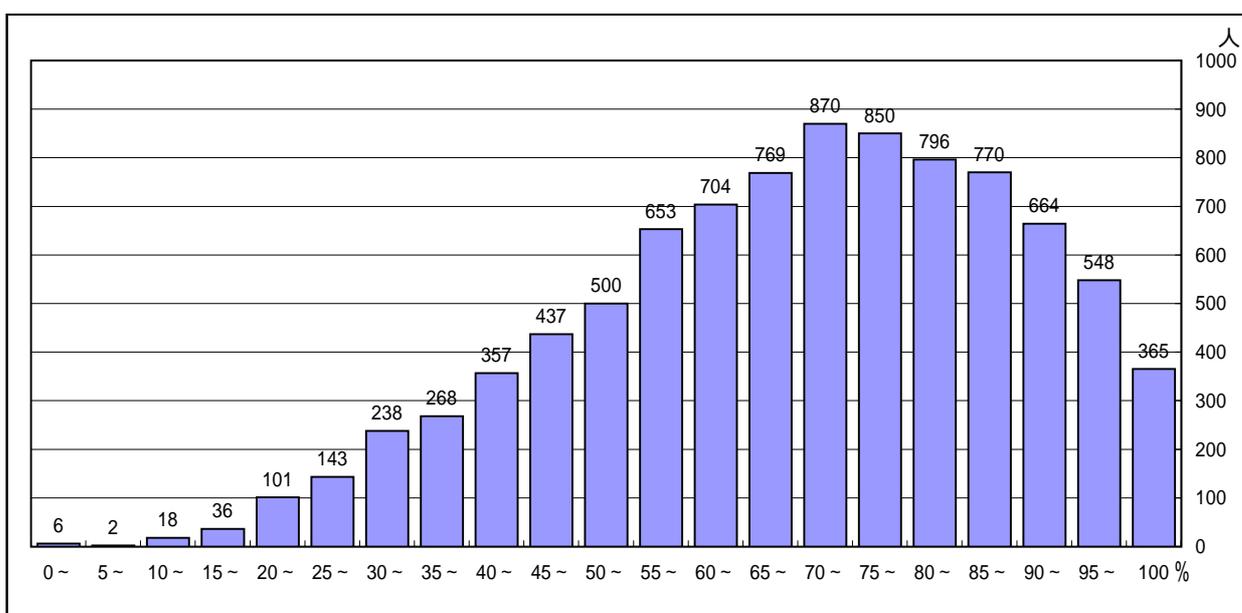
問題番号	通し番号	1 (通過率)	2 (誤答No1)	3 (誤答その他)	4 (未記入)	5 (未履修)
1	(1)	(1) 88.5%	9.9%	1.6%	0.0%	0.0%
	(2)	(2) 98.7%	0.5%	0.8%	0.0%	0.0%
2	(1)	(3) 97.3%	1.4%	1.2%	0.0%	0.0%
	(2)	(4) 95.8%	2.5%	1.7%	0.0%	0.0%
	(3)	(5) 89.8%	4.4%	5.8%	0.0%	0.0%
3	(1)	(6) 80.1%	6.4%	13.5%	0.1%	0.0%
	(2)	(7) 40.7%	26.0%	33.1%	0.3%	0.0%
4	(1)	(8) 68.4%	12.9%	18.6%	0.1%	0.0%
	(2)	(9) 72.3%	6.5%	21.0%	0.2%	0.0%
5	(1)	(10) 83.2%	8.3%	8.3%	0.2%	0.0%
	(2)	(11) 74.6%	8.4%	16.7%	0.4%	0.0%
6	(1)	(12) 68.6%	19.9%	11.3%	0.2%	0.0%
	(2)	(13) 86.8%	7.6%	5.2%	0.4%	0.0%
7	(14)	39.1%	27.5%	10.4%	23.0%	0.0%
8	(1)	(15) 27.1%	16.8%	32.1%	24.0%	0.8%
	(2)	(16) 35.8%	10.8%	26.9%	26.5%	0.0%
9	(17)	33.6%	16.6%	11.2%	38.6%	0.0%
10		(18) 73.5%	3.9%	19.2%	3.4%	0.0%
		(19) 40.4%	1.5%	53.5%	4.6%	0.0%
		(20) 57.2%	2.0%	36.8%	4.1%	0.0%

4 通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	365	365
95～	0	0	548	913
90～	2	2	664	1577
85～	1	3	770	2347
80～	4	7	796	3143
75～	11	18	850	3993
70～	25	43	870	4863
65～	50	93	769	5632
60～	32	125	704	6336
55～	9	134	653	6989
50～	1	135	500	7489
45～	0	135	437	7926
40～	0	135	357	8283
35～	0	135	268	8551
30～	0	135	238	8789
25～	0	135	143	8932
20～	0	135	101	9033
15～	0	135	36	9069
10～	0	135	18	9087
5～	0	135	2	9089
0～	0	135	6	9095

5 (未履修) を除いた解答類型 1～4 の合計を分母として通過率を算出

5 通過率度数分布グラフ



6 中学校3年 英語 調査結果及び考察

(1) 調査結果

設定通過率との比較

		問題数	上回った	同程度	下回った
全問題		20	8	8	4
領域別	聞くこと	7	6	0	1
	読むこと	6	2	4	0
	書くこと	7	0	4	3

上回った：設定通過率10ポイント以上

同程度：設定通過率±10ポイント

下回った：設定通過率10ポイント以下

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度であるものの合計が、20問中16問である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査の同一問題、またはそれに類似する問題の通過率の比較では、5問中5問すべてが上回っている。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「聞くこと」では7問中6問が上回り、「読むこと」では6問中6問すべてが上回っているか同程度である。「書くこと」については、7問中3問が下回っている。
- ・17)の3文以上の英文を書く問題では、無答率が38.6%と高かった。

小問別通過率度数分布

中学校3年英語 小問別通過率度数分布表(校)																					1学年20人以上データを提出した学校	
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率	
100%	4	68	32	16	3	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	
95~100%	19	56	81	68	14	2	0	0	0	1	0	0	10	0	0	0	0	3	1	0	0	
90~95%	38	2	13	34	55	18	0	1	0	17	5	1	39	2	0	0	1	9	0	3	1	
85~90%	40	0	1	6	34	20	0	6	6	36	10	4	36	1	0	0	2	14	1	1	1	
80~85%	16	1	0	2	17	33	0	10	23	37	27	6	33	1	0	1	0	21	0	2	4	
75~80%	6	0	0	0	3	29	1	19	23	29	22	19	4	2	1	0	2	20	1	6	7	
70~75%	1	0	0	0	1	12	1	19	25	5	30	23	3	2	1	1	1	21	3	9	24	
65~70%	2	0	0	1	0	5	1	28	29	0	21	37	0	10	0	2	2	5	2	10	50	
60~65%	1	0	0	0	0	1	1	18	15	1	6	20	0	5	2	2	5	13	1	14	31	
55~60%	0	0	0	0	0	3	5	18	4	0	4	10	0	13	1	1	3	9	13	25	8	
50~55%	0	0	0	0	0	1	6	6	2	0	1	4	0	5	2	9	10	6	6	23	1	
45~50%	0	0	0	0	0	2	18	1	0	0	0	2	0	11	4	17	3	1	11	11	0	
40~45%	0	0	0	0	0	0	27	1	0	0	0	1	0	8	4	16	7	0	20	13	0	
35~40%	0	0	0	0	0	0	36	0	0	0	0	0	1	8	10	15	14	1	12	7	0	
30~35%	0	0	0	0	0	0	19	0	0	0	1	0	0	12	21	18	13	2	18	2	0	
25~30%	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	8	18	20	23	1	22	1	0	
20~25%	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	10	19	14	14	0	8	0	0	
15~20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	18	6	6	0	8	0	0	
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	18	3	9	0	0	0	0	
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	1	10	0	0	0	0	
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	2	0	0	0	0	
	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、1) 2) 3) 4) 5) 6) 9) 13) の8問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、7) 14) 15) 19) の4問である。
- ・各校における通過率の差が50ポイント以上あった問題は、6) 7) 8) 12) 13) 14) 15) 16) 17) 18) 19) 20) の12問である。

(2) 考察

調査結果から、中学校3年生の全般的な学習の実現状況はおおむね良好といえる。

設定通過率を10ポイント以上上回った問題は8問であり、そのうち6問は「聞くこと」についての問題である。度数分布表からも85～100%の段階にある学校がほとんどであり、各学校の音声を重視した指導状況が大変良好であることがうかがわれる。ALTとのTTでも効果を上げているものと思われる。

また、設定通過率を10ポイント以上下回った問題は4問であり、そのうち7)は、「聞いて理解する」段階を超えた「理解して適切に応じる」ことをねらった問題である。度数が20～80%まで広く分布していることから、各校の結果に大きな差があることが分かる。また、14) 15) 19)は、すべて「書くこと」についての問題である。いずれも度数が広く分布しており、各校の結果に大きな差が見られる。設定通過率も、「聞くこと」「読むこと」に比べかなり低いにもかかわらず、15)は設定通過率より28ポイント、19)では30ポイントも下回っている。15)は、前後の文脈に沿った英文を書く問題であり、19)は、与えられた語句を並べかえて対話文を成立させる英文を書く問題である。文脈や対話の流れに沿って書くという実際のコミュニケーションを意識した英作文の指導が必要である。

設定通過率±10%の範囲のあるものでも、度数分布表から通過率のばらつきが大きかった問題は、16) 17) 18) 20)であり、これらも「書くこと」についての問題である。17)は、「楽しかったこと」を一つ取り上げ、その内容について3文以上の英文を書く問題であり、内容的に一貫した文章を書く力を見るものである。綴りや格変化等の誤りは意味が理解できれば許容されるにもかかわらず、2文以下もしくは無答の生徒が49.8%にも及んだ。言語材料についての理解や練習を行う活動については指導していても、実際に言語を使用して自らの気持ちや考えを表現する活動についての指導には課題があると思われる。18) 20)は、いずれも与えられた語句をSVOOの語順に並べかえる問題である。基本的な構文ではあるが、度数分布の開きが大きいことから、英語の基本的な文構造を理解させる指導に各校の取り組みの差が見られる。「聞くこと」「話すこと」の音声重視の指導が効果を上げている一方で、「書くこと」においては、基本的な構文等を正確に書くことの指導の工夫が必要である。

(3) 今後の指導

実際に言語を使用してコミュニケーションを図る活動と言語材料についての理解や練習を行う活動とのバランスに十分配慮した指導が必要である。

コミュニケーションを図る活動を重視することにより、考察で述べたような「聞くこと」における聞き取りや理解及び適切に応じる力は付いている。しかし、そのような活動を強く指向するあまり、語や言語の構造についての指導がなおざりにされることがあってはならない。基本的な言語材料についての理解や練習が土台にあってのコミュニケーション活動であることをあらためて確認したい。また、これとは逆に、言語材料についての理解や練習を行う活動に終始し、その結果、文脈や対話の流れに沿って考えたり、言語を使用して自分の気持ちや考えを表現したりするコミュニケーション重視の活動そのものが不十分になることのないように配慮した指導を行うことが求められる。